

福岡県結核・感染症発生動向調査事業資料集

平成26年（2014年）

平成27年3月

福岡県結核・感染症発生動向調査委員会

序

ここ数年来、新しい感染症の出現（MERS、SFTSなど）、以前からの感染症の多発（麻しん、風しんなど）が問題となりましたが、今年も8月27日に約70年ぶりとなるデング熱の国内感染例が報告され、その後多発しました。世界的には西アフリカにおけるエボラ出血熱が8月8日にWHOにより「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言され、現在も流行が続いています。

麻しんは、海外での流行の影響を受け平成25年終わりころから増加しましたが、幸いに国内土着株での流行は起こらず、平成27年3月27日にWHO西太平洋地域事務局により日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。風しんは平成25年春をピークとする流行をおこしましたがほぼ終息しました。それに伴いCRS（先天性風しん症候群）も多発しましたが、平成26年40週以来報告はありません。

ワクチン関連では、平成25年4月に定期接種化されたHibワクチン、小児用肺炎球菌結合型ワクチン、HPVワクチン（平成25年6月14日に積極的勧奨の一時中止）に続いて、平成26年10月1日には水痘ワクチン、成人用肺炎球菌ワクチンが定期化されました。また任意接種のロタワクチン使用も広がり、これらの疾患の減少が予測されます。

これらの新しい感染症の出現やワクチンの導入を受けて法整備もすすみ、平成26年9月19日にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例に限る。）及び播種性クリプトコックス症が五類感染症全数報告に追加され、薬剤耐性アシネトバクター感染症が五類感染症の定点報告から全数報告へ変更されました。また、平成27年1月21日に鳥インフルエンザ（H7N9）及びMERSが指定感染症から二類感染症に変更されました。

その他の感染症発生動向調査関連の出来事として、インフルエンザが3シーズンぶりにA/H1pdm2009が流行し、A/H3亜型、B型山形系統、B型ビクトリア系統の4種の混合流行であったこと、RSウイルス感染症が3年連続で夏期に流行したこと、手足口病が昨年の半分程度ですが流行し夏期にエンテロウイルス71型、冬期にはコクサッキーA16型が原因であったことなどが特徴的なこととしてあげられました。

本事業は福岡県と福岡県医師会の合同事業として、昭和53年（1978年）7月に開始され、長い歴史を持っていますが、本県独自のシステムとして福岡県医師会に委託、運営する方法を現在も継続しています。主に発生が多い五類感染症の定点把握対象疾患、福岡県独自のいくつかの疾病、及び結核を中心に情報収集・解析を行っています。276の患者定点、39の検査定点を中心に多数の医療機関の先生方、県庁、県保健環境研究所をはじめ関係各機関の協力で成り立つ事業です。また、平成11年4月1日に施行された感染症法により、類型化されたすべての感染症が発生動向調査の対象となっており、本資料集には一類から五類の全数把握対象感染症についても記載しています。県内の感染症の調査解析に対する本事業、委員会の役割は大きいと考えています。

この事業資料集は福岡県医師会松田峻一良会長の下に行われた活動の平成26年1年間の総括とともに、関連する資料も掲載しています。ファックス・電子メールでの週報による情報収集・還元を基本とし、県医師会等におけるWEBサイトでの情報公開、県医報に掲載の月報、そして本資料集を年報として刊行し、平成24年には本資料集の大幅なカラー化も行いました。平成21年9月から資料集の主な内容を、23年10月からインフルエンザ報告状況マップを県医師会のホームページで閲覧できるようにいたしました。これらの情報を県民の健康維持と増進のために、県内及び国内の感染症情報、感染症の流行予測、予防接種の問題点の資料として、十分に活用していただくことを願っています。

目 次

事業実施方法	
1) 事業一覧表	1
2) 事業フローチャート	2
3) 患者情報フローチャート	3
4) 検査情報フローチャート	4
5) 定点医療機関数の年次推移	5
6) 定点医療機関所在地地図	7
各疾病の動向	
1) 全体の概要	11
2) 小児科・内科・眼科感染症の解説と図表	16
1. インフルエンザ [小児科・内科定点]	16
2. R S ウイルス感染症 [小児科定点]	18
3. 咽頭結膜熱 [小児科定点]	20
4. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 [小児科定点]	22
5. 感染性胃腸炎 [小児科定点]	24
6. 水痘 [小児科定点]	28
7. 手足口病 [小児科定点]	30
8. 伝染性紅斑 [小児科定点]	32
9. 突発性発しん [小児科定点]	34
10. 百日咳 [小児科定点]	36
11. 風しん [小児科定点]	38
12. ヘルパンギーナ [小児科定点]	40
13. 麻しん [小児科定点]	42
14. 流行性耳下腺炎 [小児科定点]	44
15. 川崎病 (MCLS) [小児科定点]	46
16. 急性脳炎 [小児科定点]	48
17. 細菌性髄膜炎 [小児科定点]	50
18. 無菌性髄膜炎 [小児科定点]	52
19. マイコプラズマ肺炎 [小児科定点]	54
20. クラミジア肺炎 [小児科定点]	56
21. 急性出血性結膜炎 [眼科定点]	58
22. 流行性角結膜炎 [眼科定点]	60
3) 基幹定点把握対象感染症の解説と図表	62
1. 細菌性髄膜炎 [基幹定点]	62
2. 無菌性髄膜炎 [基幹定点]	64
3. マイコプラズマ肺炎 [基幹定点]	66
4. クラミジア肺炎 (オウム病を除く) [基幹定点]	68
5. インフルエンザ (入院) [基幹定点]	70

6 . 感染性胃腸炎 (ロタウイルス) [基幹定点]	72
7 . メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 [基幹定点]	74
8 . ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 [基幹定点]	76
9 . 薬剤耐性アシネトバクター感染症 [基幹定点]	78
10 . 薬剤耐性緑膿菌感染症 [基幹定点]	80
4) 性感染症 (sexually transmitted diseases : S T D) の解説と図表	82
1 . 性器クラミジア感染症	86
2 . 性器ヘルペスウイルス感染症	87
3 . 尖圭コンジローマ	88
4 . 淋菌感染症	89
5 . 梅毒	90
5) 結核	92
6) 福岡県における全数把握対象疾患について	96
) 検査情報	
検査情報の解説	99
1) ウイルス編	99
2) 細菌編	113
) 患者報告数情報	
1) 地域別・疾病別年間報告数	115
2) 年齢区分別・疾病別年間報告数	117
3) 週別・疾病別報告数及び定点当たりの報告数	121
4) 性別・疾病別年間報告数および男女比	124
5) 主な疾病の全国発生状況・都道府県別比較 (平成26年)	125
6) 各還元形式 (週報・月報・福岡県医師会ウェブサイトのサンプルを掲載)	128
) 記 事	
1) 平成26年度福岡県結核・感染症発生動向調査委員会委員名簿	139
2) 平成26年度福岡県結核・感染症発生動向調査研修会	140
3) 平成26年感染症発生動向調査定点観測医療機関名簿	141
) 参考資料	
1) 感染症発生動向調査事業実施要綱	149
2) 医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準	155
3) 検査結果コード表 (基幹定点通報用)	200
4) 平成26年通知文書一覧	202
) 編集委員	

) 事業実施方法

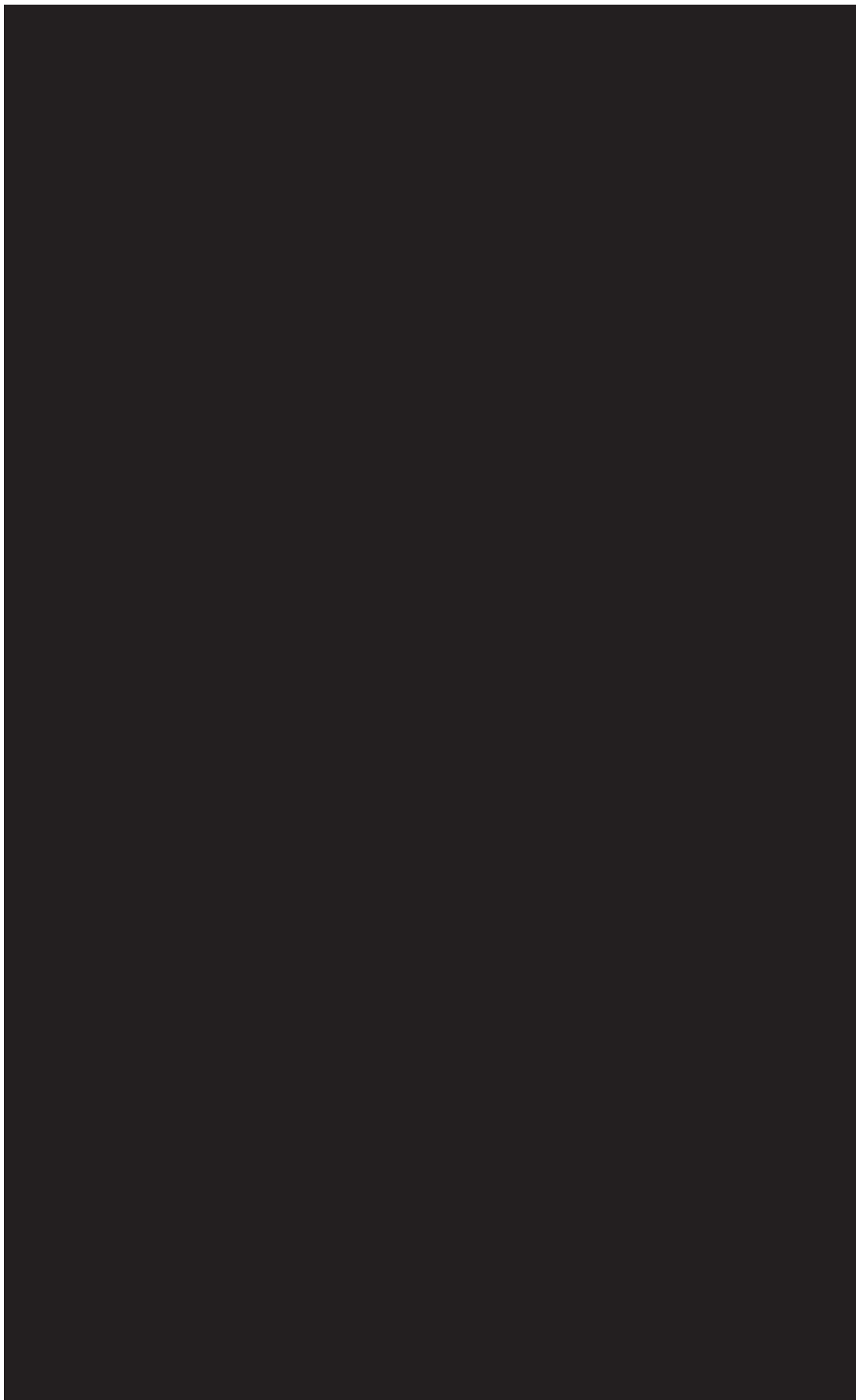
県結核・感染症発生動向調査事業一覧表

容
全田市・久留米市
要綱
委員会(福岡県医師会内)
小児科定点):インフルエンザ 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、 発熱性発しん、百日咳、風しん、ヘルパンギーナ、麻しん、流行 性脳炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、 流行性角結膜炎 感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋 菌性尿道炎、肺炎球菌感染症、肺炎球菌を原因として同定された場 合、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)、インフルエン ザウイルス感染症(インフルエンザウイルスであるものに限る)、メチシリン耐性黄色ブドウ 球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、薬剤耐性
委員会に報告



5) 定点医療機関数の年次推移

宗像及び遠賀保健福祉環境事務所の統合により、平成22年から遠賀中間地区を、北九州ブロックから福岡ブロックへ移行した。従って、定点数合計に変化はないが、北九州ブロックと福岡ブロックの定点数が変更されている。



定点*の種類別対象疾病一覧

(平成26年12月31日現在)

疾病名	内科定点 (78 定点)	小児科定点 (120 定点)	眼科定点 (26 定点)	性感染症定点 (37 定点)	基幹定点 (15 定点)
インフルエンザ	○	○			○(入院)
RSウイルス感染症		○			
咽頭結膜熱		○			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		○			
感染性胃腸炎		○			○(ロタウイルス)
水痘		○			
手足口病		○			
伝染性紅斑		○			
突発性発しん		○			
百日咳		○			
風しん		○*			
ヘルパンギーナ		○			
麻しん		○*			
流行性耳下腺炎		○			
川崎病(MCLS)		○*			
急性脳炎		○*			
細菌性髄膜炎		○*			○
無菌性髄膜炎		○*			○
マイコプラズマ肺炎		○*			○
クラミジア肺炎		○*			○
急性出血性結膜炎			○		
流行性角結膜炎			○		
性器クラミジア感染症				○	
性器ヘルペスウイルス感染症				○	
尖圭コンジローマ				○	
淋菌感染症				○	
梅毒				○*	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症					○
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症					○
薬剤耐性アシネトバクター感染症					○
薬剤耐性緑膿菌感染症					○

* 定点についての詳細は、参考資料「感染症発生動向調査事業実施要綱」(P149～P154)を参照ください。
福岡県独自の疾病

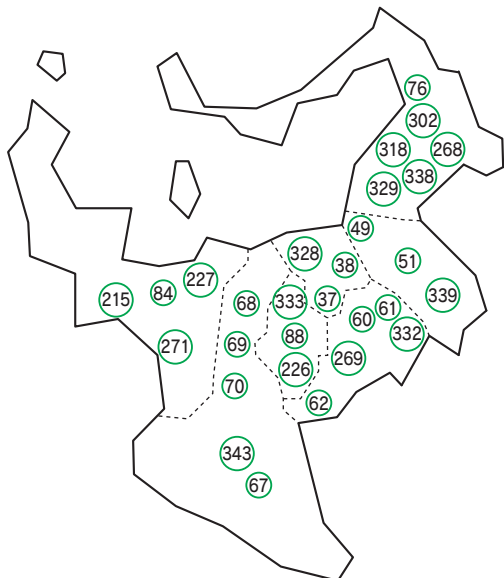
6) 定点医療機関所在地地図 (記号内数字は定点コード番号の下3桁)

宗像及び遠賀保健福祉環境事務所の統合により、平成22年から遠賀中間地区を、北九州ブロックから福岡ブロックへ移行した。

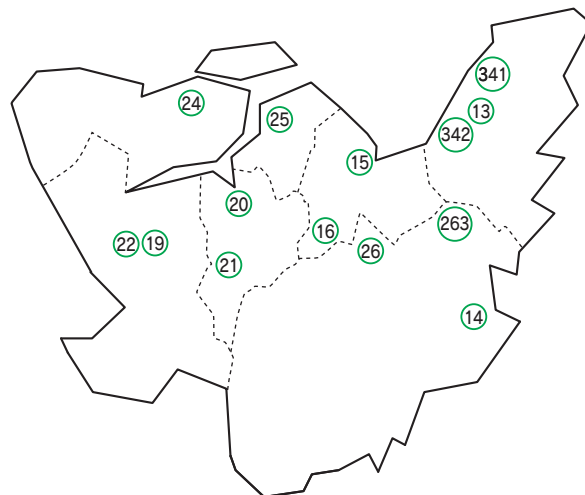
(1) 平成26年内科定点 (78定点)

(2) 平成26年小児科定点 (120定点)

福岡市定点医療機関所在地



北九州市定点医療機関所在地



福岡県定点医療機関所在地

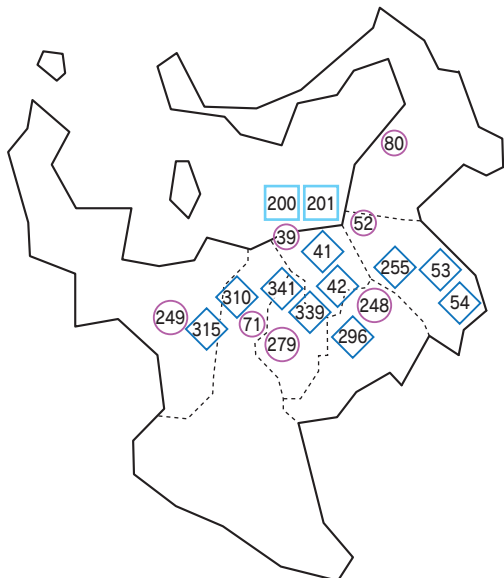


——— 県界
 ——— ブロック界
 - - - - - 市区町村界

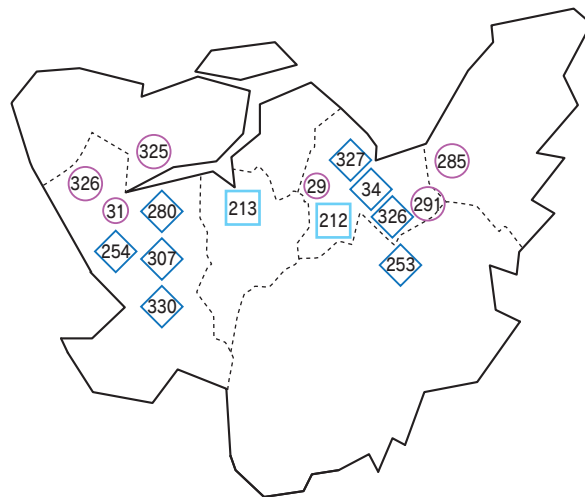
記号内数字は定点コード番号の下3桁

(3) 平成26年眼科 (26定点)・性感染症 (37定点)・基幹定点 (15定点)

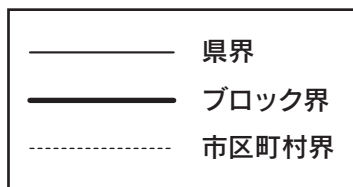
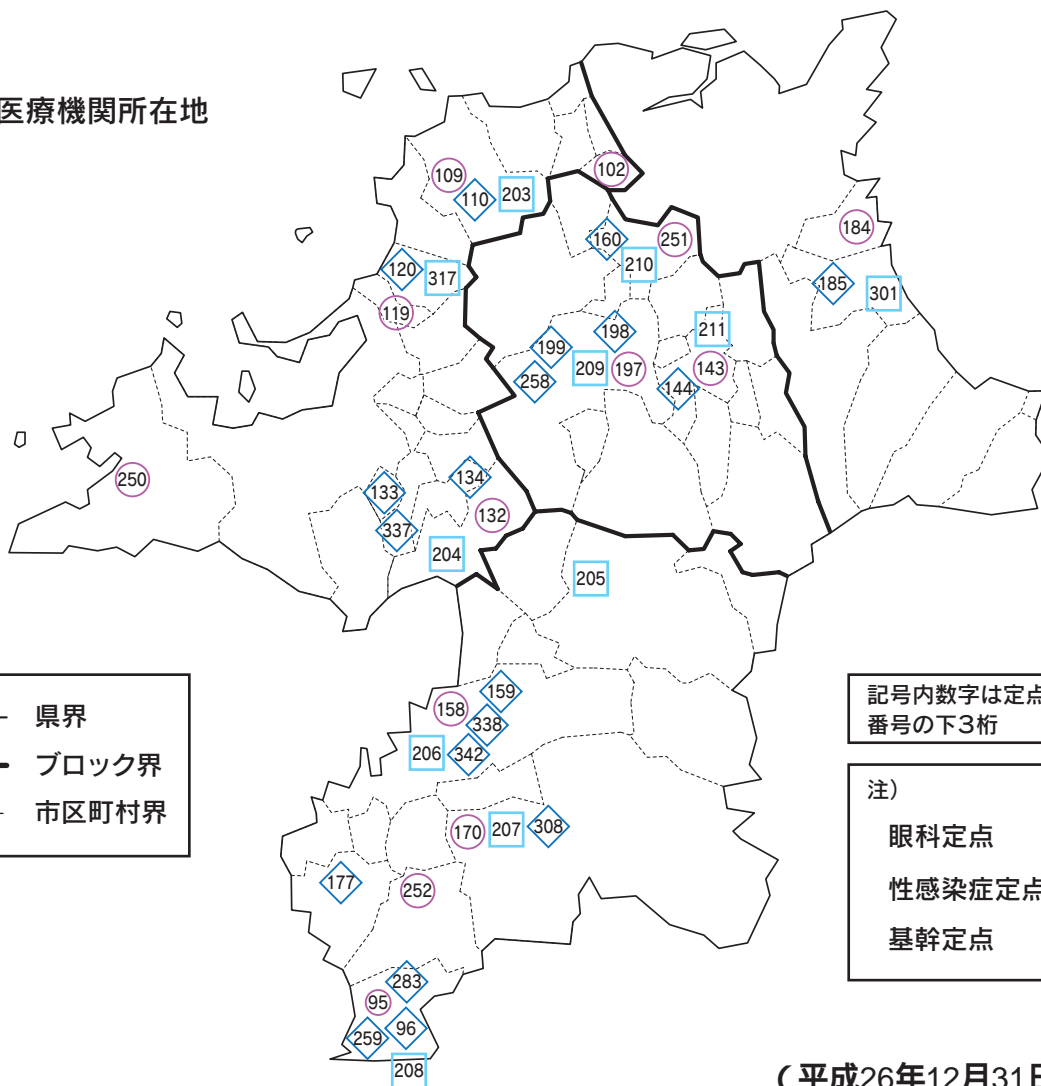
福岡市定点医療機関所在地



北九州市定点医療機関所在地



福岡県定点医療機関所在地



記号内数字は定点コード番号の下3桁

注)
 眼科定点
 性感染症定点
 基幹定点

(平成26年12月31日現在)

付 図

福岡県4ブロック市区町村地図



———	県界
—————	ブロック界
- - - - -	市区町村界

(平成26年12月31日現在)

) 各 疾 病 の 動 向

1) 全体の概要

活動の概要

この資料集は、第1週、平成25年（2013年）12月30日から第52週、平成26年（2014年）12月28日までの1年間の総括である。平成11年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）に基づいた新しい感染症発生動向調査は、福岡県では平成12年の第1週から開始した。平成15年11月5日に感染症法が一部改正され、対象疾病の追加や、類型が変更された。その結果、本事業でも平成16年からRSウイルス感染症を小児科定点疾病に追加、急性脳炎を全数把握となったため基幹定点疾病から削除、尖形コングジロームを尖圭コングジロームへ名称変更、などを行った。平成19年にウイルス性肝炎を全数把握でありかつ報告数が少ないため、小児科定点から削除した。平成20年1月1日の改正では麻しん、風しんが定点把握から全数把握対象となったが、本県では麻しん、風しんを小児科定点把握対象疾病に残し、成人麻しんは平成21年に削除した。インフルエンザ（A/H1N1）pdm 2009は平成21年4月28日に新型と認定され、当初は全数把握であったが、平成21年7月24日からは定点把握へ移行され、従来の季節性インフルエンザと同じ感染症発生動向調査制度の中に包括されている。平成23年2月1日にチクングニア熱が四類感染症に、薬剤耐性アシネトバクター感染症が基幹定点把握対象に、平成23年9月5日にインフルエンザ入院サーベイランスが基幹定点把握対象に、平成25年3月4日に重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が四類感染症に、平成25年4月1日に侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症（髄膜炎菌性髄膜炎から変更）が五類全数把握対象感染症に、平成25年5月6日に鳥インフルエンザ（H7N9）が指定感染症に、平成25年10月16日に感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）が基幹定点把握対象に追加された。その後も平成26年7月26日に中東呼吸器症候群（MERS）が指定感染症に、平成26年10月19日に水痘（入院）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症（基幹定点把握対象から変更）が五類全数把握対象感染症に追加、平成27年1月21日にMERS、鳥インフルエンザ（H7N9）が指定感染症から二類感染症に変更された。なお、活動の根拠となる「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」、及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」は随時変更され、最新版を資料として添付している。

本事業は感染症法に従った厚生労働省の事業であるが、福岡県では従来通りの福岡県医師会委託

事業方式をとり、主に定点把握対象の五類感染症を中心に活動を行い、地域に密着した情報を還元している。

平成11年の法施行に伴い「感染症発生動向調査事業実施要綱」の算定方法による定点数調整を平成12年からの3年間で行い、平成15年以降は地区別・保健所別の定点数の変更を行っていなかったが、北九州ブロックの遠賀保健福祉環境事務所が福岡ブロックの宗像保健福祉環境事務所と統合されたため、両管内は平成22年1月から福岡ブロックに組み入れた（5、10ページ参照）また、人口の変化を考慮して定点配置の見直しを検討していたが、平成22年以降一部変更を行っている。福岡県の定点は平成11年までの6年間は91（小児科・内科定点66、眼科定点9、STD定点16）で、総数、定点種別とも変化なかった。平成12年から国指定の疾患は、小児科疾病（現在12疾病；平成16年からはRSウイルス感染症を追加；平成19年からはウイルス性肝炎を削除、平成20年からは麻しん、風しんを削除）を報告する小児科定点、インフルエンザを専門に報告する内科定点（但し、インフルエンザ定点とは小児科定点と内科定点の合計となる）眼科疾病（2疾病）の眼科定点、性感染症（4疾病）の性感染症定点、主に入院となる疾病（現在6疾病；平成16年から急性脳炎、平成21年から成人麻しんを削除、平成23年9月からインフルエンザ入院を追加、平成25年4月から細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除くと変更、平成25年10月から感染性胃腸炎（ロタウイルス）を追加）と、耐性菌感染症（現在3疾患；平成23年2月から薬剤耐性アシネトバクター感染症を追加、平成26年10月から五類全数把握対象感染症に変更）を対象として新たに作られた基幹定点の分類となった。各々の定点数は平成12年が 79、78、157、18、25、15（総計215）平成13年が 105、78、183、24、32、15（総計254）平成14年以降は 120、78、198、26、37、15（総計276）である（5ページ参照）

対象疾病に関して、従来から福岡県が先進的に実施していた事業内容を踏襲するため、前記の国が指定している感染症以外に小児科定点による川崎病、風しん、麻しん、急性脳炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、及び性感染症定点による梅毒が含まれている。また、二類感染症の結核も含まれている。なお、一類、二類、三類、四類感染症、及び全数把握対象の五類感染症は平成14年の資料集から県庁でまとめたデータを入れている（96、97ページ参照）

病原体定点は、基幹定点の全医療機関、小児科、内科、眼科の定点ではおおむね10%の医療機関を対象とすることになっており、検査対象疾病も指定さ

れている（1ページ参照）

検査機関

検査機関は福岡県保健環境研究所、北九州市環境科学研究所、福岡市保健環境研究所である。検査の実施は、北九州市環境科学研究所が、北九州市の定点分を、福岡市保健環境研究所が福岡市の定点分を担当し、両政令市を除く定点分を福岡県保健環境研究所が担当するとともに、全県を統括する。なお、これまでの各種情報はすべて県保健環境研究所のコンピュータに保存され、この後に述べる月報、年間資料集などの過去の情報源として蓄積されている。

情報の還元

週報、月報による還元を行い、本年報を発行している。週報は、前週の月曜日から日曜日までの報告、前々週の全国情報を集計整理し、コメントをつけて水曜日に全定点、関係機関にファックスで還元している。なお、希望者には電子メールによる還元も行ってきた。平成19年2月からインターネットが利用できる定点では、電子メールによる情報の収集、還元を開始した。検査機関からの検出情報や、定点からの任意の情報、日本・海外の感染症情報も、重要性和迅速性を考慮して週報に載せている。月報は、小児科・内科・眼科感染症をまとめ、図表化して還元し、検査機関の検出情報もまとめて還元している。また、性感染症及び、結核を別個にまとめ、簡潔に要点を記載して同様に還元している。県医師会のホームページ（<https://www.fukuoka.med.or.jp>）を利用して、平成12年1月から会員専用で週報コメントの掲載、平成14年6月からは一般市民への情報提供、各疾病の週別発生動向のグラフ提供を行っている。平成21年9月16日から本事業資料集の各疾患の図・表・解説などもPDF化して掲載し、平成23年10月19日からインフルエンザ報告状況マップを掲載している。

従来から福岡県庁のホームページ（<http://www.pref.fukuoka.lg.jp>）に、平成17年11月からは県保健環境研究所のホームページ（<http://www.fihes.pref.fukuoka.jp>）にも感染症発生動向情報が掲示されている。

資料集の主な内容

平成26年の包括的な情報のまとめで、長い周期性流行性疾患の動向も分かるように編集した。

主な内容は、本県の活動及び情報機構、各疾病患者数、検査成績、それぞれの図表、及び編集委員による疾病毎の簡潔な解説、補足説明文からなる。長期的疾病動向は過去37年間のうち、35年間のコンピュータ保存データの中から、最近10年間の推移を

図として掲載した。平成15年からはブロック別年別推移は5年間の経過で示し、また、週別発生動向をグラフ化して5年間掲載した。厚生労働省規定の性感染症は28年目となるが、紙幅の関係で最近の10年分とし、福岡県独自の梅毒も24年目となるが、10年分とした。平成12年からの対象感染症は15年目となるが、10年分とした。疾病発生状況は、県内を北から北九州、福岡、筑豊、筑後の4ブロック（7～10ページ参照）に分けて比較し、北九州市と福岡市の政令市は、その行政単位の年間データを別掲した。なお、前記のように平成21年10月1日から北九州ブロックに属していた遠賀保健福祉環境事務所が宗像保健福祉環境事務所とともに宗像・遠賀保健福祉環境事務所（福岡ブロック）となったが、平成21年までの統計では旧分類のままで行い、平成22年からは新分類で実施した。

週報は1週分（128～131ページ）月報は1か月分（132～134ページ）のみをサンプルとして掲載した。平成23年資料集から福岡県医師会ホームページのサンプル（135～137ページ）も掲載し、ホームページをリアルに表示するために3ページ分のみをカラー印刷とした。平成24年からは図表なども理解しやすさを考慮して、カラー印刷とした。

資料の整理、図表作成に、編集委員の依頼により、福岡県保健環境研究所の川原明子氏、芦塚由紀氏、吉富秀亮氏、市原祥子氏のご協力を得たことを感謝し、ここに記します。

北九州市八幡西区しゅう眼科クリニックの周 正喜先生、同区林泌尿器科医院の林 譲治先生が平成26年で辞退されました。ご協力ありがとうございました。

疾病の概況

活動の概要でも述べたように定点数、対象疾病、対象医療機関などに平成12年に大きな変化があり、その後も更に定点数が増加しており、単純に比較はできないが、前年比などは主に1定点当たりの患者数を用いた。

平成26年（2014年）における結核以外の総報告数は、202,126人（前年174,079、前々185,960）ブロック別では北九州50,825人（前年43,758）福岡102,669人（同86,421）筑豊15,786人（同14,070）筑後32,844人（同29,830）また、北九州市41,388人（同36,121）福岡市58,095人（同47,916）両政令市以外の県内102,643人（同90,042）で前年と比較してすべて増加している。報告数の多い疾患の変動で、インフルエンザが前年56,753から今年86,405へ増加した影響が大きい。その他にA群溶レン菌咽頭炎が前年12,909から今年19,108へ、感染性胃腸炎が前年48,586から今年49,981へ、ヘルパンギーナが前年3,043から今年4,702へと増加し、手足口病が前年

15,481から今年8,724へ、咽頭結膜熱が前年4,958から今年2,676へ、水痘が前年10,999から今年9,050へ減少した。

小児科・内科・眼科疾病中で報告総数の多い順に疾病名を挙げると、第1位はインフルエンザ（前年も第1位）で総報告数の43.5%を占めた。第2位は感染性胃腸炎（前年も第2位；定点当たりでも第2位）で25.1%、第3位はA群溶レン菌咽頭炎（前年は第4位、前々年は第3位）で9.6%を占めた。以下第4位から10位までは、水痘、手足口病（前年は第3位、前々年第4位）RSウイルス感染症、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎であった。前年と比較して手足口病が3位から5位と下がったが、その他の疾患には大きな変動はなかった。

小児科・内科・眼科疾病の中で前年より定点当たりで30%以上増加した疾病は、伝染性紅斑（前年比411%）百日咳（同188%；108人 203人）ヘルパンギーナ（同155%）インフルエンザ（同152%）A群溶レン菌咽頭炎（同148%）などであった。逆に風しん（前年比6%；33人 2人）無菌性髄膜炎〔小児科定点〕（同36%）急性出血性結膜炎（同46%；26人 12人）細菌性髄膜炎〔小児科定点〕（同50%；4人 2人）咽頭結膜熱（同54%）手足口病（同56%）などは減少した。

定期予防接種対象疾病では前年と比較して、麻しん（0人；前年0人、前々年0人、3年前0人、4年前3人、5年前5人、6年前212人）は変わらず、風しん（2人；前年33人、前々年7人、zz年前9人、4年前3人、5年前10人、6年前4人）は6%、百日咳（203人；前年108人、前々年241人、3年前400人、4年前375人、5年前534人、6年前517人）は188%と変動している。今年10月に対象疾患となった水痘（9,050人；前年10,999人）は82%に減少している。

小児科・内科の定点数は平成11年までは66であったが、平成12年からは小児科定点は79 105 120で、平成14年以降は120、インフルエンザ定点（内科定点と小児科定点の合計）は157 183 198で、平成14年以降は198である。

眼科疾病では、定点数が平成11年から9 18 24 26で、平成14年以降は26である。流行性角結膜炎が683人（前年901人、前々年777人、3年前850人）と報告数は多いが前年の76%に減少した。急性出血性結膜炎は12人（前年26人、前々年20人、3年前20人）と報告数は非常に少ない。

基幹定点群感染症は平成12年からの集計で、15定点から報告を受け、定点数の変更はない。報告数が多い順にメチシリン耐性ブドウ球菌感染症459人（前年比91%）インフルエンザ入院329人（同180%）マイコプラズマ肺炎82人（同73%）ペニシリン耐性肺炎球菌感染症67人（同103%）無菌性髄膜炎55人（同24%）感染性胃腸炎（ロタウイルス）

39人（前年0人）細菌性髄膜炎17人（前年比100%）などであった。

性感染症では、定点数が平成11年から16 25 32 37で、平成14年以降は37である。総数（及び1定点当たり患者数）は平成10年以降で、2,656（166.0）3,524（220.3）4,194（167.8）5,416（169.3）6,202（167.6）5,593（151.2）4,866（131.5）4,564（123.4）4,258（115.1）3,094（83.6）2,672（72.2）2,980（80.5）2,843（76.8）2,874（77.7）2,597（70.2）2,823（76.3）2,522（68.2）であった。前年はやや増加したが今年は減少し、過去最も少ない報告数であった。例年、性器クラミジア感染症が最も多く、総数の50.6%を占め、次は淋菌感染症で27.6%である。

結核の報告数は月毎の報告数の積算であり、速報値で示されている。結核の新登録患者数（及び人口10万対罹患率）は福岡県は758（14.9）で、罹患率を対前年比で見ると福岡県は1.1ポイント低下した。平成20年に8年ぶりに上昇したが、その後6年連続減少している。感染源となる塗抹陽性者数も低下している。

病原体検査では、病原体定点数が平成11年から20 35 39 39で、平成14年以降は39である。ウイルス検査の検体数は、今年908（前年838、前々年813、3年前972、4年前848、5年前1,845）で、今年は昨年よりやや増加した。インフルエンザ、流行性角結膜炎は増加したが、前年増加した感染性胃腸炎、手足口病、無菌性髄膜炎、咽頭結膜熱などは減少した。ウイルスが検出されたのは542検体で、ウイルスは全て同定され、40種、561件（複数のウイルス検出例がある）であった。疾病から検討すると、インフルエンザは352検体（前年167、前々年153、3年前255検体）と多く、B型が114件、A/H3（香港）型が106件（12月に36件）A/H1 pdm 2009型が92件検出され、2013/2014年シーズンではB型、A/H3型、A/H1 pdm 2009型の3種の混合流行であった。2014/2015年シーズンは、12月からA/H3型の流行が始まっている。感染性胃腸炎では201検体（前年278検体）中114件（検出率56.7%）からウイルスが検出され、ロタウイルス20件（前年65件）アデノウイルス13件（同24件）ノロウイルス55件（同54件）サポウイルス8件（同22件）アストロウイルス7件（同6件）などであった。ロタ、アデノ、ノロウイルスは各定点医療機関でも多数検査され、週報で還元し、本資料集にも掲載した（25ページ）。無菌性髄膜炎は47検体（前年60、前々年32、3年前40検体）から、コクサッキーウイルスB3型5件、ムンプスウイルス3件、以下コクサッキーウイルスA5型、コクサッキーウイルスB2型、エンテロウイルス71型、エコーウイルス6型、エコーウイルス11型各1件が検出され、陽性率は27.7%（前年56.7%、前々年31.3%、3年前7.5%）であった。ヘルパンギーナ

は17検体（前年19、前々年33検体）で、コクサッキーウイルスA4型3件、コクサッキーウイルスA5型2件、コクサッキーウイルスA10型1件、コクサッキーウイルスB3型1件などが検出され、陽性率は52.9%（前年73.7%、前々年72.7%）であった。手足口病は52検体（前年86、前々年22検体）からエンテロウイルス71型24件、コクサッキーウイルスA16型8件などが検出され、陽性率は71.2%（前年64.0%）であった。前年多かったコクサッキーウイルスA6型は検出されなかった。咽頭結膜熱は11検体（前年21検体）からアデノウイルス2型が2件検出された。流行性角結膜炎は19検体（前年10検体）からアデノウイルスが6件検出された。

細菌検査は各医療機関で実施されることが大部分であり、例年少なく、今年は1検体（前年は2検体）のみだった。

各疾病の動向

定点からの報告数または、1定点当たりの数をもとに各疾病の動向、合併症などを概観する。

インフルエンザは86,405人、1定点当たり436.4で、前年の152%に増加した。2013/2014年シーズンは平成25年50週に1定点当たり1.0を超え、平成26年第5週の46.5をピークとし、第19週に1.0未満になった。福岡県ではA/H3型が平成25年11月～平成26年5月、A/H1 pdm 2009型が平成25年12月～平成26年5月、B型が平成25年12月～平成26年5月に分離され、A/H3型 A/H1 pdm 2009型 B型と流行が重なりながら続いた。2014/2015年シーズンは年内の第49週に1定点当たり1.23と1.0を超え、年内に流行期間が4週間あり報告数の増加に寄与している。なお、9～12月にA/H3型が検出されている。

RSウイルス感染症は5,332人、1定点当たり44.4、前年比94%とやや減少した。平成24年シーズンから3年連続で夏期の7月から多発し、9月にピークを示し、その後も冬まで多発傾向が続いた。

咽頭結膜熱は前年は増加していたが、今年は2,676人、1定点当たり22.3、前年比54%と減少した。平成21年から見られなくなっていた夏の多発傾向が前々年、前年と観察されたが、今年は目立たなかった。一方で、年間を通して報告があり、冬の多発もある。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は1定点当たり159.2、前年比148%と増加した。患者19,108人のうち、発疹合併が625例（前年325例）報告され、アナフィラクトイド紫斑病1例、丹毒1例が報告された。

感染性胃腸炎は今年49,981人、1定点当たり416.5、前年比103%であった。春先と冬期に流行があるが、今年は後半のピークの方がやや高かった。原因微生物は多種類あり、各定点からの原因報告は25ページの表にまとめた。カンピロバクターとロタ

ウイルス、ノロウイルスが多い。ノロは定点からの報告が1,029件（前年387件、前々年522件、3年前31件）と増加し、ロタは985件（前年1,875件、前々年2,048件、3年前1,378件）と減少している。

水痘は9,050人、1定点当たり75.4、前年の82%と減少した。今年は11月、12月の流行が小さかった。脳炎合併はなかった。予防接種歴ありの患者報告は630例（前年683例）と多いが、約90%は軽症である。

手足口病は8,724人、1定点当たり72.7、前年比56%に減少した。今年も流行は見られたが規模は小さく、前年の1/2程度、3年前の1/3程度であった。原因ウイルスとして本県ではエンテロウイルス71（EV71）型が7～9月に、コクサッキーウイルスA16（CA16）型が9月以降に流行し、EV71型の方が多かった。全国的にも同様であった。昨年流行したコクサッキーウイルスA6（CA6）型は今年県内からは検出されなかった。なお、福岡県では平成12、15年にEV71型、13、16年にCA16型、19年はEV71型とCA16型、20年はCA16型、21年、22年はEV71型、23年はCA16型とCA6型、24年は流行がなく、25年はCA6型とEV71型の流行であった。

伝染性紅斑は530人、1定点当たり4.4、前年比411%と増加した。平成17年、平成22年～23年に大きな流行があり、平成24年、25年と少なく、26年後半から増加しており、流行の兆しがある。

突発性発しんは5,191人、1定点当たり43.3、前年比104%であった。大きな変動はない。

百日咳は203人、1定点当たり1.7で、前年比188%であった。20歳以上の報告は30.0%（前年31.5%、前々年37.8%）と成人も多く、10～14歳は18.7%（前年11.1%）であった。

風しんは今年2人（前年33人、前々年7人、3年前9人、4年前9人、5年前10人）前年に福岡県でも流行したが今年は少なかった。全数報告では全国321人中、福岡県は4人であった。先天性風しん症候群は全国で9人（前年32人、前々年4人、3年前1人）で、福岡県からの報告はなかった。

ヘルパンギーナは4,702人、1定点当たり39.2、前年比155%と増加した。毎年夏期に流行し、今年は5～9月に流行と期間は長く、7月にやや低いピークを示した。エンテロウイルスが8件検出され、そのうち6件がコクサッキーウイルスA群であった。

麻しんは今年0人（前年0人、前々年0人、3年前0人、4年前3人、5年前5人、6年前212人、67前313人）で、4年連続ゼロであった。全数報告では全国463人、福岡県は7人であった。麻しん排除に向かっており、全例の検査による確定診断とウイルス遺伝子型別が求められる。

流行性耳下腺炎は1定点当たり39.0、前年比113%でやや増加している。患者4,684人中、髄膜炎27例の合併報告がある。

川崎病は315人、1定点当たり2.6、前年比125%で、過去10年で最多であった。

急性脳炎〔小児科定点〕は今年6人、前年6人、前々年5人、3年前0人、4年前2人、5年前5人と推移した。

細菌性髄膜炎〔小児科定点〕は今年2人、前年5人、前々年11人、3年前7人、4年前18人、5年前12人と推移している。1人は8か月のB群溶レン菌、1人は1歳の肺炎球菌で、PCV7接種4回済であるが血清型が非ワクチン株の15Aであった。なお、インフルエンザb型菌の報告は今年もなかった。

無菌性髄膜炎〔小児科定点〕は89人、1定点当たり0.7、前年比36%と7年ぶりの流行であった前年から著減した。検査情報ではコクサッキーウイルスB3型5件、ムンプスウイルス3件、その他5種のウイルスが各1件検出され、昨年多発したエコーウイルス30型は検出されなかった。週報には流行性耳下腺炎に合併27人（前年39人、前々年11人、3年前36人、4年前44人、5年前31人）が報告されている。

マイコプラズマ肺炎〔小児科定点〕は今年790人、1定点当たり6.6で、前年の99%であった。平成22年、23年の流行後で今年も非流行年である。

クラミジア肺炎〔小児科定点〕は平成12年からのスタートで、今年69人、前年81人、前々年23人、3年前48人と推移している。報告数はマイコプラズマ肺炎と比較して少ない。

急性出血性結膜炎は12人で、前年26人、前々年20人、3年前20人と、今年も報告数が少ない。

流行性角結膜炎は683人、1定点当たり26.3、前年比76%と減少し、以前と比較して報告数は少ない。アデノウイルスが6件検出されている。

基幹定点群感染症は平成12年から始まり、疾病の削除・追加がある。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎は、従来から内科・小児科定点の対象疾病であったので、福岡県は独自に小児科からも報告を受け、前記の結果を得ている。定点の重複があり、結果は一部重複している。

細菌性髄膜炎〔基幹定点〕は17人（前年17人）、**無菌性髄膜炎**〔基幹定点〕は55人（前年227人）、**マイコプラズマ肺炎**〔基幹定点〕は82人（前年113人）、**クラミジア肺炎**〔基幹定点〕は0人（前年8人）と減少している。**インフルエンザ入院**〔基幹定点〕（平成23年9月から開始）は329人（前年183人）で、ICU入室18例、人工呼吸器使用8例の報告がある。**感染性胃腸炎（ロタウイルス）**〔基幹定点〕（平成25年10月14日から開始）は39人（前年0人）であった。**耐性菌感染症**では、**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症**は459人（前年507人）、**ペニシリン耐性肺炎球菌感染症**は67人（前年65人）、**薬剤耐性緑膿菌感染症**は2人（前年2人）であった。平成23年2月から開始の**薬剤耐性アシネトバクター感染症**は0人（前年0人）

で、平成26年9月19日に5類全数報告に移動した。

性感染症で最も多い疾病は**性器クラミジア感染症**で1,276人、前年比84%と減少した。以下報告数が多い順に**淋菌感染症**695人（前年比102%）、**性器ヘルペス**356人（同93%）、**尖圭コンジローマ**164人（同80%）、**梅毒**31人（同119%）であった。報告数の順位は前年と同じである。

結核（平成26年は速報値）の福岡県新登録患者数（及び人口10万対罹患率）は758人（14.9）で、前年816人（16.0）より減少し、全国統計でも20,068人（15.7）で、前年18,345人（14.4）より減少した。北九州市保健所管内では184人（人口10万対罹患率19.1；前年比95.3%）、福岡市保健所管内では207人（同13.6；91.6%）、県保健所管内は367人（同14.1；92.4%）といずれも減少している。感染源となる喀痰塗抹陽性患者数も285人で前年の300人から減少した。高齢者により多く、60歳以上が77.4%、70歳以上が63.7%、80歳以上が43.0%、90歳以上が9.0%を占め、結核患者の高齢化を示している。

解説と図表

前記のように平成24年から図表を中心にカラー印刷を行った。図は1定点当たりの患者数をもとに発生動向を表している。小児科・内科・眼科感染症、基幹定点群感染症は昨年までと同様に月別発生として10年間の年次推移を、地域比較可能なように同一スケールとして折れ線グラフで表した。また週別発生として5年間分を折れ線グラフで表した。ブロック別年別推移は5年間について、同一スケールの棒グラフで表示した。年齢（群）別割合は、5年間の比較を図示した。

性感染症は性別を示し、梅毒は顕性と潜在性を区別して報告を受けているが、過去との比較で総数のみを表している。10年間の年次別・性別・月別推移、年次別・性別・疾病別百分比、5年間のブロック別年別推移、年齢別推移を図示した。

結核は福岡結核予防センターのデータにより、全国情報も含めて、独自の図・表を多数示し、解析した。年別発生の推移、年齢別、地域別、潜在性結核感染症の発生の推移、活動性結核の内容、医療面の情報などを図表化してある。

各疾病の解説は、各編集委員が分担して、要点を簡潔に記載した。それぞれの発生推移、季節、地域性、年齢的特徴、性別、合併症、予防接種との関連、定点からの病原情報などを中心に述べた。

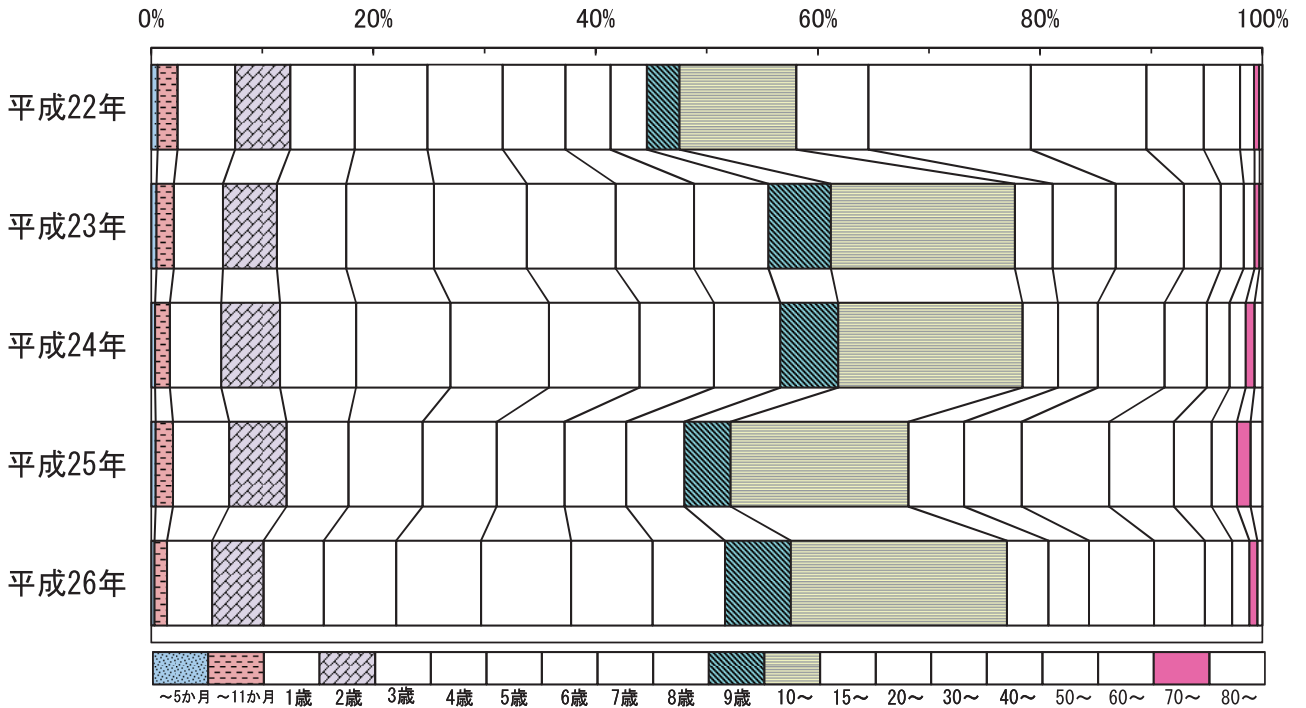
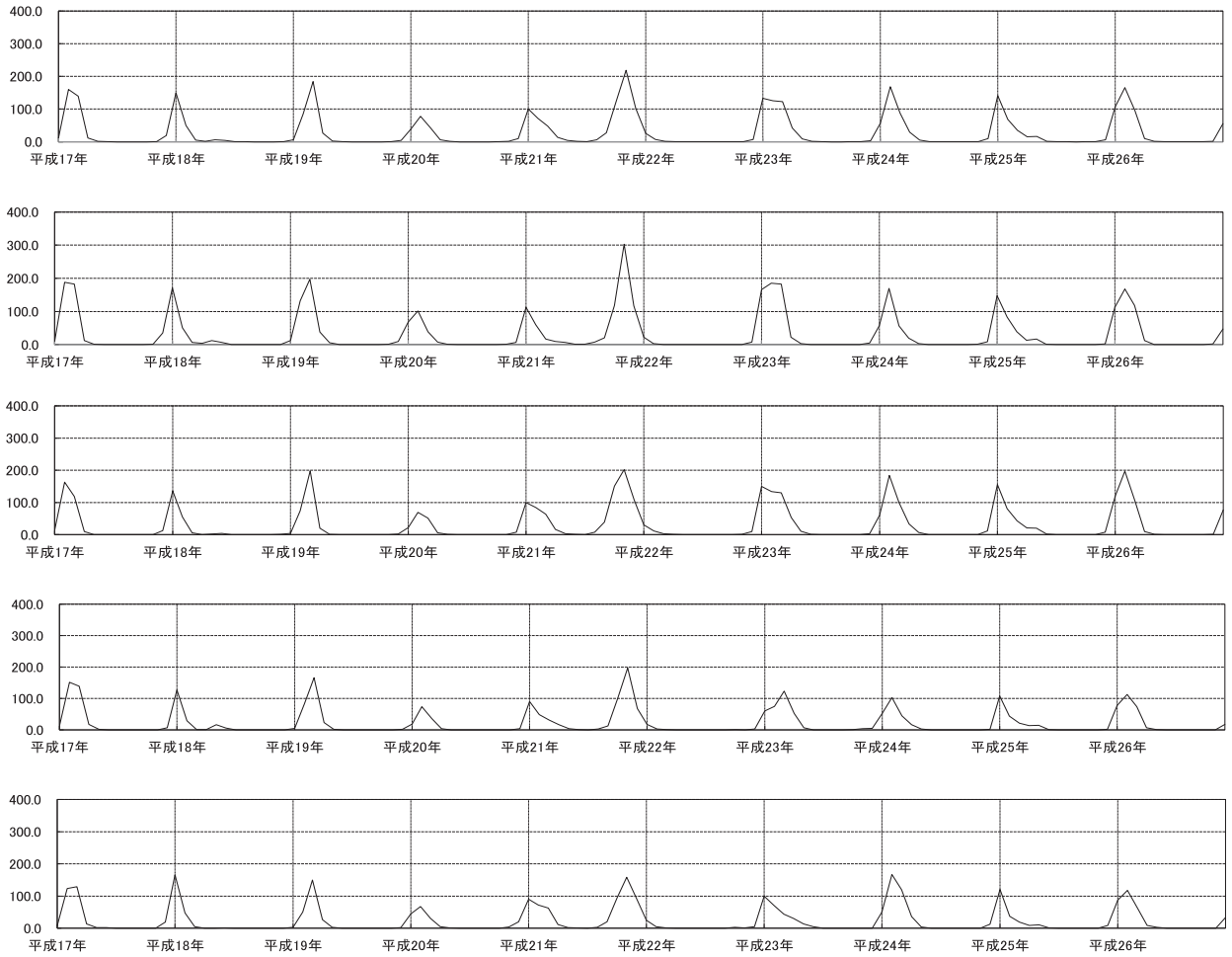
参考資料

感染症発生動向調査事業実施要綱、医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準、検査結果コード表、平成26年通知文書一覧を掲載している。



インフルエンザ

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



2. RSウイルス感染症〔小児科定点〕

平成15年11月改正の感染症法により五類感染症に指定され、平成16年より小児科定点から報告を受けている。報告を求めるRSウイルス感染症とは、「症状、所見から当該疾病が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断がなされたもの」である。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は44.4（5,332人）で、前年の47.5（5,701人）から76％に減少した。1定点当たり患者数は、平成16年（2004年）から平成26年（2014年）までそれぞれ6.8、9.2、17.2、30.2、37.0、29.7、46.1、31.7、62.7、47.5、44.4と推移し、過去最大の報告数となった前々年から2年連続で減少したが高いレベルである。

通常は冬期の疾病で、月別発生では例年12月をピークとしていたが、2012/13シーズンから9月にピークを示し、今期も3年連続で9月にピークをつくり、その後12月までやや多い状況が続いた。なお、夏期の流行は平成20年（2008年）にも経験されており、その理由は明らかではない。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州44.9（1,302）〔北九州市41.3（991）〕、福岡50.7（2,736）〔福岡市55.6（1,661）〕、筑豊27.2（381）、筑後39.7（913）で、例年と同様のパターンで筑

豊地区の報告は少ない。

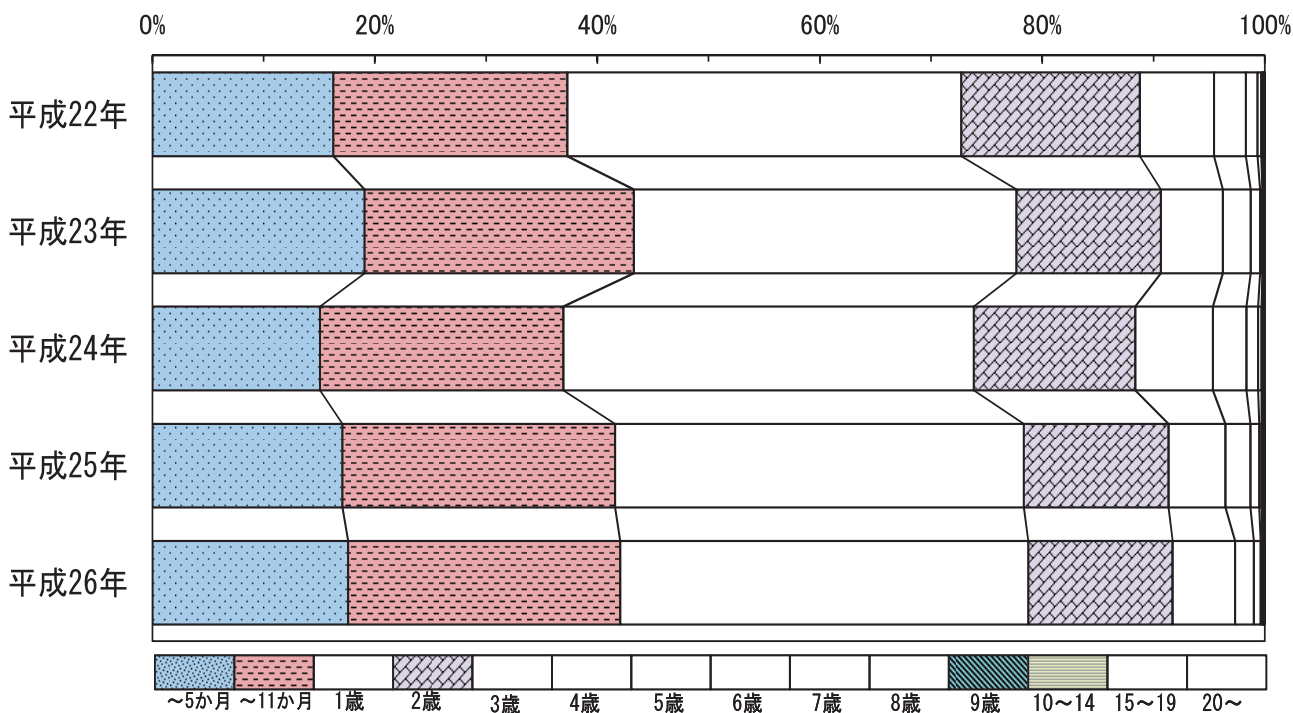
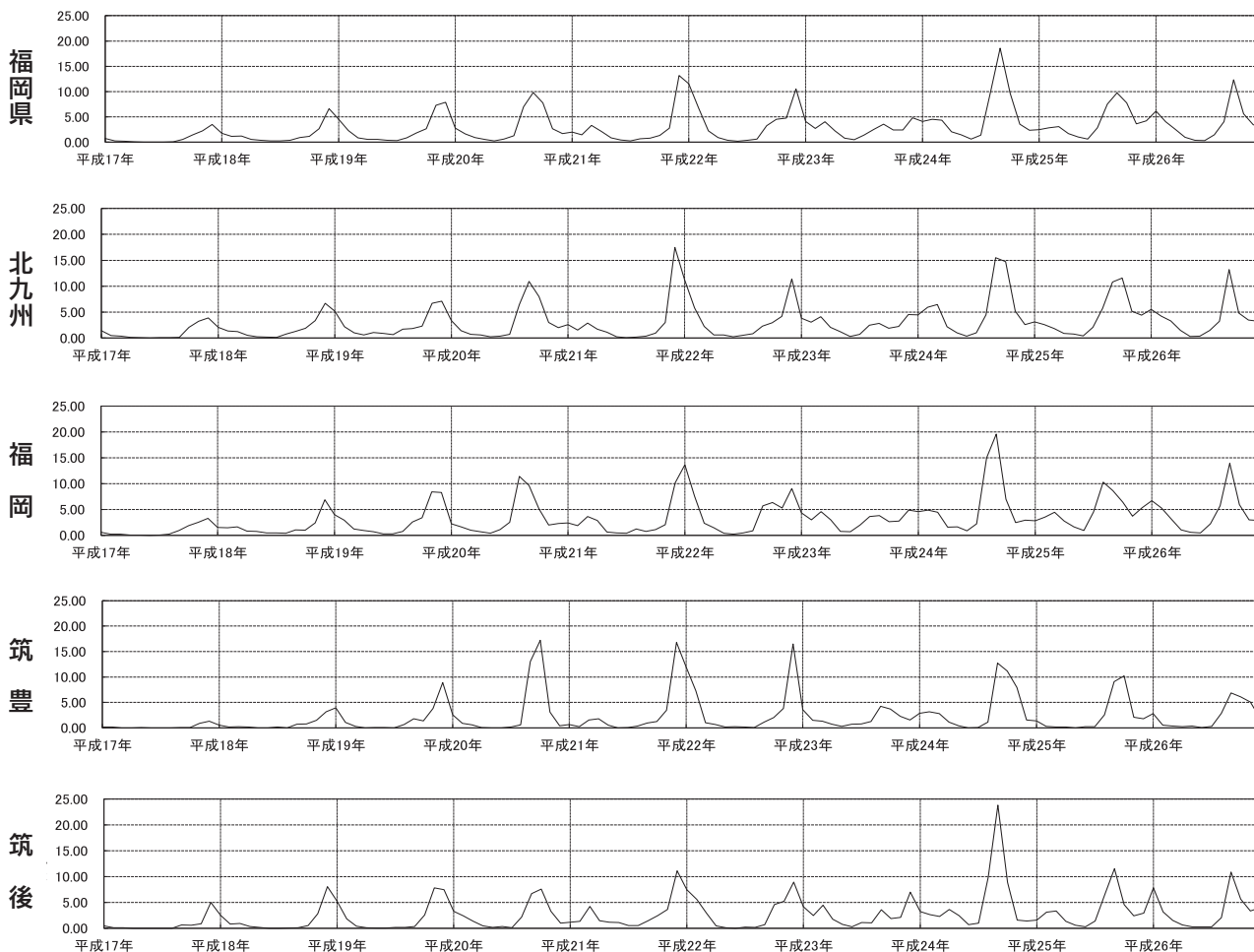
罹患年齢は0～5か月17.6％、6～11か月24.5％、1歳36.7％、2歳13.0％、3歳5.6％、4歳1.7％、5歳0.6％、6歳0.2％、7歳0.0％、8歳0.0％、9歳0.0％、10～14歳0.0％、15～19歳0.0％、20歳以上0.1％（4人）であった。年齢構成には大きな変化はなく、1歳当たり換算では6～11か月が最も多く、3歳未満が91.7％を占め、0歳、1歳が大部分を占めていた。なお、RSウイルス迅速診断検査の健康保険適用は、入院患者の3歳未満であったが、平成18年4月に入院患者で年齢制限がはずされ、さらに平成23年10月17日からは、外来患者も1歳未満の乳児、及びパリビズマブ製剤の適用となる患者にも拡大された。

男女比は1.11（男2,808人、女2,524人）で男がやや多かった。

週報には細気管支炎、肺炎、気管支炎等の病名が多く、細気管支炎や呼吸障害で入院、熱性痙攣等の報告もある。15歳（基礎疾患あり）の肺炎・喘息発作で人工換気などの重症例の報告も見られた。保育園等の施設内での流行や家族感染の報告もある。キット陽性報告は従来から上記の健康保険適用ではない対象患者にも多数実施され、報告があがっている。

RSウイルス感染症

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



3. 咽頭結膜熱 [小児科定点]

平成11年4月施行の感染症法により小児科定点から報告を受けている。報告を求める咽頭結膜熱とは、「症状、所見から当該疾病が疑われ、かつ、発熱、咽頭発赤、結膜充血の基準を全て満たすもの」である。診断キットなどの検査は必須ではない。

年間の1定点当たり患者数(及び「患者数」)は22.3(2,676人)で、前年の41.3(4,958人)の54%と半減した。1定点当たりの患者数で示すと、昭和56年(1981年)から平成26年(2014年)までそれぞれ7.1、3.8、13.6、9.8、15.0、6.0、3.9、4.5、4.5、5.4、2.7、5.2、1.8、11.3、3.1、2.8、5.0、9.5、6.7、5.2、8.3、6.2、22.2、12.8、28.9、35.5、18.2、29.2、18.9、21.4、28.2、31.4、41.3、22.3であった。前年まで4年連続で増加し過去最高の報告数となっていたが、今年は減少した。

月別発生では従来夏にピークを示す疾患であった。平成21年(新型インフルエンザ流行年)からは夏のピークがほとんど見られず、かつ12月に多発の傾向であったが、平成24年から夏の多発が見られている。今年も同様の傾向であったが報告数が少なく、夏の多発が目立たない。全国情報では夏期に多発を示すとともに、11月~12月にも報告が多い。

地域的には、1定点当たり患者数(及び「患者数」)

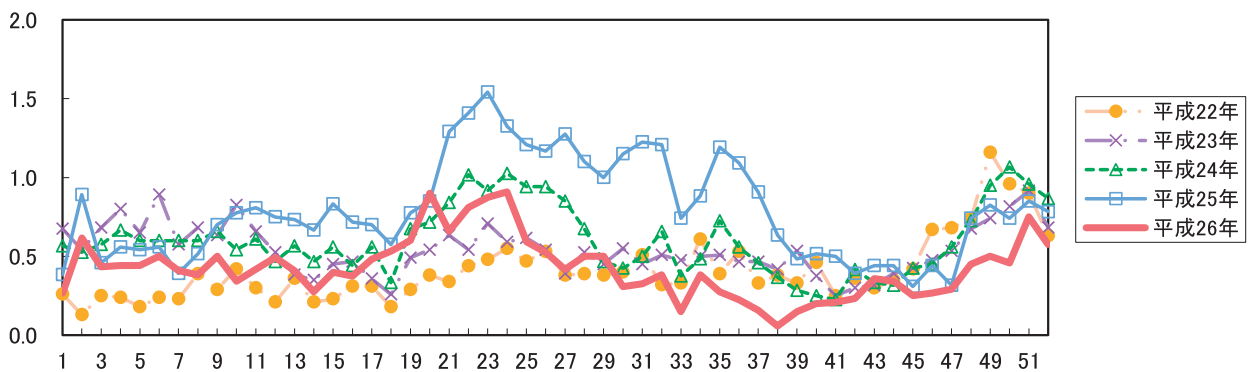
は北九州25.9(749)[北九州市23.0(553)]、福岡25.7(1,386)[福岡市24.9(723)]、筑豊6.3(88)、筑後19.7(453)で、各地区とも減少した。

罹患年齢は0~5か月0.6%、6~11か月10.2%、1歳31.6%、2歳15.5%、3歳12.8%、4歳10.8%、5歳8.2%、6歳4.7%、7歳1.7%、8歳1.1%、9歳0.4%、10~14歳1.5%、15~19歳0.1%、20~29歳0.3%、30歳以上0.5%と分布した。小児の疾病であり、年次変化は少ない。1~5歳が多く、89.6%、10歳未満が97.6%を占め、10歳以上は少なかった。なお、1歳が最も多く、31.6%(846人)と前年の21.4%より増加している。0~5か月は16人(前年19人)、6~11か月は273人(同305人)で、0歳児では6~11か月が多い。

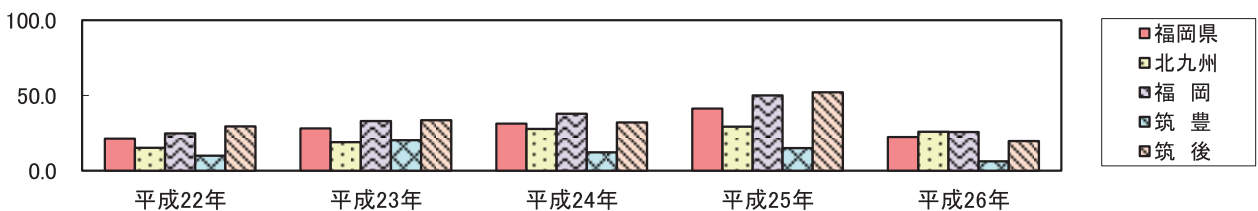
男女比は1.23(男1,477、女1,199)で男がやや多かった。

本疾病の原因は主にアデノウイルスによるとされ、複数の型のアデノが原因となる。本県の検査情報では11検体中の2検体がアデノ陽性で、アデノウイルス2型2件であった。他にライノウイルス2件、コロナウイルスが1件が検出されている。

咽頭用アデノウイルス迅速診断キットが臨床現場で多数使用され、週報には咽頭結膜熱以外にも咽頭扁桃炎などにキット陽性が報告されている。



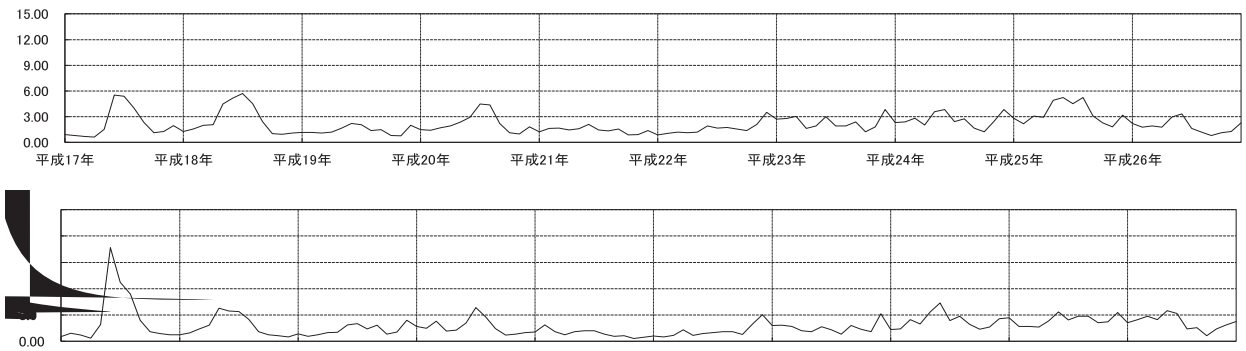
咽頭結膜熱の1定点当たりの週別報告数推移



咽頭結膜熱のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

咽頭結膜熱

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



4 . A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は159.2（19,108人）であった（前年比1.48）。昭和56年（1981年）からの県内1定点当たり年間報告数は、23.1、24.4、29.7、28.5、23.3、16.3、19.4、32.7、24.5、17.1、29.0、29.0、32.4、56.8、30.8、27.3、45.5、40.0、36.4、48.0、69.5、84.7、70.9、94.9、77.4、101.5、82.8、103.5、77.5、73.1、114.7、101.3、107.6、159.2で、調査開始後最も多い年となった。

季節性は、8～9月が少なく12月が最多となる傾向に変化はない。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州地区113.8（3,299）[北九州市111.8（2,683）]、福岡地区238.9（12,898）[福岡市261.8（7,593）]、筑豊地区67.6（946）、筑後地区85.4（1,965）で、全ての地区で増加したが福岡地区の増加が目立った。全国的には、北海道、山形県、新潟県、富山県、福井県、鳥取県、島根県、山口県、福岡県、鹿児島県が多かった。

罹患年齢は0歳0.5%、1歳2.5%、2歳5.8%、3歳

10.0%、4歳14.2%、5歳15.5%、6歳13.9%、7歳10.0%、8歳7.7%、9歳5.6%、10～14歳10.0%で大きな変化はなかった。

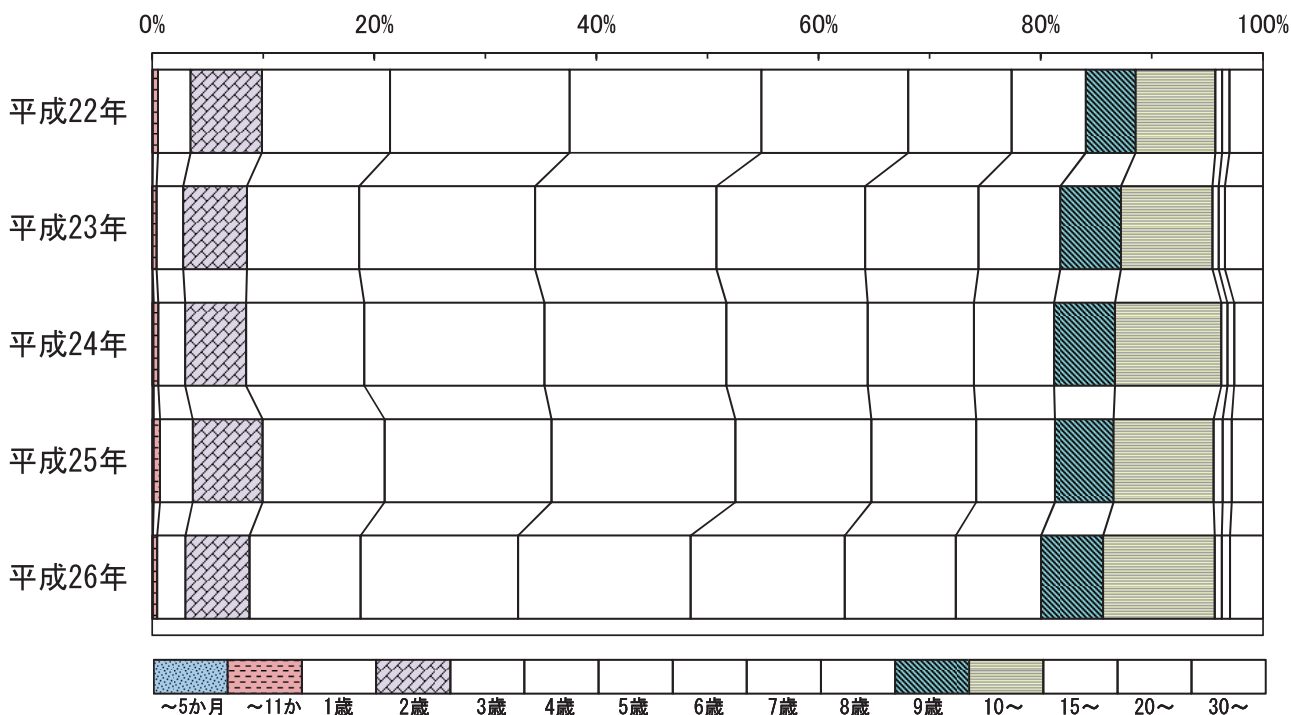
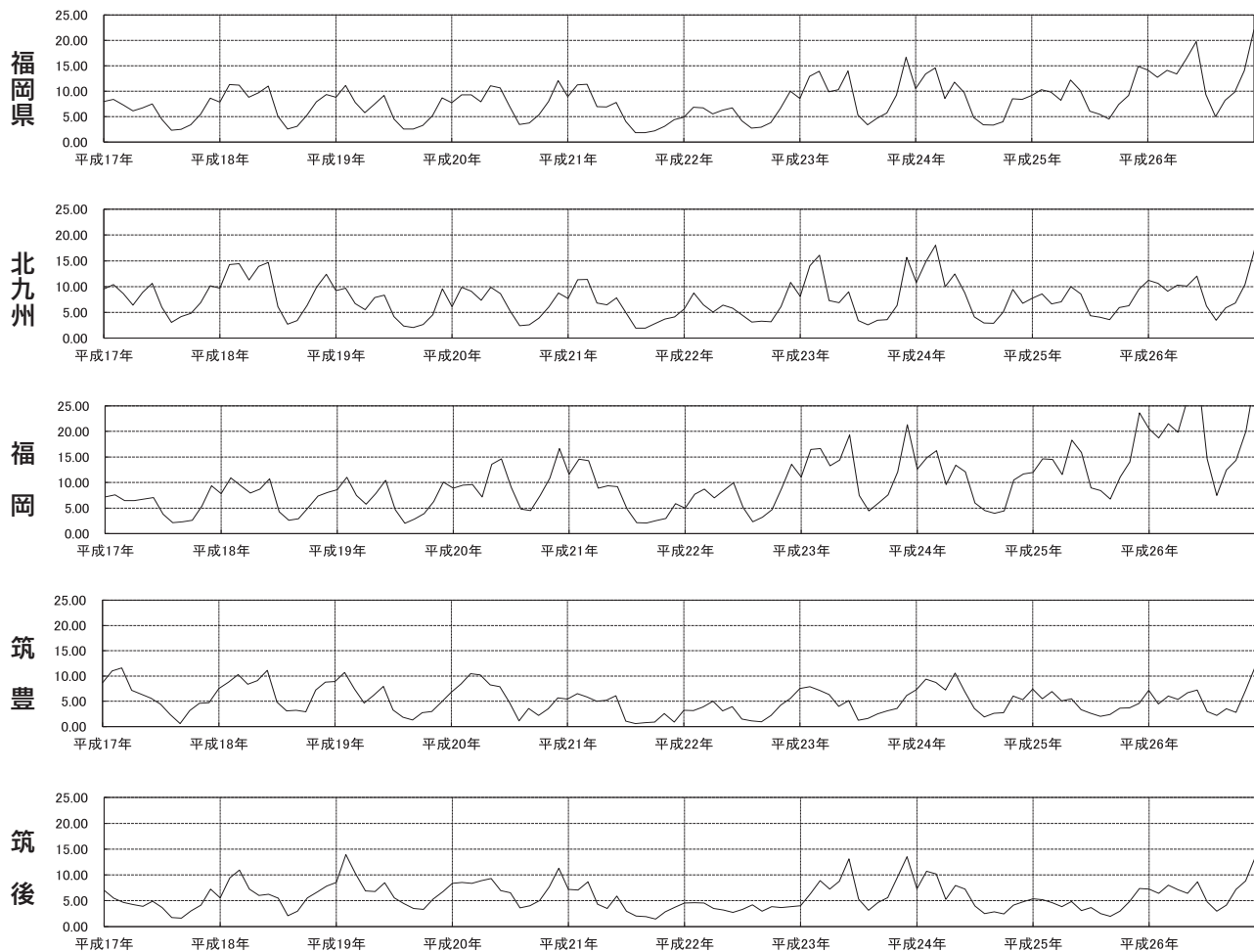
男女比は1.13で昨年と比較して変化はなかった。

発疹を伴った例は625例（前年325例）であった。年齢は、0歳2例（前年2例）、1歳30例（同45例）、2歳71例（同41例）、3歳104例（同60例）、4歳93例（同73例）、5歳101例（同45例）、6歳95例（同30例）、7歳46例（同20例）、8歳36例（同17例）、9歳20例（同5例）と、2～9歳までで95.7%（同89.4%）を占めた。猩紅熱様発疹例が4例（4歳男、6歳女、6歳男、11歳男）報告された。再燃が25例（昨年89例）、2回目の感染が135例（同77例）、3回目25例（同6例）、4回目5例（同4例）、5回目1例（同0例）、6回目以上1例（同2例）が報告された。

併発症は、アデノウイルス感染症17例（昨年13例）、水痘2例、帯状疱疹2例、インフルエンザA型2例・B型1例・型別不明1例、肛門周囲炎2例、手足口病1例であった。合併症は、アナフィラクトイド紫斑病2例、丹毒1例が報告された。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



5 . 感染性胃腸炎 [小児科定点]

平成11年4月施行の感染症法により小児科定点から報告を受けている。平成11年までは0～3歳の臨床的にロタウイルス感染症を疑う胃腸炎を乳児嘔吐下痢症、それ以外は感染性胃腸炎として報告されていたが、両疾病を1疾病に集計し直して統計データを作成した。原因の届出は義務ではないが、定点から任意に報告を受けた原因菌などは集計し、表にまとめた。定点から報告を受けた3類感染症の細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症も含まれている。

福岡県の内科・小児科・眼科疾病の総報告数中では感染性胃腸炎が25.1%（前年28.6%、前々年32.2%）を占め、総報告数で第2位（定点当たり患者数でも第2位）であった。感染性胃腸炎の年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、今年416.5（49,981人）、前年404.9（48,586人）で、前年の103%であった。1定点当たりの患者数は昭和62年（1987年）から平成26年（2014年）までそれぞれ264.1、312.5、282.2、253.4、284.8、251.5、290.3、349.5、388.3、342.4、364.3、356.6、354.5、495.6、417.9、428.3、429.4、449.9、404.3、469.0、452.5、444.1、331.5、478.9、385.1、489.1、404.9、416.5と推移し、前年よりやや増加であった。

季節的には今年は4～6月と11～12月にピークがあり、後半のピークの方がやや高かった。

地区別発生では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）が北九州544.3（15,784）[北九州市564.9（13,558）]、福岡355.6（19,205）[福岡市361.1（10,473）]、筑豊296.7（4,154）、筑後471.2（10,838）で、北九州地区と筑後地区が多く、福岡地区と筑豊地区が少ない。

罹患年齢は0～5か月1.2%、6～11か月8.0%、1歳18.2%、2歳12.9%、3歳11.1%、4歳9.9%、5歳8.3%、6歳5.8%、7歳4.5%、8歳3.4%、9歳2.9%、10～14歳7.2%、15～19歳1.6%、20～29歳1.6%、30歳以上3.5%で、年齢分布に大きな年次変化はない。0～3歳は51.4%（前年52.4%、前々年50.2%）で、1歳が最も多い。0歳も多いが、0～5か月は1.2%と少ない（「患者数」は600人）。

男女比は1.09（男26,065、女23,916）で男女差はなかった。

定点から報告された病原体（表）のうち細菌ではカンピロバクターが808例（前年684例、前々年687例、3年前890例）と変動している。推定食品として鳥刺、鳥タタキ、砂ズリ刺、レバ刺、焼肉、焼き鳥などが報告されている。薬剤感受性が報告されたカンピロバクター9株中では耐性がFOM 4株、LVFX 2株、TFLX 1株、CAM 1株、MINO 3株に認められた。サルモネラは52例（前年88例、前々年54例、3年前87例、4年前123例）で、群別ではO4群7例、O7群14例、O8群5例、O9群6例等であった。例年最も多かったO9群は6例（前年9例、前々年15例、3年前26例、4年前52例）と減少し、S. Enteritidisは2例のみで、最も多かったのはO7群のS. Thompson 4例であった。腸管出血性大腸菌（EHEC）は27例（前年29例、前々年28例）で、O157が16例、O26が10例、O111が1例で、溶血性尿毒症症候群（HUS）合併2例や集団発生の報告があった。その他の大腸菌が多数報告されたが、ほとんどの病原性因子は明らかではない。

ウイルスではロタウイルスが検出報告985例（前年1,875例、前々年2,048例、3年前1,378例、4年前1,138例）と多いが今年は減少している。年齢不詳を除き3歳以下が88%と多数を占めるが、年長児、成人例も報告されている。一方、ノロウイルスは定点から1,029例（前年387例、前々年522例、3年前31例、4年前93例）と増加した。年齢不詳を除き3歳以下が91%で、小児科定点からの報告のためかロタと同様の年齢分布であった。なお、ノロの検査キットは健康保険適用ではなかったが、平成24年4月から3歳未満、65歳以上、悪性腫瘍、臓器移植後の患者、抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者には適用となった。その他各研究所からロタウイルスが20件（前年65件）、アデノウイルスが13件（前年24件）、ノロウイルスが55件（前年54件）、サポウイルスが8件（前年22件）、アストロウイルスが7件（前年6件）など検出された。

表 定点（平成26年120定点）から報告された感染性胃腸炎の病原

病原	年齢																計
	0～5 か月	6～11 か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 29歳	30歳 以上	不詳	
<i>Campylobacter</i> ^{*1}	1	4	27	38	56	63	65	62	70	64	62	231	33	20	12		808
<i>Salmonella</i> O4群	1					2			1			3					7
O7群			1	3		2		3		1		3	1				14
O8群					2					1			1		1		5
O9群	1					2	1					1				1	6
群不詳・その他		1		3	1	4	3	2	1			5					20
<i>Shigella sonnei</i> ^{*2}			1			5	3	2	1								12
<i>Vibrio parahaemolyticus</i> ^{*3}																2	2
<i>Yersinia</i>					1	1	3	3	1			1					10
<i>Aeromonas</i>	1	3	2	2	1					1		1					11
<i>Plesiomonas shigelloides</i> ^{*3}															1		1
<i>Staphylococcus aureus</i>	5	8	1				1	2	1			3					21
EHEC O157,VT(+)		1	1	2	1	1	4	1	1	1		1	1		1		16
O26,VT(+)			2	3	2			1				1		1			10
O111,VT(+)					1												1
その他の <i>E. coli</i>	46	105	157	94	90	76	54	44	49	41	41	108	15	7	17		944
Rota virus ^{*4,*5}	31	149	423	160	101	41	31	14	12	4	1	7		1	3	7	985
Adeno virus ^{*5}	5	23	39	13	9	6	4										99
Noro virus ^{*5}	39	190	495	164	44	30	12	10	8		3	7	2	4	12	9	1029
Rota virus（検査） ^{*6}	1	7	5	2		2		1		1					1		20
Adeno virus（検査） ^{*6}		2	5	4	1	1											13
Noro virus（検査） ^{*6}	2	6	25	7	5	1	1				3	4	1				55
Sapo virus（検査） ^{*6}	1	1	3	1		1		1									8
Astro virus（検査） ^{*6}	1	2	3	1													7

*1 *Campylobacter*と同時感染例：1例に*Salmonella*、1例にEHEC O157,VT+、4例に*Aeromonas*、1例に*S.aureus*、2例にノロウイルス

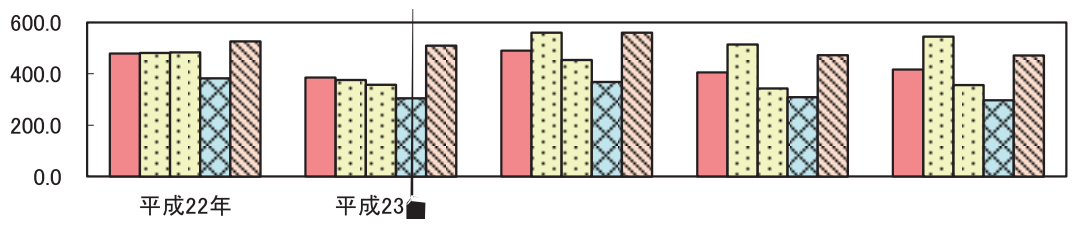
*2 国内集団発生あり

*3 *Vibrio parahaemolyticus*と*P.shigelloides*の同時感染1例

*4 ロタウイルスと同時感染例：3例にアデノウイルス、6例にノロウイルス

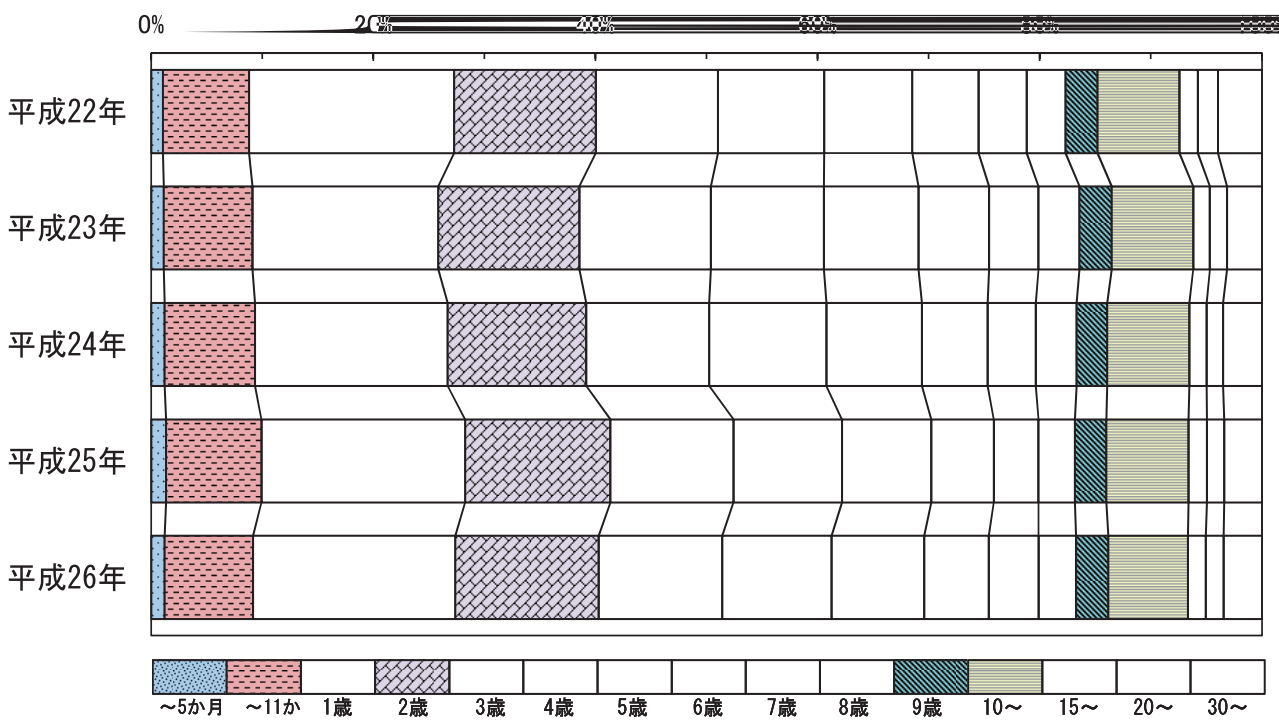
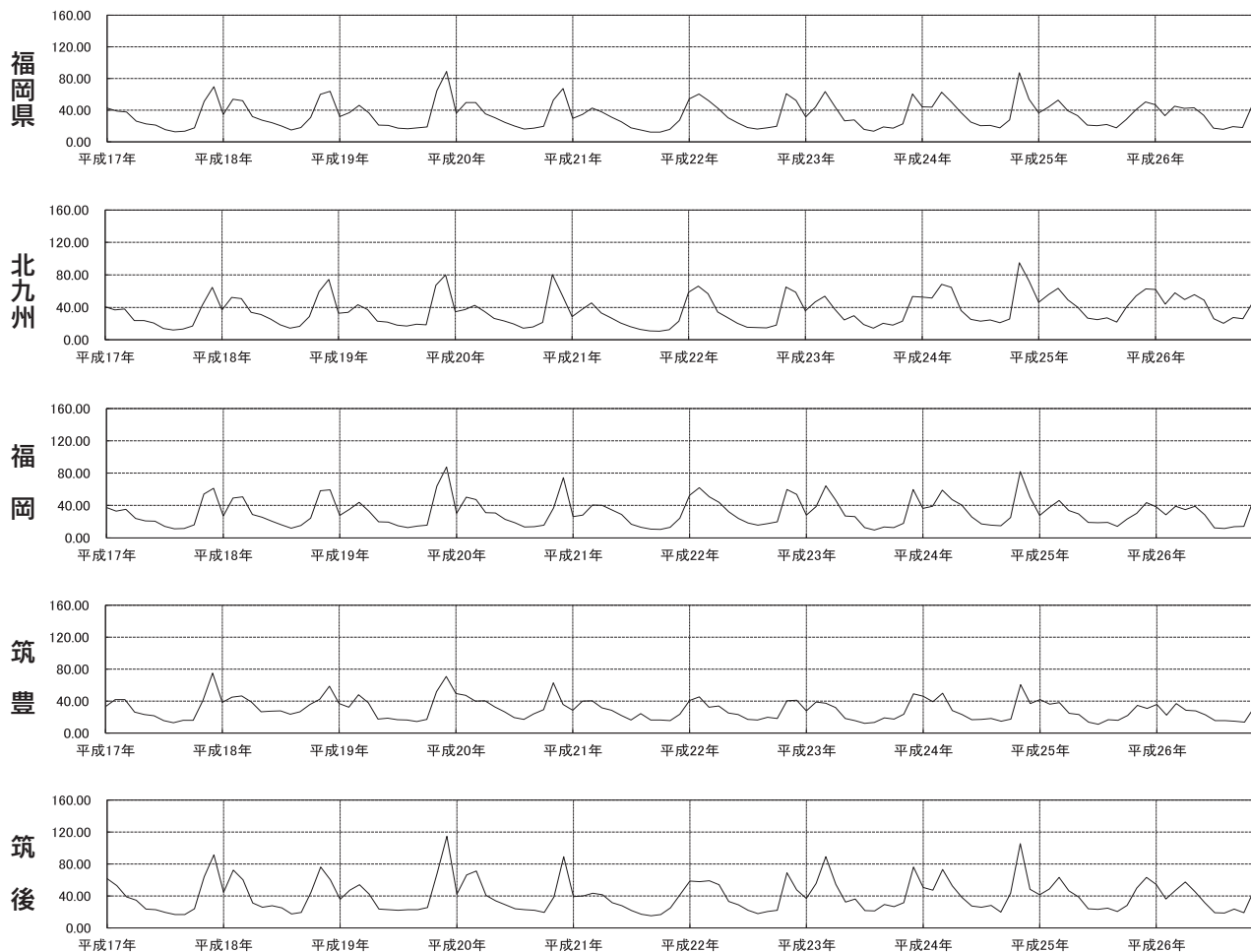
*5 定点からの情報による

*6 検査情報による



感染性胃腸炎

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



6. 水痘 [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は75.4（9,050人）であった（前年比0.82）。昭和56年（1981年）からの1定点当たり年間患者数は、193.2、143.3、166.3、133.9、154.4、153.2、157.0、113.8、113.4、86.0、122.6、103.5、99.9、107.3、86.2、96.2、85.2、84.1、87.0、118.2、121.4、117.1、117.2、112.1、106.6、119.1、102.6、99.5、96.3、108.3、109.3、83.9、91.7、75.4で、調査開始後最も少なかった。

8～10月が少ない傾向に変わりなかったが、これまで多かった11～12月の増加が認められなかった。2014年10月から開始されたワクチンの定期接種化の効果と推定される。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州地区79.4（2,304）[北九州市70.3（1,687）]、福岡地区83.3（4,498）[福岡市77.0（2,234）]、筑豊地区57.7（808）、筑後地区62.6（1,440）であった。4地区とも減少したが、北九州および福岡地区の減少が目立つ。

九州地区は全国的に多く、福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島が多い傾向は昨年と同じであった。九州地区以外では福井県、長野県、新潟県が多かった。

罹患年齢は、0歳6.3%（昨年7.1%）（6～11か月4.8% 同5.7%）、1歳17.2%（同21.6%）、2歳18.3%（同20.0%）、3歳17.7%（同16.7%）、4歳14.5%（同13.1%）で4歳までが74.1%（同78.5%）で昨年と同じ分布であった。詳細にみると、1歳および2歳

の割合はやや減少し、相対的に3歳、4歳の割合がやや増加している。

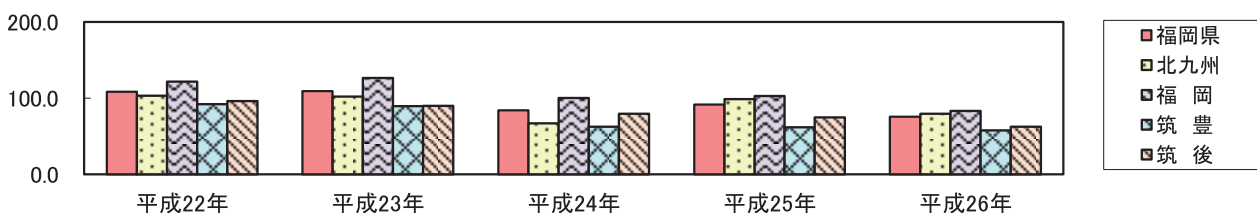
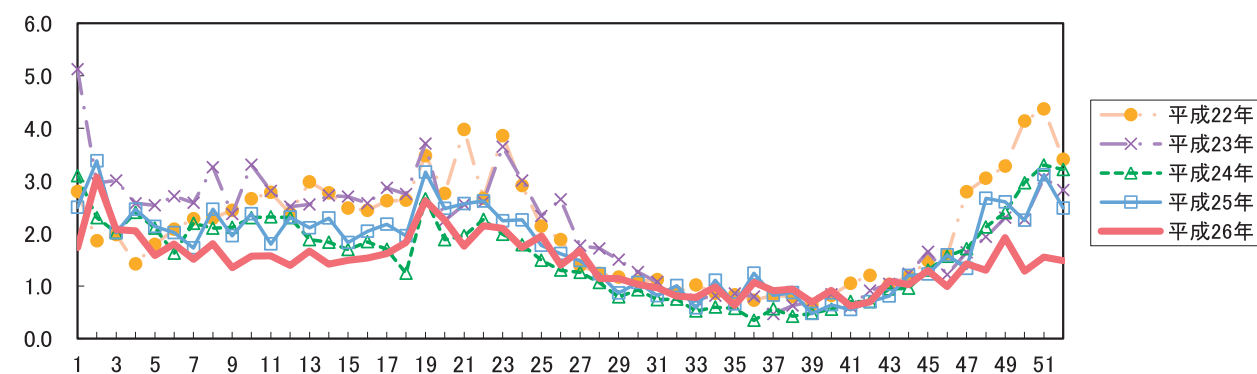
感染源不明の1か月児、母親の帯状疱疹が感染源と推定される2か月児が報告された。

男女比は1.03で昨年同様、差はなかった。

ワクチン接種後の罹患報告例は、630例（昨年683例）と前年よりやや減少した（前年比0.92）。罹患年齢は、1歳9.4%（昨年10.4%）、2歳19.2%（同19.6%）、3歳21.7%（同21.5%）、4歳17.8%（同14.6%）、5歳12.1%（同14.6%）と5歳までで全体の80.2%（昨年81.8%）を占めた。頻度は、患者1,000人当たり69.7（昨年62.1）と年々増加している。軽症が552例87.6%（昨年88.1%）であった。ワクチン接種後から発症までの期間は、暴露後接種を除いた628例中、1年以内23.6%（昨年25.4%）、1～2年以内25.6%（同20.8%）、2～3年以内16.2%（同17.0%）、3～4年以内10.4%（同9.2%）、4～5年以内5.3%（同6.6%）、5年以上は6.2%（同6.9%）と昨年と同様であった。

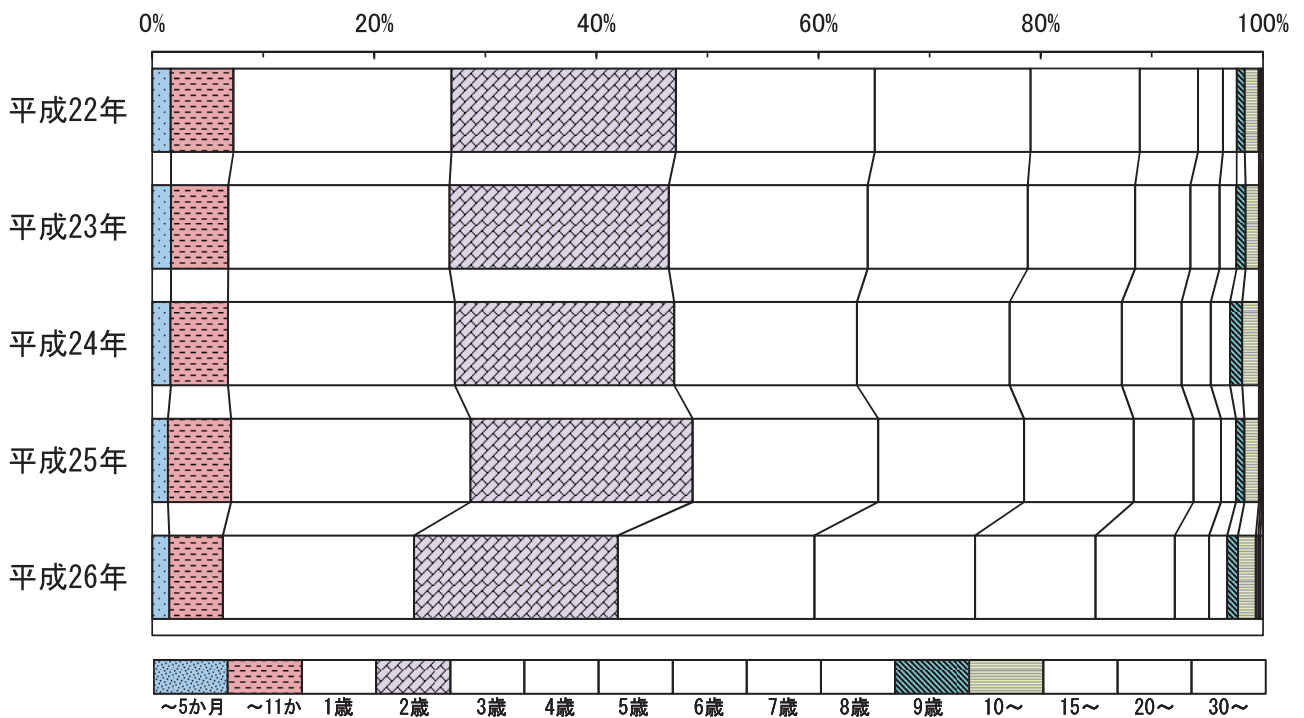
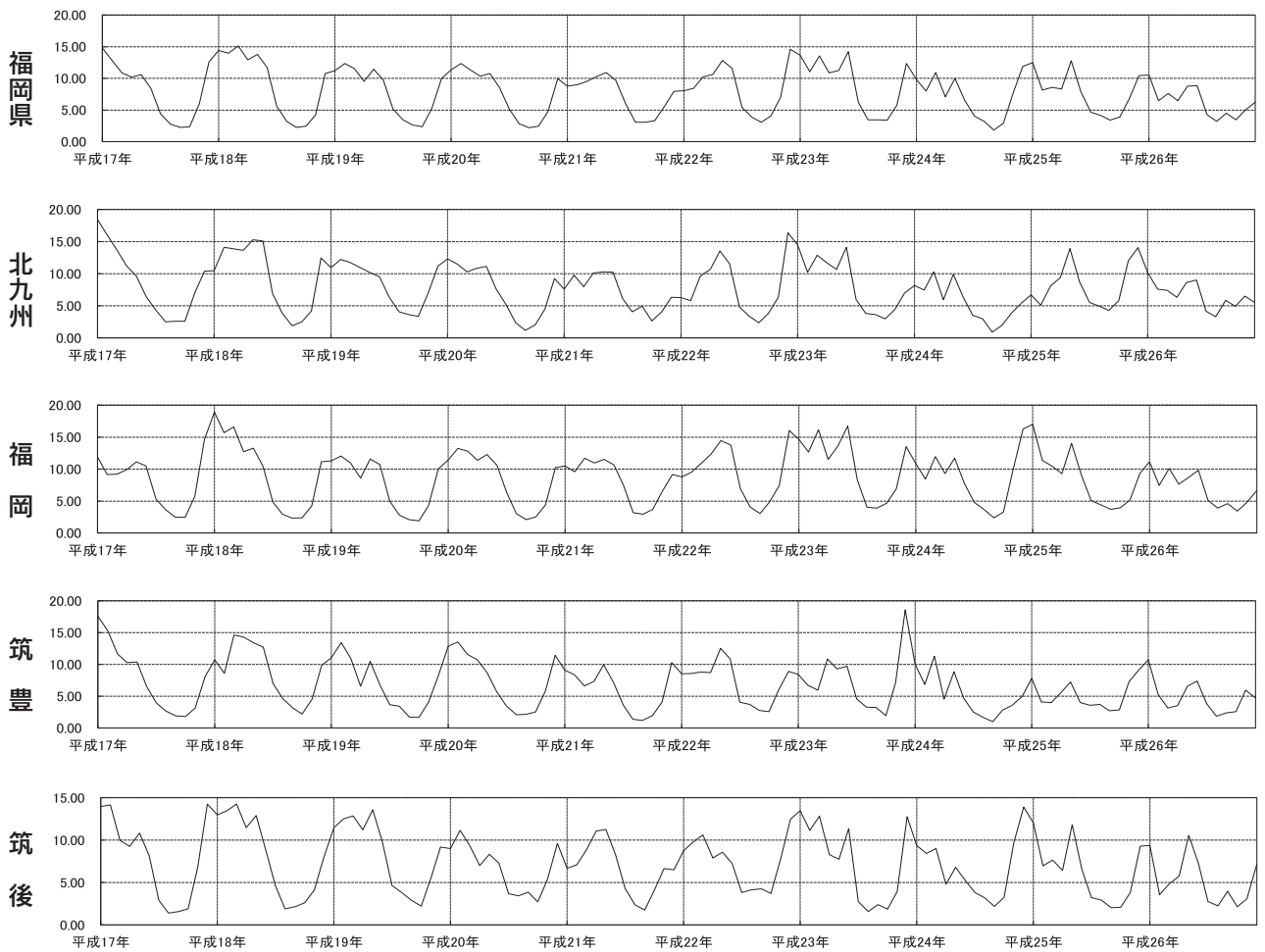
平成26年10月から水痘ワクチンが定期接種化された。対象年齢は生後12か月から36か月までに2回接種する。標準的には生後12か月から15か月で1回目、2回目は1回目終了後少なくとも3か月以上（標準的には6～12か月後）に接種する。接種率を上げるためには、麻しん・風しん混合（MR）ワクチンとの同時接種が有用とされる。

1回接種後の罹患例は前年よりやや減少したが、まだ多い。2回目の接種を忘れずに！



水痘

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



7. 手足口病 [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は72.7（8,724人）で、前年より減少した（前年比0.56）。昭和56年（1981年）からの1定点当たり年間報告数は、13.8、88.3、41.3、37.2、31.4、14.7、90.9、26.3、9.1、85.0、5.4、37.5、24.5、28.3、91.4、21.9、20.5、42.9、16.6、114.9、121.4、7.5、76.8、62.8、19.3、18.8、70.3、43.1、77.6、49.1、229.6、9.2、129.0、72.7となった。

夏季に多い傾向は変わらない。7月がピークとなった。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州地区81.1（2,351）[北九州市76.5（1,836）]、福岡地区66.9（3,615）[福岡市60.1（1,744）]、筑豊地区84.0（1,176）、筑後地区68.8（1,582）で、各地区とも減少した。

九州地区は全国的に多い。九州地区以外では山口県、島根県、愛媛県、徳島県、石川県が多かった。

年齢割合は、0歳7.3%（昨年12.8%）、1歳28.1%（同36.1%）、2歳25.3%（同20.0%）、3歳18.1%（同12.5%）、4歳9.8%（同8.5%）、5歳5.7%（同4.7%）、

6歳2.4%（同2.1%）、7歳1.0%（同0.8%）、8歳0.7%（同0.5%）、9歳0.4%（同0.3%）、10～14歳0.8%（同0.6%）で、0～5歳までの乳幼児が94.2%（同90.0%）であった。生後6か月～1歳および1歳児の減少が目立った。

男女比は1.23で昨年同様、男がやや多かった。

福岡地区での保育園での流行が1件報告された。新生児（11生日男、14生日男・女）3例、今期2回目が3例報告された。

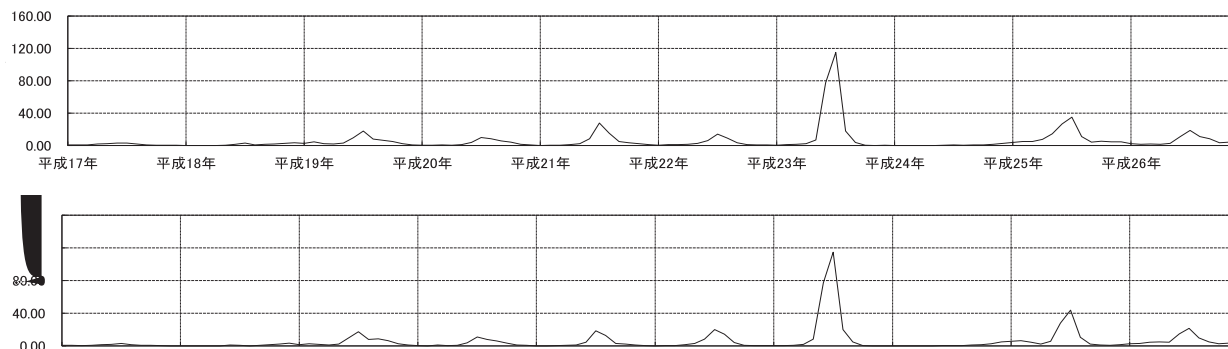
併発症は、ヘルパンギーナ1例、おたふくかぜ1例、熱性けいれん1例であった。爪甲脱落や変形などの報告はなかった。

本県の検査情報では咽頭ぬぐい液などの52検体中37件からウイルスが分離された。その中で、エンテロウイルス71型が最も多く24件分離されていた。次いでコクサッキーウイルスA16型が8件であった。エンテロウイルス71型が7～9月に、コクサッキーウイルスA16型が9月以降に流行した。

全国的にはコクサッキーウイルスA16型が最も多く、次いでエンテロウイルス71型が多かった。

手足口病

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



8 . 伝染性紅斑 [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は4.4（530人）で昨年より増加した（前年比4.1）。昭和56年（1981年）からの県内1定点当たり年間報告数は、42.6、13.0、6.0、1.5、0.7、8.6、69.3、3.8、1.1、1.6、17.6、43.2、3.3、2.5、12.4、30.9、10.0、7.1、9.0、15.8、37.0、8.7、4.4、13.8、38.0、19.5、11.4、3.1、1.4、41.9、37.3、1.6、1.1、4.4となっている。

9月以降徐々に増加しているため、1月以降の動向には注意が必要と考えられる。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州地区1.5（43）〔北九州市1.5（36）〕、福岡地区7.8（422）〔福岡市7.9（229）〕、筑豊地区1.0（14）、筑後地区2.2（51）で、大きな

変動はなかったが、福岡地区がやや増加している。全国的には西日本は少なく、青森県、岩手県、宮城県、福島県、新潟県、石川県、埼玉県、神奈川県、東京都が多かった。

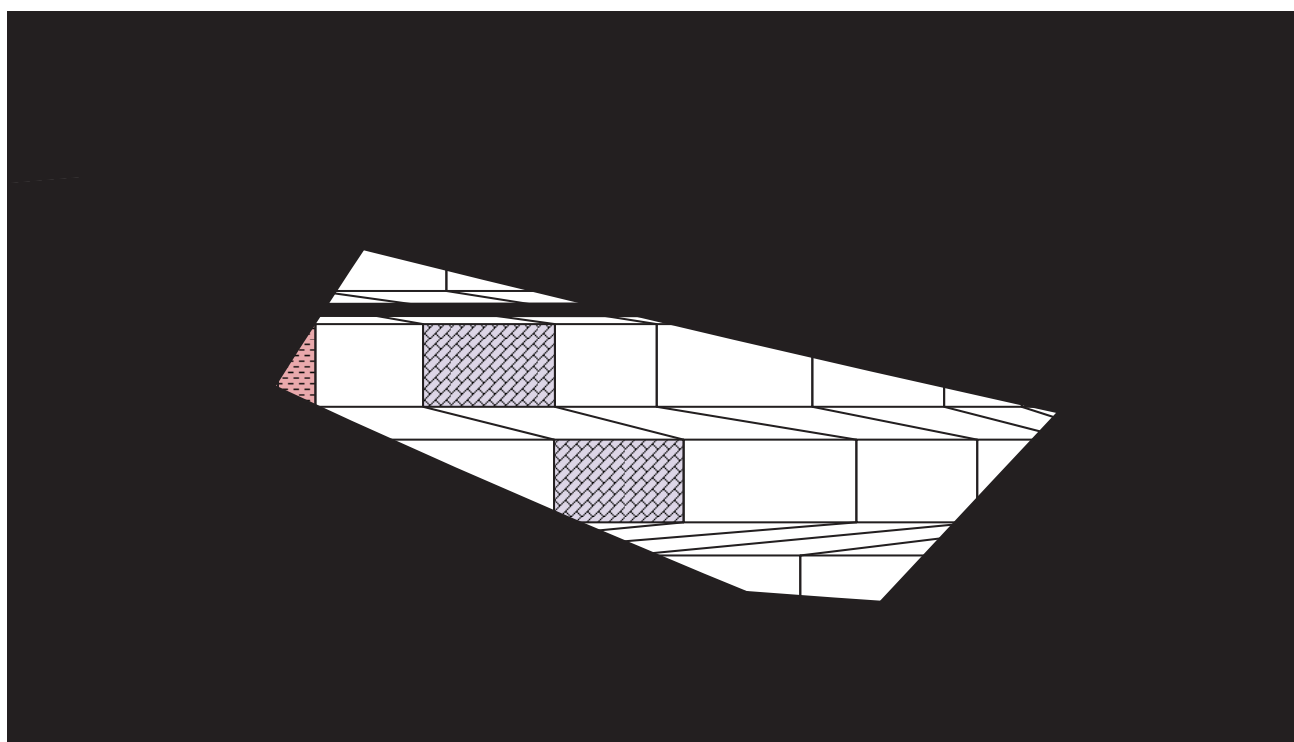
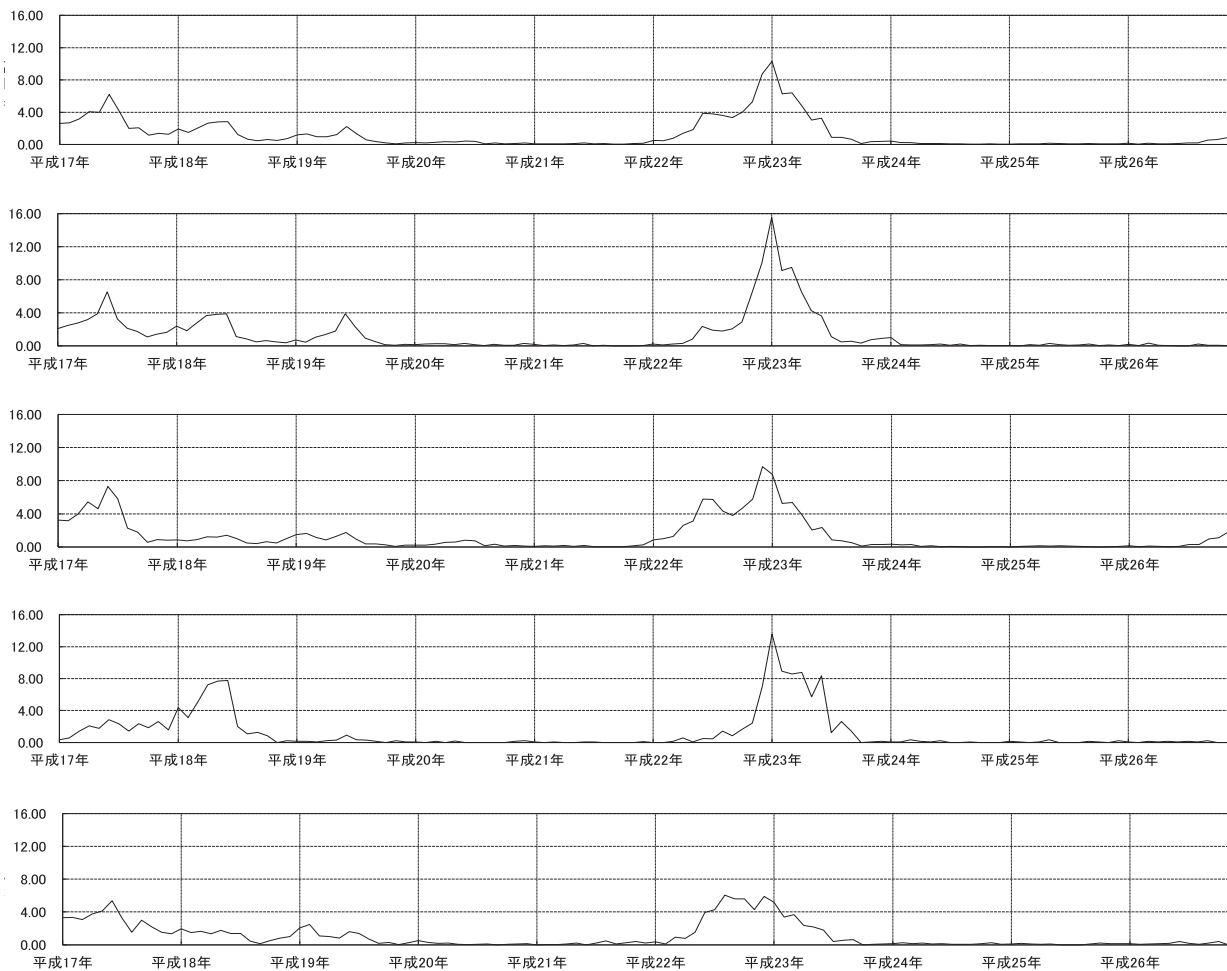
年齢割合は0～5か月0.8%（昨年0.8%）、6～11か月2.6%（同11.6%）、1歳6.4%（同22.5%）、2歳5.7%（同11.6%）、3歳10.4%（同15.5%）、4歳15.8%（同10.9%）、5歳15.5%（同8.5%）、6歳14.3%（同4.7%）、7歳11.7%（同6.2%）、8歳7.0%（同1.6%）、9歳4.2%（同3.1%）、10～14歳5.1%（同3.1%）、15歳以上0.8%（同0）であった。流行年の平成22年、23年と同様の年齢構成であった。

男女比は0.95であった。

合併症や併発症の報告はなかった。

伝染性紅斑

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



9 . 突発性発しん [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は43.3（5,191人）で、前年とほぼ同じであった（前年比1.04）。昭和56年（1981年）からの県内1定点当たり年間報告数は、46.4、63.0、63.1、59.1、57.9、60.7、58.2、49.6、48.5、49.0、44.3、47.5、46.8、56.1、54.6、52.0、48.8、45.9、46.4、52.3、60.8、57.4、53.5、51.1、51.4、46.7、46.8、47.4、46.2、43.4、43.7、42.1、41.6、43.3で、昨年とほとんど変化はない。

ワクチンや抗ウイルス薬もないため、本疾病の定点当たりの報告数の推移は報告システムの精度を表していると考えられる。今後の動向を注視していく必要がある。

週別報告では1週、18週、33週の報告数がやや少ないのは、正月やゴールデンウィーク、お盆の影響が考えられる。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及

び「患者数」）は、北九州地区37.9（1,099）[北九州市35.3（847）]、福岡地区48.9（1,380）[福岡市47.6（1,380）]、筑豊地区31.5（441）、筑後地区44.0（1,013）で、昨年と同じく福岡地区、筑後地区がやや多い。全国的には、西日本に多く福岡県は宮城県、島根県、山口県、愛媛県、徳島県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県と同じく報告数が多い県となっている。

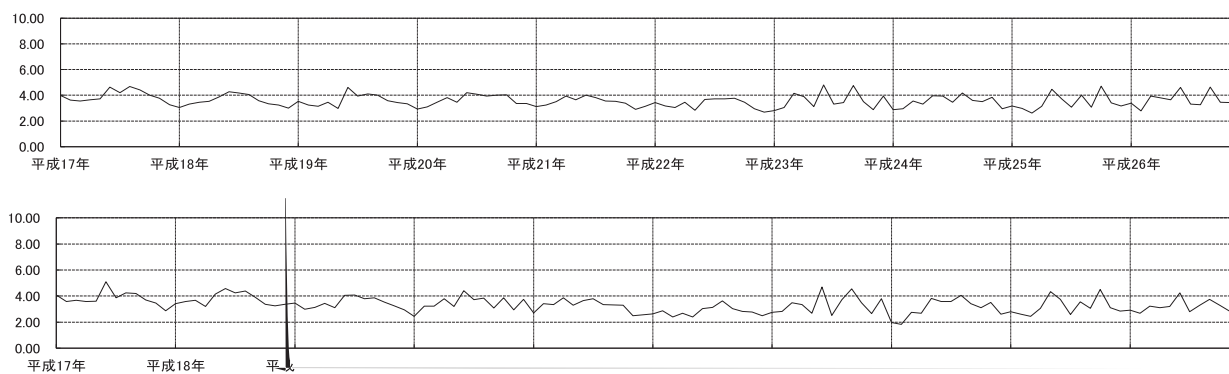
年齢割合は0～5か月2.3%（昨年2.5%）、6～11か月46.3%（同47.7%）、1歳45.7%（同45.3%）と0歳児が48.6%であった。0歳児の割合は、平成17年以降72.9%、70.5%、67.3%、65.5%、63.8%、59.9%、57.6%、53.4%、50.1%、48.6%と少しずつ減少している。

男女比は1.04であった。

重篤な合併症は、報告されていない。

突発性発しん

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



10. 百日咳 [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は1.7（203人）で、昨年よりやや増加した（前年比1.88）。昭和56年（1981年）からの1定点当たり年間患者数は、11.6、13.6、11.0、9.6、5.4、6.3、12.8、8.0、9.2、15.0、22.1、15.2、11.6、12.9、6.2、8.9、3.6、2.2、2.6、2.3、1.3、1.1、0.9、1.7、1.5、1.3、1.8、4.3、4.5、3.1、3.3、2.0、0.9、1.7で、過去10年間では最も少なかった昨年よりやや増加した。

季節性は、流行年と同じく6月が多かった。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州地区0.9（26）〔北九州市1.0（25）〕福岡地区3.0（162）〔福岡市3.5（102）〕筑豊地区0.6（9）筑後地区0.3（6）で、福岡地区だけが多い傾向は変わらない。全国的には福岡県は、山形県、鳥取県、広島県、徳島県、愛媛県、大分県、鹿児島県と同じく報告数が多い県となっている。

年齢割合は、0～5か月11.3%（昨年18.5%）、6～11か月3.0%（同7.4%）となり0歳児は14.3%（同25.9%）で昨年より減少した。年長児は5歳4.6%（昨年4.6%）、6歳5.9%（同0.9%）、7歳3.0%（同1.9%）、8歳2.5%（同2.8%）、9歳2.0%（同3.7%）、10～14歳18.7%（同11.1%）となり、5～6歳と10～15歳未満が増加した。15～19歳は3.9%（昨年4.6%）、20歳代2.5%（同3.7%）、30歳以上27.6%（同27.8%）となり大きな変化はなかった。平成12年以降10歳以上の割合は、5.5%、10.6%、12.6%、9.9%、14.3%、36.6%、55.1%、59.7%、65.0%、64.6%、

68.5%、63.3%、57.2%、47.2%、52.7%となっている。

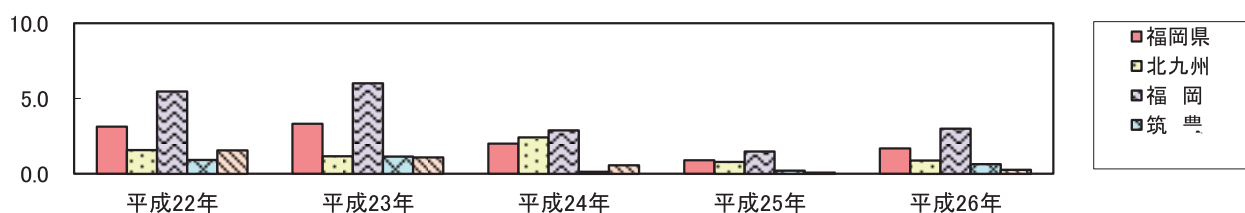
男女比は1.01であった。

診断法では、百日咳菌の分離が国内外ともGold standard とされている。県内では培養陽性者は2例：23生日女児でPT抗体価20 EU/ml。87生日女児で、白血球数30,900/ul（Ly 59%）PT抗体価3 10EU/mlといずれも生後3か月未満の児であった。LAMPで確定診断された例はなかった。血清診断が国内で行われることが多い。ペア血清で診断されたのは、前記の87生日の児を含めて3例：10歳女児でPT抗体価は急性期45 EU/ml、回復期4倍以上の上昇、10歳男はDTPワクチン4回接種済みでPT抗体価は10 160 EU/ml 以上と記載されていた。

重症化のリスクのある3か月未満児は、前記の2例を含めて7例であった。転帰は不明であるが、死亡例はなかった。この月齢は、移行抗体の影響もあり単血清や白血球数（リンパ球割合）だけでは確定は難しい。診断基準の改訂を行っている。海外では、妊婦への百日咳ワクチン接種で乳児期早期の重症化を予防する対策が功を奏している国もある。

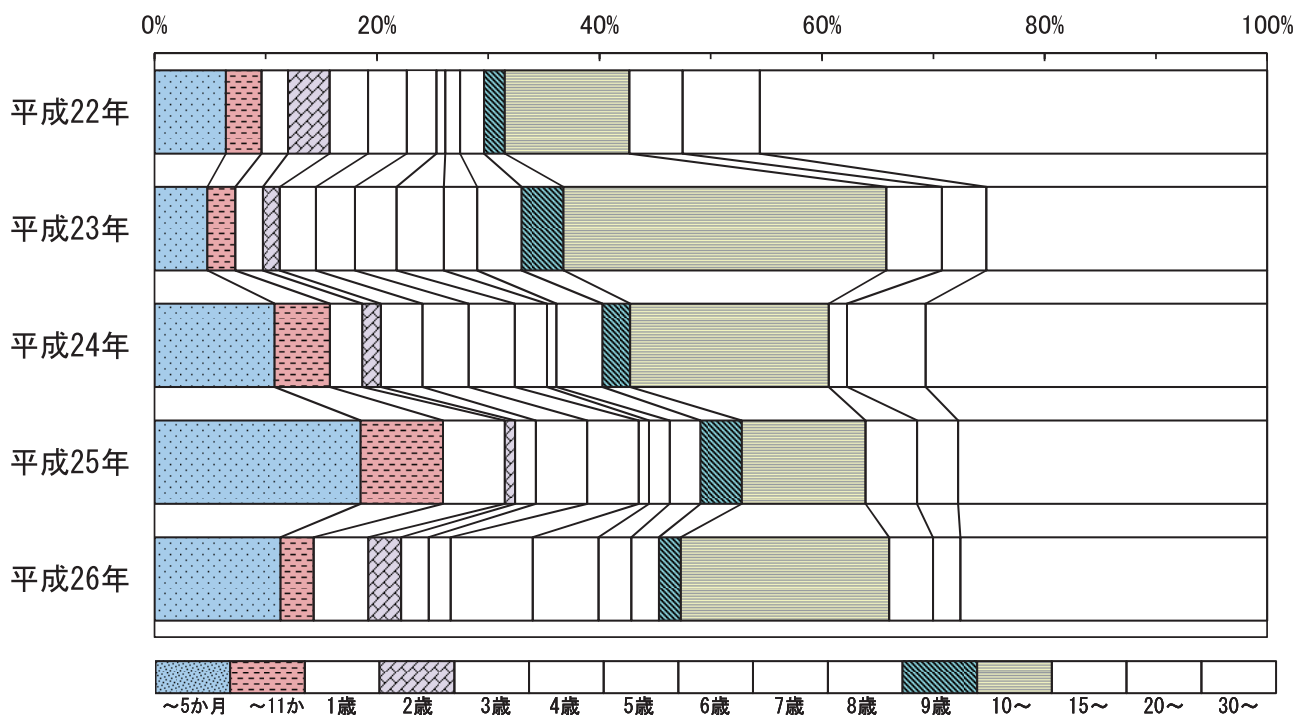
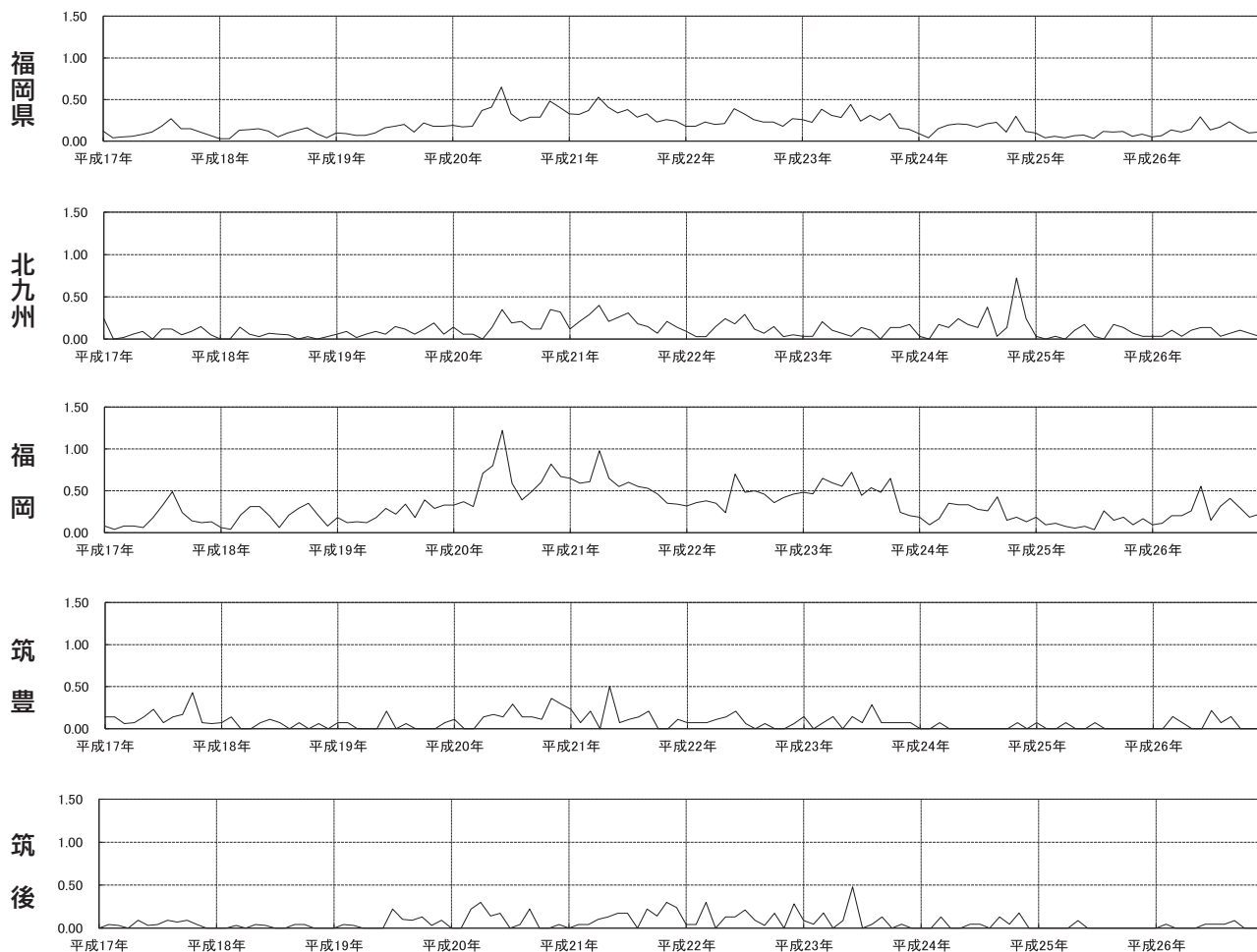
家族内感染が2件報告された。生後4か月と6歳の姉妹と10～14歳女児と兄。ワクチン接種例や成人例での血清診断も単血清での診断は難しく、診断確定にはペア血清が望ましい。

生後3か月になればDPT-IPVワクチン接種を開始し、できるだけ早く3回までは終了しておくことが望まれる。



百日咳

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



11. 風しん〔小児科定点〕

平成20年1月1日から全国的に風しんは5類全数把握対象疾病となっている。福岡県では定点からの報告もこれまで同様お願いしている。本年の年間の1定点当たり患者数(及び「患者数」)は0.0(2人)であった(前年33人)。昭和56年(1981年)からの1定点当たり年間患者数は、42.2、275.9、68.1、14.2、4.5、12.6、389.7、73.9、17.3、2.2、4.6、48.5、179.3、4.5、4.1、3.4、6.7、4.5、1.3、0.8、1.7、9.7、0.4、3.0、0.1、0.03、0.02、0.03、0.08、0.03、0.08、0.06、0.3、0.01であった。

2例は1歳男と30歳以上女であった。

全数報告では、82歳女性も含めて4例の成人例が報告された。福岡市から1/23 発症の45歳男性・ワクチン歴不明、症状は発熱・発疹でEIA-IgM抗体陽性で診断されていた。飯塚市から4/5 発症の50歳女性・ワクチン接種歴不明、症状は発熱・発疹・リンパ節腫脹でEIA-IgM抗体陽性で診断されていた。福岡市から5/2発症の35歳女性・ワクチン歴不明で、症状は発熱・発疹・リンパ節腫脹で臨床診断されていた。中間市から6/29発症の82歳女・ワクチン歴不明、症状は発疹で、ペア血清でEIA8.5 22.4EU/mlで診断されていた。

全国的には全数報告で把握されており、321例

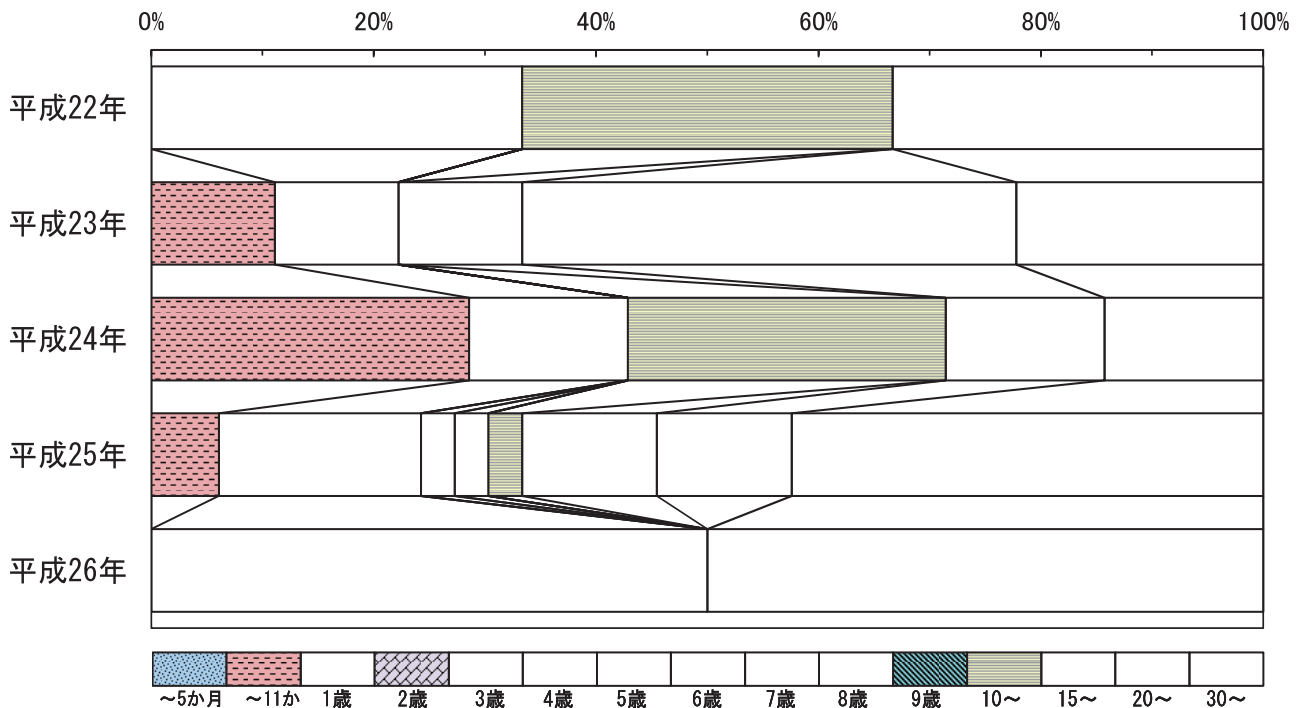
(昨年14,357例)が報告された。東京都97例、神奈川県70例、愛知県21例、大阪府18例と大都市圏が多かった。福岡県は4例で九州地区では沖縄県に次いで多かった。

先天性風しん症候群は前年32例、本年9例報告された。発生が多かった都府県からの報告が多いが、幸いにも福岡県からの報告はなかった。

風しんに関する特定感染症予防指針が平成26年度から施行された。早期に先天性風しん症候群の発生をなくすとともに、平成32年度までに風しん排除を達成することが目標。「風しんの定期接種(1歳児、小学校入学1年前の2回)の接種率をそれぞれ95%以上とする。成人に対する抗体検査・予防接種の推奨：企業等と連携し、雇用時等の様々な機会を利用して、従業員等が罹患歴又は接種歴を確認できるようにするとともに、いずれも確認できないものに対して、抗体検査や予防接種を推奨する。先天性風しん症候群の児への医療等の提供：日本医師会や関係学会等と連携し、先天性風しん症候群と診断された児が症状に応じ適切な医療や支援制度を受けられるよう、情報提供及び制度のより適切な運用等を行う。」となっている。

風しん

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



12. ヘルパンギーナ [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は39.2（4,702人）と昨年よりやや増加した（前年比1.55）。1定点当たり患者数は昭和56年（1981年）から、それぞれ66.1、80.3、71.5、134.9、53.3、61.4、63.2、64.3、30.4、39.7、43.5、55.2、31.9、45.4、33.8、64.4、39.2、38.1、52.0、37.2、31.9、41.1、51.5、35.9、39.6、42.8、49.8、29.1、30.9、33.4、41.1、34.6、25.4、39.2であった。

季節性を月別発生で見ると、6～7月に多い傾向に変化はない。

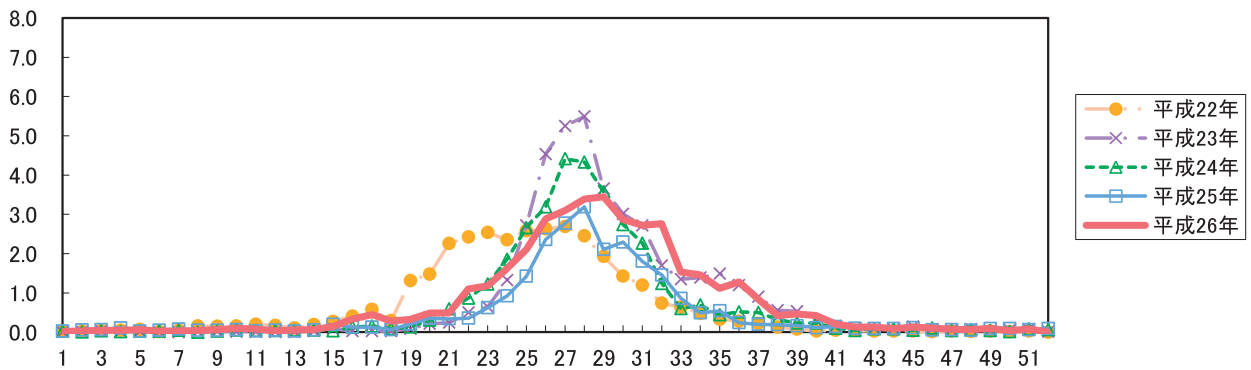
地域的には、年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州32.4（939）〔北九州市35.3（839）〕、福岡51.1（2,759）〔福岡市62.4（1,809）〕、筑豊28.3（396）、筑後26.4（608）となり、福岡地区が増加した。全国的には山形県、新潟県、東京都、埼玉県、岐阜県、鳥取県、山口県、熊本県、宮崎県が多かった。

罹患年齢は0～5か月0.8%、6～11か月10.1%、1歳30.1%、2歳20.2%、3歳15.8%、4歳10.2%、5歳6.5%、6歳2.9%、7歳1.3%、8歳0.8%、9歳0.4%、10～14歳0.6%であった。1歳がピークで、3歳までで77.0%、5歳までで93.7%を占める乳幼児の疾病である。年齢構成に大きな年次変化は認められない。

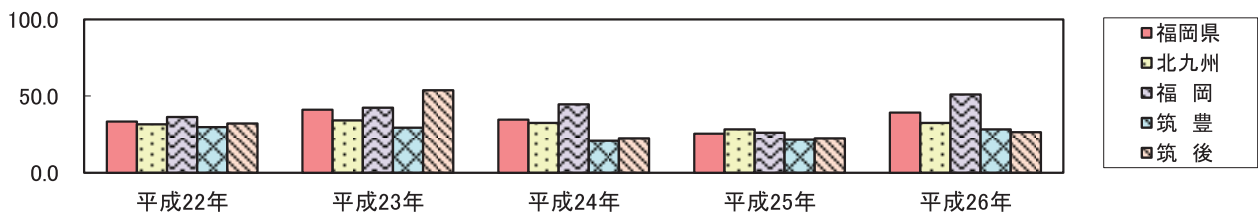
男女比は1.08であった。

本疾病の原因はコクサッキーウイルスA群が多い。全国的には、コクサッキーウイルスA4型が最多で、次いでA10型、A2型が多かった。

本県の検査情報では咽頭ぬぐい液などの17検体から9件のウイルスが検出されている。コクサッキーウイルスA4型3件、A5型2件、エンテロウイルス71型1件などであった。



ヘルパンギーナの1定点当たりの週別報告数推移

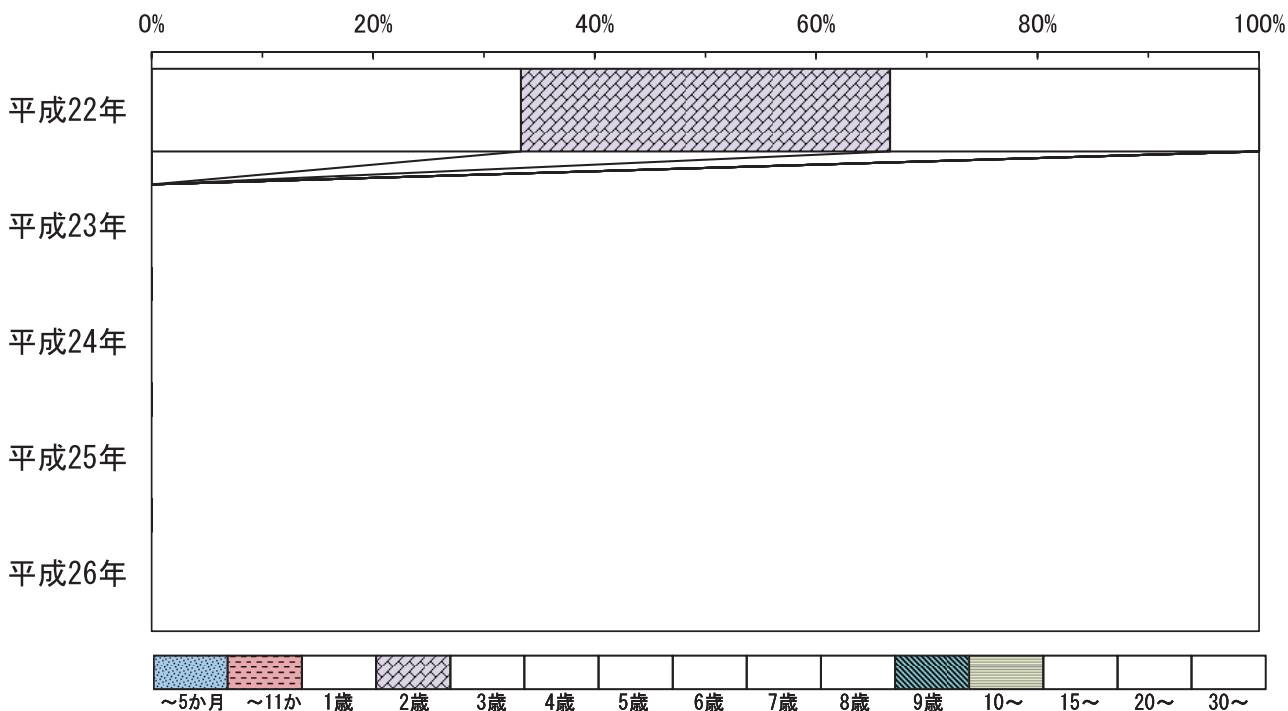
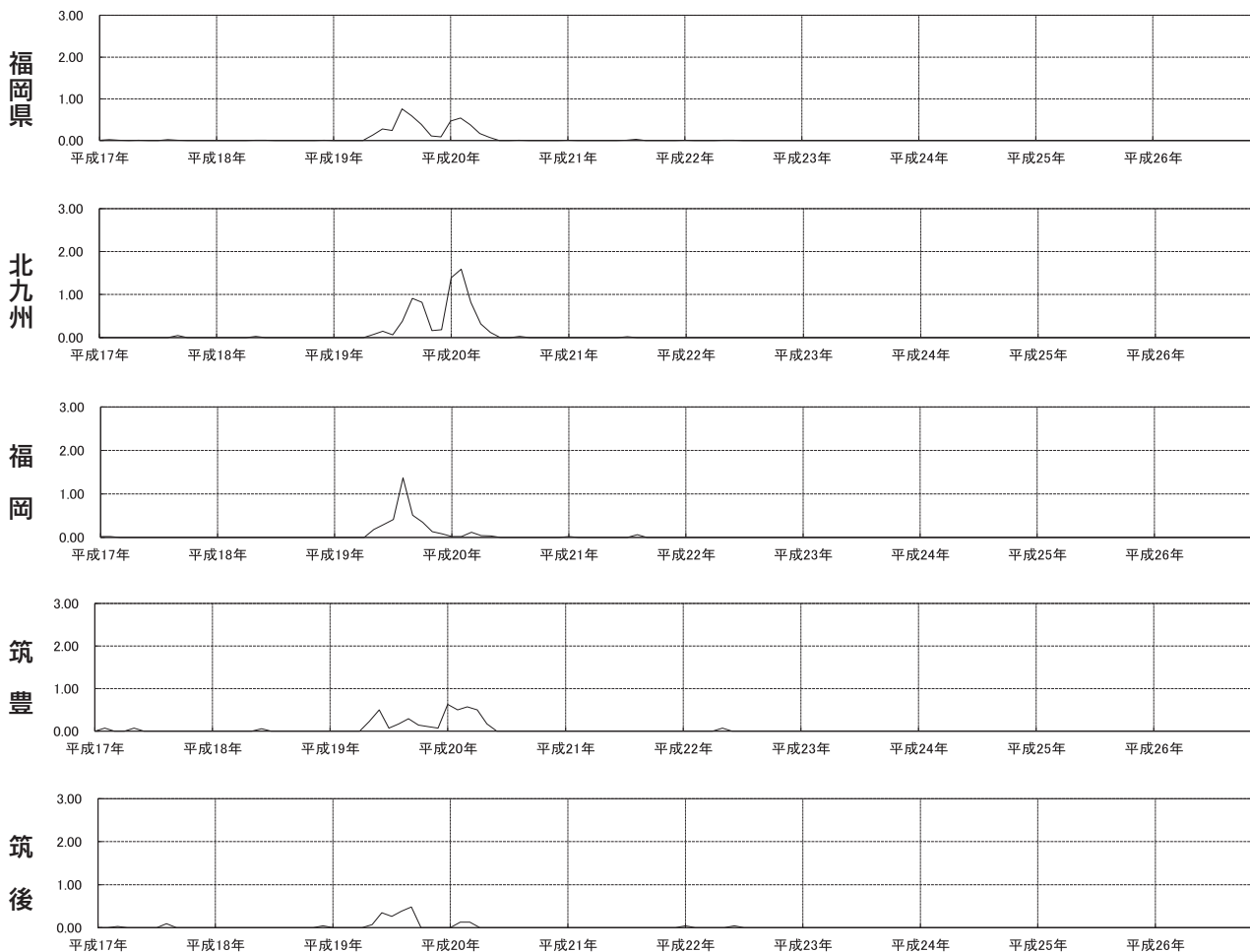


ヘルパンギーナのブロック別1定点当たりの年別報告数推移



麻しん

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



14. 流行性耳下腺炎 [小児科定点]

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は39.0（4,684人）で、前年よりやや増加した（前年比1.13）。昭和56年（1981年）からの1定点当たり年間患者数は、79.3、173.2、67.6、35.7、163.0、76.3、17.4、45.4、173.1、23.1、6.6、17.8、31.5、89.1、29.3、50.4、104.8、70.2、25.7、54.8、166.6、54.8、24.7、85.2、95.6、52.1、30.4、43.8、82.5、65.6、56.1、41.4、34.4、39.0であった。MMRワクチンとして接種されていた期間（平成元年度から平成4年度）の報告数は比較的低値であった。中止以後増減を繰り返している。

明瞭な季節性は、認められなかったが、10月以降報告数がやや減少した。

地域ブロック別では、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州地区65.4（1,897）[北九州市54.9（1,318）]、福岡地区33.9（1,831）[福岡市43.3（1,257）]、筑豊地区34.1（477）、筑後地区20.8（479）で、北九州・筑豊・筑後地区が増加し、福岡地区は減少した。全国的には福岡県は、福島県、千葉県、福井県、広島県、高知県、大分県、佐賀県、長崎県と同じく報告数が多い県となっている。

年齢割合は、0歳0.4%、1歳5.7%、2歳10.5%、3歳16.6%、4歳19.2%、5歳18.0%、6歳11.7%で、

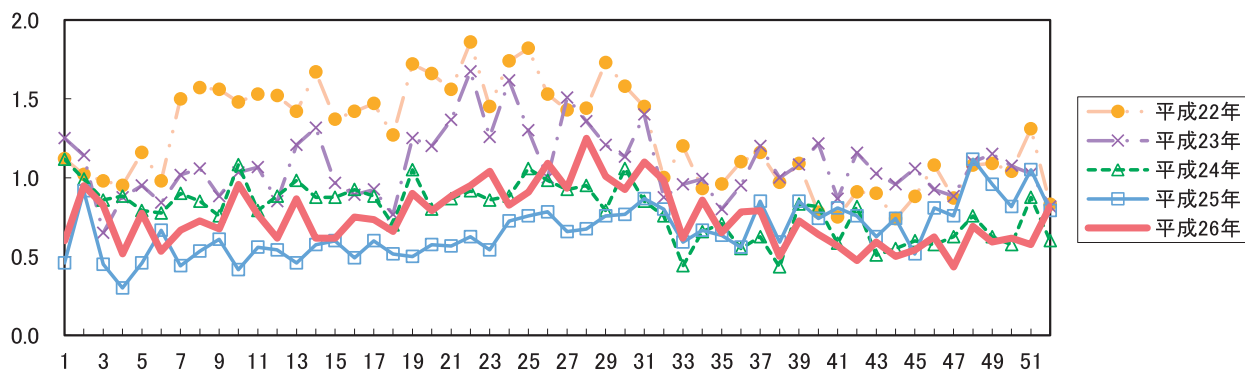
4歳・5歳をピークとし、6歳までで82.2%を占めている。20歳以上は45人（1.0%）であった。IgM抗体価で確認された成人2例（26歳女、30歳以上女）の報告もあった。

男女比は1.17であった。

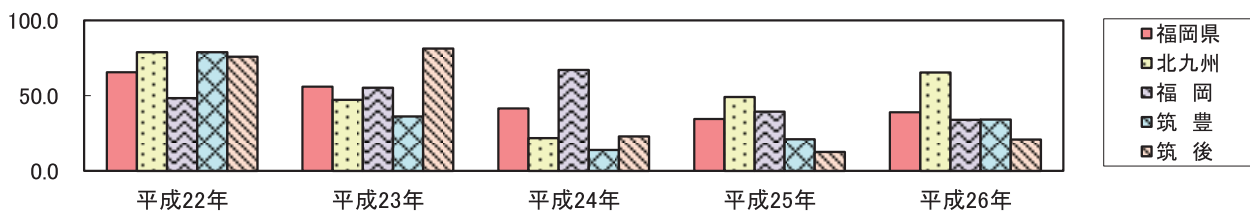
合併症では、無菌性髄膜炎が27例（昨年39例）で昨年よりやや減少した。患者1,000人当たりの頻度は5.8人（昨年9.4人）となった。男19人、女8人で、男に多い傾向は変わらない。発症は2～5歳に多かった。6歳女に難聴、2例に熱性けいれん（1歳男、2歳女）が報告された。

予防接種後の罹患は170例（昨年156例）で、患者1,000人当たり36.3（昨年37.8）であった。年齢は1歳5例（昨年6例）、2歳12例（同9例）、3歳28例（同18例）、4歳44例（同26例）、5歳37例（同28例）、6歳14例（同24例）、7歳6例（同17例）、8歳9例（同9例）、9歳5例（同4例）、10歳3例（同3例）、11歳4例（同5例）、12歳0例（同3例）、13歳以上0例（同4例）であった。2～5歳までで71.2%を占めた。症状は、軽症132例、中等症37例、重症0例、不明1例であった。

日本小児科学会では、2回のワクチン接種を勧めている。



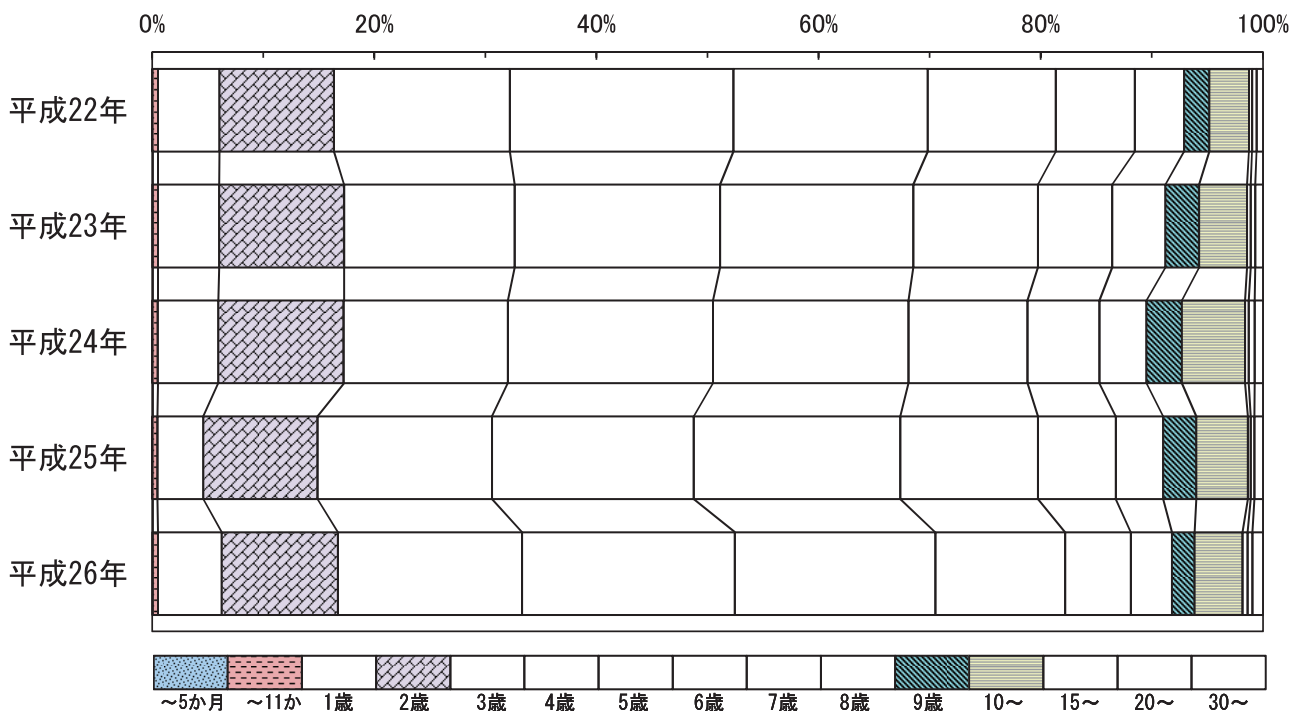
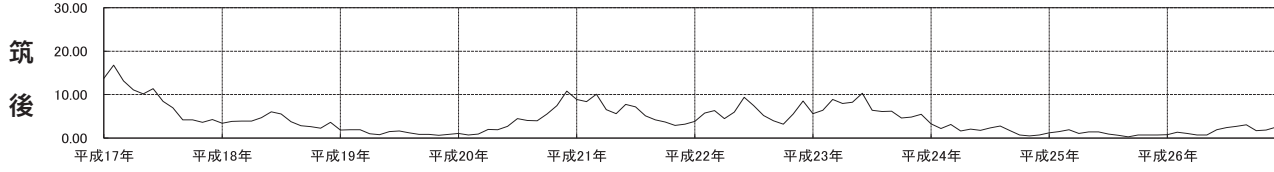
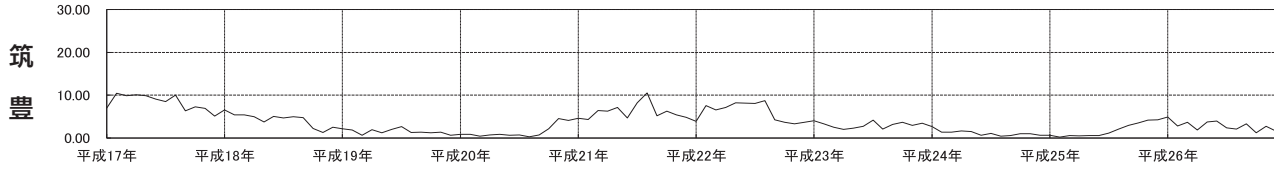
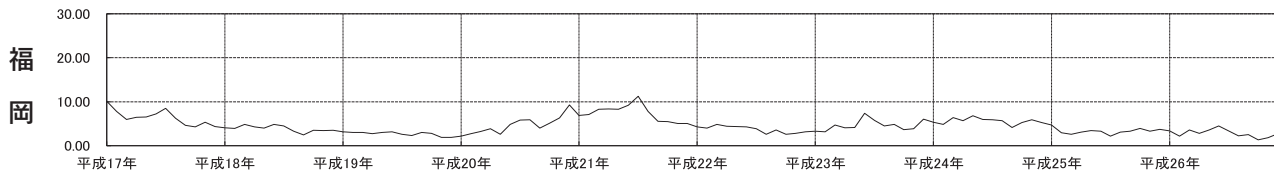
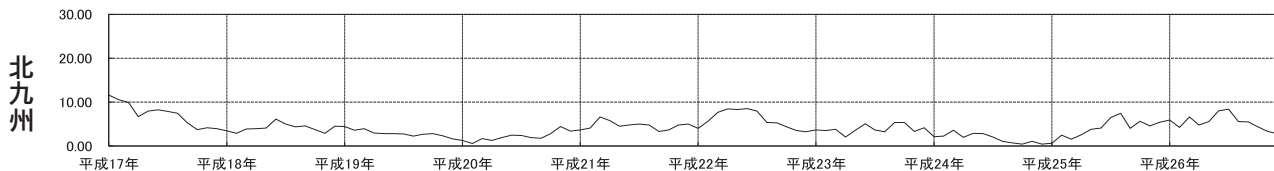
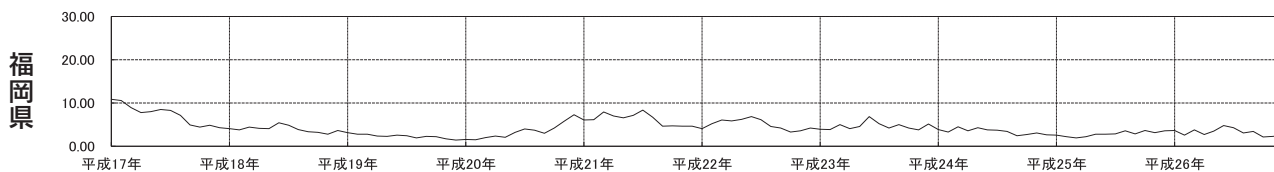
流行性耳下腺炎の1定点当たりの週別報告数推移



流行性耳下腺炎のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

流行性耳下腺炎

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



15. 川崎病 (MCLS) [小児科定点]

平成11年4月施行の感染症法により川崎病 (MCLS) は感染症発生動向調査の対象外となった。福岡県ではデータの継続性の意味を含めて、小児科定点の対象疾病として平成12年以降も報告を受けている。

年間の1定点当たり患者数 (及び「患者数」) は今年2.6 (315人)、前年2.1 (252人) で、前年比98%である。全県1定点当たりの患者数は、昭和56年 (1981年) から平成26年 (2014年) までそれぞれ3.4、2.9、2.8、2.9、2.6、4.1、2.4、1.9、2.5、2.4、2.5、2.3、2.5、2.8、3.7、3.6、2.8、3.1、3.4、2.7、2.2、1.6、1.8、1.7、1.6、2.0、2.0、1.9、2.2、2.1、2.0、2.1、2.1、2.6で、過去10年間では最多であった。

季節性は特に見られない。

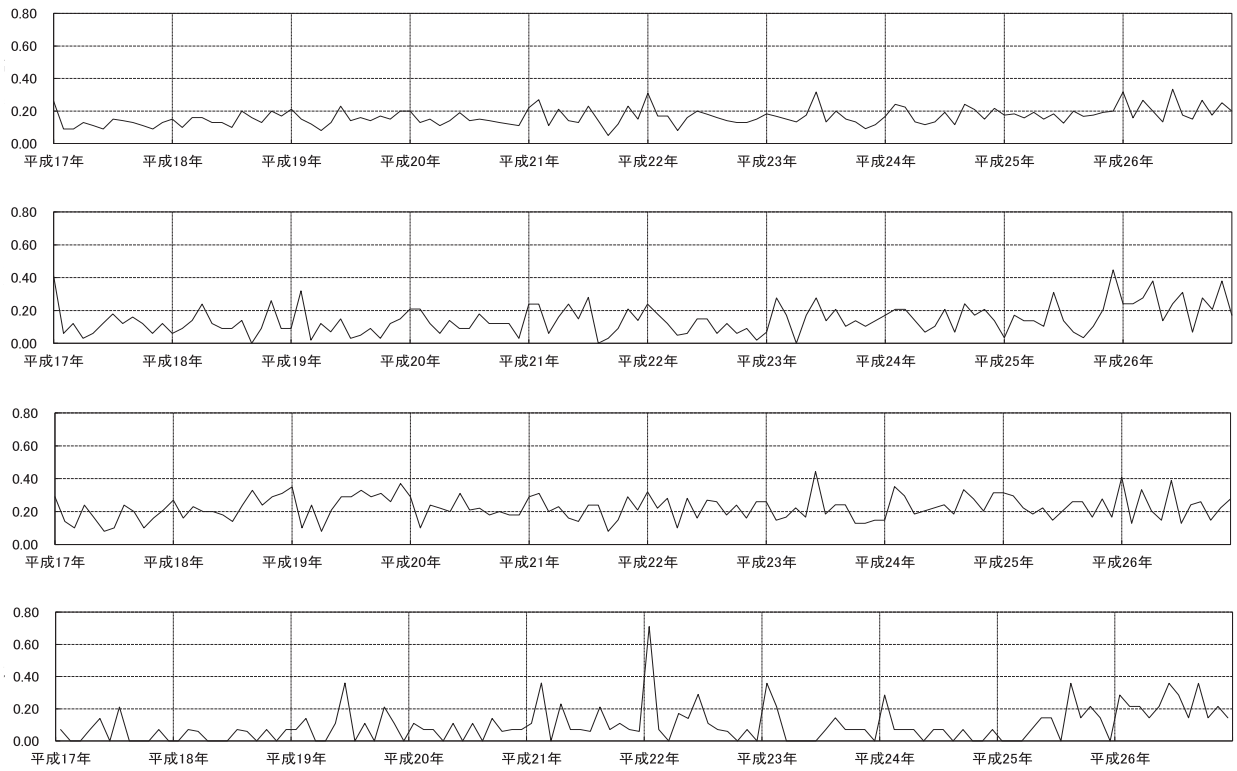
地域的には、1定点当たり患者数 (及び「患者数」) は北九州2.9 (85) [北九州市3.3 (78)]、福岡2.9 (156) [福岡市4.8 (140)]、筑豊2.7 (38)、筑後1.6 (36) で、各地区から報告があるが、筑後地区以外からの報告が多かった。

罹患年齢は0～5か月5.7% (18人; 前年12人、前々年17人)、6～11か月17.1%、1歳25.4%、2歳16.2%、3歳15.9%、4歳6.0%、5歳4.4%、6歳4.1%、7歳2.2%、8歳2.2% (7人)、9歳0.0%、10～14歳0.0%、15～19歳0.0%、20～29歳0.0%、30歳以上0.6% (2人) であった。ピークは1歳で、5歳未満が86.3%と大多数を占めるのは例年と同様である。10歳以上は30歳以上の2人のみである。

男女比は1.23 (男174、女141) で男が多かった。

川崎病 (MCLS)

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移 (上) と年齢区分別患者発生割合の推移 (下)



16. 急性脳炎 [小児科定点]

平成15年11月改正の感染症法により、急性脳炎は全数把握対象疾病となった。福岡県ではデータの継続性の意味を含めて、平成16年以降も小児科定点の対象疾病として報告を受けている。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年0.05（6人）、前年0.05（6人）であった。全県1定点当たりの患者数（および「患者数」）は昭和56年（1981年）から平成26年（2014年）までそれぞれ0.2（11）、0.4（18）、0.4（20）、0.4（19）、0.4（23）、0.2（12）、1.1（62）、1.2（66）、0.3（17）、0.2（10）、0.3（19）、0.2（13）、0.7（39）、0.2（9）、0.2（12）、0.3（17）、0.4（24）、0.3（18）、0.3（19）、0.2（17）、0.09（9）、0.08（10）、0.05（6）、0.0（0）、0.05（6）、0.08（9）、0.04（5）、0.03（3）、0.04（5）、0.02（2）、0.00（0）、0.04（5）、0.05（6）、0.05（6）であった。

発生は、2月1人、3月1人、7月1人、9月1人、11月2人であった。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）、北九州0.0（0）[北九州市0.0（0）]、福岡0.1（5）[福岡市0.2（5）]、筑豊0.0（0）、筑後0.0（1）であった。

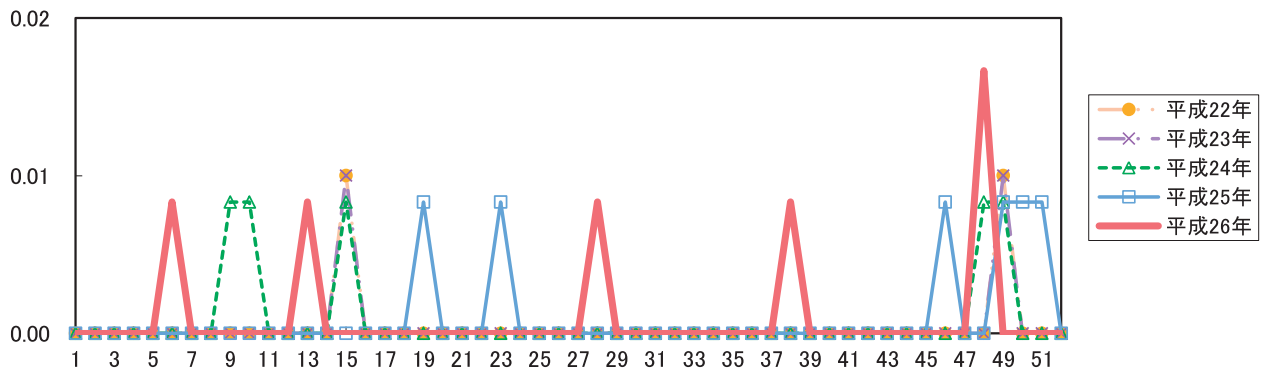
6人の罹患年齢は0～5 か月0.0%、6～11 か月0.0%、1歳0.0%、2歳16.7%（1人）、3歳16.7%（1人）、4歳0.0%、5歳33.3%（2人）、6歳～9歳0.0%、10歳～14歳33.3%（2人）、15歳以上0.0%である。小児科を中心に報告を受けており、2～5歳が4人であった。

男女別は男4人、女2人であった。

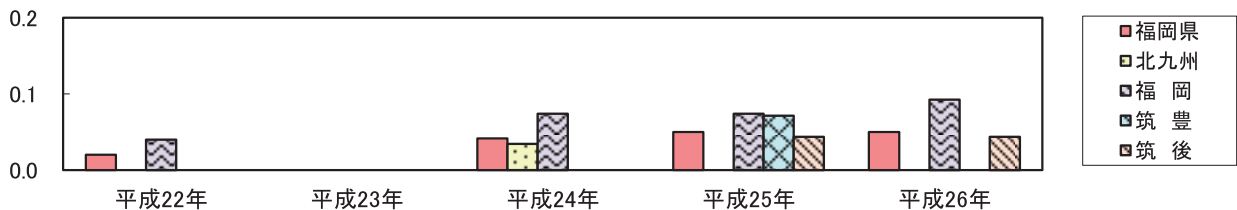
検査情報（基幹定点分を含む）では、12検体の提出があり、3歳女の咽頭からHSV-1型、1歳男の便からエンテロウイルス71型が検出された。

週報にはインフルエンザB型によるMERS（可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症）の11歳女、原因不明のMERSの5歳男2人、10歳女、原因不明の3歳女の脳症の報告がある。

日本脳炎は全数報告に全国で2例（前年9例）、福岡県は0例（前年0例、前々年1例、3年前4例）であった。なお、福岡県では7月15日から9月2日まで毎週ブタの血清の日本脳炎検査が行われ、8月5日採血のブタ10頭すべてに日本脳炎ウイルス感染が確認され、日本脳炎に対する注意喚起が福岡県庁からなされた。



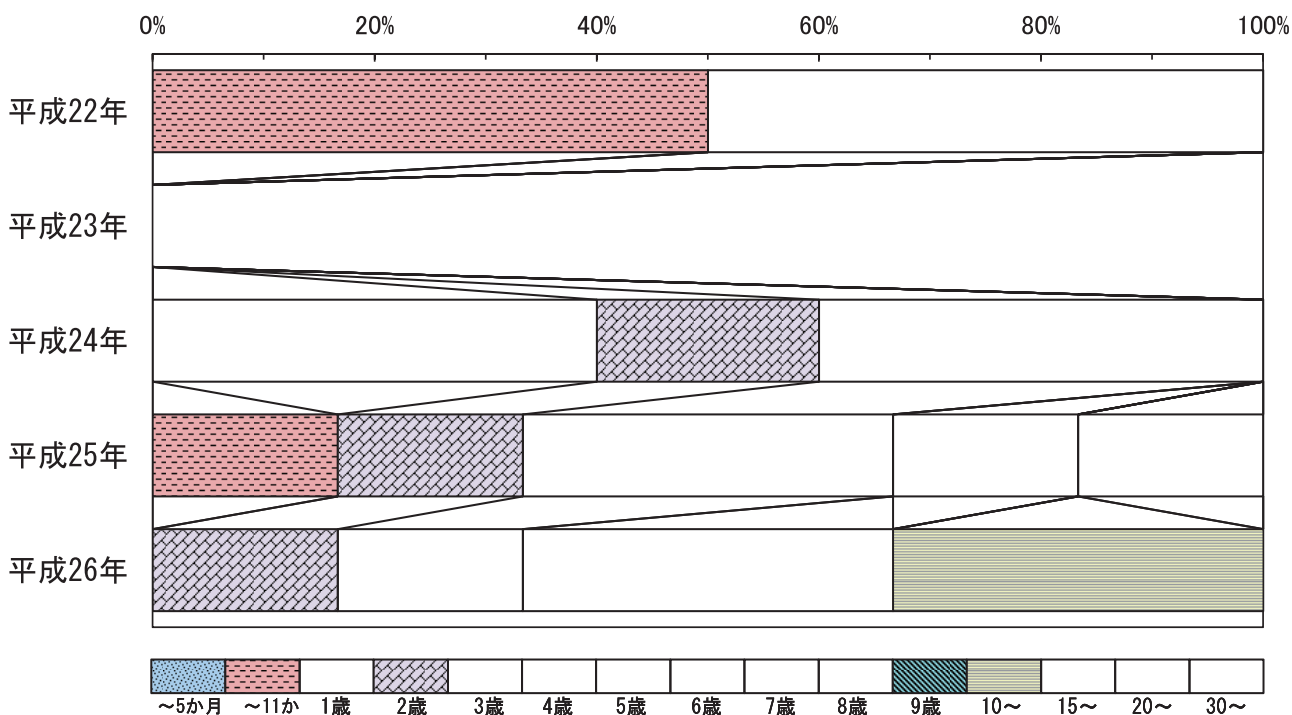
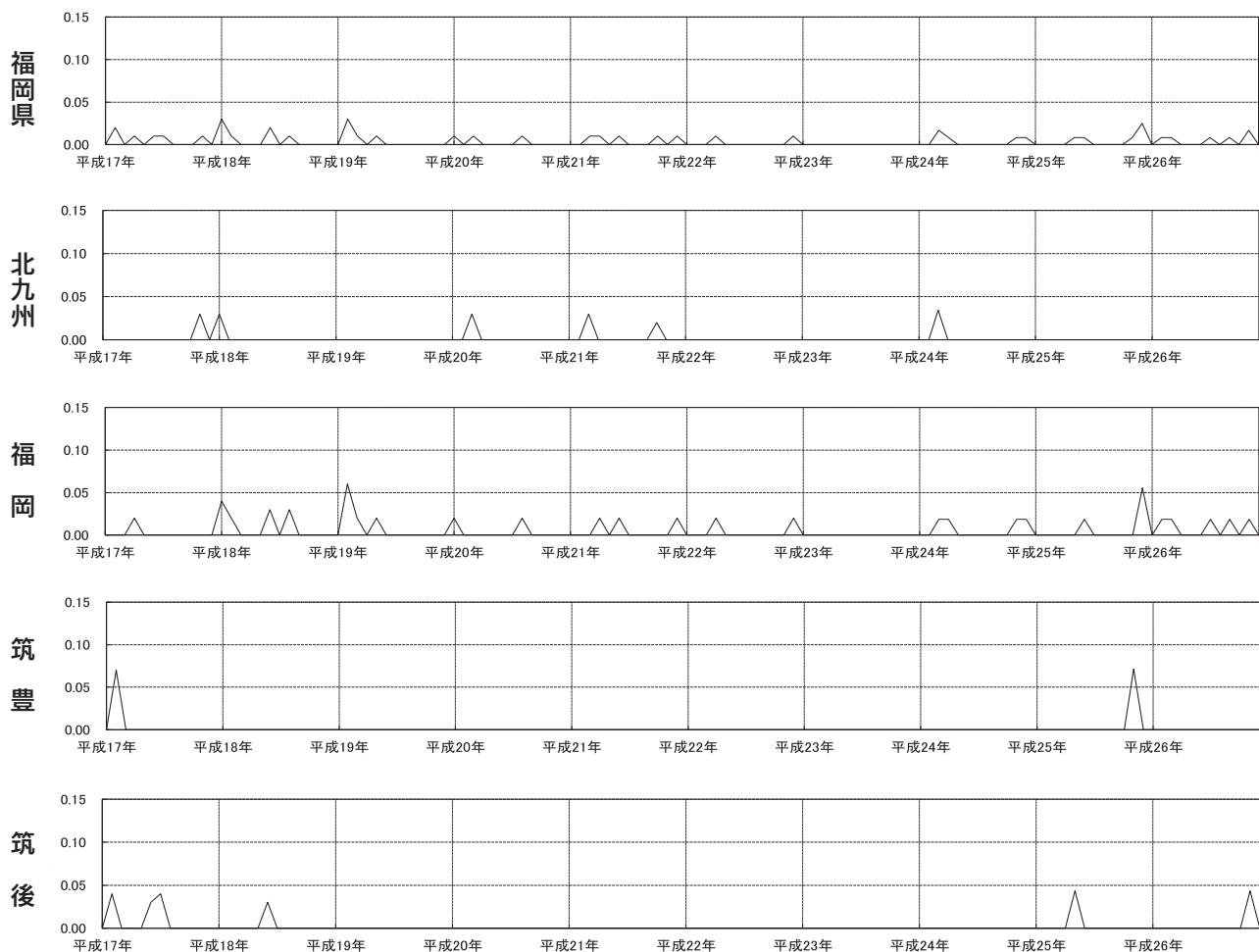
急性脳炎 [小児科] の1定点当たりの週別報告数推移



急性脳炎 [小児科] のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

急性脳炎 [小児科]

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



17. 細菌性髄膜炎 [小児科定点]

平成11年4月施行の感染症法により、細菌性髄膜炎は基幹定点把握対象疾病となった。福岡県ではデータの継続性の意味を含めて、平成12年以降も小児科定点の対象疾病として報告を受けている。別項に細菌性髄膜炎 [基幹定点] があり、患者数・病原体検査情報が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年0.02（2人）、前年は0.04（5人）であった。全県1定点当たりの患者数（及び「患者数」）では昭和56年（1981年）から平成26年（2014年）までそれぞれ1.0、0.8、1.2、0.9、0.7、0.8、0.5、0.4、0.3、0.7、0.4、0.4、0.5、0.5、0.4、0.4、0.5、0.5、0.4、0.4、0.3、0.2、0.2、0.2、0.2、0.2、0.1、0.2（20）、0.1（12）、0.15（18）、0.06（7）、0.09（11）、0.04（5）、0.02（2）と推移している。年間報告数としては過去最低であった。

季節的には、4月1人、12月1人であった。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）、北九州0.1（2）[北九州市0.1（2）]、福岡0.0

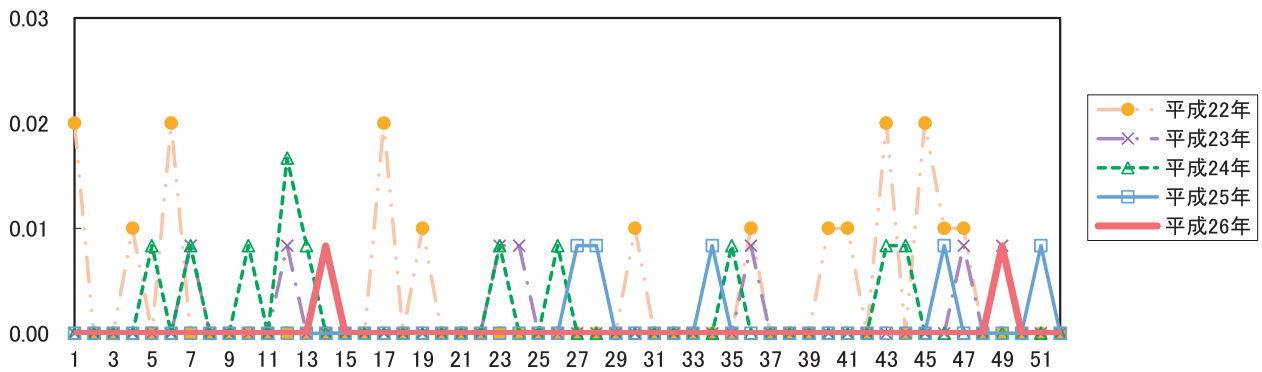
（0）[福岡市0.0（0）]、筑豊0.0（0）、筑後0.0（0）であった。

2人の罹患年齢は6～11か月と1歳であった。小児科を中心に報告を受けており、2人とも15歳未満であった。

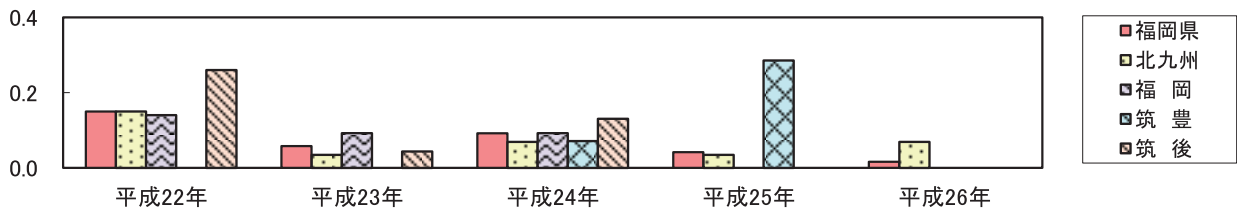
男女別は男1人、女1人であった。

原因菌について週報にはB群溶レン菌1例（8か月男）、肺炎球菌1例（PRSP；血清型15A；1歳女でPCV7ワクチン4回接種済）と報告されている。インフルエンザ菌は今年もゼロであった（前年0例、前々年0例、3年前3例）。

子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金により、ヒブ（ヘモフィルスインフルエンザ菌b型）ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの公的負担が平成22年11月26日に実施され、一時中断もあったが、平成24年度も継続され、さらに平成25年4月からは定期接種となった。全国的に両菌による細菌性髄膜炎の報告は減少している。



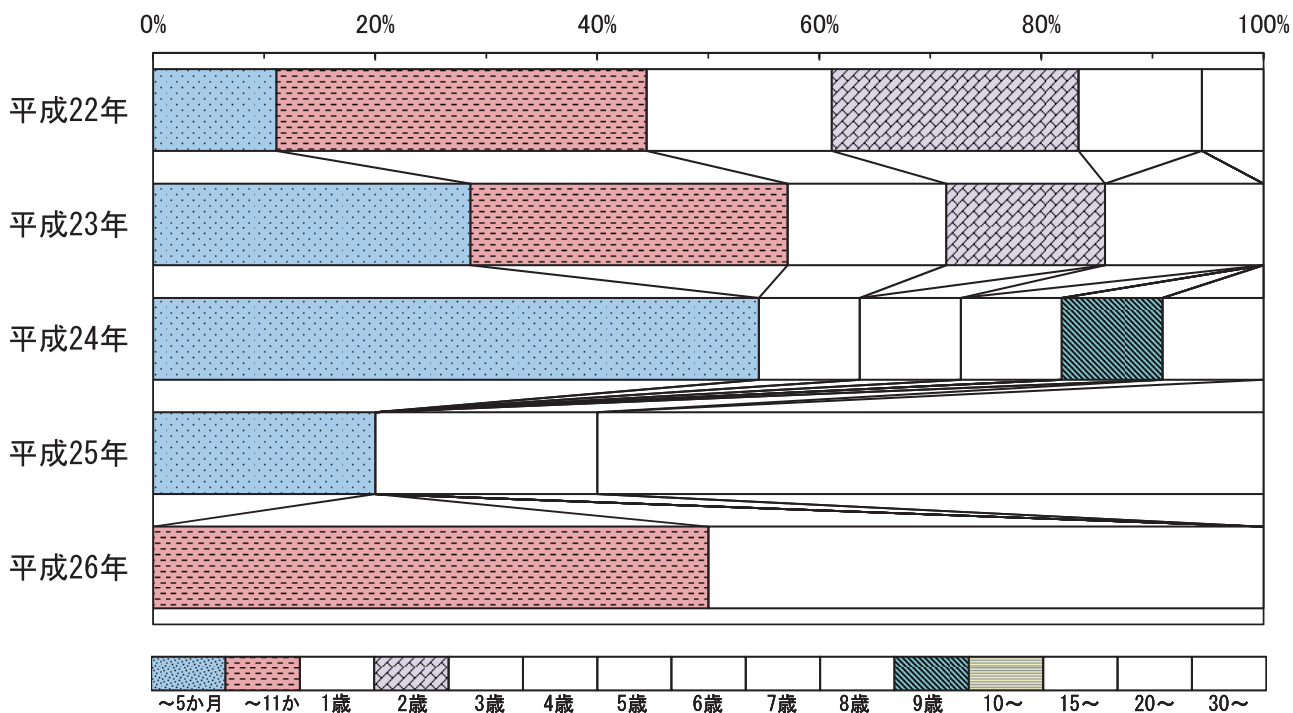
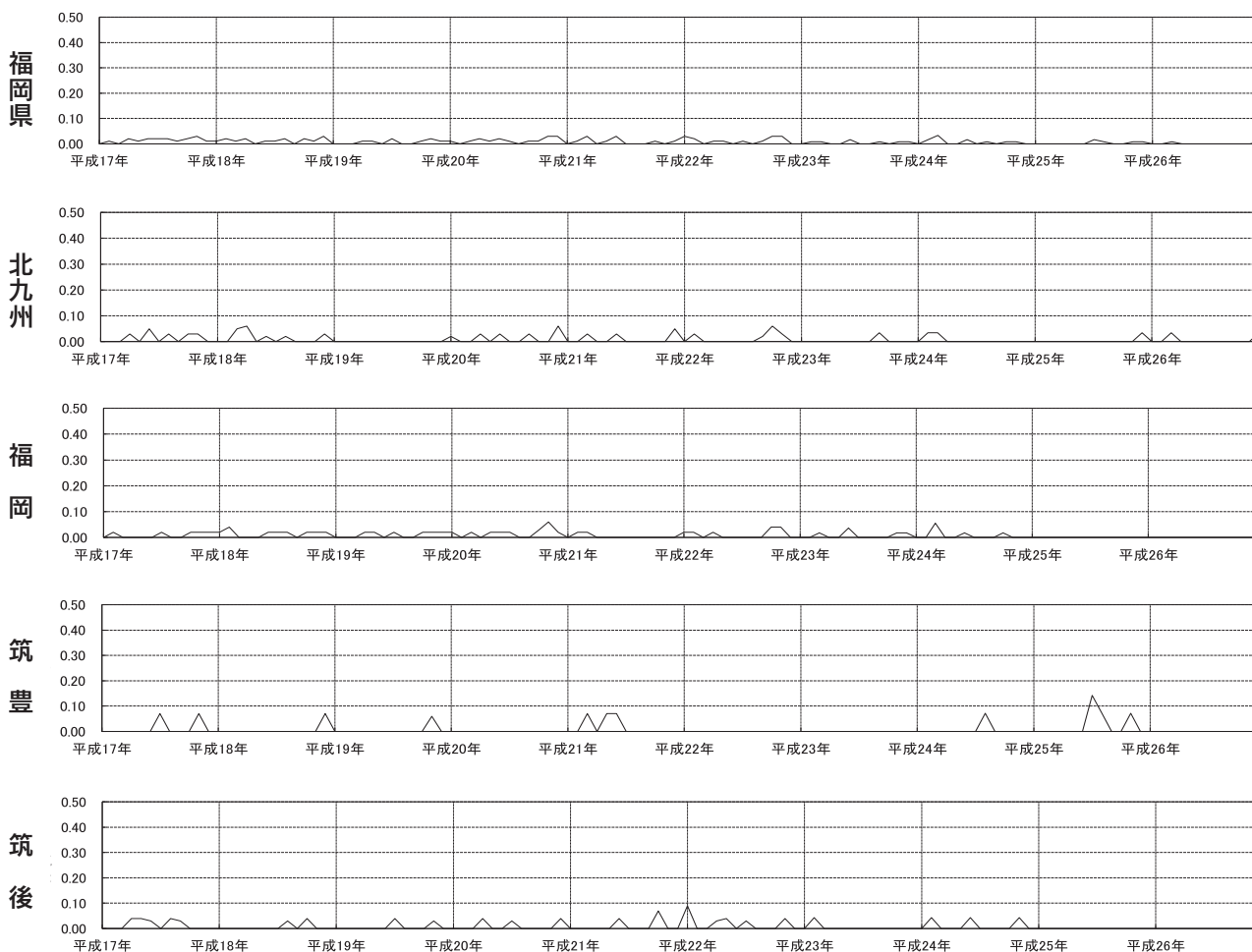
細菌性髄膜炎 [小児科] の1定点当たりの週別報告数推移



細菌性髄膜炎 [小児科] のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

細菌性髄膜炎 [小児科]

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



18. 無菌性髄膜炎 [小児科定点]

平成11年4月施行の感染症法により、無菌性髄膜炎は基幹定点把握対象疾病となった。福岡県ではデータの継続性の意味を含めて、平成12年以降も小児科定点の対象疾病として報告を受けている。別項に無菌性髄膜炎 [基幹定点] があり、患者数・病原体検査情報が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数(及び「患者数」)は今年0.7(89人)、前年2.0(245人)で前年比36%に減少した。全県1定点当たりの患者数は昭和56年(1981年)から平成26年(2014年)までそれぞれ3.9、4.6、15.0、7.1、8.4、8.8、2.9、2.3、6.1、6.2、6.0、2.9、3.6、7.7、2.1、3.6、13.3、20.5、5.3、4.2、3.0、3.4、1.4、2.0、1.2、1.9、0.4、0.8、0.5、0.9、0.8、0.5、2.0、0.7と推移し、前年は7年ぶりの多発であったが今年は減少した。

季節的には夏期に多発する疾病である。福岡県では報告数が少なく、その傾向は不明確となっていたが、前年は7月、8月にピークを示し、今年も夏期に多発の傾向を示している。

地域的には、1定点当たり患者数(及び「患者数」)は北九州1.9(56) [北九州市2.3(56)]、福岡0.2(11) [福岡市0.3(10)]、筑豊1.3(18)、筑後0.2(4)と各地区から報告があるが、北九州地区と筑豊地区が多い。

罹患年齢は0~5か月15.7%(14人;前年10.2%、前々年25.5%)、6~11か月2.2%、1歳4.5%、2歳4.5%、3歳6.7%、4歳13.5%、5歳12.4%、6歳4.5%、7歳5.6%、

8歳3.4%、9歳1.1%、10~14歳12.4%、15~19歳2.2%、20~29歳3.4%、30歳以上7.9%と分布した。小児科を中心に報告を受けており、小児期、特に7歳未満が64.0%(57人)と多く、7~14歳が22.5%(20人)であった。20歳以上は10人(前年4人、前々年1人)であった。0~5か月は14人、6~11か月は2人と、0歳の中では例年と同様に0~5か月が多い。

男女比は1.54(男54人、女35人)で、男が多かった。

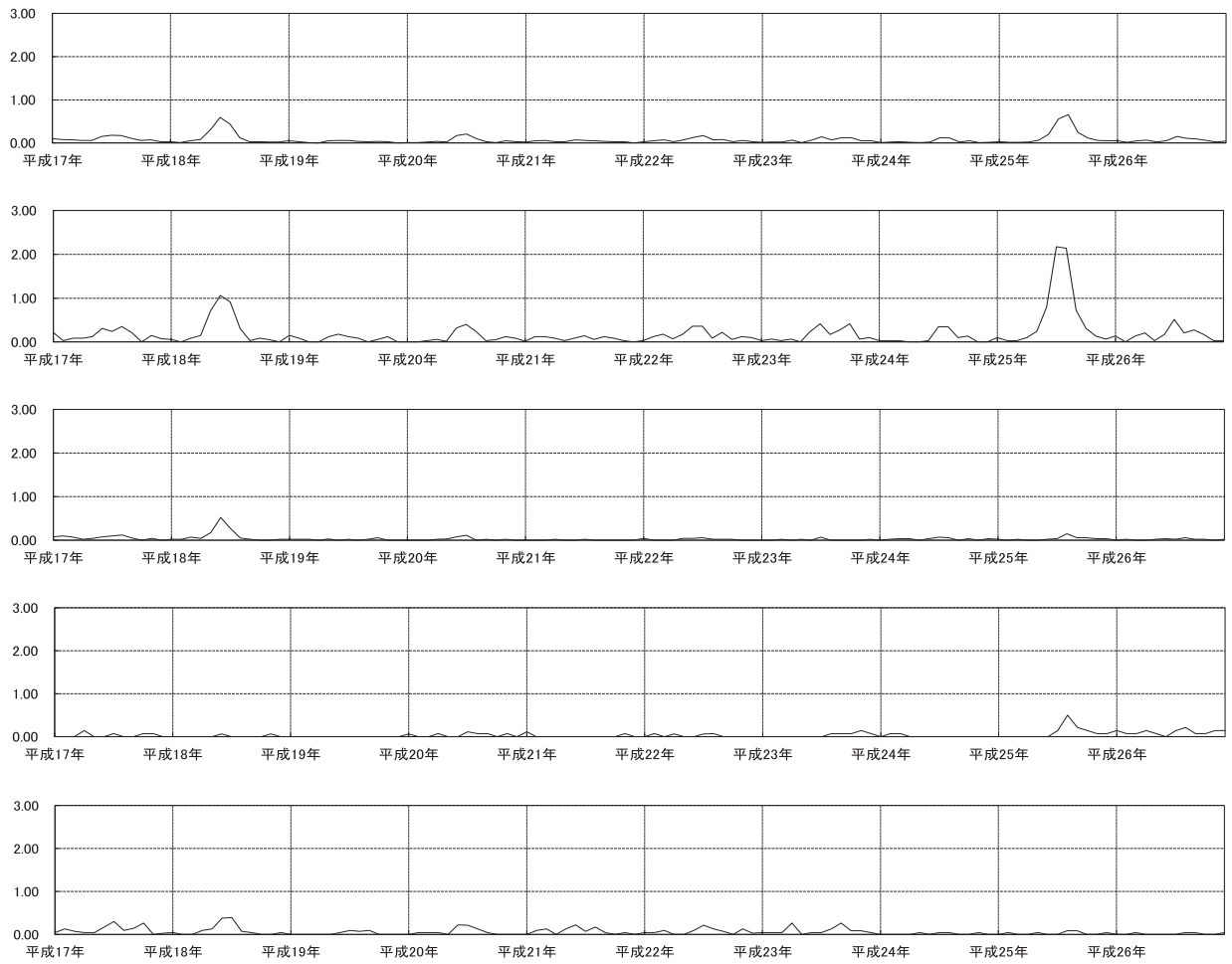
検査情報では47件(前年60件、前々年32件、3年前40件)の検体から陽性は13検体、陽性率は27.7%(前年56.7%、前々年31.3%、3年前7.5%)であった。分離ウイルスはコクサッキーウイルスB3型5件、ムンプスウイルス3件、コクサッキーウイルスA5型1件、コクサッキーウイルスB2型1件、エンテロウイルス71型1件、エコーウイルス6型1件、エコーウイルス11型1件が検出されている。昨年多発したエコーウイルス30型は検出されなかった。

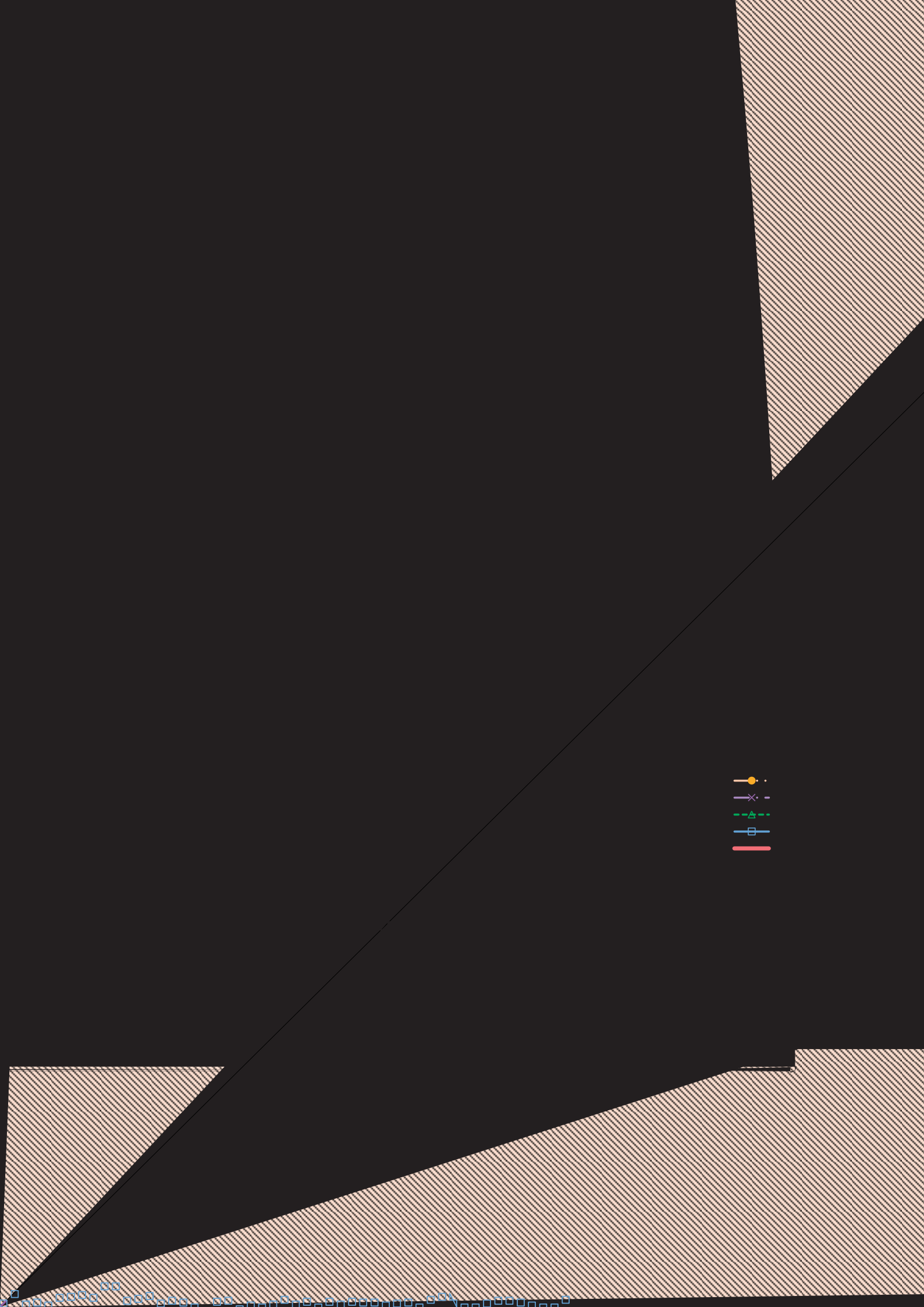
週報に報告されている原因では、ムンプスが27例(男18人、女9人)(前年39例、前々年11例、3年前36例、4年前46例、5年前31例)と推移している。ほかには手足口病が2例(3歳、4歳;前年1例、前々年0例、3年前0例、4年前8例)、帯状疱疹(10~14歳男)、ムンプスワクチン接種後例(12歳女;ウイルス分離陽性)の報告がある。



無菌性髄膜炎 [小児科]

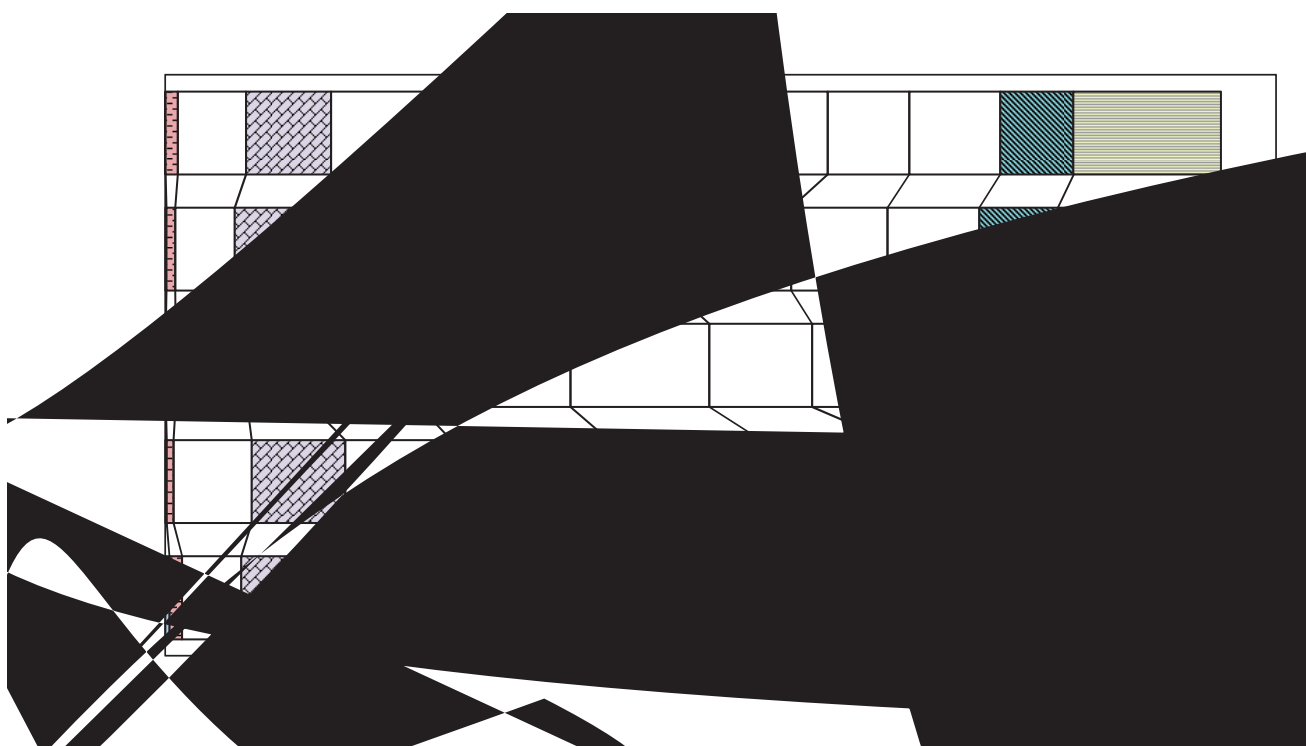
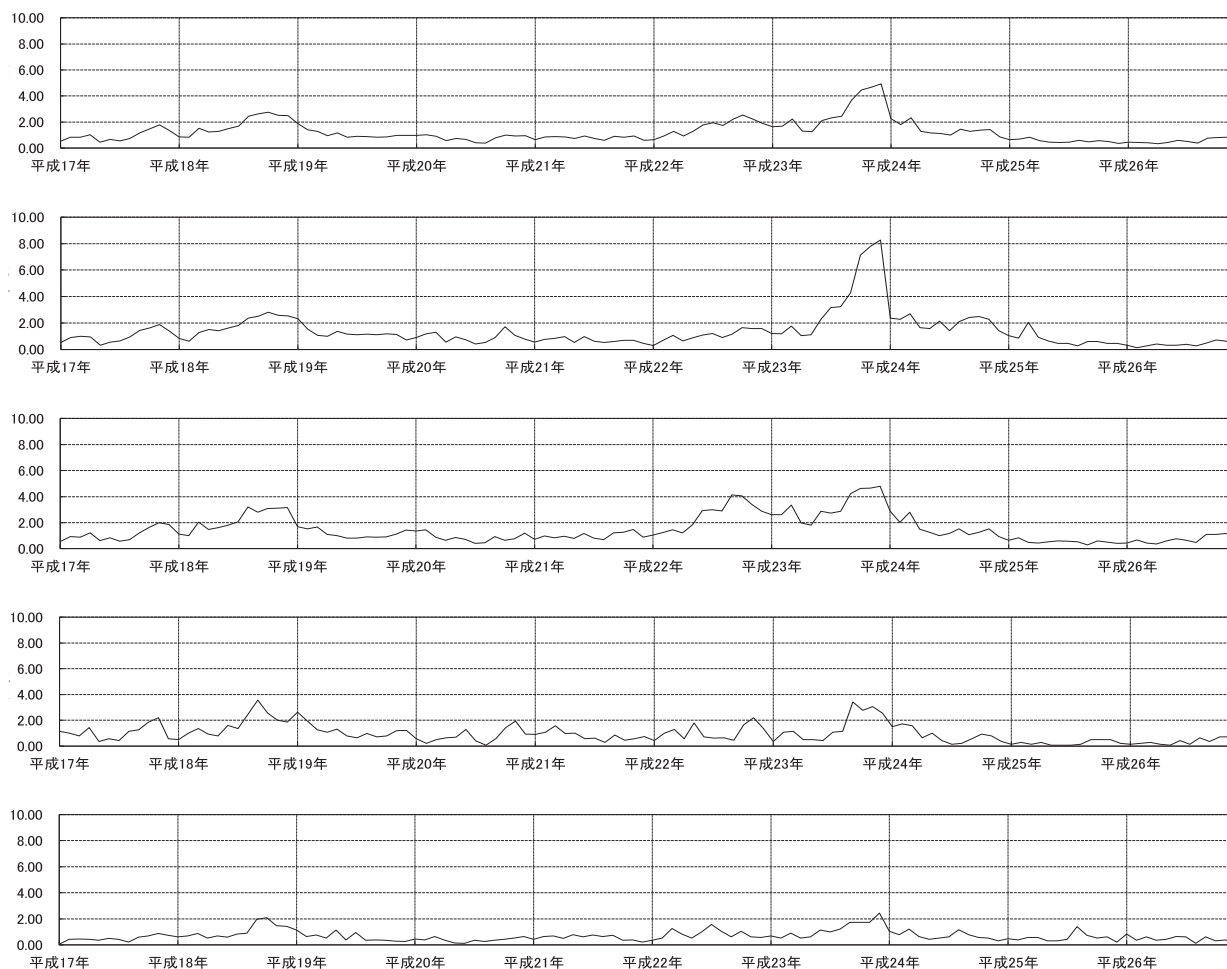
年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）





マイコプラズマ肺炎 [小児科]

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



20. クラミジア肺炎 [小児科定点]

平成11年4月施行の感染症法により、マイコプラズマ肺炎、およびクラミジア肺炎は基幹定点把握対象疾病となった。福岡県ではデータの継続性の意味を含めて、平成12年以降も小児科定点の対象疾病としてマイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎の報告を受けている。従来の異型肺炎のデータはマイコプラズマ肺炎に継続し、クラミジア肺炎は新しい項目とした。なお、別項にクラミジア肺炎 [基幹定点] があり、患者数が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数 (及び「患者数」) は今年0.6 (69人) 前年0.7 (81人) と前年比85%であった。全県1定点当たりの患者数 (及び「患者数」) は平成12年 (2000年) から平成26年 (2014年) まで0.5 (36) \ 1.1 (114) \ 0.3 (38) \ 0.4 (48) \ 0.3 (35) \ 1.6 (197) \ 1.1 (135) \ 0.5 (57) \ 0.4 (48) \ 0.7 (87) \ 0.7 (78) \ 0.4 (48) \ 0.2 (23) \ 0.7 (81) \ 0.6 (69) と推移している。マイコプラズマ肺炎と比較すると報告数は少ない。

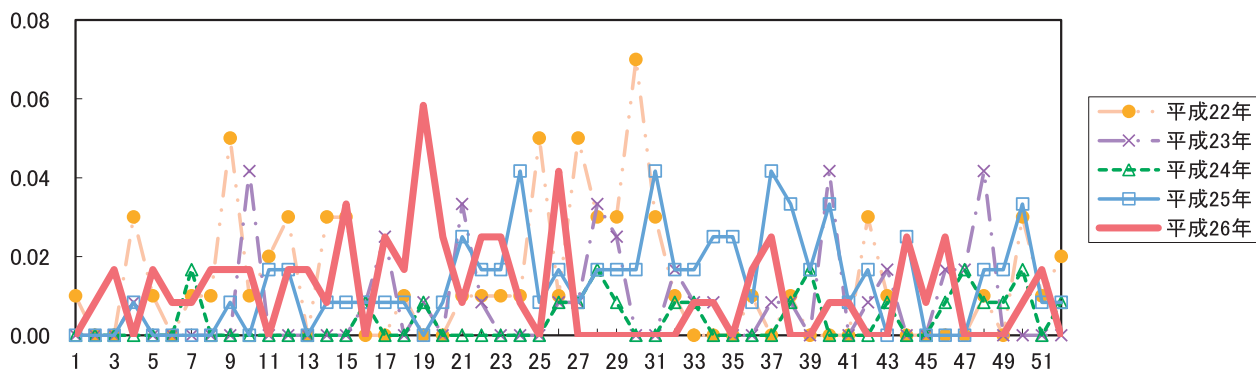
季節性は不明確である。

地域的には、1定点当たり患者数 (及び「患者数」) は北九州0.2 (6) [北九州市0.3 (6)] 福岡0.9 (49) [福岡市1.3 (39)] 筑豊0.1 (1) 筑後0.6 (13) と各地区から報告があり、福岡地区と筑後地区が多い。

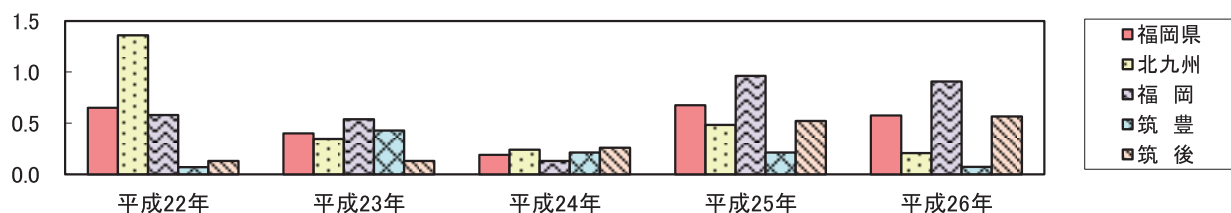
罹患年齢は0~5か月0.0%、6~11か月1.4% (1人) 1歳15.9% (11人) 2歳5.8%、3歳8.7%、4歳10.1%、5歳14.5%、6歳5.8%、7歳5.8%、8歳2.9%、9歳5.8%、10~14歳7.2%、15~19歳2.9%、20~29歳8.7%、30歳以上4.3%であった。小児科を中心に報告を受けているが、小児では0~14歳の幅広い年齢に分布し、今年では20歳以上は13.0% (9人; 前年16.0%、前々年4.3%、3年前4.2%、4年前9.0%、5年前25.3%) であった。

男女比は0.50 (男23人、女46人) と女が多かった。

週報にはクラミジア・ニューモニエIgM抗体陽性例が報告されている。



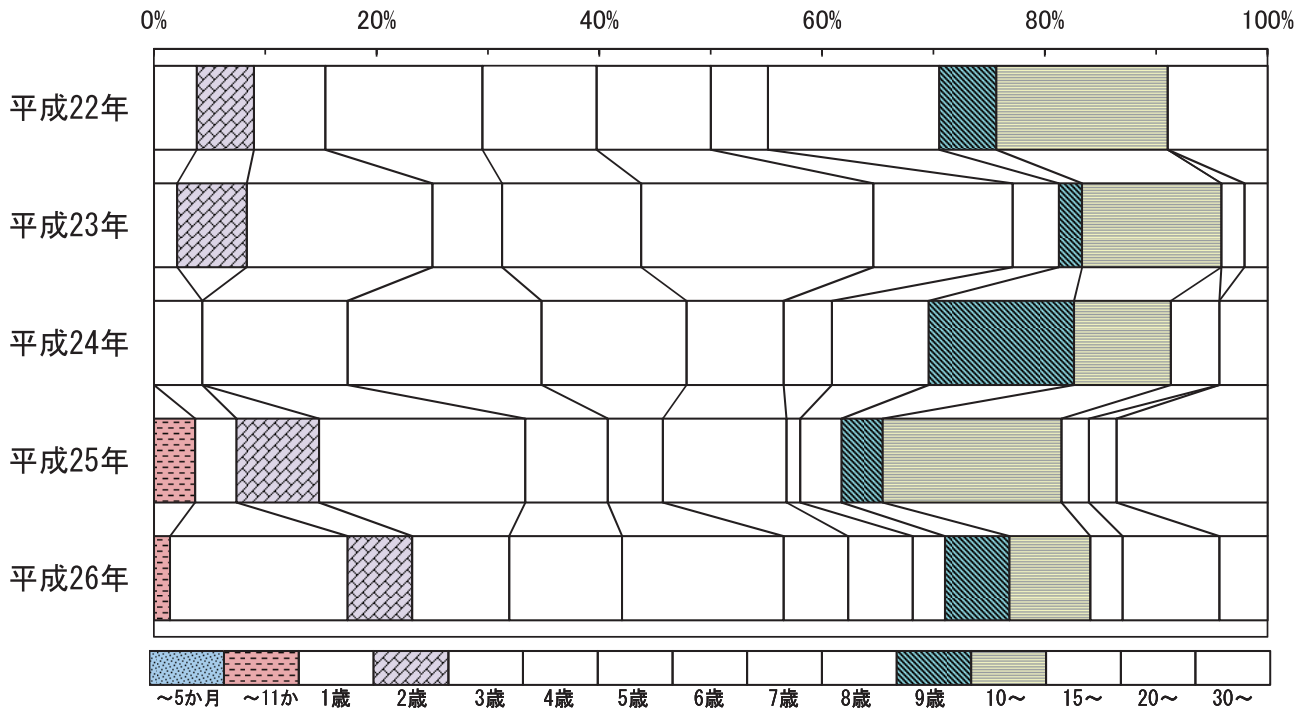
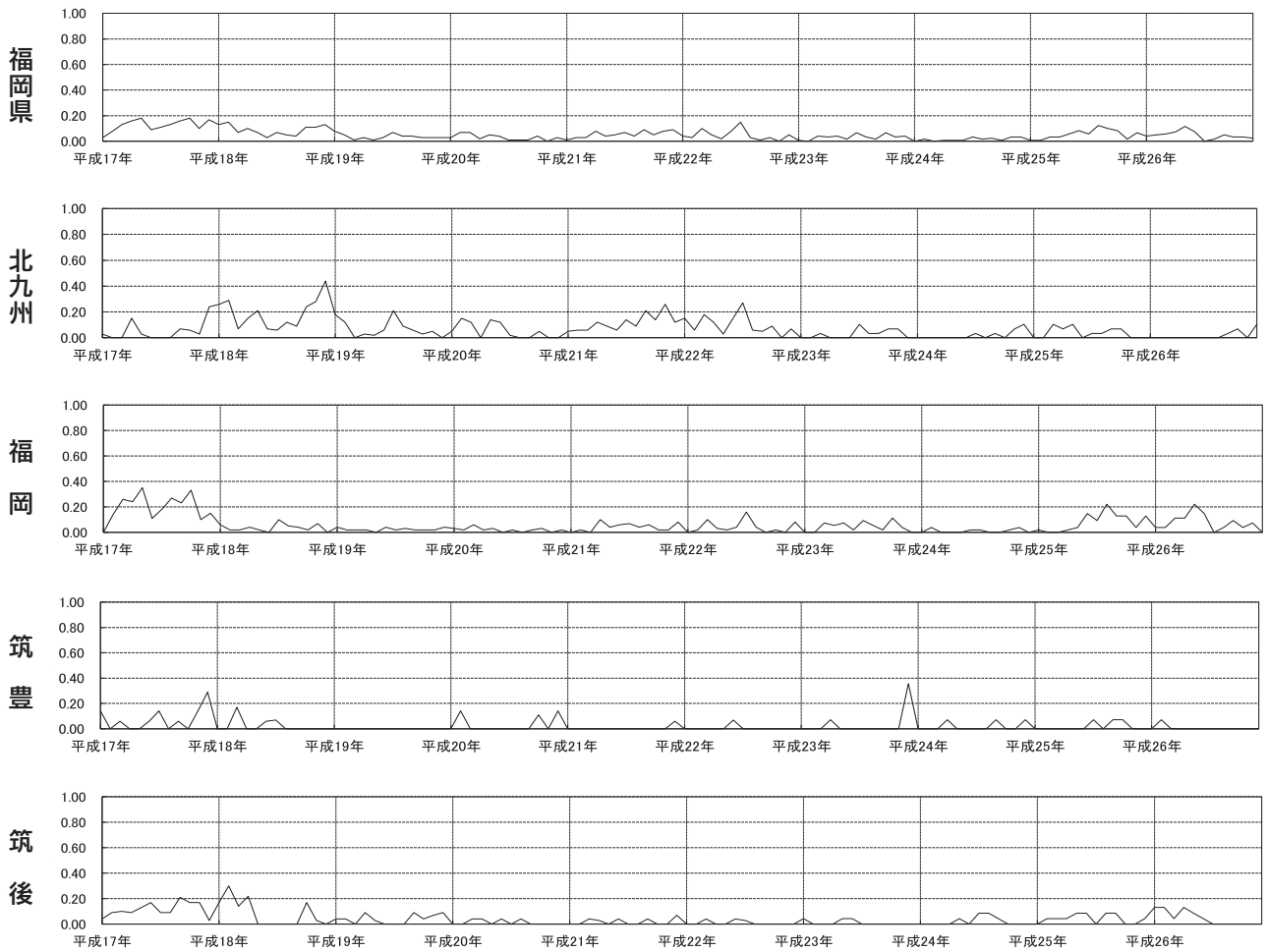
クラミジア肺炎 [小児科] の1定点当たりの週別報告数推移



クラミジア肺炎 [小児科] のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

クラミジア肺炎 [小児科]

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



21. 急性出血性結膜炎〔眼科定点〕

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年0.5（12人）、前年1.0（26人）で、前年比46%であった。昭和58、59年（1983、84年）（526人、217人）の流行以来報告数は低レベルのまま推移している。眼科定点の1定点当たりの患者数で示すと、昭和56年（1981年）から平成26年（2014年）までそれぞれ0.04、5.3、131.5、54.3、7.2、3.5、5.6、3.0、2.6、2.6、1.3、3.6、2.0、0.7、0.7、0.6、1.0、1.4、1.7、1.3、1.0、2.0、2.8、2.2、2.7、2.0、1.9、2.1、0.5、0.8、0.8、0.8、1.0、0.5と推移し、報告数は少ない。

季節性は明らかではない。

地区別報告では1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州0.7（5）〔北九州市0.8（5）〕、福

岡0.3（4）〔福岡市0.3（2）〕、筑豊0.3（1）、筑後0.5（2）であった。

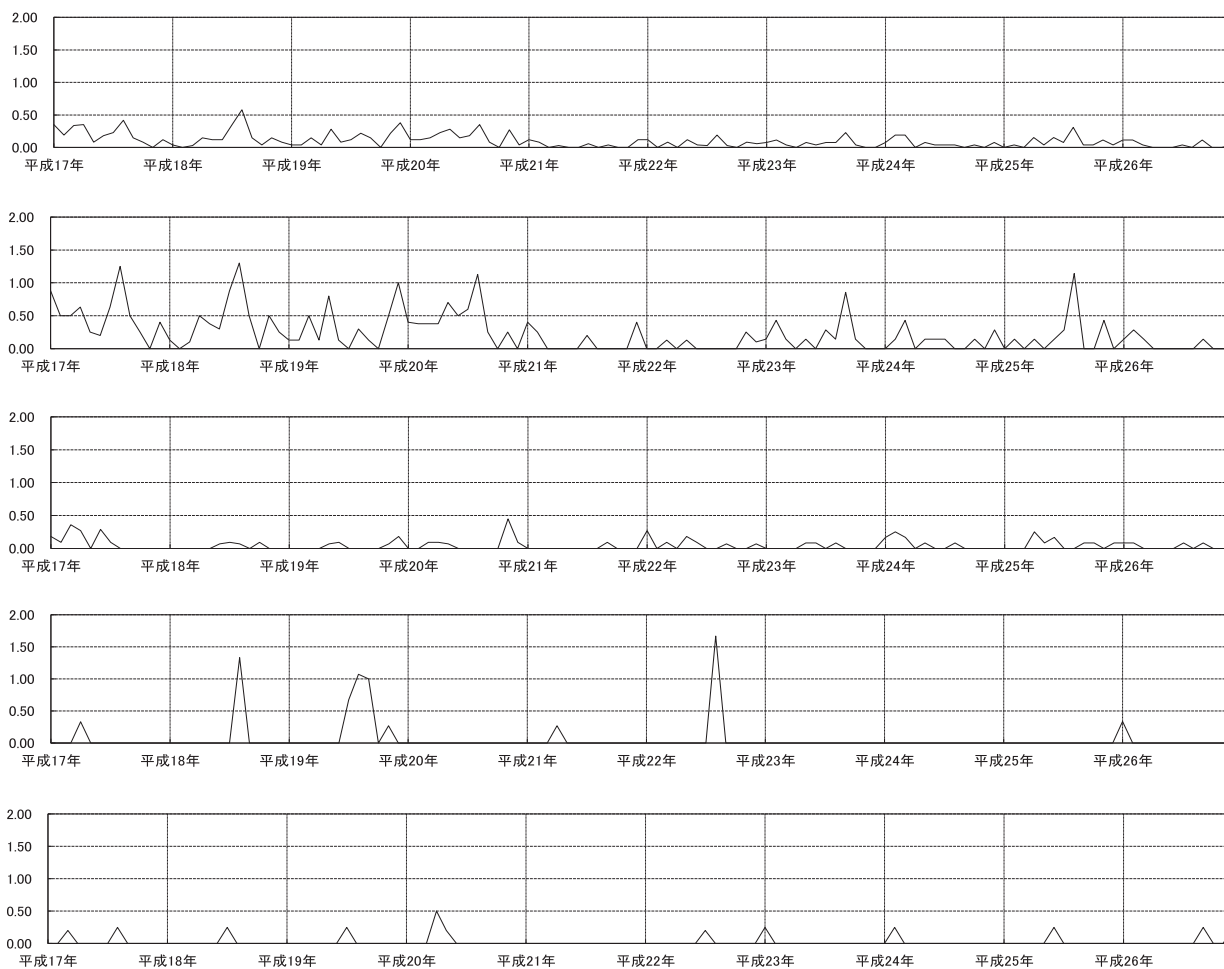
罹患年齢は0～5か月0.0%、6～11か月0.0%、1歳0.0%、2歳8.3%（1人）、3歳8.3%、4歳0.0%、5歳0.0%、6歳0.0%、7歳0.0%、8歳0.0%、9歳0.0%、10～14歳0.0%、15～19歳0.0%、20～29歳25.0%（3人）、30～39歳16.7%、40～49歳25.0%、50～59歳8.3%、60～69歳8.3%、70歳以上0.0%であった。20歳以上が83.3%を占めている。

男女別は男4人、女8人であった。

本県の検査では今年検体提出がなかった。病因ウイルスは不明だが、主な起因ウイルスとしてエンテロウイルス70型とコクサッキーA群24型変異株があげられている。

急性出血性結膜炎

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



22．流行性角結膜炎〔眼科定点〕

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年26.3（683人）、前年34.7（901人）と前年比76%に減少した。眼科定点の1定点当たりの患者数で示すと、昭和56年（1981年）から平成26年（2014年）までそれぞれ1.0、240.8、485.8、410.3、172.0、136.5、165.1、186.4、211.4、327.3、233.3、131.6、69.1、74.1、136.0、171.8、108.4、120.1、125.9、106.6、105.3、85.6、64.0、34.7、43.5、54.3、41.0、38.2、22.3、28.7、32.7、29.9、34.7、26.3と推移している。以前に比べて報告数は少ない。

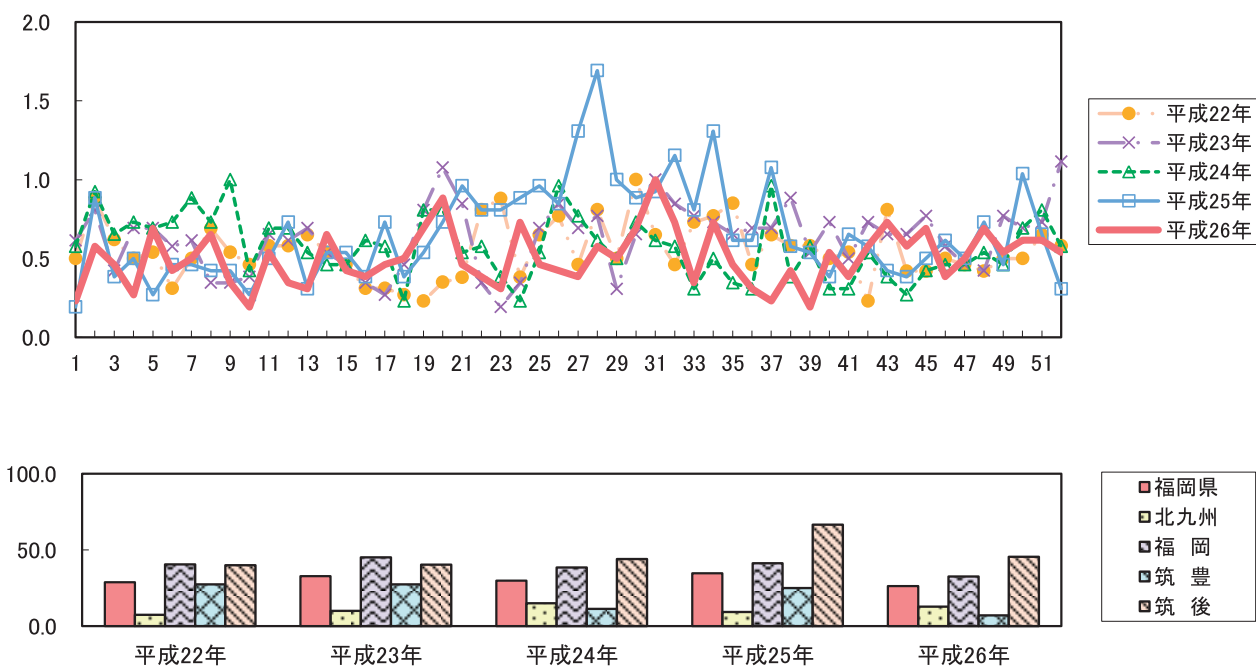
季節性は不明確で、通年性で発生がみられる。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州12.7（89）〔北九州市12.8（77）〕、福岡32.6（391）〔福岡市29.7（208）〕、筑豊7.0（21）、筑後45.5（182）で、各地から報告があるが、例年のように福岡地区、筑後地区が多く、北九州地区、筑豊地区は少ない。

罹患年齢は0～5か月0.3%、6～11か月0.6%、1歳3.4%、2歳3.1%、3歳2.6%、4歳1.5%、5歳2.8%、6歳0.3%、7歳2.0%、8歳1.2%、9歳0.9%、10～14歳3.2%、15～19歳4.8%、20～29歳15.1%、30～39歳24.2%、40～49歳12.3%、50～59歳8.3%、60～69歳8.9%、70歳以上4.5%であった。0～5か月児からも報告はあるが、20歳以上が73.4%と成人に多い。年齢分布に大きな変動はない。

男女比は1.08（男355人、女326人）で男女差はなかった。

本疾病の原因は主にアデノウイルスによるが、複数の血清型が原因になりうる。本県の検査情報では結膜ぬぐい液19検体が提出され、アデノ37型2件、54型2件、3型1件、型別不明1件の計6件が検出された。なお、週報には眼科定点、及び眼科定点以外からもアデノウイルス迅速抗原検出キットによる陽性報告がある。家族内発生の報告は多い。



3) 基幹定点把握対象感染症の解説と図表

1. 細菌性髄膜炎 [基幹定点]

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。報告を求める細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を除く）とは、「症状、所見から当該感染症が疑われ、かつ検査により髄液細胞数の増加、髄液蛋白量の増加と糖の減少」となっている。福岡県では小児科定点からも報告を受けているので、別項に細菌性髄膜炎 [小児科定点] があり、患者数・病原体検査情報が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年1.1（17人）、前年1.1（17人）と前年比100%であった。全県1定点当たりの患者数（及び「患者数」）は平成12年（2000年）から平成26年（2014年）まで1.5（22）、1.0（15）、0.8（12）、0.7（11）、1.1（17）、0.8（12）、0.7（11）、0.5（8）、1.1（16）、0.6（9）、0.8（12）、2.3（34）、1.9（29）、1.1（17）、1.1（17）と推移し、前年と同数で、3年前が最多であった。

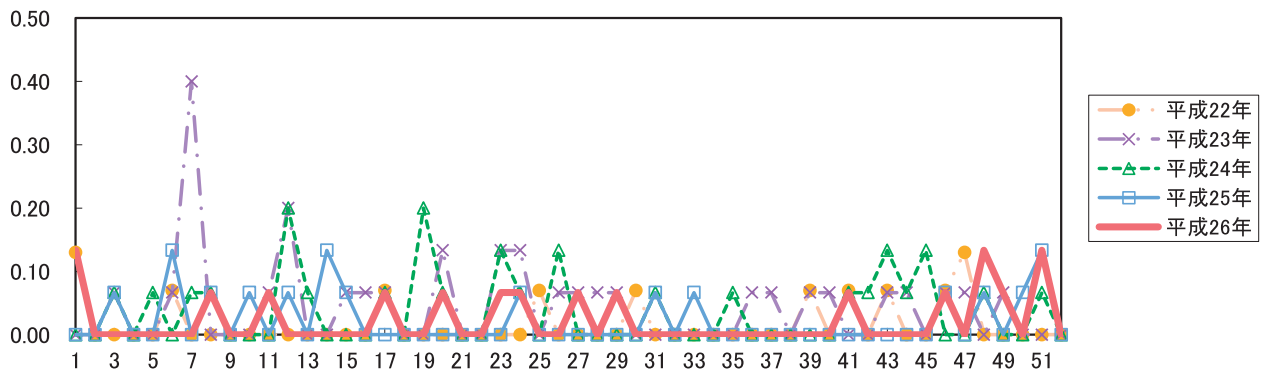
季節的な特徴ははっきりしない。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州0.7（2）[北九州市1.0（2）]、福岡0.6（3）[福岡市1.5（3）]、筑豊0.0（0）、筑後3.0（12）と、今年も筑後地区からの報告が多かった。

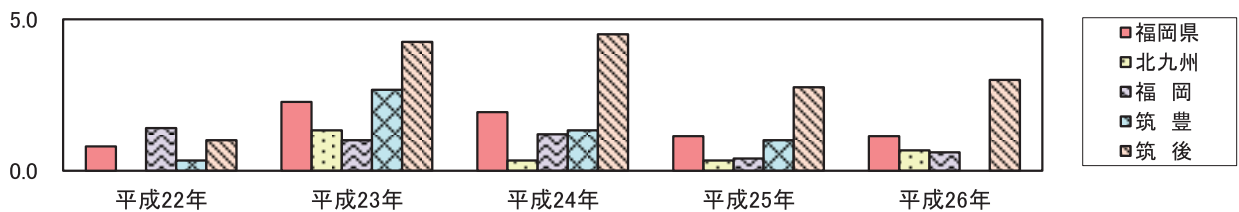
罹患年齢は0～5か月5.9%（1人）、6～11か月5.9%、1～29歳はゼロで、30～39歳17.6%（3人）、40～49歳0.0%、50～59歳11.8%、60～69歳17.6%、70～79歳23.5%、80歳以上17.6%（3人）であった。0～14歳は2人、14～19歳0人、20歳以上の成人15人で、成人に多く、特に高齢者に多かった。

男女別では男12人、女5人であった。

病原体として報告されたのは、*Streptococcus pneumoniae* 2例（30～39歳男、60～69歳男）、*Streptococcus agalactiae* 1例（6～11か月男）、*Staphylococcus epidermidis* 2例（50～59歳女、60～69歳男）、その他の細菌1例（70～79歳男）の計6例であった。



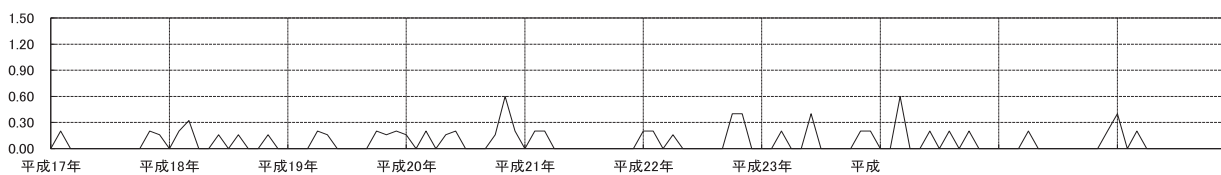
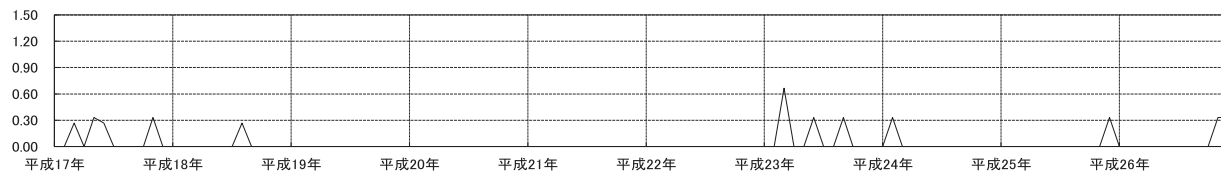
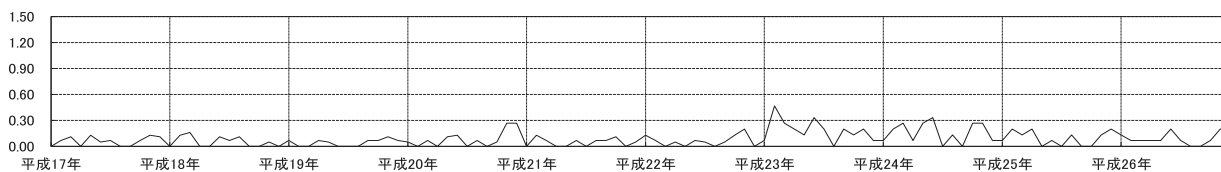
細菌性髄膜炎 [基幹] の1定点当たりの週別報告数推移



細菌性髄膜炎 [基幹] のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

細菌性髄膜炎 [基幹]

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移 (上) と年齢区分別患者発生割合の推移 (下)



2. 無菌性髄膜炎 [基幹定点]

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。報告を求める無菌性髄膜炎とは、「症状、所見から当該感染症が疑われ、かつ検査により髄液細胞数の増加、髄液蛋白量、糖量が正常」となっている。福岡県では小児科定点からも報告を受けているので、別項に無菌性髄膜炎 [小児科定点] があり、患者数・病原体検査情報が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数 (及び「患者数」) は今年3.7 (55人) 前年15.1 (227人) と前年比24%に減少した。全県1定点当たりの患者数 (及び「患者数」) は平成12年 (2000年) から平成26年 (2014年) まで4.2 (63) 4.2 (63) 2.5 (37) 2.1 (32) 2.1 (32) 0.9 (13) 1.3 (19) 0.8 (12) 0.8 (12) 0.5 (8) 0.9 (13) 2.4 (36) 2.7 (41) 15.1 (227) 3.7 (55) と推移している。前年は過去最高の多発であり、今年は減少したが比較的多い。

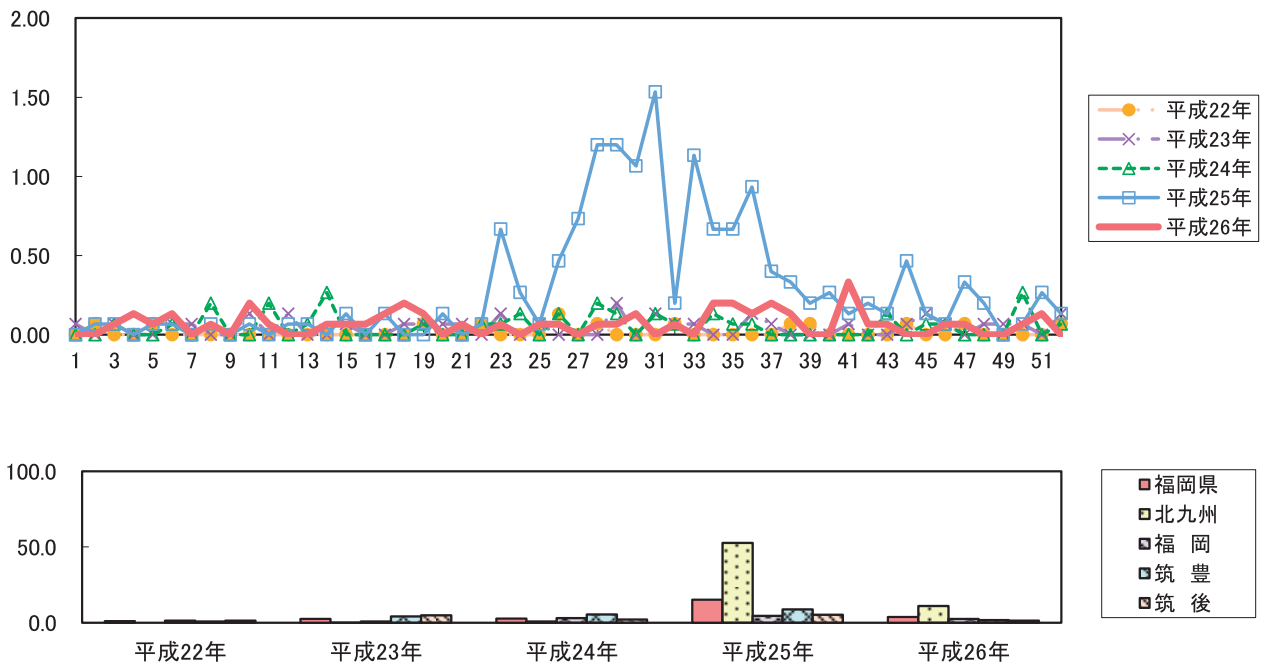
季節的には夏期に多発する疾患であり、前年は7月、8月にピークが見られたが今年は季節性ははっきりしなかった。

地域的には、1定点当たり患者数 (及び「患者数」) は北九州11.0 (33) [北九州市16.5 (33)] 福岡2.4 (12) [福岡市6.0 (12)] 筑豊1.7 (5) 筑後1.3 (5) と、今年は各地区とも減少したが、北九州地区はやや多い。

罹患年齢は0～5か月10.9% (6人) 6～11か月1.8% (1人) 1歳5.5%、2歳5.5%、3歳5.5%、4歳12.7%、5歳10.9%、6歳3.6%、7歳5.5%、8歳3.6%、9歳1.8%、10～14歳7.3%、15～19歳3.6%、20～29歳7.3%、30～39歳3.6%、40～49歳3.6%、50～59歳1.8%、60～69歳1.8%、70～79歳1.8%、80歳以上1.8%と分布した。今年は15歳未満が74.5% (41人 ; 前年78.4%、前々年36.6%、3年前38.9%) 20歳以上は21.8% (12人 ; 前年19.8%、前々年58.5%、3年前58.3%) で、今年と前年は小児の報告数が多かった。

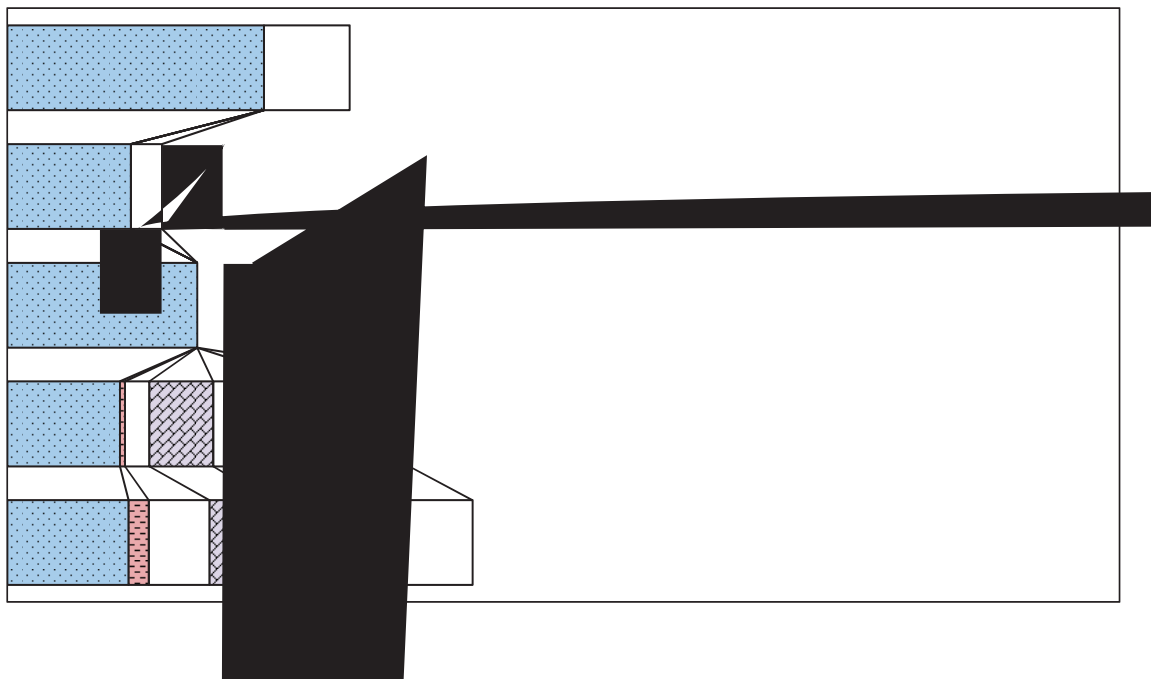
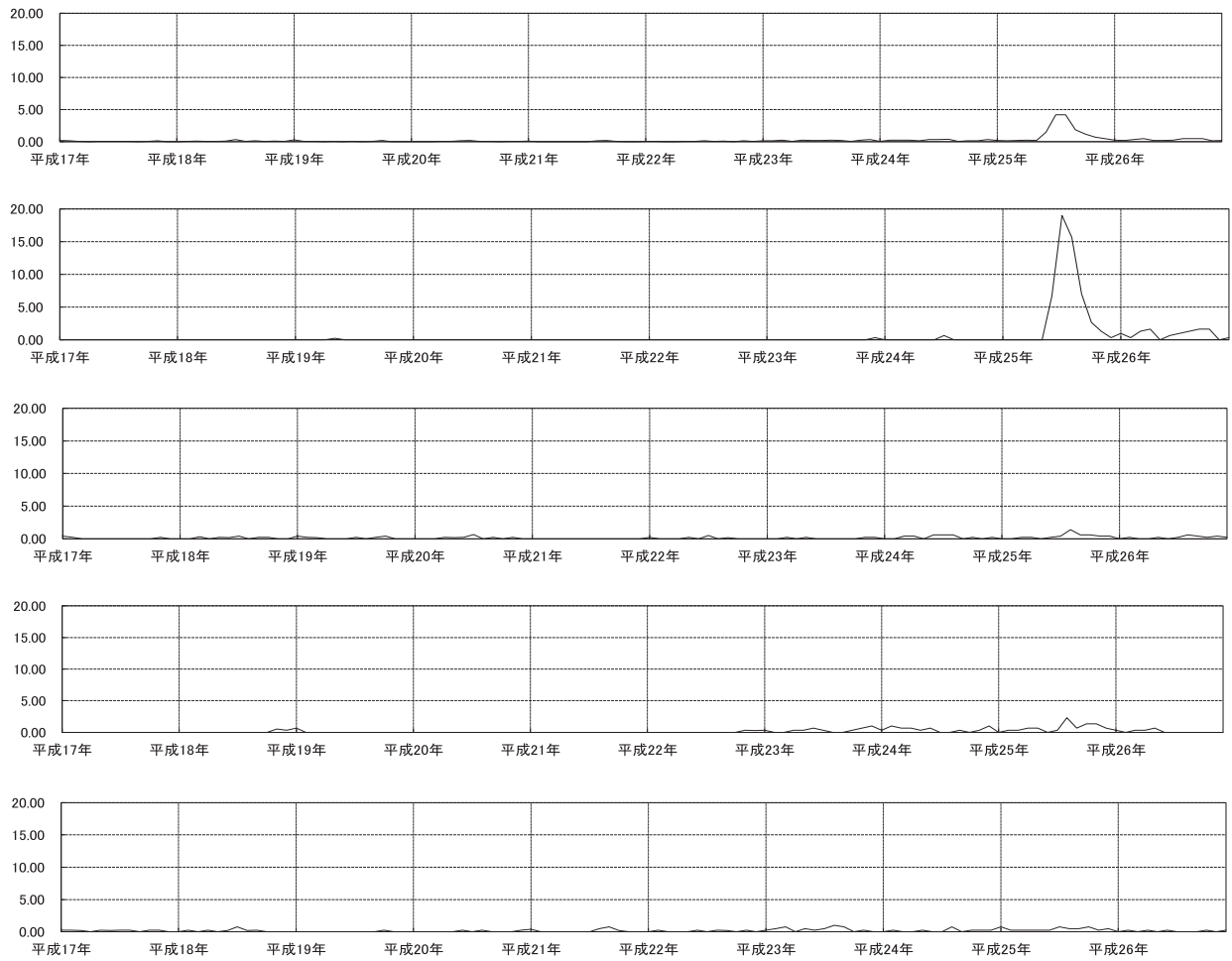
男女比は1.8 (男36人、女19人) で男が多かった。

病原体名称として報告されたのはMumps 1例 (2歳女) であった。



無菌性髄膜炎 [基幹]

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移 (上) と年齢区分別患者発生割合の推移 (下)



3. マイコプラズマ肺炎〔基幹定点〕

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。福岡県では小児科定点からも報告を受けているので、別項にマイコプラズマ肺炎〔小児科定点〕があり、患者数が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年5.5（82人）、前年7.5（113人）と前年比73％に減少した。全県1定点当たりの患者数（及び「患者数」）は平成12年（2000年）から平成26年（2014年）まで1.6（24）、10.7（161）、5.7（85）、3.0（45）、6.4（96）、4.5（67）、11.2（168）、4.0（60）、3.6（54）、4.0（60）、11.3（170）、19.0（285）、10.0（150）、7.5（113）、5.5（82）と推移している。平成23年をピークに3年連続で減少した。小児科定点のマイコプラズマ肺炎と同様の傾向である。

季節性では、小児科定点のマイコプラズマ肺炎と同様のパターンで、平成22年、23年は流行年、平成24年、25年、26年は非流行年で、ほぼ通年性に報告があり季節性ははっきりしなかった。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州14.3（43）〔北九州市21.5（43）〕、福岡7.4（37）〔福岡市15.0（30）〕、筑豊0.0（0）、筑後0.5（2）と、北九州地区、福岡地区からの報告が多く、筑豊地区、筑後地区は少なかった。

罹患年齢は0～5か月0.0％、6～11か月0.0％、1歳2.4％、2歳4.9％、3歳13.4％、4歳18.3％、5歳11.0％、6歳7.3％、7歳4.9％、8歳3.7％、9歳3.7％、10～14歳14.6％、15～19歳2.4％、20～29歳3.7％、30～39歳2.4％、40～49歳0.0％、50～59歳0.0％、60～69歳1.2％、70～79歳4.9％、80歳以上1.2％と分布した。0歳の報告はなく、7歳未満が57.3％（前年64.6％、前年48.7％、3年前44.6％）と小児に多く、20歳以上は13.4％（前年8.0％、前々年12.7％、3年前12.3％）であった。今年では成人からの報告がやや多かった。

男女比は0.86（男38人、女44人）で女がやや多かった。

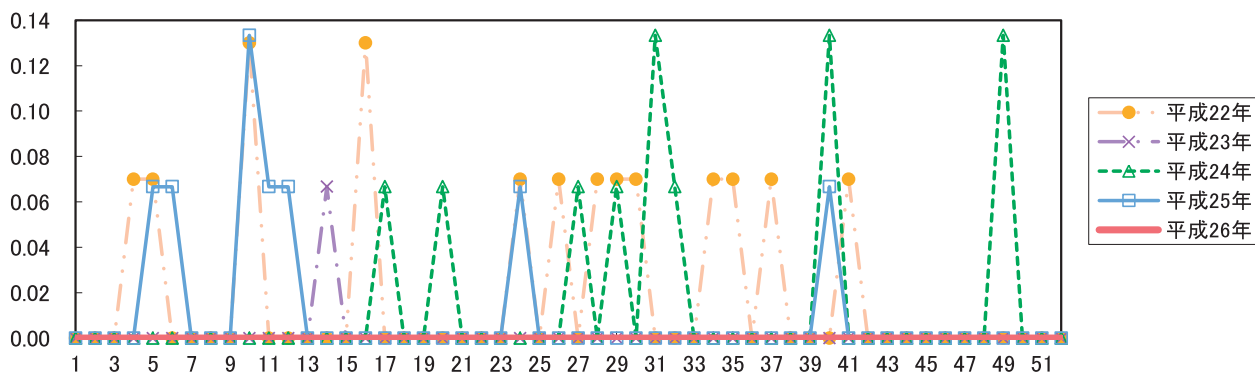


4. クラミジア肺炎（オウム病を除く）[基幹定点]

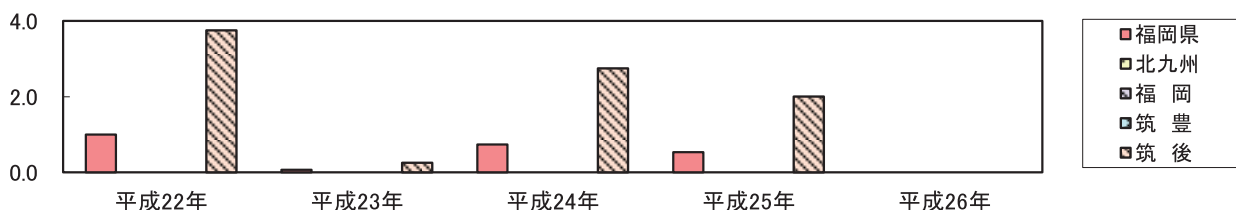
平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。福岡県では小児科定点からも報告を受けているので、別項にクラミジア肺炎 [小児科定点] があり、患者数が一部重複している。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年0.0（0人）、前年0.5（8人）であった。全県1定点当たりの患者数（及び「患者数」）は平成12

年（2000年）から平成26年（2014年）まで0.3（4）、0.7（10）、1.4（21）、0.2（3）、1.7（25）、1.1（16）、0.5（7）、0.3（5）、0.1（2）、0.3（5）、1.0（15）、0.1（1）、0.7（11）、0.5（8）、0.0（0）と推移し、初めてのゼロ報告であった。マイコプラズマ肺炎と比較すると以前より報告数は少なく、診断法の開発、普及が進んでいないことも影響していると考えられる。



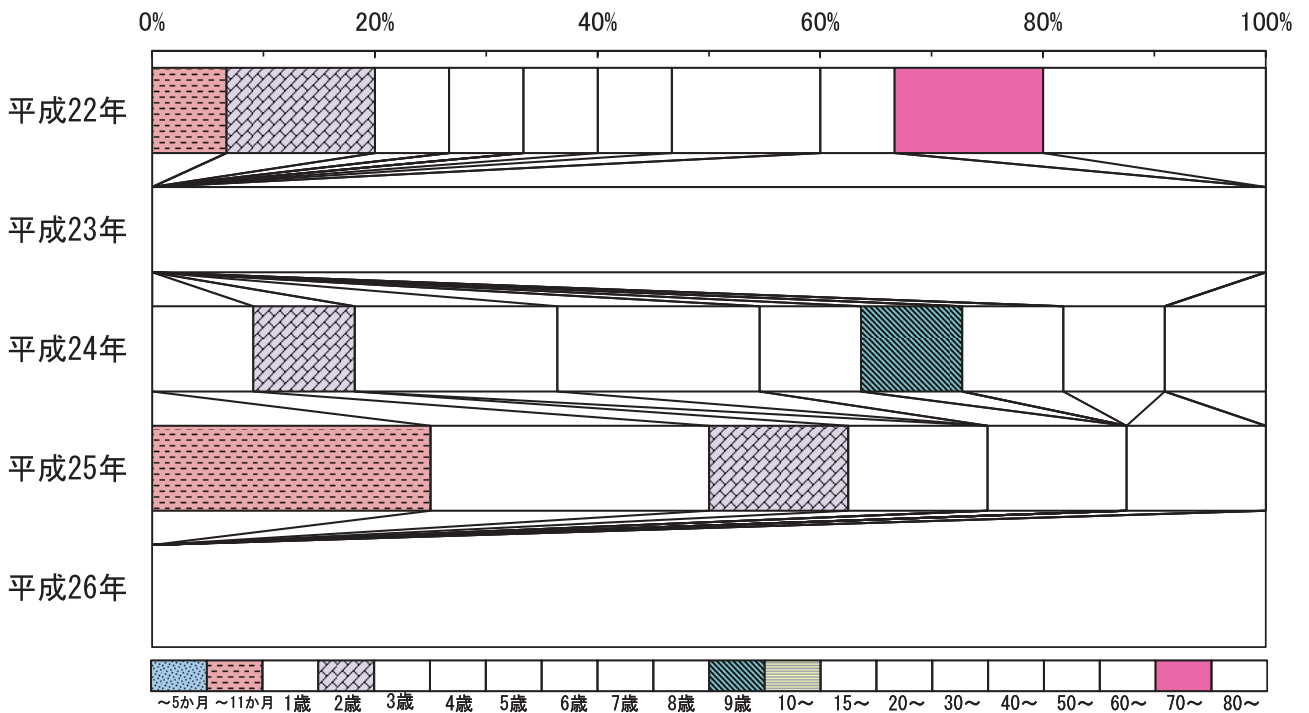
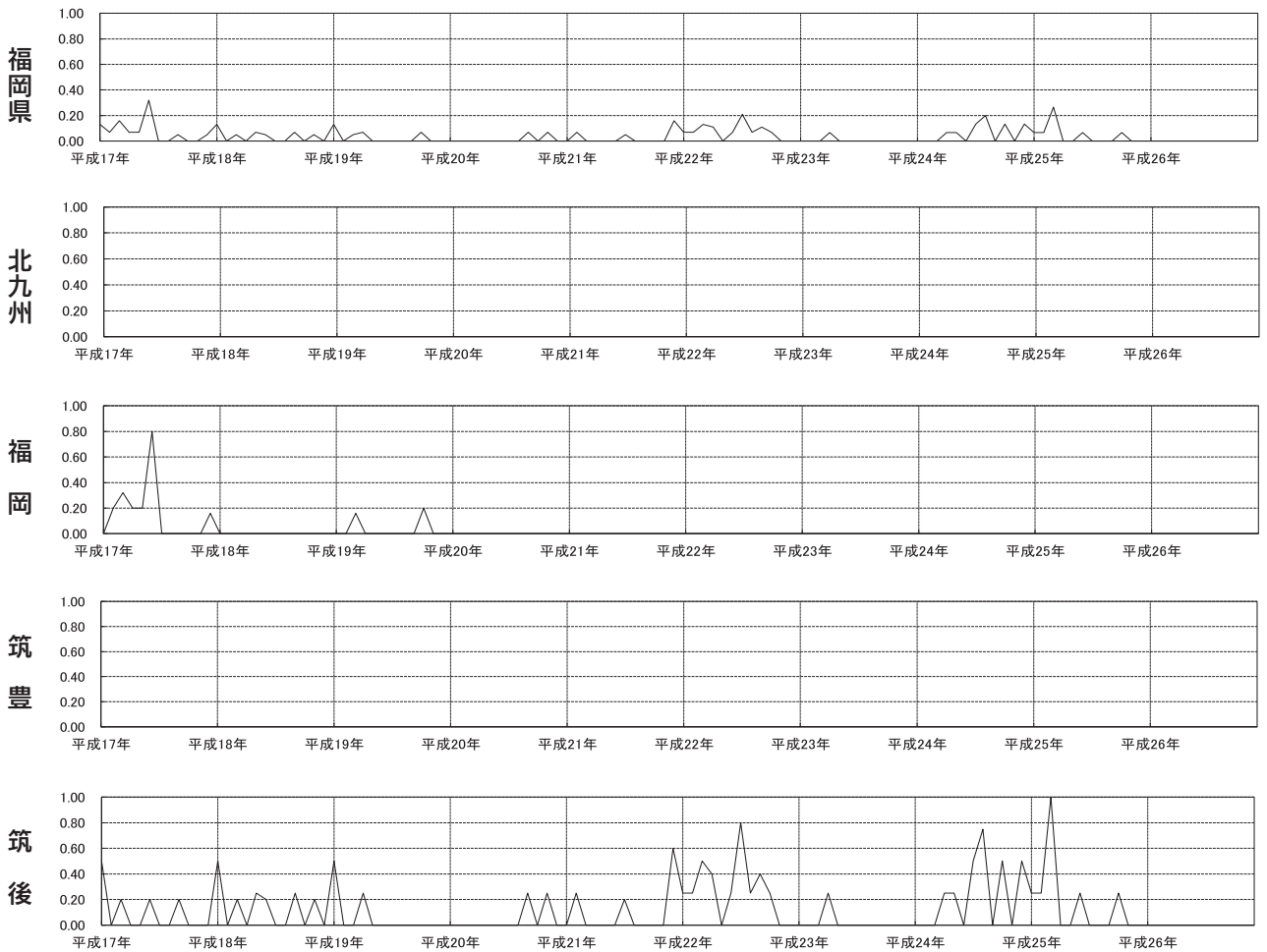
クラミジア肺炎 [基幹] の1 定点当たりの週別報告数推移



クラミジア肺炎 [基幹] のブロック別1 定点当たりの年別報告数推移

クラミジア肺炎 [基幹]

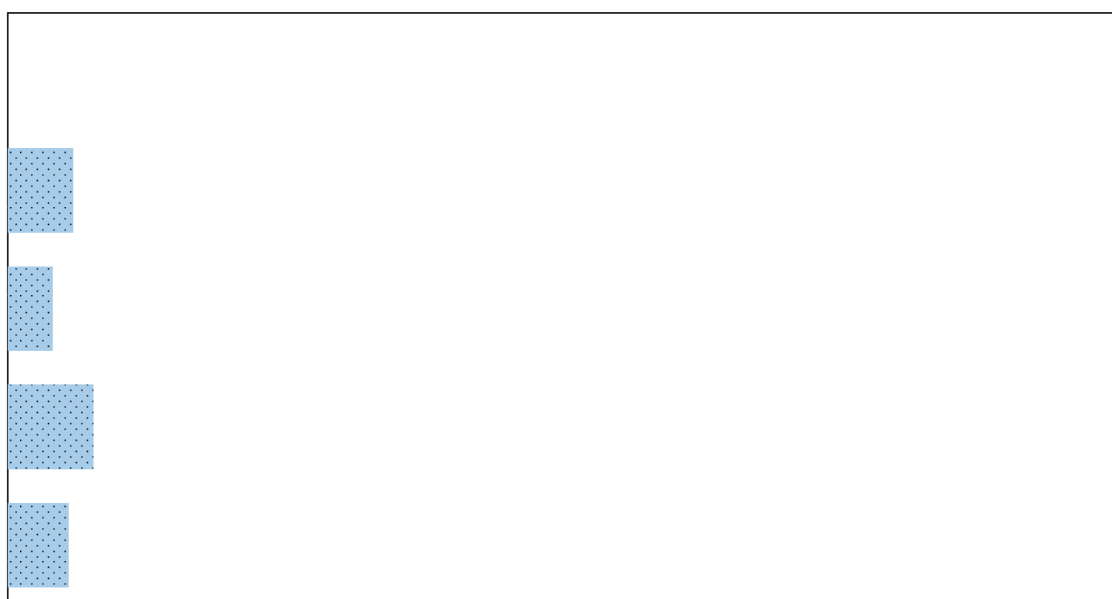
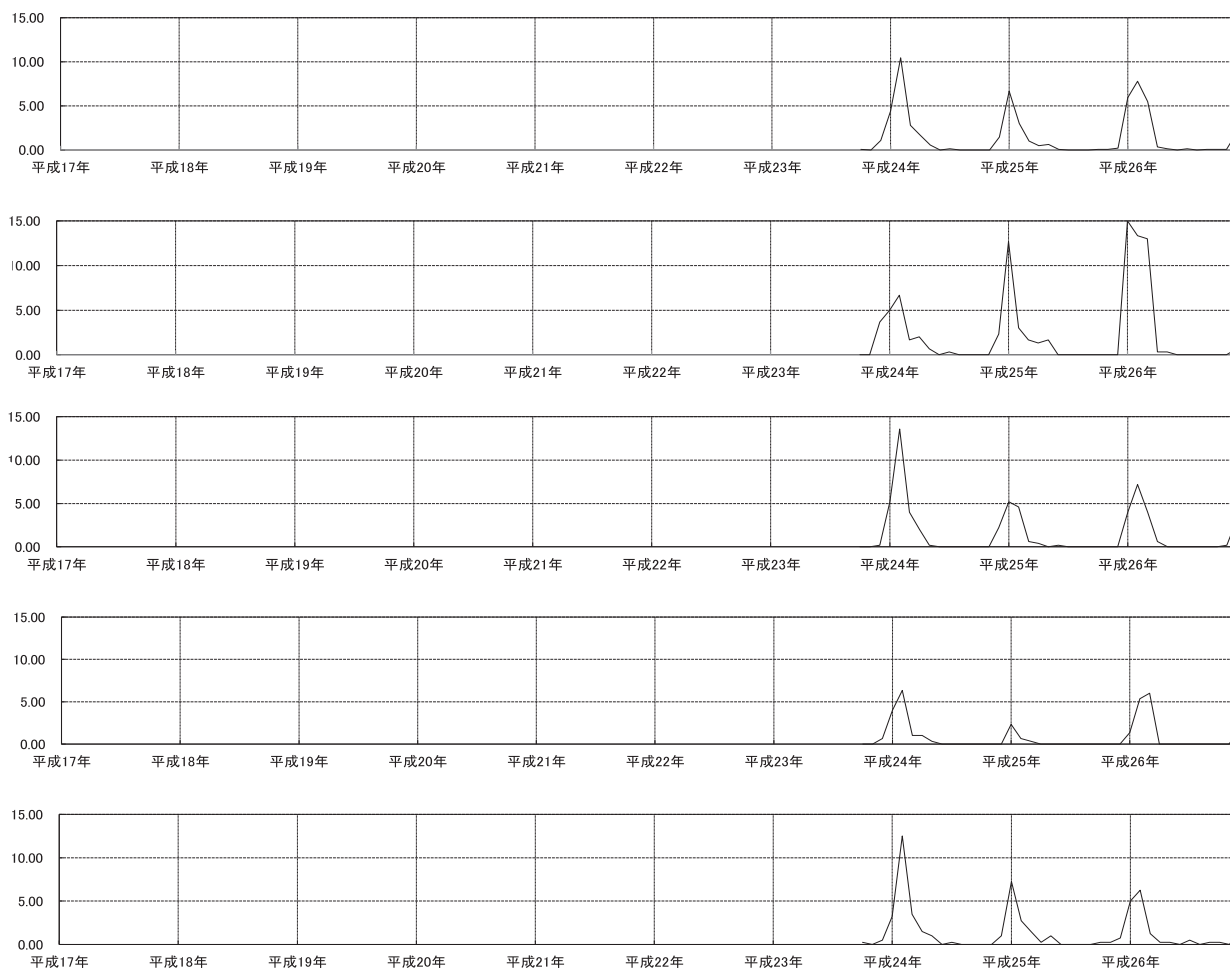
年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移 (上) と年齢区分別患者発生割合の推移 (下)



20.0
10.0
0.0

インフルエンザ（入院）基幹】

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



6 . 感染性胃腸炎（ロタウイルス）[基幹定点]

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成25年10月14日より基幹定点から報告されるようになった。報告を求める感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）とは、「症状、所見から当該感染症が疑われ、かつ、便からの病原体、抗原や遺伝子の検出」となっている。我が国では平成23年11月21日に1価のロタウイルスワクチン、24年7月20日に5価のロタウイルスワクチンが発売され、任意接種として接種が行われている。今後、ワクチン接種の影響で疾病の発生動向は大きく変化する可能性があり、動向を把握すること、特に重症ロタウイルス胃腸炎の動向を把握することで、ワクチン評価を行うことが考慮され、基幹定点把握対象感染症となった。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年2.6（39人）、前年0.0（0人）である。全県1定点当たりの患者数（及び「患者数」）は平成25年

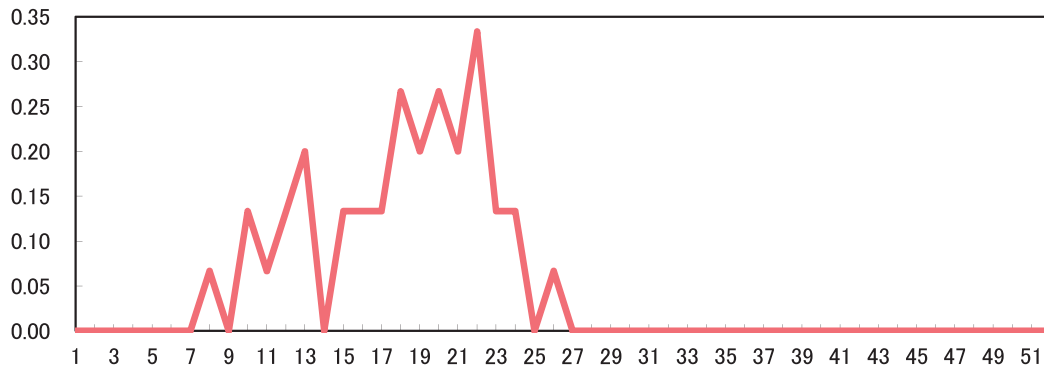
（2013年）から平成26年（2014年）まで0.0（0）、2.6（39）と推移している。

季節性では、2月～6月に報告があり、3月～5月に多発している。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州0.0（0）[北九州市0.0（0）]、福岡7.8（39）[福岡市19.5（39）]、筑豊0.0（0）、筑後0.0（0）と、福岡地区からの報告のみであった。

罹患年齢は0～5か月12.8%、6～11か月20.5%、1歳25.6%、2歳10.3%、3歳12.8%、4歳0.0%、5歳10.3%、6歳2.6%、7歳0.0%、8歳0.0%、9歳2.6%、10～14歳0.0%、15～19歳0.0%、20～29歳0.0%、30～39歳0.0%、40～49歳0.0%、50～59歳0.0%、60～69歳2.6%、70～79歳0.9%、80歳以上0.0%と分布した。0歳から3歳が多く82.1%を占めた。0歳が最も多く、0歳では6～11か月がより多かった。

男女比は1.29（男22人、女17人）で男に多かった。



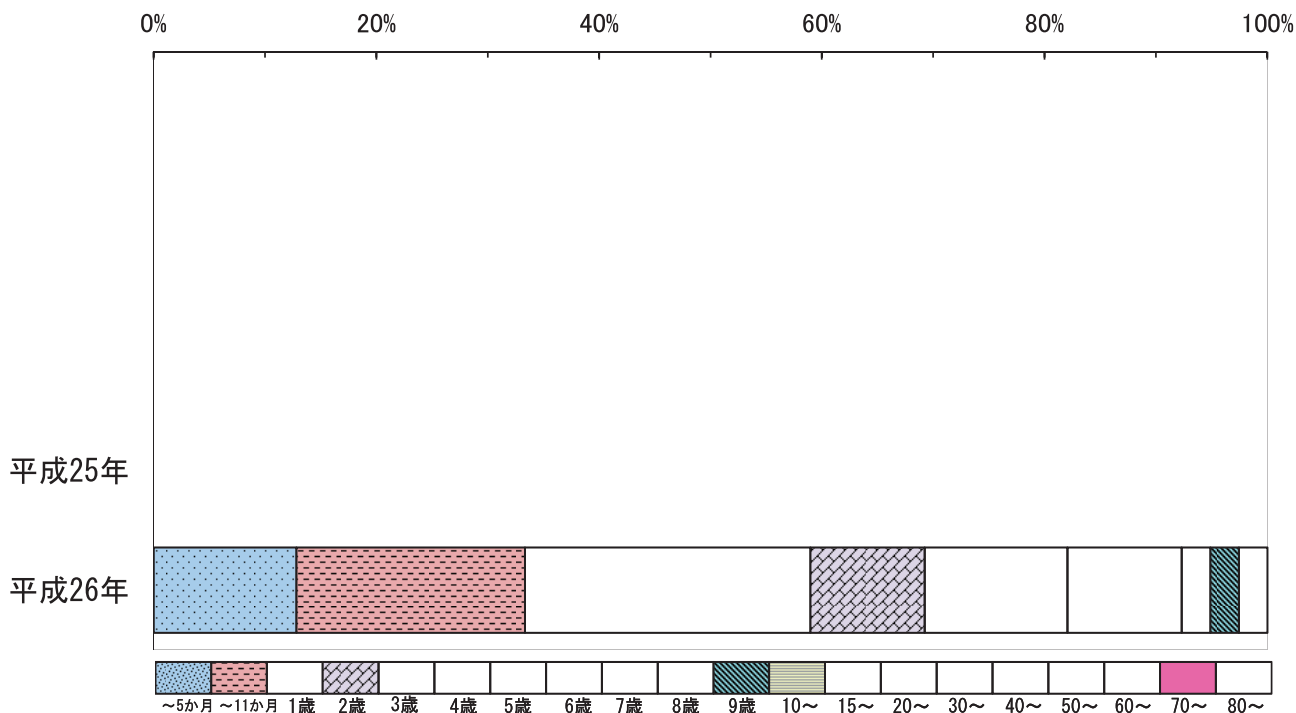
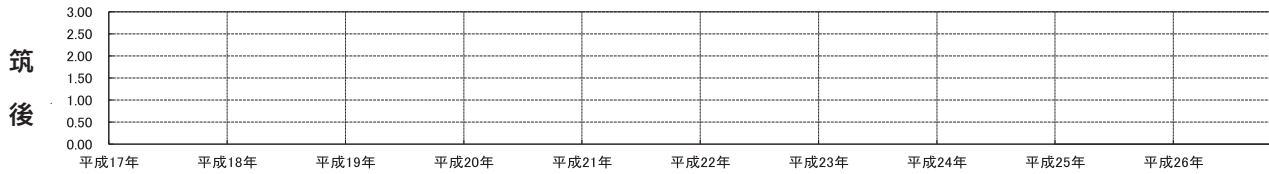
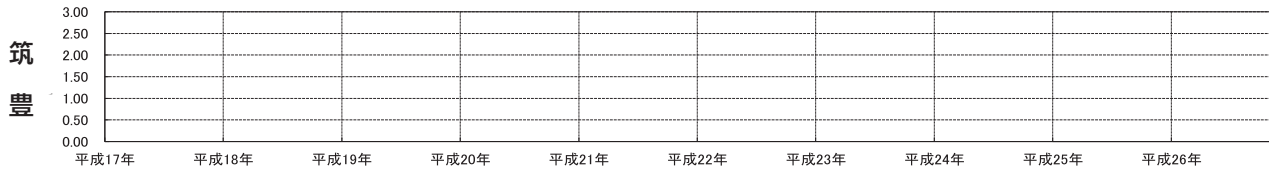
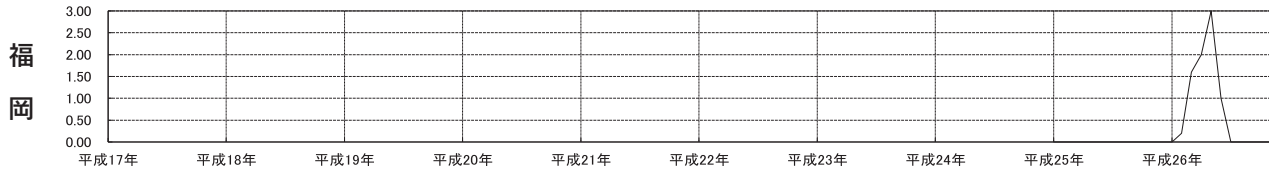
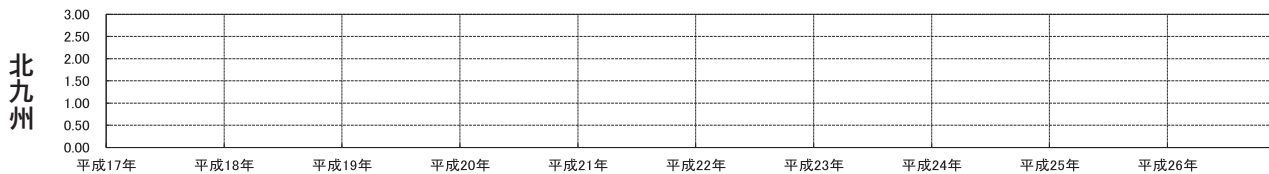
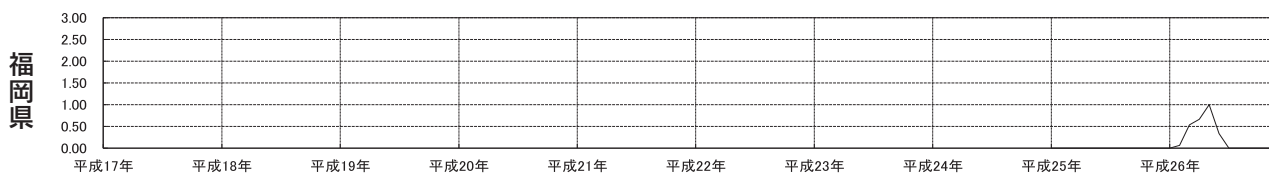
感染性胃腸炎（ロタウイルス）の1定点当たりの週別報告数推移



感染性胃腸炎（ロタウイルス）のブロック別1定点当たりの年別報告数推移

感染性胃腸炎（ロタウイルス）基幹】

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



7. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 [基幹定点]

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。月単位での届出が求められているが、福岡県では週報での報告を実施している。なお、報告を求めるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症とは、「症状、所見から当該感染症が疑われ、かつ検査により、病原体の検出と薬剤耐性の基準を満たすもの」となっている。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年30.6（459人）で、前年の33.8（507人）より報告数は減少していた。全県1定点当たりの患者数は平成12年（2000年）から平成26年（2014年）までそれぞれ45.4、35.6、50.2、41.4、56.4、48.5、49.1、34.9、32.2、42.8、29.5、49.9、41.0、33.8、30.6である。

年間の1定点当たり患者数は、全国的には平成19年までは徐々に増加傾向にあったが平成20年以降はわずかに減少している。福岡県では平成16年以降は全体として減少傾向を示していたが、平成23年度に再び増加した。しかし、その後は今年度

も含め減少傾向を示している。

今年度も季節的な特徴ははっきりせず、年間を通じて報告がみられた。全国情報でも、年間を通じて報告がみられ、季節的な特徴ははっきりしない。

地域的には、年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、北九州49.0（147）〔北九州市72.0（144）〕、福岡24.2（121）〔福岡市30.0（60）〕、筑豊25.3（76）、筑後28.8（115）と各地区から報告があり、昨年と同様、北九州が多かった。筑後からの報告は昨年多かったが、今年度は減少している。

罹患年齢は0～5か月5.7%、6～11か月0.4%、1歳1.1%、2歳から15～19歳までの年齢層では1.0%未満で、20～29歳1.7%、30～39歳0.9%、40～49歳3.1%、50～59歳5.9%、60～69歳13.3%、70～79歳26.8%、80歳以上37.7%で、例年と同様に60歳以上が多く、その割合は70%以上であった。

男女比は1.37で男性が昨年と同様に多かった。

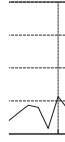
採取部位別では、喀痰（肺炎）2例、血液183例、髄液2例、胸水70例、膿4例、その他198例であった。

黄色

月別



平成17



平成18

8 . ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 [基幹定点]

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。月単位での届出が求められているが、福岡県では週報での報告を実施している。なお、報告を求めるペニシリン耐性肺炎球菌感染症とは、「症状、所見から当該感染症が疑われ、かつ検査により、病原体の検出と薬剤耐性の基準を満たすもの」となっている。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年4.5（67人）の報告があり、前年の4.3（65人）とほぼ同等であった。全県1定点当たりの患者数は平成12年（2000年）から平成26年（2014年）までそれぞれ4.3、4.8、8.7、7.3、19.6、14.0、13.0、2.9、7.0、6.3、5.4、10.8、6.1、4.3、4.5である。

年間の1定点当たり患者数は、全国では平成20年より減少傾向がみられ、増加傾向に歯止めがかかっている。福岡県では平成23年度に増加していたが、その後は再び減少傾向が続いている。

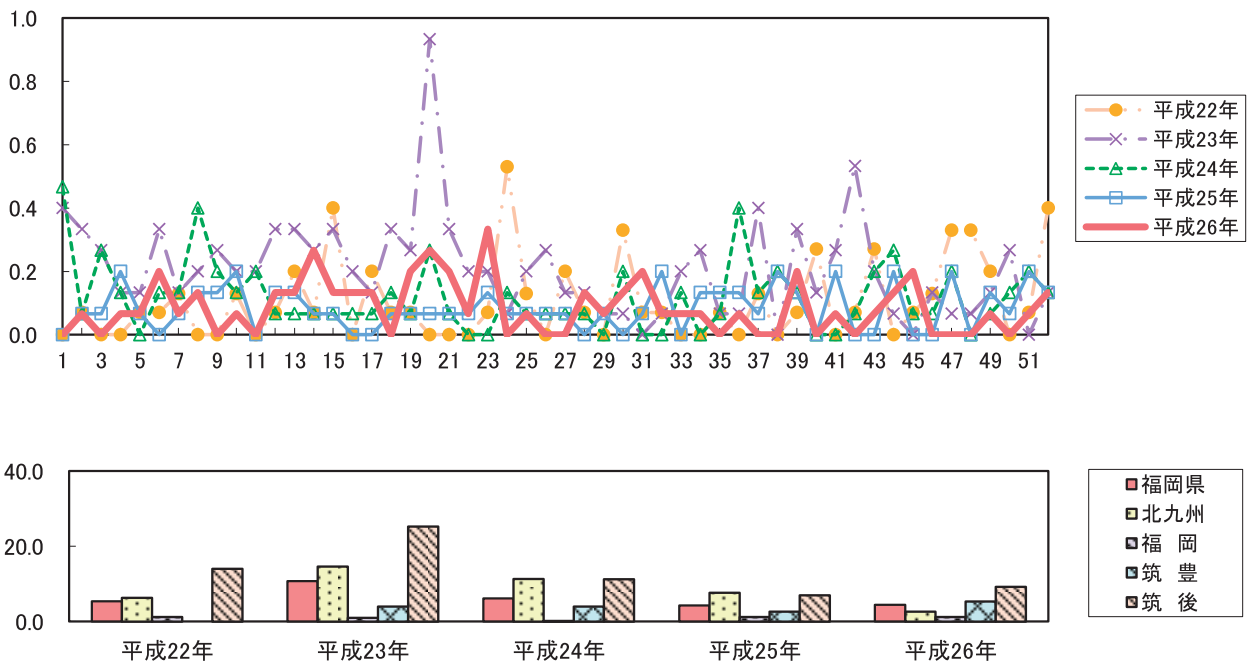
季節的な特徴はみられず、年間を通じて報告がみられた。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は北九州2.7（8）[北九州市4.0（8）]、福岡1.2（6）[福岡市3.0（6）]、筑豊5.3（16）、筑後9.3（37）と筑豊と筑後からの報告が多かった。昨年まで報告が多かった北九州は減少していた。

罹患年齢は0～5か月6.0%、6～11か月3.0%、1歳26.9%、2歳4.5%、3歳6.0%、4歳0.0%、5歳1.5%、6歳4.5%、10～14歳1.5%、30～39歳3.0%、40～49歳4.5%、50～59歳4.5%、60～69歳9.0%、70～79歳14.9%、80歳以上10.4%で、3歳までが全体の40%以上を占めていた。成人層では若年成人に報告は少なく、60歳以上の割合が30%を越えていた。

男女比は1.58で昨年と同様、男性に多かった。

採取部位別では、血液45例、胸水7例、髄液1例、その他14例であった。



慢性肺炎

別 月別

別

割合の推移（下）

9 . 薬剤耐性アシネトバクター感染症 [基幹定点]

10. 薬剤耐性緑膿菌感染症 [基幹定点]

平成11年4月施行の感染症法に従い、平成12年より基幹定点から報告を受けている。月単位での届出が求められているが、福岡県では週報での報告を実施している。なお、報告を求める薬剤耐性緑膿菌感染症とは、「症状、所見から当該感染症が疑われ、かつ検査により、病原体の検出と薬剤耐性の基準（カルバペネム、アミノグリコシド、フルオロキノロンの3系統の抗菌薬に耐性）を満たすもの」となっている。

年間の1定点当たり患者数（及び「患者数」）は今年0.1（2人）で、前年の0.1（2人）と同等であった。全県1定点当たりの患者数は、平成12年（2000年）から平成26年（2014年）までそれぞれ0.6、0.2、0.4、0.5、0.5、0.1、0.5、0.5、0.1、0.3、0.1、0.5、0.3、0.1、0.1であった。

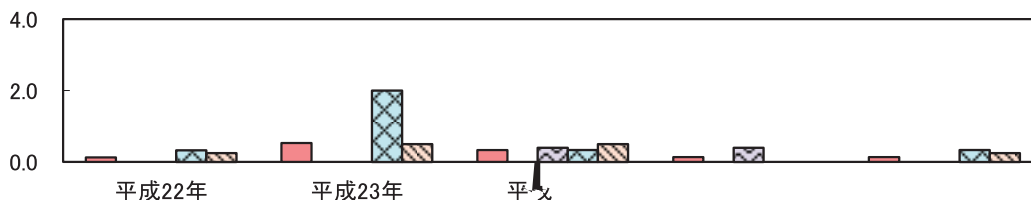
全国情報では、年間の1定点当たり患者数は年々増加傾向を示していたが、この数年は減少傾向にある。福岡県ではこの10年間に大きな変動はみられていない。

季節的な特徴ははっきりしない。全国では1～4月がわずかに少なく、7～10月が若干多い傾向がみられているが、季節的な特徴といえる程のものではない。福岡県においては3月と9月に報告があった。

地域的には、1定点当たり患者数（及び「患者数」）は、筑豊0.3（1例）と筑後0.3（1例）の報告であった。

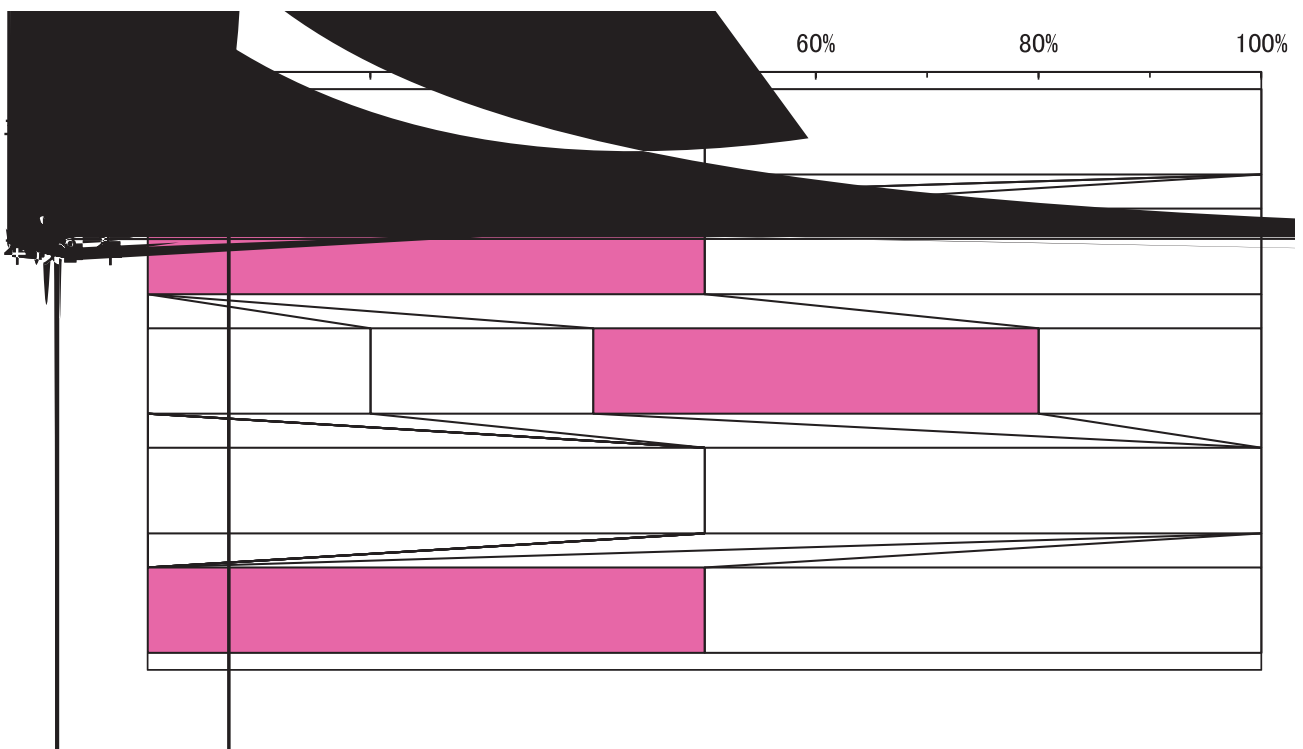
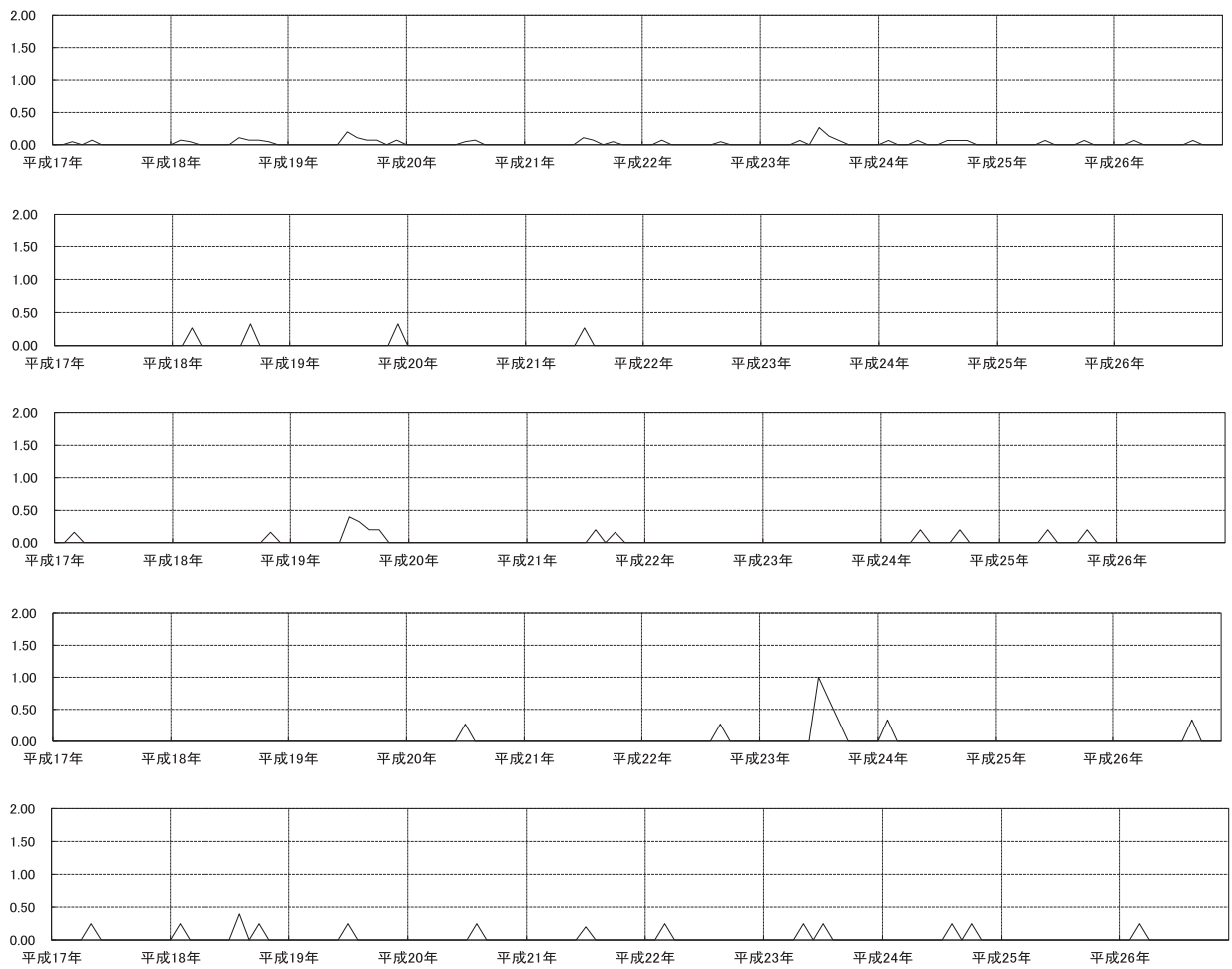
男性1例、女性1例で、罹患年齢は、70～79歳1例、80歳以上1例であった。

採取部位別は、胸水1例とその他1例であった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移（上）と年齢区分別患者発生割合の推移（下）



4) 性感染症 (sexually transmitted diseases : S T D) の解説と図表

性感染症動向調査は、昭和62年1月より開始され、27年を経過した。対象疾病は、淋病様疾病、陰部クラミジア感染症、陰部ヘルペス、尖形コンジローム、トリコモナス症の5疾病であったが、平成元年1月より梅毒様疾病が加わり6疾病となった。平成10年より性器クラミジア感染症、性器ヘルペスへ、平成12年より淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症へ、平成16年より尖圭コンジロームへそれぞれ名称の変更があった。平成22年よりトリコモナス症の報告は中止された。報告定点数は、昭和62年の14定点で開始され、平成6年は16定点、平成12年は25定点、平成13年は32定点であり、平成14年より37定点（皮膚・泌尿器科19、婦人科20）となった。ブロック別の内訳は、北九州9（皮膚・泌尿器科5、婦人科5）福岡15（皮膚・泌尿器科7、婦人科8）筑豊5（皮膚・泌尿器科2、婦人科3）筑後8（皮膚・泌尿器科5、婦人科4）である（5、6ページ参照）。

性感染症の全県の報告患者総数は、昭和62年2,382（梅毒を含まず）、昭和63年2,391（梅毒を含まず）、平成元年2,613、平成2年2,420、平成3年2,574、平成4年2,259、平成5年1,783、平成6年2,328、平成7年2,173、平成8年2,053、平成9年2,559、平成10年2,656、平成11年3,524、平成12年4,194、平成13年5,416、平成14年6,202、平成15年5,593、平成16年4,866、平成17年4,564、平成18年4,258、平成19年3,094、平成20年2,672、平成21年2,980、平成22年2,851（以後トリコモナス症を含まず）、平成23年2,874、平成24年2,597、平成25年2,813、平成26年2,522であった。定点当たり患者総数は、昭和62年168.7、昭和63年163.6、平成元年189.9、平成2年172.9、平成3年183.9、平成4年161.4、平成5年127.4、平成6年145.5、平成7年144.9、平成8年136.9、平成9年159.9、平成10年166.0、平成11年220.2、平成12年167.8、平成13年169.3、平成14年167.2、平成15年151.2、平成16年131.5、平成17年123.3、平成18年115.1、平成19年83.6、平成20年72.2、平成21年80.5、平成22年77.1（以後トリコモナス症を含まず）、平成23年77.7、平成24年70.2、平成25年76.3、平成26年68.2であり昨年よ

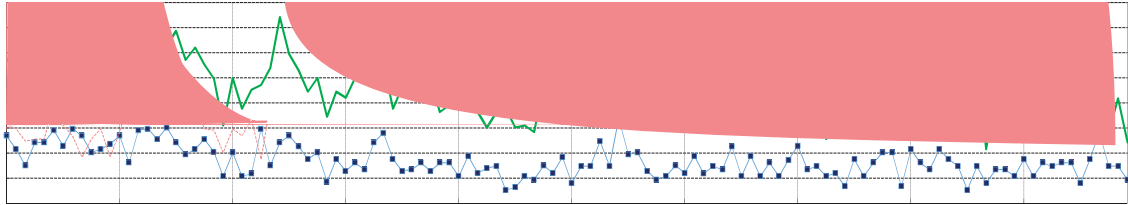
り軽度減少した。平成26年のブロック別・疾病別患者数は115ページの表1を参照下さい。

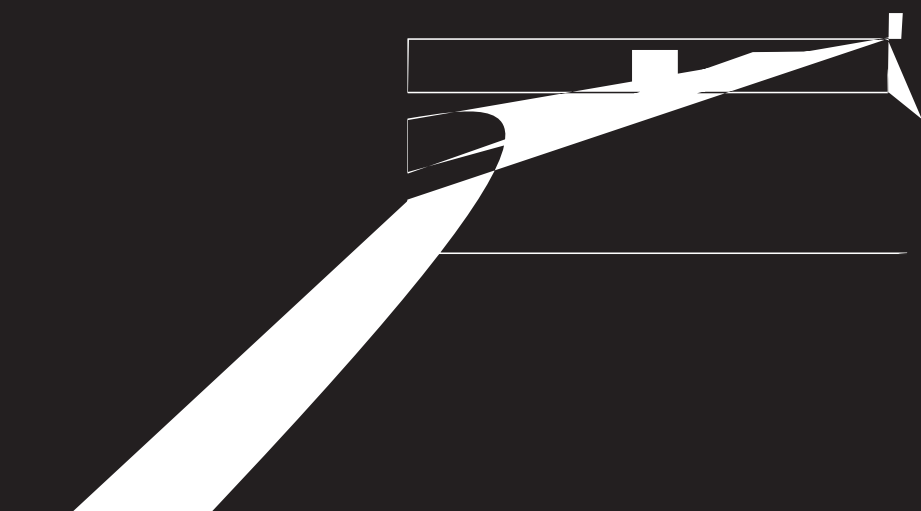
性別・年次別・月別・定点当たり患者数の10年間の推移を図1に示した。平成26年の月別（4週間換算）では、性器クラミジア感染症（クラミジア）は3月、9月に増加し、10月に減少した。ヘルペスウイルス感染症（ヘルペス）は2月、3月、9月に増加し、1月、4月、7月、10月、12月に減少した。尖圭コンジローム（コンジローム）は8月に増加し、1月、2月、3月、12月に減少した。淋菌感染症（淋菌）は2月、3月、9月に増加し、10月、11月に減少した。全体は、3月、9月に増加し、7月、10月、11月、12月に減少した。各疾病の10年間の男女計の推移を見ると、クラミジアは、平成17年より20年まで減少し、22年に増加し、25年まで横這いで、26年は減少した。ヘルペスは、平成17年より21年まで減少し、22年は増加し24年まで減少し、25年は増加し26年は減少した。コンジロームは、平成17年より22年まで減少し、24年、25年は横這いで、26年は減少した。淋菌は、平成17年より20年まで減少し、21年は増加し、26年までは横這いであった。梅毒（顕性、潜伏）は、平成17年より20年まで増加し、24年まで減少し、25年、26年は増加した。

年次別・性別・疾病別百分比を図2に示した。男は、平成15年は淋菌とクラミジアが44%で1位であったが、平成17年はクラミジアが45%で1位となった。平成26年はクラミジア、淋菌、ヘルペス、コンジローム、梅毒の順であった。女は、平成15年はクラミジアが52%を占めていたが、平成20年には54%となり平成26年は57%であった。平成26年はクラミジア、ヘルペス、淋菌、コンジローム、梅毒の順であった。

その他の性感染症について、毛虱3（男2、女1）、非淋菌非クラミジア性尿道炎178（男167、女11）、トリコモナス症5（女5）、咽頭淋菌22（女22）、咽頭クラミジア11（女11）や、クラミジアと淋菌、クラミジアと精巣上体炎、非淋菌非クラミジアと精巣上体炎、梅毒とクラミジアの合併症などが各定点より任意に報告された。

図1 性感染症の性別 年次別 月別 1 定点当たりの患者数の推移





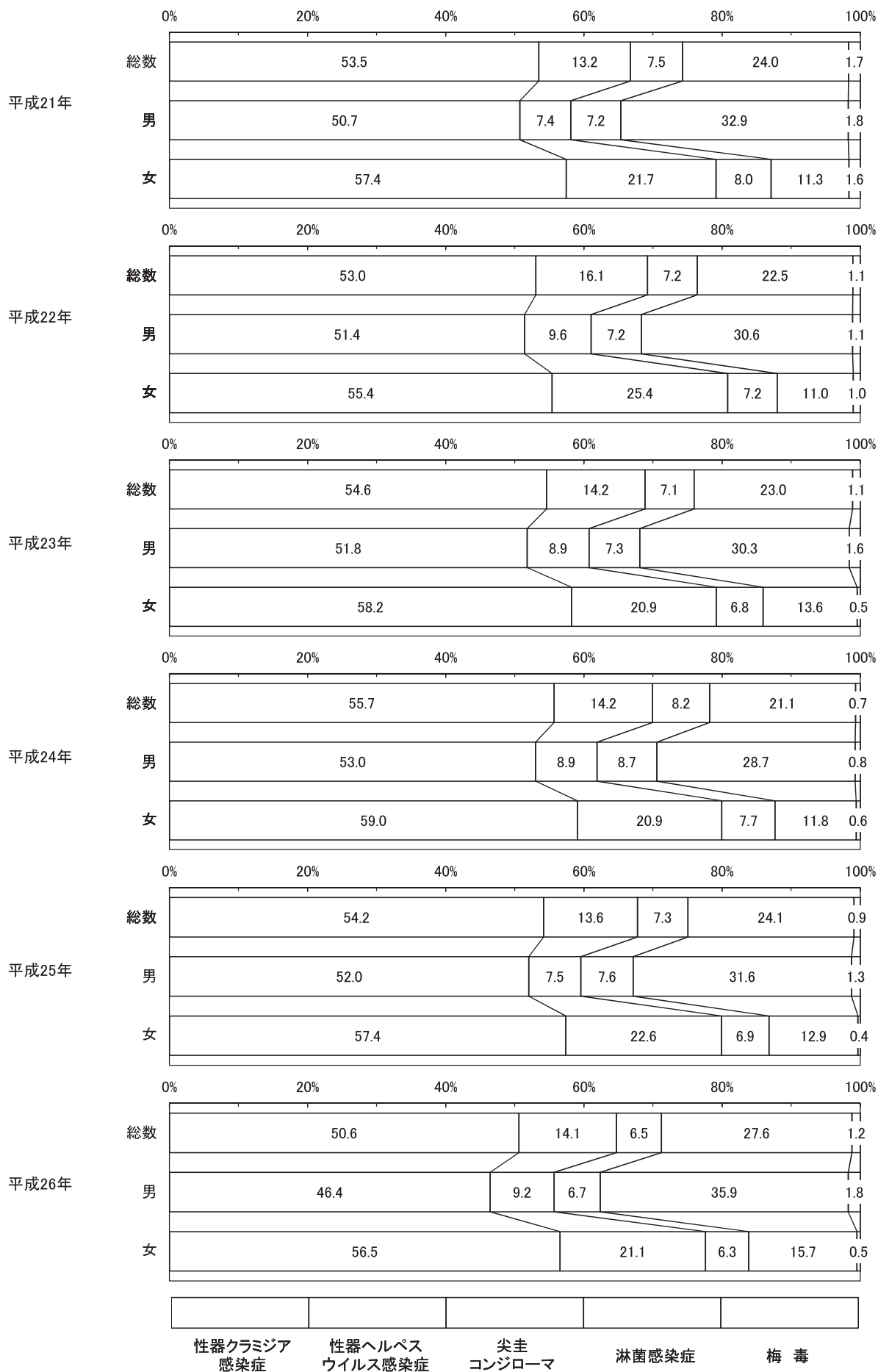


図 2 - 2 STDの年次別・性別・疾病別百分比

1. 性器クラミジア感染症

全県の年次別患者数を表1に示した。平成26年は前年と比較し、男は78%、女は90%で男女とも減少し、合計は83%で減少した。男/女比は1.17で男が多かった。

平成22年から26年のブロック別・定点当たり年別患者数（男女計）を図3に示した。平成26年の定点当たりの患者数は、北九州29.9、福岡42.7、筑豊28.8、筑後28.5であり、前年と比較し、福岡が

減少し、北九州、筑豊、筑後は増減なかった。

年齢区分別百分比の平成26年は前年と比較し、男は、15～54歳の各層と60～64歳で減少し、55～59歳で増加した。女は、20～24、25～29、35～39、40～44歳で減少し、45～49歳が増加した（図4）。女の年齢別割合は、10～14歳が0.2%、15～19歳が19.4%、20～24歳が33.3%、25～29歳が23.5%、30～34歳が13.1%であった（図4）。

表1 性器クラミジア感染症年次別患者数

	平成12年 (2000)	平成13年 (2001)	平成14年 (2002)	平成15年 (2003)	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)
男	1117	1257	1375	1276	1240	1280	1187	871	723	840	859	833	763	878	688
女	739	1359	1700	1417	1127	1045	1002	644	563	662	649	736	683	651	588
男/女比	1.51	0.92	0.81	0.90	1.10	1.22	1.18	1.35	1.28	1.27	1.32	1.13	1.12	1.35	1.17
合計	1856	2616	3075	2693	2437	2325	2189	1515	1286	1502	1508	1569	1446	1529	1276
定点当たり	74.2	81.8	83.1	72.8	65.9	62.8	59.2	40.9	34.8	40.6	40.8	42.4	39.1	41.3	34.5

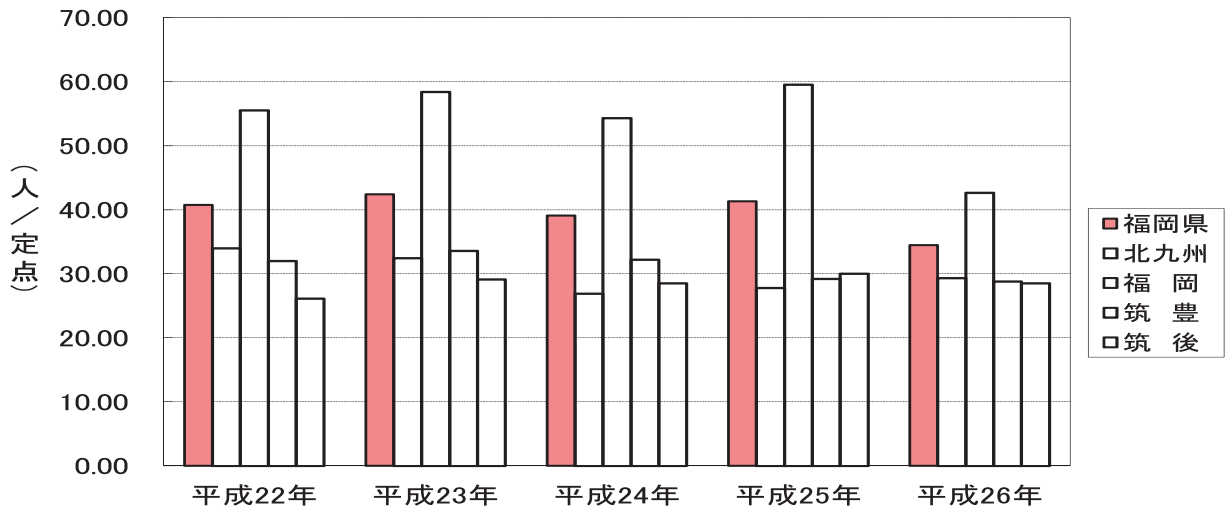


図3 性器クラミジア感染症のブロック別一定点当たりの年別報告数

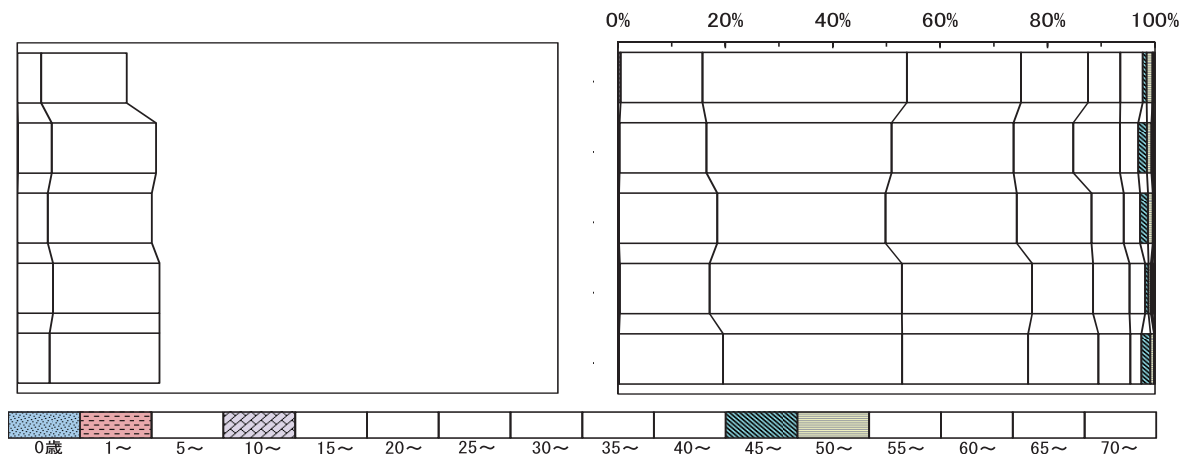


図4 性器クラミジア感染症の年齢区分別患者発生状況の推移

2. 性器ヘルペスウイルス感染症

全県の年次別患者数を表2に示した。平成26年は前年と比較し、男は108%で増減なく、女は86%で減少し、合計は93%で増減なかった。男/女比は0.62で女が多かった。

平成22年から26年のブロック別・定点当たり年別患者数（男女計）を図5に示した。平成26年の定点当たりの患者数は、北九州7.1、福岡12.7、筑

豊8.8、筑後7.3であり、前年と比較して、筑豊が増加し、筑後が減少し、北九州、福岡は増減なかった。

年齢区分別百分比の平成26年は前年と比較し、男は、20～24、35～39、40～44、45～49歳で増加した。女は、15～19歳で増加し、20～24、25～29、30～34、40～44歳で減少した（図6）。

表2 性器ヘルペスウイルス感染症年次別患者数

	平成12年 (2000)	平成13年 (2001)	平成14年 (2002)	平成15年 (2003)	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)
男	226	182	260	215	215	230	226	178	161	122	161	144	128	127	137
女	199	340	377	466	350	260	332	297	277	250	298	265	242	256	219
男/女比	1.14	0.54	0.69	0.46	0.61	0.88	0.68	0.60	0.58	0.49	0.54	0.54	0.53	0.5	0.63
合計	425	522	637	681	565	490	558	475	438	372	459	409	370	383	356
定点当たり	17.0	16.3	17.2	18.4	15.3	13.2	15.7	12.8	11.8	10.1	12.7	11.1	10.0	10.4	9.6

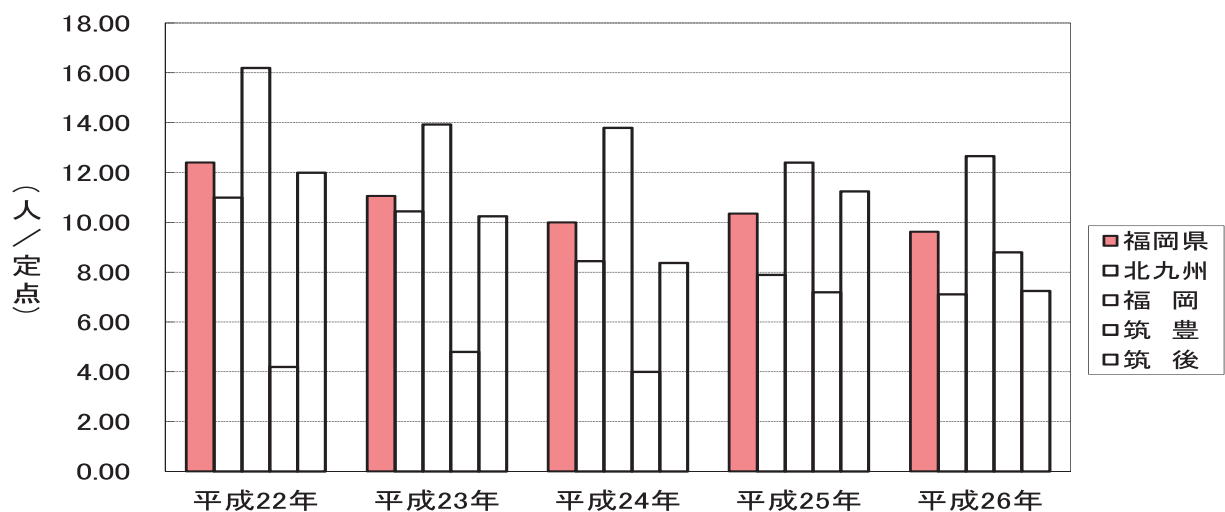


図5 性器ヘルペスウイルス感染症のブロック別一定点当たりの年別報告数

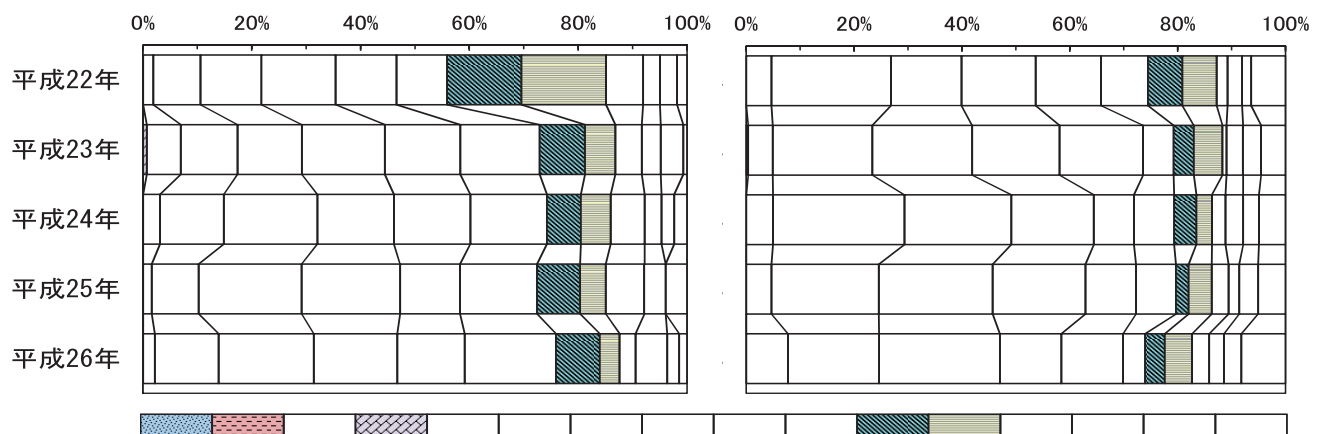


図6 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢区分別患者発生状況の推移

4. 尖圭コンジローマ

全県の年次別患者数を表3に示した。平成26年
前年と比較し、男は77%で減少し、女は100%
増減なく、合計は80%で減少した。男/女比は
で男が多かった。

平成22年から26年のブロック別・定点当たり年
患者数（男女計）を図7に示した。平成26年の
当たりの患者数は、北九州3.0、福岡6.6、筑
0、筑後3.5であり、前年と比較し、筑豊が増

加し、北
た。

年齢区分
男は、25
歳で減少
歳が12.3
24.6%、30
た（図8）

当たり 8.2 9.3 9.6 11.1 9.1 8.9 7.5 7.5 6.6



4. 淋菌感染症

全県の年次別患者数を表4に示した。平成26年は前年と比較し、男は100%で増減なく、女は117%で増加し、合計は101%で増減なかった。男/女比は3.26で男が多かった。

平成22年から26年のブロック別・定点当たり年別患者数（男女計）を図9に示した。平成26年の定点当たりの患者数は、北九州11.1、福岡26.7、筑豊18.8、筑後12.6であり、前年と比較し、北九州、筑豊、筑後は増加し、福岡は減少した。

年齢区分別百分比の平成26年は前年と比較し、男は、20～24、55～59、60～64歳で増加し、15～19、30～34、50～54歳で減少した。女は、15～19、25～29、30～34、35～39歳で増加し、20～24歳で減少した（図10）。男の年齢別割合は、15～19歳が8.3%、20～24歳が25.2%、25～29歳が19.9%、30～34歳が14.1%、35～39歳が10.9%、40～44歳が9.2%であった（図10）。

表4 淋菌感染症年次別患者数

	平成12年 (2000)	平成13年 (2001)	平成14年 (2002)	平成15年 (2003)	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)
男	1341	1444	1487	1304	1197	1133	890	547	401	545	511	488	413	533	532
女	207	263	404	301	161	113	141	97	87	130	129	172	136	146	163
男/女比	6.48	5.49	3.68	4.33	7.43	10.03	6.31	5.64	4.61	4.19	3.96	2.84	3.04	3.65	3.26
合計	1548	1707	1891	1605	1358	1246	1031	644	488	674	640	660	549	679	695
定点当たり	61.9	55.3	51.1	43.3	36.7	33.7	27.9	17.4	13.2	18.2	17.3	17.8	14.9	18.4	18.8

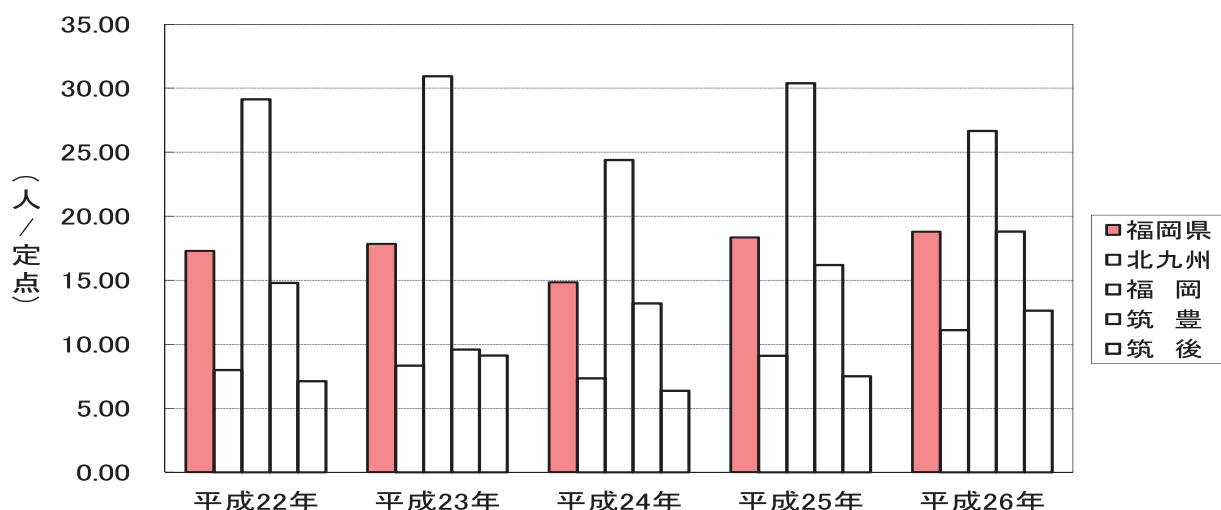


図9 淋菌感染症のブロック別一定点当たりの年別報告数

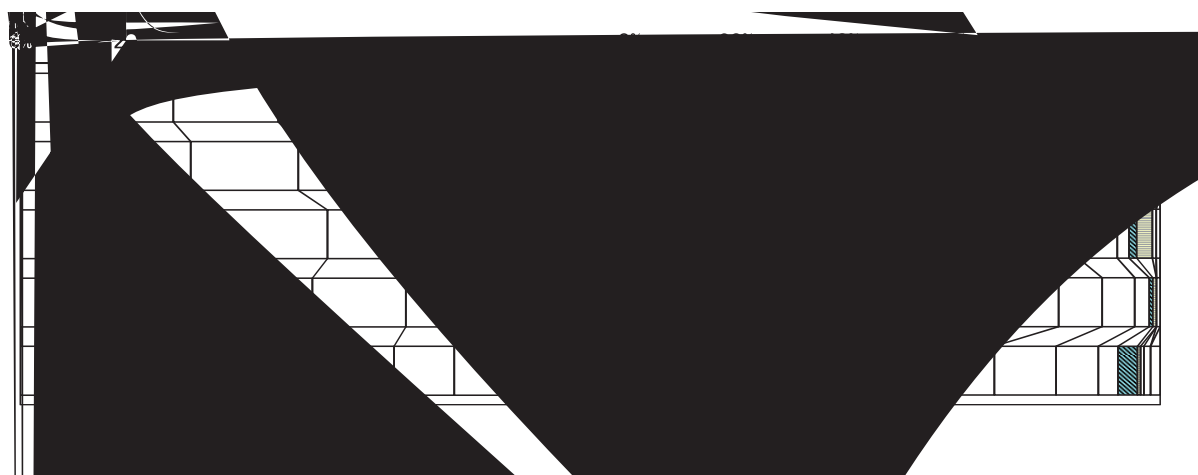


図10 淋菌感染症の年齢区分別患者発生状況の推移

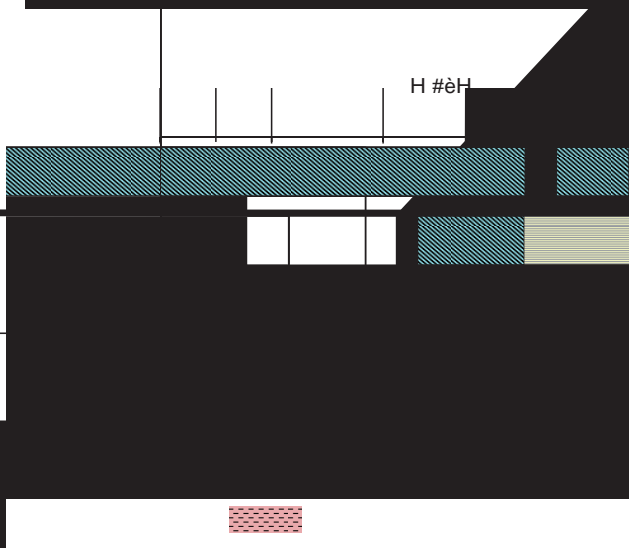
5 . 梅毒

全県の年次別患者数を表5に示した。平成26年は前年と比較し、男は118%、女は125%で男女とも増加した。合計は119%で増加した。男/女比は5.20で男が多かった。

平成22年から26年のブロック別・定点当たり年別患者数（男女計）を図11に示した。平成26年の

定点当たりの患者数は、北九州0.4、福岡1.5、筑豊0.2、筑後0.5であり、前年との比較は、症例数が少ないので行っていない。

年齢区分別百分比の平成22年から26年を図12に示した。前年との比較は、症例数が少数のため各年齢階級での増減の比較はしていない。



5) 結 核

平成26年の福岡県の結核発生動向について報告する。但し、平成26年のデータは月別速報値を合算したもので、後日報告される正式の統計値とは異なるものである。

過去3年間の全国、福岡県及び保健所別新登録患者数と罹患率（人口10万対）の推移を表1-1に示した。平成26年1年間に新たに保健所に登録された結核患者数（潜在性結核感染症は除く）は、全国18,345人、福岡県758人、罹患率は全国14.4、福岡県14.9であった。男女比は全国1.60：1、福岡県1.38：1で、福岡県は前年（1.32：1）よりやや拡大したが、全国より男女比が小さい傾向にある。

福岡県の新登録患者数及び喀痰塗抹陽性患者数の年次推移（図1）をみると、平成20年に8年ぶりに増加に転じた新登録患者数は、その後6年連続で減少している。平成26年の速報値は758人で、前年より58人減少した。また喀痰塗抹陽性患者数は285人で、前年より15人の減少であった。

罹患率の年次推移（図2-1）をみると、平成26年は人口10万対14.9人で、前年より1.1ポイント低下したが、全国平均より0.5ポイント上回った。

喀痰塗抹陽性罹患率の年次推移（図2-2）は、平成26年は人口10万対5.6人で、前年と不変で全国平均と同数であった。

保健所別の動向（表1-1）では、福岡市は患者数19人減少、罹患率1.4ポイント低下、北九州市は患者数9人減少、罹患率0.8ポイント低下した。政令都市以外の地区でも患者数30人減少、罹患率1.1ポイント低下と罹患状況が改善している。

次に、県保健所別の患者数と罹患率の動向（表1-2）をみると、罹患率が前年より上昇した地区は5地区で、低下した地区は6地区であった。筑紫地区の患者数が前年より10人以上増加し、宗像・遠賀と京築地区が10人以上減少している。

政令都市を含めると、罹患率は大牟田市、北九州市、京築地区が高く、糸島、粕屋、宗像・遠賀地区が低い状況で、全国平均（14.4）を下回ったのは福岡市など2市6地区であった。罹患率の地域格差は15.7で、前年（16.4）よりやや縮小した。

最近5年間の年齢別新登録患者数の推移（図3-1）をみると、20歳代から70歳代の患者数は減少傾向がみられるが、80歳代と90歳以上はやや増加

表1-1 新登録患者数及び罹患率（人口10万対）（平成26年は速報値）

年 別 区 分	平成24年		平成25年		平成26年	
	新登録患者数	罹患率	新登録患者数	罹患率	新登録患者数	罹患率
全 国	21,283	16.7	20,495	16.1	18,345	14.4
福 岡 県 総 数	849	16.7	816	16.0	758	14.9
福 岡 市 保 健 所	231	15.5	226	15.0	207	13.6
北九州市保健所	194	20.0	193	19.9	184	19.1
県 保 健 所	424	16.3	397	15.2	367	14.1

表1-2 県保健所別新登録患者数及び罹患率（人口10万対）（平成26年は速報値）

年 別 区 分	平成24年		平成25年		平成26年		
	新登録患者数	罹患率	新登録患者数	罹患率	新登録患者数	罹患率	
1-11	大牟田市	17	14.1	32	26.8	27	22.9
	久留米市	80	26.5	41	13.6	42	13.9
	宗像・遠賀	52	17.9	50	17.2	29	9.9
	粕屋	33	11.9	32	11.4	26	9.3
	筑紫	44	10.3	45	10.5	57	13.2
	糸島	11	11.2	13	14.3	7	7.2
	田川	29	22.1	17	13.1	17	13.3
	北筑後	27	14.1	29	15.2	25	13.2
	南筑後	45	15.2	49	16.7	49	16.8
	京 築	33	17.5	45	24.0	35	18.8
	嘉穂・鞍手	53	17.9	44	14.9	53	18.1

傾向を示している。

新登録患者の年齢構成の推移（図3 - 2）をみると、高齢者の割合が徐々に増加し、平成26年は70歳以上の割合が63.7%を占めた。また80歳以上の患者が4割を超え、90歳以上も1割に近づいている。患者の高齢化が一層顕著である。

喀痰の菌検査結果（図4 - 1）では、感染源として重要な喀痰塗抹陽性患者の割合は徐々に低下していたが、平成26年は52.1%とやや増加した。遺伝子検査や培養検査陽性などの「その他の陽性」の割合が年々増加しているが、その要因として診断技術の進歩により塗抹陽性に至る前に早期に診断される症例が増加してきたことが考えられる。

患者発見方法別（図4 - 2）では、医療機関受診例の割合が全体の8割以上で、自覚症状のある高齢者患者が多くを占めていることを反映している。

次に化学療法の内容の推移（図4 - 3）についてみると、RFP、INH、PZAを含む標準治療の割合は53.2%で、平成25年の全国平均(58.6%)を下回っている。PZAが使用しにくい高齢者患者の増加などが影響していると思われるが、治療成績向上のためには標準治療の適正な実施への努力が必要である。

潜在性結核感染症患者数（予防内服対象者）の年次推移を図5に示した。平成22年まではピーク時（平成17年、695人）の6分の1程度に減少していたが、平成23年からやや増加している。その要因としては、平成22年の接触者健診の手引きの改

訂でQFT検査の適用年齢に関する上限（50歳未満）が撤廃されたこと、発病リスクの大きい既感染者に対する予防内服が推奨され普及してきたことなどが考えられる。

以上、平成26年の福岡県の結核発生動向について報告した。

結核新登録患者数は6年連続で減少、平成26年の速報値は758人で前年より58人減少し、罹患率は14.9で1.1ポイント低下した。感染源として重要な喀痰塗抹陽性患者数も15人減少した。罹患率は全国平均を上回ったが、塗抹陽性罹患率は全国平均と同数であった。地域別の罹患率では、福岡市は1.4ポイント、北九州市は0.8ポイント低下した。政令都市以外の地域も1.1ポイント低下した。県保健所別では5地区が上昇し、6地区が低下、地域格差は前年よりやや縮小した。年齢階層別では高齢者の割合が徐々に増加し、70歳以上が63.7%を占めた。また80歳以上が4割を超え、90歳以上が1割に近づいている。

治療面では、PZAを含む標準治療の割合は53.2%で、全国平均を下回っている。治療成績向上のためには標準治療の適正な実施への努力が必要である。潜在性結核感染症患者数は平成23年からやや増加しているが、その要因としては、接触者健診の手引きの改訂でQFT検査の適用年齢に関する上限が撤廃されたこと、発病リスクの大きい既感染者に対する予防内服が普及してきたことなどが考えられる。

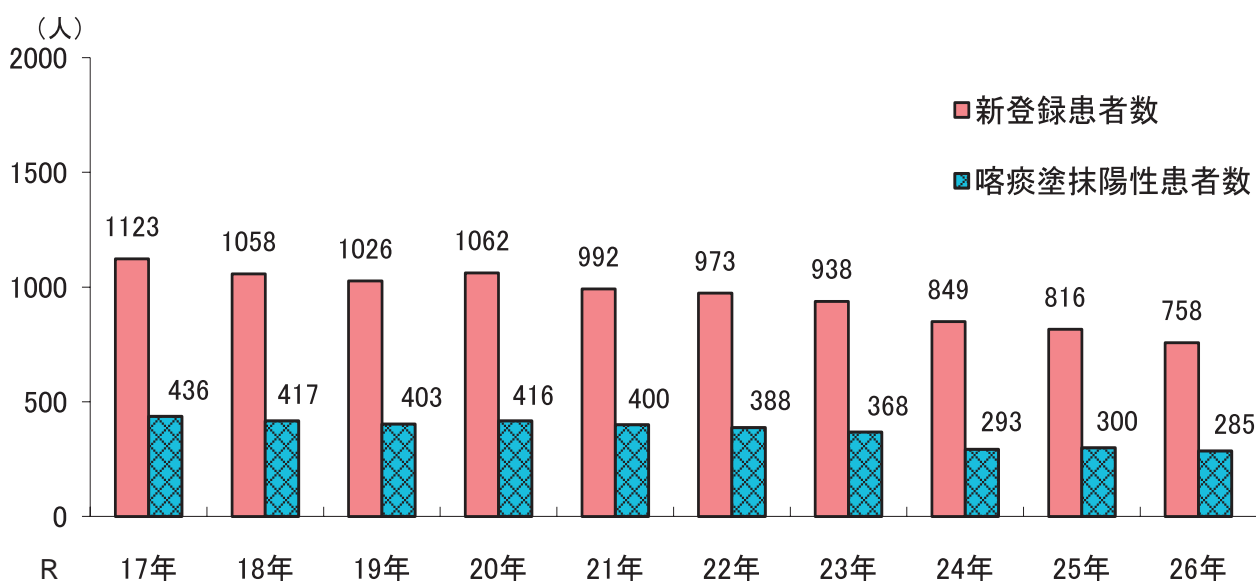


図1 新登録患者数年次推移（平成26年は速報値）

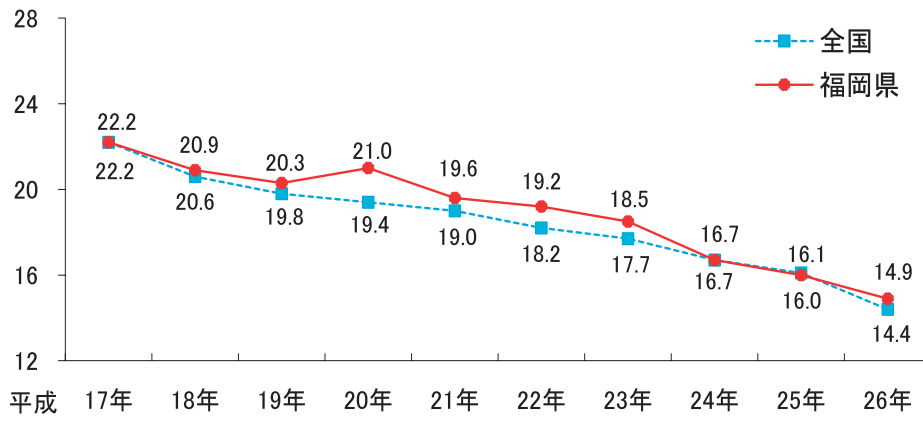


図2 - 1 全結核罹患率年次推移（人口10万対）
（平成26年は速報値）

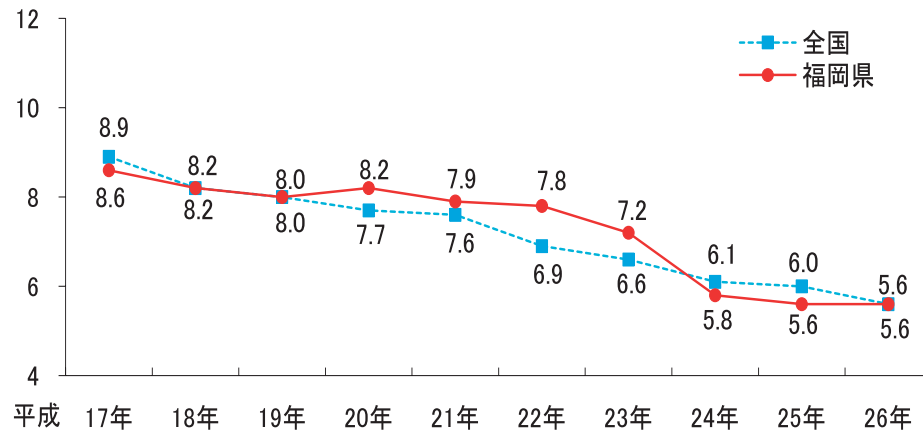


図2 - 2 喀痰塗抹陽性罹患率年次推移（人口10万対）
（平成26年は速報値）

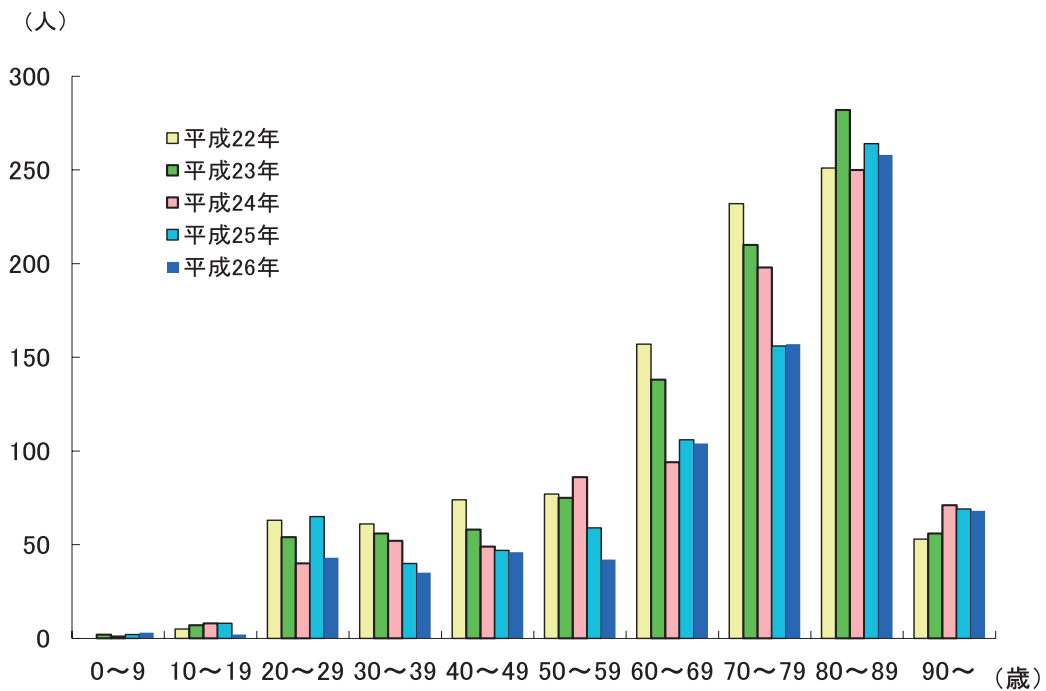


図3 - 1 年齢階級別新登録患者数
（平成26年は速報値）

6) 福岡県における全数把握対象疾患について

一類感染症の届出はなかった。二類感染症は総計1,101件、三類感染症は総計192件、四類感染症は総計98件、全数把握対象五類感染症は総計363件の届出があった。

二類感染症について

- ・結核は、1,101件の届出があった。
- ・ポリオ、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)の届出はなかった。

三類感染症について

- ・コレラは1件届出があった。性別では、女性1人であった。推定感染地域は国外であった。
- ・細菌性赤痢は22件届出があった。性別では、男性10人、女性12人であった。年齢別では、10歳未満12人、20歳代1人、30歳代3人、40歳代3人、60歳代2人、70歳代1人であった。推定感染地域は国内18件、国外4件であった。
- ・腸管出血性大腸菌感染症は168件届出があった。血清群別では、O157が99件、O26が34件、O91が6件、その他・不明が29件であった。毒素型別では、VT1及びVT2産生株68件、VT1産生株54件、VT2産生株37件、毒素型不明9件であった。診断類型別では、患者116人、無症状病原体保有者52人であった。
- ・パラチフスは1件届出があった。性別では、男性1人であった。推定感染地域は国外であった。
- ・腸チフスの届出はなかった。

四類感染症について

- ・E型肝炎は4件届出があった。推定感染地域は全て国内であった。
- ・A型肝炎は44件届出があった。推定感染地域は国内が40人、国外が4人であった。
- ・つつが虫病は3件届出があった。推定感染地域は全て国内であった。
- ・デング熱は6件届出があった。推定感染地域は全て国外であった。
- ・日本紅斑熱は2件届出があった。推定感染地域は全て国内であった。
- ・ブルセラ症は2件届出があった。推定感染地域は全て国内であった。
- ・レジオネラ症は37件届出があった。性別では、男性26人、女性11人であった。年齢別では、30歳代2人、40歳代1人、50歳代2人、60歳代10人、70歳代6人、80歳代以上16人であった。
- ・他の四類感染症の届出はなかった。

全数把握対象五類感染症について

- ・アメーバ赤痢は48件届出があった。性別では、男性39人、女性9人であった。
- ・ウイルス性肝炎は10件届出があった。内訳は、B型肝炎7件、C型肝炎2件、その他1件であった。
- ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は17件届出があった。
- ・急性脳炎は17件届出があった。推定感染地域は全て国内であった。
- ・クロイツフェルト・ヤコブ病は8件届出があった。病型別では、孤発性プリオン病5件、遺伝性プリオン病2件、感染性プリオン病1件であった。
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症は9件届出があった。
- ・後天性免疫不全症候群は71件届出があった。性別では、男性67人、女性4人であった。診断類型別では、無症状病原体保有者が47人、患者が24人であった。感染経路別では、異性間性的接触16件、同性間性的接触46件、性的接触(異性間か同性間かは不明)3件、静注薬物1件、その他不明が5件であった。
- ・ジアルジア症は6件届出があった。
- ・侵襲性インフルエンザ菌感染症は6件届出があった。
- ・侵襲性髄膜炎菌感染症は2件届出があった。
- ・侵襲性肺炎球菌感染症は83件届出があった。
- ・水痘(入院例に限る)は6件届出があった。
- ・梅毒は54件届出があった。性別では、男性43人、女性11人であった。年齢別では、10歳代3人、20歳代14人、30歳代11人、40歳代12人、50歳代4人、60歳代6人、70歳代2人、80歳代以上2人であった。病型別では、早期顕症梅毒38人、晩期顕症梅毒2人、無症候14人であった。
- ・播種性クリプトコックス症は3件届出があった。
- ・破傷風は3件届出があった。
- ・バンコマイシン耐性腸球菌感染症は9件届出があった。
- ・風しんは4件届出があった。性別では、男性1人、女性3人であった。年齢別では、30歳代1人、40歳代1人、50歳代1人、80歳代以上1人であった。
- ・麻疹は7件の届出があった。性別では、男性4人、女性3人であった。年齢別では、10歳未満2人、20歳代4人、30歳代1人であった。推定感染地域は国内2件、国外5件であった。
- ・他の全数把握対象五類感染症の届出はなかった。

表 福岡県における全数把握対象疾患の患者報告数

	R áç) ™) £					R áç) ™) £					R áç) ™) £					¶ ç Cí £
]~	zÝ-ç	ñ,ç	GÁ>ç	qy ç	-]~	zÝ-ç	ñ,ç	GÁ>ç	qy ç	-]~	zÝ-ç	ñ,ç	GÁ>ç	qy ç	
-ò)±																
∅áZBä																
«æÚž-~i°ZBä																
qfO																
Æ ZBä																
ÖµÄ																
U"çÖç~'																
âç±ä																
-ò)±																
xQf(7																
A@																
'NÄæž																
O±xQZu±±©																
x iNçπi²ç) / £																
-ò)±																
-èá																
IÖQzi																
Í ZBQGÍÖò)±																
i½Nµ																
íá½Nµ																
-ò)±																
çπµÄÆ çä																
∅É~çµ±																
+ä																
!çÜ'																
!Üµ«ZBä																
s<ä																
©ß±Éçÿ~'																
&ä																
°X'																
-«³! Äµ±																
±çq																
O±äQB-Xn-±©	µ	µ	µ	µ	µ	µ										
±©QZBä																
bæçÜö																
¼Ç pö																
xk																
½«i-Çžä																
mmU~'																
Äi~ä																
fæçÜö																
x iNçπi²ç) / ›†X£																
Cíç çµò)±																
ÖSÜWä																
ÖSö																
Éi»ç çµ ±©																
ç çµ'																
"k																
Öç-ä±																
ÖÉ¶µäçÜö																
ÖiÄäç çµò)±																
C`æ½Nµ																
ØÄæÉµ±																
Üäæž																
ú@'																
ä Ü'																
æç±ç çµò)±																
æNÄlé"ä																
"k																
è'!Éä±																
èÖÄµÐä±																
éç©"ÜWä																
-ò)±																
žÝ"lzi																
ç çµQ																
ç £																µ
ç £																µ
çfw Æl£																µ
§çlÖEÜ1Ql°lÖJlÖò)±	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	
xQö																
«æÖÄµÜæ'çÜ±																
«é AN£çÄ-ä-Ö'																
6± 9BQèi±•Öò)±																
™1QÖøÆ¶±©																
'žç'ž±																
7š ÖQ7š											µ	µ	µ	µ	µ	µ
ö:Q iNçπi²Öò)±	µ	µ	µ	µ	µ	µ										
ö:Q7š Öò)±	µ	µ	µ	µ	µ	µ										
ö:Q •Öò)±	µ	µ	µ	µ	µ	µ										
+qçÖÄ«tv"£	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	
œ1Qé'æ±©																
Ÿ																
ü Q«æÖÄ~çµ±	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	
±é																
li~Ü ³i1Q+iÖÄç•Öò)±																
li~Ü ³i1Ql•Öò)±																
é"æ																
'æ																
N1Qž³EÄl«»"ò)±	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	µ	

) 檢 查 情 報

検査情報の解説

1) ウイルス編

本年の検査体制を表1に示した。検査情報は、前年度と同様に北九州市環境科学研究所と福岡市保健環境研究所がそれぞれの当該市分を、福岡県保健環境研究所がその他の県内地域（久留米市、大牟田市を含む）の検査を分担して行った。本編ではこれらの検査情報を集計して記録した。

検査材料及び検査方法

平成26年に本調査事業において採取された検体は、10疾病908件であった。過去5年間の疾病別検体採取状況を表2に、本年の北九州市、福岡市、久留米市、大牟田市、その他の地域の疾病別検体採取状況を表3に示した。検体総数は、前年と比べると約8%の増加（838 908）であった。本年の疾病別検体数では、インフルエンザが352件と最も多く、前年からすると約2.1倍の増加（167 352）であった。これは、年初の例年並みの流行に加え、年末に例年より早く流行が始まったためと考えられる。次いで、感染性胃腸炎が201件、その他の疾患が194件と多かった。前年と比べて検体数が大きく増加した疾病は、インフルエンザ以外には無かった。また、大きく減少したものは感染性胃腸炎（278 201）、手足口病（86 52）であった。疾病別の検査材料と検査方法については表4に示した。

検査結果と考察

疾病別、地域別の検査結果を表5～8に、過去5年間の疾病別・年次別ウイルス検出結果を表9 - 1、2に、検出されたウイルスの月別地域別検出状況を表10、11に示した。本年ウイルスが検出された検体は542件であり、複数のウイルスが検出された検体は18件であった。検出されたウイルスは全て同定され、合計40種類、561件であった。検出数が最も多かったものは、インフルエンザウイルスで319件、次いでエンテロウイルスが96件、ノロウイルスが55件、アデノウイルスが30件、ロタウイルスが21件であった。

次に、疾病毎の検出状況について述べる。インフルエンザからは、1月から3月にB型が101件と最も多く検出され、次いでA/H1pdm09亜型が83件、A/H3亜型が55件検出され、2013/2014シーズンは、これら3種の混合流行であったと考えられる。また、12月にはA/H3亜型のみが36件検出され、2014/2015シーズンの主要な原因ウイルスとなることが予想された。なお、同亜型は、少数ながら4～11月にも継続して検出された。

感染性胃腸炎からの検出ウイルスでは、ノロウイルスが55件と前年の54件とほぼ同じであったが、ロタウイルスは前年の65件から20件に大きく減少した。他にサポウイルスが8件、アストロウイルスが7件検出された。ノロウイルスは主に1～5、11、12月に、ロタウイルスは前年よりやや遅く、主に4～6月に検出され、アストロウイルスは主に1～4月に検出された。なお、サポウイルスは年間を通して検出された。

エンテロウイルスは、本年は96件検出され、前年の126件から大きく減少した。疾病別では、手足口病から33件、感染性胃腸炎から24件、無菌性髄膜炎から10件検出された。また、疾病別に検出ウイルスの型を見ると、手足口病では、本年は患者報告数が

やや減少し、エンテロウイルス71型が24件、コクサッキーウイルスA16型が8件検出された。エンテロウイルス71型は7～9月を中心に、コクサッキーウイルスA16型は9月以降に検出された。前年多数検出され、手足口病の流行の主な原因であったコクサッキーウイルスA6型は全く検出されなかった。次に、無菌性髄膜炎も患者報告数が減少したが、コクサッキーウイルスB3型が5件、ムンプスウイルスが3件検出された。前年の主流であったエコーウイルス30型は全国的にはまだ多く検出されていたが本県では検出されず、同じく全国的には検出が多かったエコーウイルス11型も、本県では無菌性髄膜炎からは1件検出されたのみであった。一方、ヘルパンギーナからは、コクサッキーウイルスA4型が3件と、コクサッキーウイルスA5型が2件検出された。

アデノウイルスは、30件検出され、1型と2型が各7件と最も多く検出されている。1型は、その他の疾患から4件、感染性胃腸炎から2件、手足口病から1件検出され、2型は感染性胃腸炎から3件、咽頭結膜熱から2件、その他の疾患から2件検出されていた。また、流行性角結膜炎からは、アデノウイルスは37型、54型が各2件、3型が1件検出された。

インフルエンザウイルス以外の呼吸器ウイルスとしては、本年はライノウイルスが15件検出され、前年（12件）よりやや増加した。

図1～4にインフルエンザ、手足口病、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎の過去5年間の月別患者報告数の推移と主な検出ウイルスを示した。インフルエンザは、23年1～3月にはA/H1pdm09亜型にA/H3亜型も加わった流行があり、24年はA/H1pdm09亜型がほとんど検出されなくなる一方でA/H3亜型が多数検出され、25年も同様な傾向であった。しかし、26年の1～3月には、再び、A/H1pdm09亜型が登場し、B型、A/H3亜型と共に混合流行した。手足口病では、23年は患者報告数が非常に多く、本県ではコクサッキーウイルスA16型、及びA6型が多く検出された。25年も患者報告数がやや多かったが、コクサッキーウイルスA6型が主に検出され、9月以降にはエンテロウイルス71型も検出された。26年は、引き続きエンテロウイルス71型が夏季に流行したが、その後はコクサッキーウイルスA16型が多く検出されている。ヘルパンギーナでは、患者報告数はほぼ例年並みであったが、前年多く検出されたコクサッキーウイルスA6型は姿を消し、コクサッキーウイルスA4型、A5型が検出された。また、無菌性髄膜炎は患者報告数が前年より大きく減少し、前年の流行の中心であったエコーウイルス30型が検出されず、コクサッキーウイルスB3型が最も多く検出された。無菌性髄膜炎の合併症については、表12に示した。また、表13に、インフルエンザの合併症を示した。

「その他の疾患」についての検査結果を表14 - 1、2に示す。検査対象疾病以外の検体は、この事業の本来の目的から逸脱するが、多数のウイルスが検出されているので、参考までに示す。

本年の病原体検査におけるウイルスの検出率は60%（542/908）となり、一昨年の52%、昨年の59%から向上している。

本年の本県におけるウイルス検出状況においては、前述した無菌性髄膜炎を除くと、全国的な傾向と大きく異なるものはなかった。

表 5 感染症発生動向調査検査結果（平成26年、福岡県全体）



表 6 感染症発生動向調査検査結果（平成26年、北九州市）



表 7 感染症発生動向調査検査結果（平成26年、福岡市）



表 9 - 1 過去 5 年間の疾病別・年次別ウイルス検出結果（その 1）



表 9 - 2 過去 5 年間の疾病別・年次別ウイルス検出結果（その 2）



表10 ウイルス型ごとの月別地域別検出状況（平成26年）



表11 地域ごとの月別ウイルス型別検出状況（平成26年）

		採 取 月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
デ ノ ウ イ ル ス	1 型	1				1							2
	2 型												1
	3 型	1											1
	型別不明				1		1	2					1
ン テ ロ ウ イ ル ス	71 型		2				1	2		1		6	
ク サ ッ キ ー ウ イ ル ス	A4 型							1	1				2
	A8 型							1					1
	A10 型										1		1
	A21 型										2		2
コ ー ウ イ ル ス	B3 型							4	1	2			7
	3 型											1	1
ン フ ル エ ン ザ ウ イ ル ス	A/H1pdm09 型	8	12	1						1	4		5
	A/H3 型	4	2	1	1								21
	B 型	1	13	15	8								9
					1						1		37
				1	1	4	1	1		2		1	2
純 へ ル ペ ス	1 型	1			1								7
		5	1	1	3	6		1	1	1			4



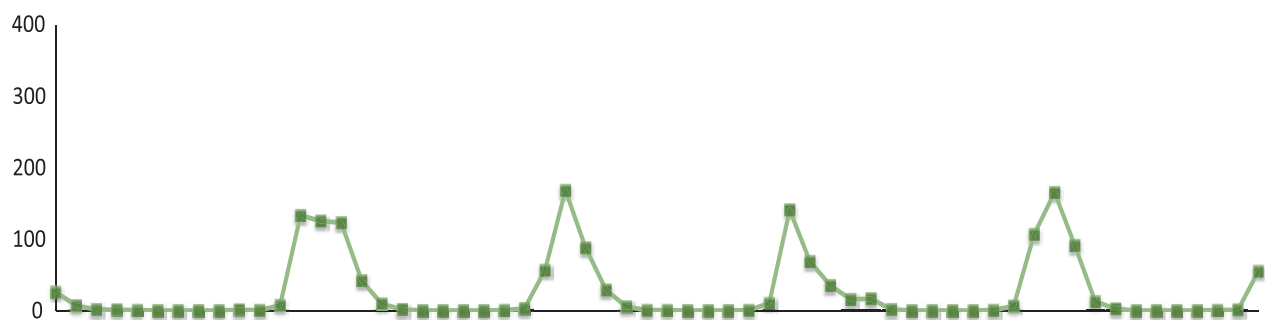


図1 インフルエンザの1定点あたりの患者報告数と検出ウイルス型

図2 手足口病の1定点あたりの患者報告数と検出ウイルス型

図3 ヘルパンギーナの1定点あたりの患者報告数と検出ウイルス型

図4 無菌性髄膜炎の1定点あたりの患者報告数と検出ウイルス型

表14 その他の疾患検査結果



2) 細菌編

検査材料及び検査方法

平成26年に結核・感染症発生動向調査事業として採取・搬入された検体は、1名分、1件であった。患者は麻痺（両手、下肢）と髄膜炎を呈した10歳児であり、採取された髄液は9月26日に搬入された。各種寒天培地に接種し、好気、微好気及び嫌気培養し、発育してきた菌について分離同定した。また、必要に応じ、遺伝子検査（塩基配列決定）を行った。

検査結果

髄液を塗抹した羊血液寒天培地（微好気培養）に十数個の集落が生育した。そら豆様のグラム陰性球桿菌であったことから、生化学的試験による同定を試みたが、詳細な同定が困難であった。そこで、16S rDNAと*cpn60*の塩基配列を決定した結果、*Moraxella osloensis*と同定された。本菌はヒトの口腔粘膜などの上気道の常在菌として知られている好気性のグラム陰性球桿菌で、病原性が低く感染症の起因菌として扱われることは、ほとんど無い。ただし、敗血症や髄膜炎などからの分離例が数例程度、報告（日本臨床微生物学会誌 Vol. 21 No.1 2011. 45-50）されている。

) 患者報告数情報

1) 地域別・疾病別年間報告数

表1 地域(ブロック)別・疾病別年間報告数(平成26年第1週~第52週)

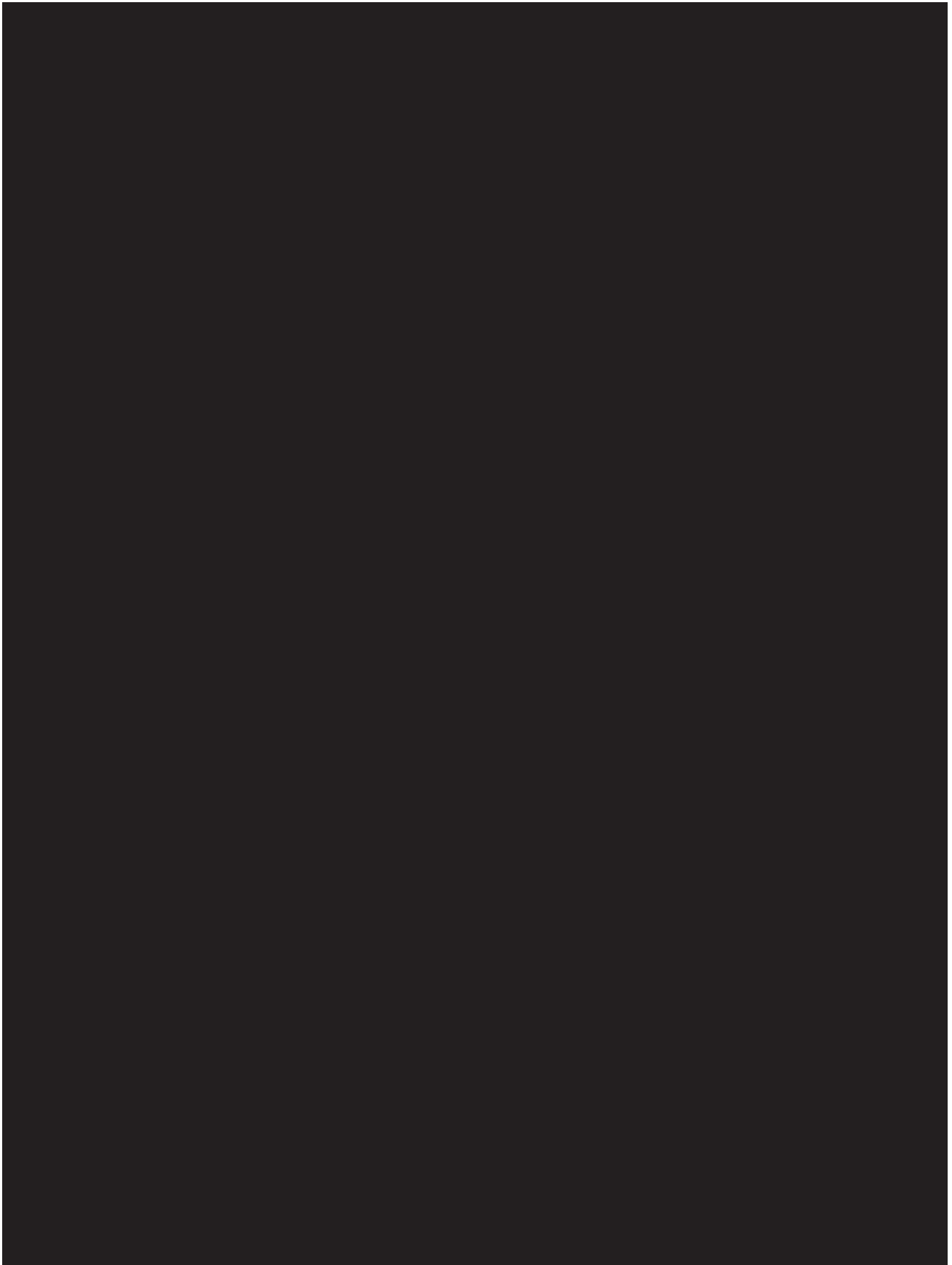
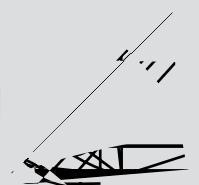


表2 地域(管轄)別・疾病別年間報告数(平成26年第1週~第52週)





3) 週別・疾病別報告数及び定点当たりの報告数





手足口病

伝染性紅斑

突発性発しん

百日咳

ヘルパンギーナ

流行性耳下腺炎

急性出血性結膜炎

流行性角結膜炎

細菌性髄膜炎[基幹]

無菌性髄膜炎[基幹]

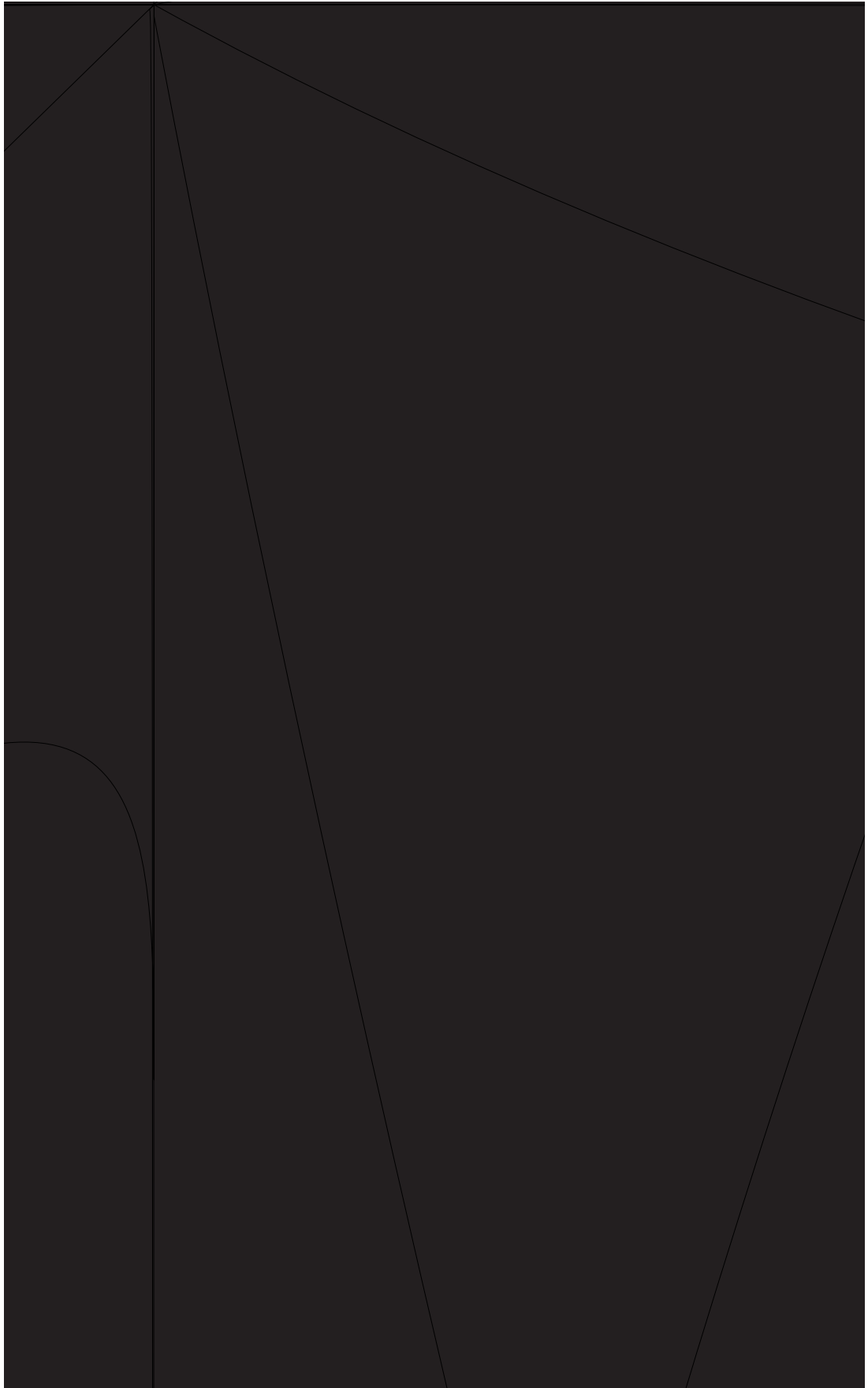
マイコプラズマ肺炎[基幹]

クラミジア肺炎[基幹]

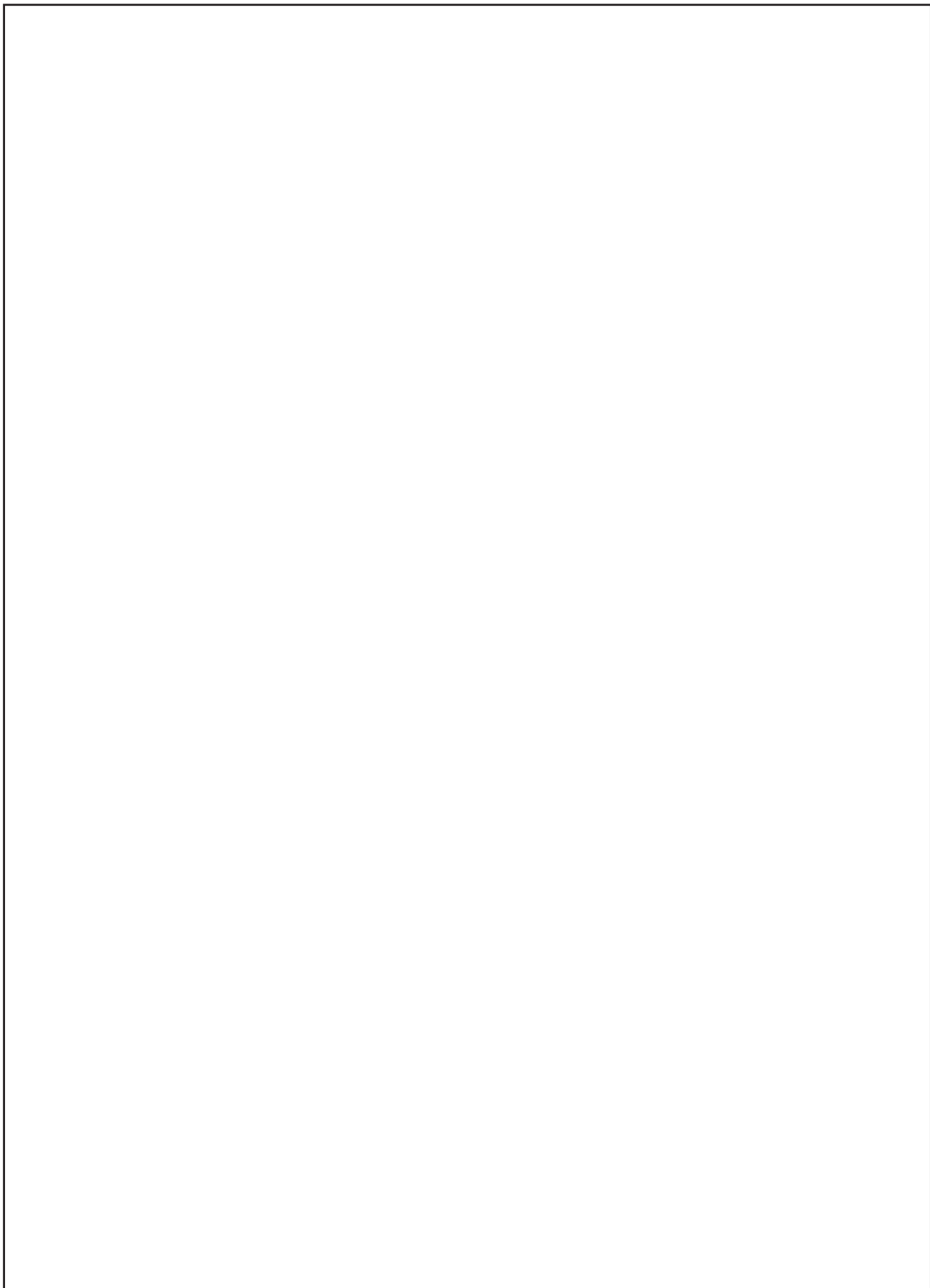
感染性胃腸炎(ロタウイルス)[基幹]

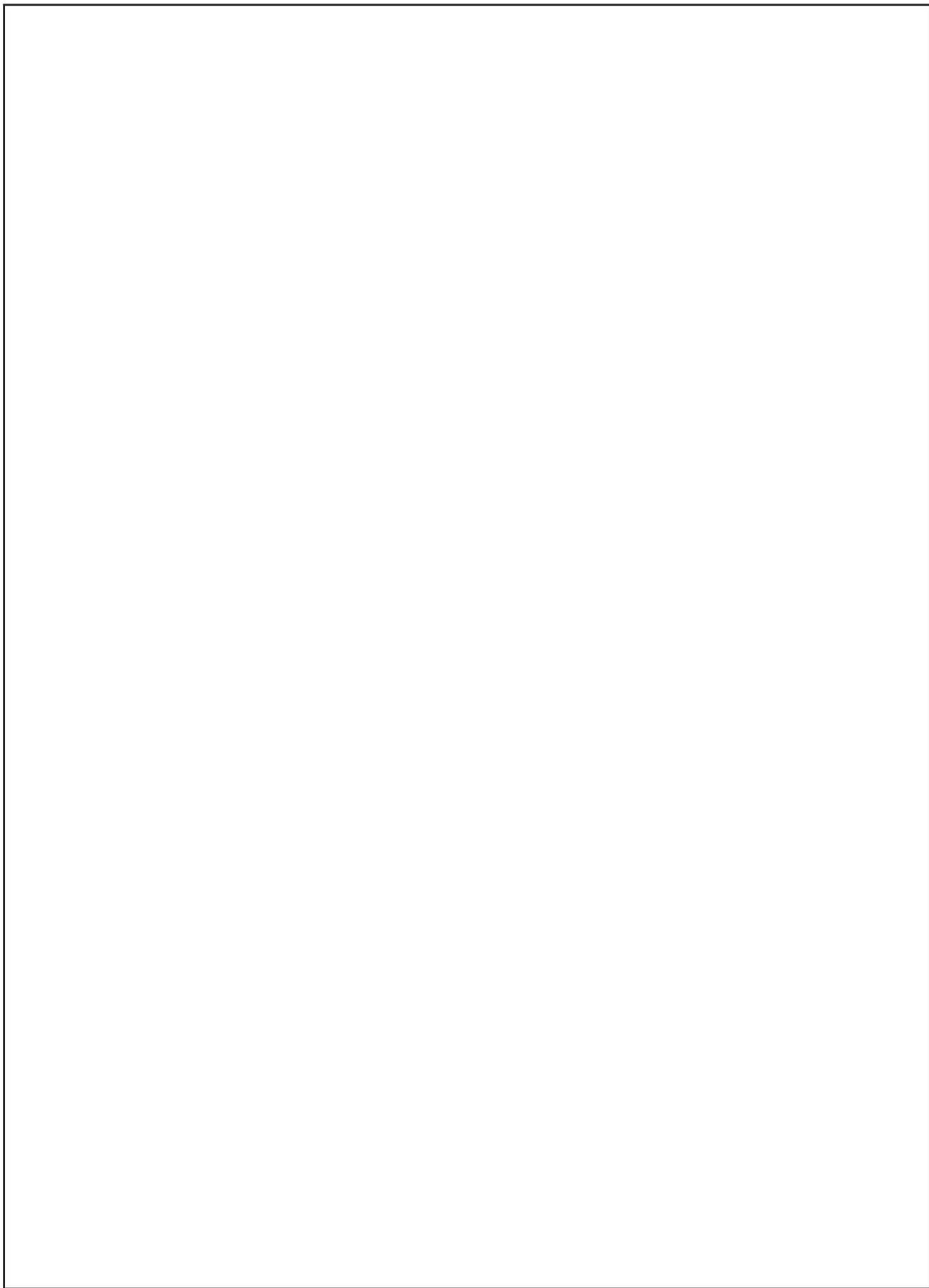


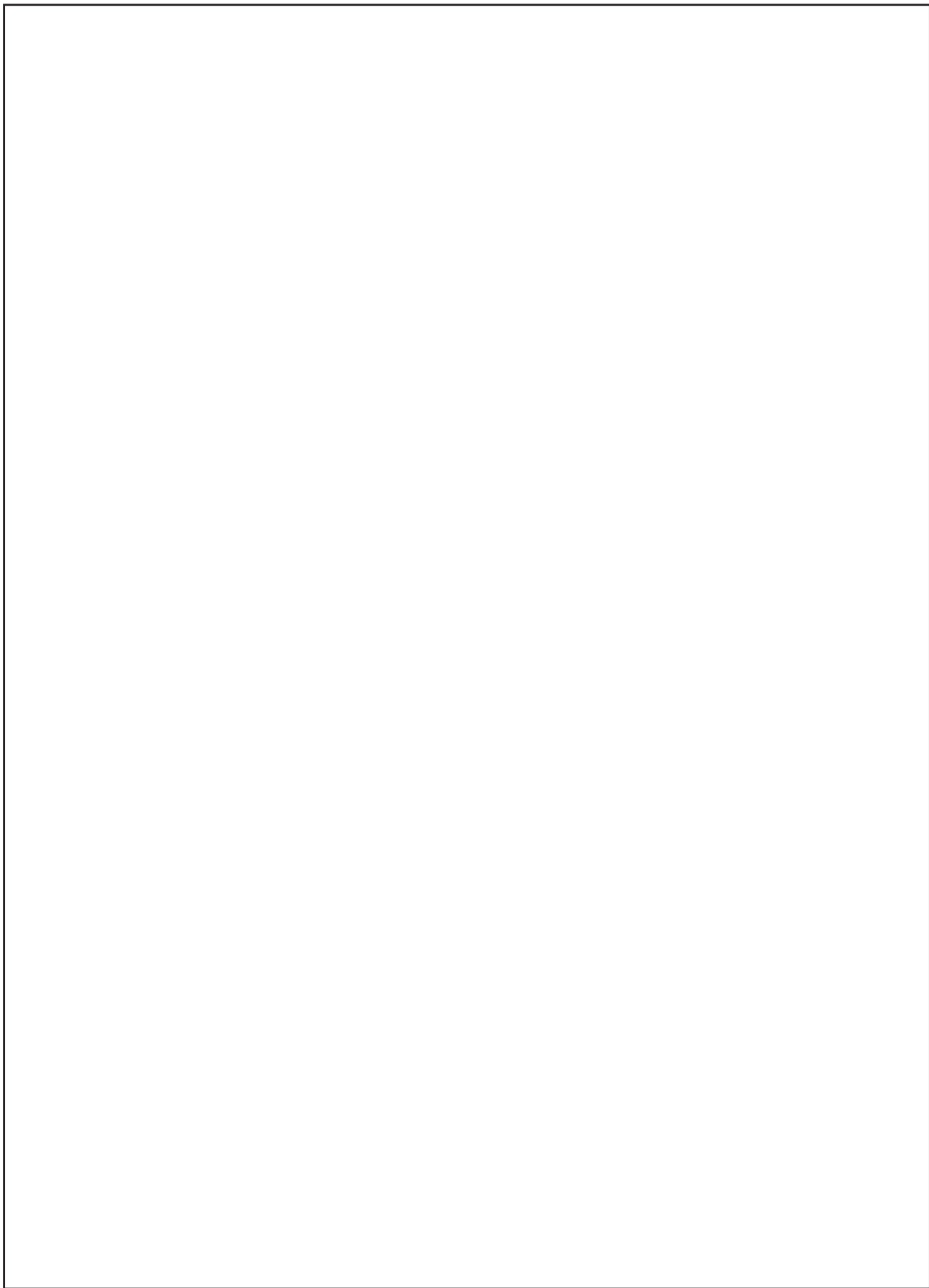




月 報







福岡県医師会ホームページ

福岡県医師会ホームページ

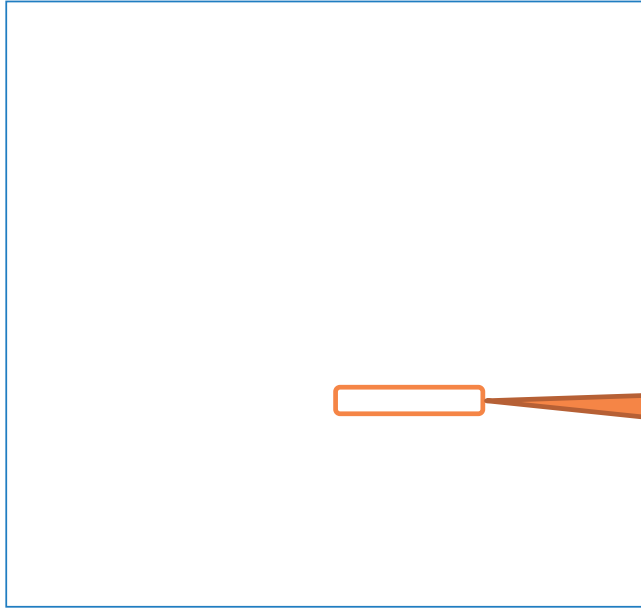
感染症発生動向
調査ページへ

疾病別 推移グラフへ

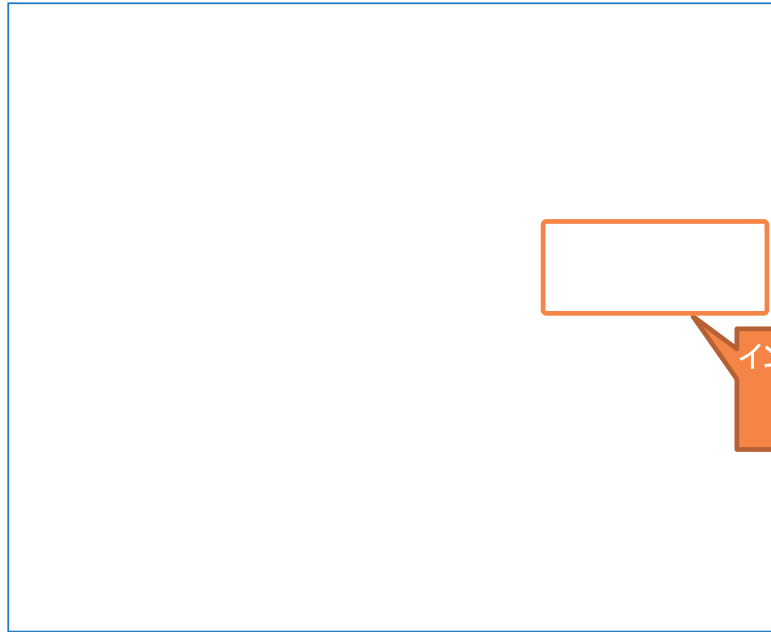
感染症発生動向調査 週間コメント

疾病別 推移グラフ(インフルエンザ)

福岡県医師会ホームページ・会員専用ページ



福岡県医師会ホームページ



インフルエンザ報告
状況マップへ
(会員専用)

拡大

インフルエンザ報告状況マップ

拡大及びバルーンの詳細表示



)記

事

1) 平成26年度福岡県結核・感染症発生動向調査委員会委員名簿

	氏 名	住 所	
○	青 木 知 信	福岡市東区香椎照葉5-1-1	福岡市立こども病院
	岡 田 賢 司	福岡市早良区田村2-15-1	福岡歯科大学
	池 松 秀 之	久留米市旭町67番地	久留米臨床薬理クリニック
	中牟田 誠 一	福岡市博多区下呉服町2-13 双和ビル2階	原三信泌尿器クリニック
	松 崎 義 和	福岡市博多区東公園7-7	福岡県結核予防会 県庁内診療所
	江 崎 卓 弘	古賀市千鳥1-1-1	国立病院機構福岡東医療センター
	吉 富 文 昭	太宰府市宰府2-9-13	太宰府吉富眼科医院
	宮 原 通 義	久留米市国分町1159	産婦人科宮原クリニック
	野見山 朋 彦	北九州市八幡東区祇園2-12-9	野見山医院
	千々和 勝 己	太宰府市大字向佐野39	福岡県保健環境研究所
	岩 本 治 也	福岡市博多区東公園7-7	福岡県保健医療介護部保健衛生課
	城 戸 妙 子	北九州市小倉北区城内1-1	北九州市保健福祉局保健医療部保健医療課
	衣 笠 有 紀	福岡市中央区天神1-8-1	福岡市保健福祉局健康医療部保健予防課
	佐 藤 敏 行	大牟田市不知火町1-5-1	大牟田市保健所
	岩 佐 一 弘	久留米市城南町15-5	久留米市保健所
	西 田 英 一	北九州市八幡東区中央1-2-13	野田医院
	池 田 幹 久	古賀市舞の里3丁目17-10	いけだ内科クリニック
	肘 井 孝 之	飯塚市川津84-1	ひじい小児科クリニック
	富 田 泰 生	朝倉市甘木1523-1	富田内科医院
	稲 光 毅	福岡市西区拾六町3丁目8-13	いなみつこどもクリニック
	香月 きょう子	北九州市門司区東門司2丁目9-13	池田医院

○...委員長・解析委員長

順不同

...副委員長・副解析委員長

...解析委員

2) 平成26年度福岡県結核・感染症発生動向調査研修会



3) 平成26年感染症発生動向調査定点観測医療機関名簿

-HtÉ	-Ht -"Á	y: -:"Á	@y:y:y yÉ	g É	ÉWyÚ	Eyyyyyyt	s •Jè	àü	j: y:
z Ý - ¢			¢©æ °J©Ã	æ Æ % æ	æÝ-æó"àò>		°	iNçπ²	
z Ý - ¢			fè'Ã	ù 'g'	ª £ °	zÝ-¢-ÔÆà ÃŠÉ	°Ç	iNçπ²	
z Ý - ¢			Äòpmi'Ã	á yç *	á yç *	zÝ-¢-ÔzàÄòp	°z	iNçπ²	Ó
z Ý - ¢			!a'Ã	! ayç [! ayç [zÝ-¢-Ôzà+Ú	°	iNçπ²	
z Ý - ¢			zÝ-¢q÷ -sÔxñ.ī»"	b Š %	™> '	zÝ-¢-Ôzà	°Ç	iNçπ²	
z Ý - ¢			zÝ-¢q@<'Ã-Çyx.ī»"	¢'« à	C Û m	zÝ-¢@<fàbŠÉ	°Ç	iNçπ²	Ó
z Ý - ¢			w%°J-«=+J«æÇ¿«	ú %	Á ú %	zÝ-¢@<bàAjÉ	°	iNçπ²	
z Ý - ¢			ËŠŠ°Jzu+J«æÇ¿«	Ë Š Š [™	Ë Š Š [™	zÝ-¢@<bà•EòZ	°z	iNçπ²	
z Ý - ¢			\Uv‡"«æÇ¿«	- Ú™	- Ú™	zÝ-¢@<bàGÉúØ	°	iNçπ²	
z Ý - ¢			¢©ñú°J©Ã	Ó ú \$	Ë Ò ú	zÝ-¢@<àñ æ	°e	iNçπ²	
z Ý - ¢			ia©Ã	! a Ä	É ! a Ä	zÝ-¢ !àò"z	°Çe	iNçπ²	
z Ý - ¢			¢©ñé-ÇJ©Ã	< é \$	' < é \$	zÝ-¢ó"à< /	e	-ÇJ	
z Ý - ¢			-X%°'-ÇJ	y l °	y l °	zÝ-¢ó"àËÉ	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			x q"-ÇJ«æÇ¿«	ð æç a	ð æç a	zÝ-¢ó"àfýÉ	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©ñs-ÇJ«æÇ¿«	+	'	zÝ-¢+ÔÆàíÁ	Ç°	-ÇJ	
z Ý - ¢			\$\{r«æÇ¿«	\$ {	\$ {	zÝ-¢-ÔÆàËœ_	Çžè	-ÇJ	
z Ý - ¢			ST_V r«æÇ¿«	, Zyç @	, Zyç @	zÝ-¢-ÔÆà'y p	Ç	-ÇJ	Ó
z Ý - ¢			{'w±i»©¿«æÇ¿«	ú ' +	ú ' +	zÝ-¢-ÔÆà!b>	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			{'w r«æÇ¿«	ú ó	Á ú ó	zÝ-¢-ÔÆàÆM	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			zÝ-¢q÷ -sÔxñ.ī»"	b Š %	™> '	zÝ-¢-Ôzà	°Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			zÝ-¢q@•.ī»"-ÇJ	[a	Ø ò	zÝ-¢-Ôzà	Ç°	-ÇJ	
z Ý - ¢			'i-ÇJ©Ã	b>•T"	b > \$	zÝ-¢-Ôzà	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			>π r«æÇ¿«	> π Y	. > π Y	zÝ-¢-ÔzàòZ	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			©ú-ÇJ°J©Ã	© ú •	. © ú •	zÝ-¢@<fàG	Ç°	-ÇJ	
z Ý - ¢			zÝ-¢q@<'Ã-ÇJ	¢'« à	¢'« à	zÝ-¢@<fàbŠÉ	Ç°	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©£•Z«æÇ¿«	- ðç ¼	- ðç ¼	zÝ-¢@<bà•	°Ç	-ÇJ	Ó
z Ý - ¢			¢©ñ °Je +J«æÇ¿«	y yç ~	y yç ž	zÝ-¢@<bà,œ	°e	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©ñ'sU-ÇJ©Ã	Ç Ò «	Ë Ç Ò	zÝ-¢@<bàGÈæ01ËÏ‡	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©ñM'X-ÇJ©Ã	G , m	™ G ,	zÝ-¢@<bàGÛ	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			M^ΛV-ÇJ°J	Z) ²	Z) ²	zÝ-¢@<bà™'¶ F	Ç°	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©ñq -ÇJ©Ã	\$ q ' q	\$ q ' q	zÝ-¢@<à-ó	Ç	-ÇJ	Ó
z Ý - ¢			Gj-ÇJ©Ã	G j	à G j	zÝ-¢@>à•w	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			\%'-ÇJ©Ã	y yç	y yç	zÝ-¢ !à<jÉ	Ç	-ÇJ	
z Ý - ¢			mi r«æÇ¿«	á > í	à á > í	zÝ-¢ !àŠÉ	Çžè	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©ñ‡{q-ÇJ©Ã	1 Š	5 1 Š	zÝ-¢ !àò"f	Ç°	-ÇJ	
z Ý - ¢			¢©ñZ«q{ª J©Ã	{ª Z	° {ª Z	zÝ-¢ó"àò>		J	
z Ý - ¢			- J©Ã	-	-	zÝ-¢-ÔzàfÉ		J	Ó
z Ý - ¢			á> J©Ã	á > £	b á > £	zÝ-¢-Ôzà j		J	
z Ý - ¢			J ²ú©Ã	² ú b	™ ² ú b	zÝ-¢@<bà,œ		J	
z Ý - ¢			¢©ñŽO J©Ã	*yç Y	*yç Y	zÝ-¢@<bà= wj		J	
z Ý - ¢			³æ J«æÇ¿«	³ æç -	³ æç -	zÝ-¢ !àfÉa		J	

-HtÉ	-Ht - "Á	y: - "Á	©y:y;y yÉ	g É	ÉWyÚ	Eyyyyyyt	s •Jè	àü	'j: y:
z Y - e			zY-tù'Á	i > Ú	ð v 7 Ó	izY-e-ÔÆàl'	ˆÉ{	()	
z Y - e			zY-eq©•i»{Ø+J	[a l	• Õ i ' * É	zY-e-Ôzà	{	()	
z Y - e			T~M{Ø+J«æÇz«	' a . .	' a . .	zY-e-Ôzà	{	()	
z Y - e			èÃY"µ«æÇz«X~wV^\ µi,ç'Á	ú H z	ú H z	zY-e-Ôzà§ÔÉ	ˆ~É	()	
z Y - e			µi,ç'Á	• l a	- < yç Ó	zY-e@<bà >	ˆ~É	()	
z Y - e			µi'É J«æÇz«	a í]	- a í]	zY-e@<bà Z	ˆ~É	()	
z Y - e			^qOèÃY"µ«æÇz«	Ô a m	Ô a	mzY-e@<bàKwá	ˆ~°	()	
z Y - e			µi'É J«æÇz«	yç K	ī yç K	zY-e@<bà!j	}~{	()	
z Y - e			zY-eq©•i»	[a l	• Õ É	zY-e-Ôzà	°-Ç-Ž	,ð	Ó
z Y - e			zY-eq@<'Á	ç'« à	ç'« à	zY-e@<fàbŠÉ	Ç-°-Ž	,ð	Ó
+p~l			" ©Á	" yç -	" yç -	l v0É•Ú	°~Ç	iŃçπ12	
+p~l			>µ{-'~Ç°J©Á	> µ ß °	> µ ß l°	zÉGÉóÓ	Ç~e	iŃçπ12	
+p~l			ç©µ°J©Á	yç]	æ yç]	æ ñáçfñ	°	iŃçπ12	
+p~l			í>©Á	í yç í	í yç í	ñáçv~	°~Ç	iŃçπ12	
+p~l			>í©Á	v Z µ	v Z µ	+pç™O	°	iŃçπ12	
+p~l			>µ{-'~Ç°J©Á	> µ ß °	> µ ß l°	zÉGÉóÓ	Ç	-ÇJ	
+p~l			l µ ©ÉqSæU'Á	? É	z a Ú	l lÉGÉÆZ	Ç	-ÇJ	
+p~l			ç©µi-ÇJ©Á	á > ™ Ó	á > ™ Ó	l +èÉ Éæ,•	Ç	-ÇJ	
+p~l			æ -ÇJ©Á	æ E	¾ æ	Æ æÁ•É	Ç	-ÇJ	
+p~l			ç©µmsU-ÇJ©Á	! i ó É	! i ó	ñáçv~	Ç	-ÇJ	
+p~l			KMi©Á	yç ©	yç ©	ñáçfñ y	Ç~°	-ÇJ	Ó
+p~l			ç©µæ\ r «æÇz«	° æ	™ ° æ	+pçf.	Ç	-ÇJ	
+p~l			vj-ÇJ©Á	v j "	\ v j "	\ +pçx òpbÉ	Ç	-ÇJ	
+p~l			•É J©Á	• É 9	\ • É 9	µ çÁ•É		J	
+p~l			+p J«æÇz«	! a Á	! a Á	ñáç>y		J	
+p~l			K"èÃY"µ«æÇz«	b ™	\$ b ™	+pç•>É	ˆ~É	()	
+p~l			+p©Éq'Á	G çç =	í > ' K	+pç>y	°	,ð	Ó
-		™	ç©µ\qGj'Á	G j D	™ Ç	óæçvçÉ	°	iŃçπ12	
-		™	úµ°J«æÇz«	ú µ ™	à ú µ	™µíáíBÉGÉÉú	°	iŃçπ12	
-		™	ç©µÉ_©Á	É_p í á	É_p í á	™í ™ íÉGÉ™Ó	°~Ž	iŃçπ12	
-		™	ha"-ÇJ©Á	> ò ~	> ò ~	~N ß>É >É	Ç	-ÇJ	
-		™	óÇ©Á	ó ÇÉ ó	[ó ÇÉ	óæççæÄ	Ç	-ÇJ	
-		™	ç©µ[r «æÇz«	w yç P	w yç P	æççÆG®	Ç	-ÇJ	Ó
-		™	‡Qi-ÇJ©Á	z > ~	™ z >	~[²™GÉ@0	Ç~°	-ÇJ	
-		™	ç©µZ•Vqf'Á	fyç m	fyç	™í bÉÉGÉz á	°~Ç	-ÇJ	
-		™	-pí'Á	• Hyç	' °yç æ	~N ß>ÉGÉyáÉ		J	
-		™	ç©µæ«æÇz«	- v]	2 - v]	æççbvç	{	()	
-		™	yæç'Á	Y q Á	™ µ	æçç"ÔÉ	Ž~«-°	,ð	Ó
ñ , ç f			•ã'Á°J	~ yç É	" Ô è	ñ,çfà•ã	°~Ç	iŃçπ12	
ñ , ç f			y>°J-ÇJ©Á	y yç J	y yç J	ñ,çfà Z	°~Ç	iŃçπ12	
ñ , ç f			OQw°J«æÇz«	í ú]	¾ í ú]	ñ,çfàóãz	°	iŃçπ12	

-HtÊ	-Ht - "Ä	y: - "Ä	©y•y:y yÊ	g Ê	ËWyÚ	Eyyyyyyt	s •Jè	àü	'j: y:
ñ , e f			¤ °J©Ä	¤ yç p	¤ yç p	ñ,efàã!j	°	iÑçπ²	Ó
ñ , e f			ñ,eq r<'Ä	ñ O i ° à	h æ OE	ñ,efàóã°?	°-Ç-z	-ÇJ	Ó
ñ , e f			¢©B"•b-ÇJ©Ä	ÿ t ,	ÿ t ,	ñ,efàšaZ	Ç	-ÇJ	Ó
ñ , e f			¢©KSy«æÇ¿«	• { G %	• { 6	ñ,efàh?	Ç~°	-ÇJ	
ñ , e f			‡Q r<©Ä	² > 9 ™	² >	ñ,†fà v	Ç~°	-ÇJ	
ñ , e f			^T<q-ÇJ©Ä	T Š \$	T Š \$	ñ,efàj>	Ç	-ÇJ	
ñ , e f			sæ"-ÇJ	Æ I D	'Æ I D	ñ,efà•ã	Ç	-ÇJ	
ñ , e f			¢©Bæ-ÇJ	â æ	\$ â æ	ñ,šfàóãú²	Ç~žè	-ÇJ	
ñ , e f			›¤ J©Ä	›¤ ö °	›¤ ö	ñ,efàÊa		J	
ñ , e f			ñ,eq r<'Ä	ñ O i ° à	h æ OE	ñ,efàóã°?	°-Ç-z	,ð	Ó
ñ,ç\$			¢©B«æÇ¿«	ÿyç %	ÿyç %	ñ,ç\$ à<'zÊ	°~£	iÑçπ²	
ñ,ç\$!-°J«æÇ¿«	!-~æ	!-~æ	ñ,ç\$ à¤1	°	iÑçπ²	
ñ,ç\$			¢©B qB"¤¤«æÇ¿«	N y • ²	N y •	ñ,ç\$ à30Ê	°	iÑçπ²	
ñ,ç\$			¢©£ú-ÇJ©J©Ä	ú ó 5	ò >	U ñ ç\$ à•E	Ç~°	-ÇJ	
ñ,ç\$			¤OE-ÇJ©Ä	¤ OEç	¤ OEç	ñ,ç\$ à¤-ðÊ	Ç	-ÇJ	
ñ,ç\$			" -ÇJ©Ä	" • ð	" • ð	ñ,ç\$ àÜ1Ê	Ç~'	-ÇJ	
ñ,ç\$			¢©Bª© qGa J'Ä	!ª 1	!ª 1	ñ,ç\$ àí-ðÊ		J	Ó
ñ,ç\$			j-ð'Ä{Ø+J	yç Ê	• ± 3	ñ,ç\$ àG\$Ê	{	()	y
ñ,ç\$			j-ð'Ä'Ê J	yç Ê	á > OE	ñ,ç\$ àG\$Ê	'-Ê-Æ	()	y
ñ,ç\$			¢©B<^Ê J©Ä	ÿ <)	8 ÿ yç	ñ,ç\$ à30Ê	^~Ê	()	
ñ,ç¤			¿•©Ä	¿ yç -	¿ yç -	ñ,ç¤ à_b	°~Ç	iÑçπ²	
ñ,ç¤			¢©B q-P°J«æÇ¿«	- P Ä ™	- P	ñ,ç¤ àÄ	°~z	iÑçπ²	
ñ,ç¤			¢©£>°J-£ÍJ«æÇ¿«	> 9 ™	> 9	ñ,†fà àxÄ	°	iÑçπ²	
ñ,ç¤			™{-ÇJ©Ä	™ { i °	™ { i	ñ,ç¤ àð-	Ç	-ÇJ	
ñ,ç¤			‡m_V-ÇJ©Ä	!7 Ò æ	ò !7 Ò	ñ,ç¤ à•Z	Ç	-ÇJ	
ñ,ç¤			¢©£' J©Ä	Z yç p	Z yç p	ñ,ç¤ àl%è		J	
ñ,ç¤			Žæ©Ä	Ž æ ž	" Ž æ	ñ,ç¤ àb¤1	}-{	()	
ñ,ç¤			¢©£.._©Ä	..._D q %	..._D q %	ñ,ç¤ àð-	}-{	()	
ñ,ç¤			^W•‡{Ø+«æÇ¿«] • è %] • è	ñ,ç¤ à1	{	()	
ñ,ç¤			ÿèÄÿ"¤«æÇ¿«	ÿyç] p	ÿyç] p	ñ,ç¤ àð-	^Ê~°	()	
ñ,ç¤			q'Ä;Íÿ-©•i»"	nyç «	j Ä	ñ,ç¤ à•æ¿	°-Ç-{	,ð	Ó
ñ , ç Æ			™i°J©Ä	™ i °	J	ñ,çÆ à#	°~z	iÑçπ²	
ñ , ç Æ			¢©B%qÖE©Ä	ýy' à	ýy % à	ñ,çÆ àÖE	°~z	iÑçπ²	
ñ , ç Æ			-›°J-ÇJ©Ä	-› Z í	-› Z	ñ,çÆ àðv	°~Ç	iÑçπ²	
ñ , ç Æ			ú±°J«æÇ¿«	ú ± 2 8	ú ± 2	ñ,çÆ à0 j	°	iÑçπ²	
ñ , ç Æ			q'Ä;Íñ,'Ä	i OE 3 Š	OE Z	ñ,çÆ à0 j	°-Ç-Ž	-ÇJ	Ó
ñ , ç Æ			~, -ÇJ	~, a ð	~, a	ñ,çÆ àªò	Ç	-ÇJ	
ñ , ç Æ			¢©B#qáí-ÇJ©Ä	a í # à	a í #	ñ,çÆ à&j	Ç	-ÇJ	
ñ , ç Æ			•sM-ÇJ«æÇ¿«	Š a ð	Š a ð	ñ,çÆ àÖE	Ç	-ÇJ	
ñ , ç Æ			X-T'^j-ÇJ«æÇ¿«	' ' OE	' ' OE	ñ,çÆ àG©	Ç	-ÇJ	
ñ , ç Æ			t'i J©Ä	b yç \$	b yç \$	ñ,çÆ àG©		J	

-HtÊ	-Ht - "Ã	y: - "Ã	©y•y:y yÊ	g Ê	ÊWyÚ	Eyyyyyyt	s •Jè	àü	j: y:
E6-œ			{ª{ø+J©Ã	{ ª ª	{ ª ª	lgéœgé	{	()	
E6-œ			œ©ª, 'Ê J©Ã	! , ' Ú	! , ' Ú	Úgéœgé	^~Ê	()	
E6-œ			þq-eÚM'Ã	T Ŗç Ü	fyç •™	ÚMœGÊ•æ	°	,ø	Ó
E6-œ			gé'Ã	ÿ Š E	2 ¨	YgéœUŠÊ	°-Ç-{	,ø	Ó
>	'		>'œq'Ã°J	ø Ð J	ĩ H ø Y	>œGÊ!	°	iÑçª²	
>	'		þq-e>'Ã°J	> ¨	6 º ú a	œ'œíŠÊ	°	iÑçª²	
>	'		³>Êq'øp'Ã°J	Z ' U	+ í æ	þ'³>Ê	°	iÑçª²	
>	'		>'œq'Ã-ÇJ	ø Ð J	ĩ Ayç ~	ø>'œGÊ!	Ç	-ÇJ	Ó
>	'		þq-e>'Ã-ÇJ	> ¨	6 • { þ	œ'œíŠÊ	Ç	-ÇJ	
>	'		œ©hsTw•S-ÇJ©Ã	> ¨ ø	Ê > ¨	ø>œvœÊ	Ç	-ÇJ	
>	'		³>Êq'-p'Ã-ÇJ	Z ' U	O ú °	à'³>Ê	Ç	-ÇJ	
>	'		œ©Nyqqáæ-ÇJ©Ã	á æ q ¨	á æ	œ'ªZÊ>j	Ç	-ÇJ	
>	'		Ó» J©Ã	Ó » H °	Ó »	H'œj>Ê		J	
>	'		þq-e>'ÃÊ J	> ¨	6 iyç 9	>'œíŠÊ	^~Ê	()	
>	'		>'œq'Ã	ø Ð J	ĩ { > S	>'œGÊ!	°-Ç-Ž	,ø	Ó
q y œ			œ©ª'q†š'Ã°J	† Ŗç ?	t©!ù	qy œ-šÊÃ-	°	iÑçª²	
q y œ			œ©Mwxj©Ã	' ±)	œ ' ±)	œœ œ üÊ	°	iÑçª²	Ó
q y œ			•w©Ã	ü ú 2	% ü ú	2qy%œ³(ÊÊ)>	°~z	iÑçª²	
q y œ			G³Ê©Ã	v jyç ' v	jyç ' v	qy œG³ÊÊvŠ	°	iÑçª²	
q y œ			>ª°J©Ã	> ¨ 9	í > ¨ 9	qy œzúÊ •	°	iÑçª²	
q y œ			j>©Ã	j >yç [j >yç [qy œ> Ž	Ç	-ÇJ	
q y œ			Oú-ÇJ©Ã	O ú ø	V O ú	œyVø üÊy	Ç	-ÇJ	
q y œ			_Úæž'Ã-ÇJ	ayç Á ¨	G æ	qy œánŠÊ	Ç~°	-ÇJ	Ó
q y œ			-ÇJªí©Ã	ª iyç ĩ	ª iyç ĩ	qy œójÊ	Ç	-ÇJ	
q y œ			M%h-ÇJ	•Ã>Ê\$	•Ã>Ê\$	qy œ!ZúÊ	Ç	-ÇJ	
q y œ			TqO-ÇJ©Ã	C { è ~	C { è	qy œG³ÊÊ÷ì	Ç	-ÇJ	
q y œ			t' J©Ã	t' C I	t' C I	qy œóa		J	
q y œ			•-©•;ó* ;ïyqy iù'Ã	> ¨ ,	D > l)	œy œójÊ)-(-Ê	()	
q y œ			^•x'Ê J©Ã	v j Z °	v j Z	qy œÓbÊ	^	()	
q y œ			4>©Ã	4 > "	4 > "	qy œ!áÊ	{	()	
q y œ			_Úæž'Ã	ayç Á ¨	yç [qy œánŠÊ	°-Ž-Ç	,ø	Ó
G Ã >			GÃ>œq'Ã°J	ú ± è /	í[z y	GÃ>œETÊ	°	iÑçª²	
G Ã >			A\qGÃ>'Ã	` 'yç Ü	> ¨ m	œÃ>œ>þ	°	iÑçª²	
G Ã >			œ©AU-ÇJ©Ã	y l ~	É y l ~	œÃ>œGÊ'	Ç-žè	-ÇJ	
G Ã >			þq-eGÃ>1-'Ã-ÇJ	? Š G	ì \ > Y	GÃ>œ1-Ê	Ç	-ÇJ	
G Ã >			GÃ>œq'Ã-ÇJ	ú ± è /	í[z y	GÃ>œETÊ	Ç	-ÇJ	
G Ã >			•†T~«œÇ¿«	• ' ' °	• ' ' °	GÃ>œª('Ê	Ç~°	-ÇJ	
G Ã >			ªT J©Ã	ª T	É ª T	œÃ>œ!Ê		J	
G Ã >			>>«œÇ¿«	> > H	>>H°à	GÃ>œfyÊ	{	()	
G Ã >			œ^Ê J«œÇ¿«	' ~ °	' ~ °	°GÃ>œyÊ	^~Ê	()	
G Ã >			œ©Bfqj'Ê J©Ã	f jyç *	f jyç *	GÃ>œGÊÕi	^~Ê	()	

) 参 考 资 料

1) 感染症発生動向調査事業実施要綱 (平成27年1月21日 一部改正)

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からはコンピュータを用いたオンラインシステムにおいて27疾病を対象にする等、充実・拡大されて運用されてきたところである。平成10年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第114号。以下「法」という。)が成立し、平成11年4月から施行されたことに伴い、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への的確な提供・公開について、同法第三章(第12条～第16条)による施策として感染症発生動向調査を位置づけ、医師等の医療関係者の協力のもと、的確な体制を構築していくこととする。

第2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ベスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)(12) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)(13) 鳥インフルエンザ(H5N1)(14) 鳥インフルエンザ(H7N9)

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E型肝炎、(21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)(22) A型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回歸熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFVウイルスであるものに限る。)(34) 腎症候性出血熱、(35) 西部ウマ脳炎、(36) ダニ媒介脳炎、(37) 炭疽、(38) チクングニア熱、(39) つつが虫病、(40) デング熱、(41) 東部ウマ脳炎、(42) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)(43) ニバウイルス感染症、(44) 日本紅斑熱、(45) 日本脳炎、(46) ハンタウイルス肺症候群、(47) Bウイルス病、(48) 鼻疽、(49) ブルセラ症、(50) ベネズエラウマ脳炎、(51) ヘンドラウイルス感染症、(52) 発しんチフス、(53) ボツリヌス症、(54) マラリア、(55) 野兎病、(56) ライム病、(57) リッサウイルス感染症、(58) リフトバレー熱、(59) 類鼻疽、(60) レジオネラ症、(61) レプトスピラ症、(62) ロッキーマウンテン紅斑熱

五類感染症(全数)

(63) アメーバ赤痢、(64) ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)(65) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(66) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)(67) クリプトスポリジウム症、(68) クロイツフェルト・ヤコブ病、(69) 劇症型

溶血性レンサ球菌感染症、(70) 後天性免疫不全症候群、(71) ジアルジア症、(72) 侵襲性インフルエンザ菌感染症、(73) 侵襲性髄膜炎菌感染症、(74) 侵襲性肺炎球菌感染症、(75) 水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)(76) 先天性風しん症候群、(77) 梅毒、(78) 播種性クリプトコックス症、(79) 破傷風、(80) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(81) バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(82) 風しん、(83) 麻しん、(84) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(110) 新型インフルエンザ、(111) 再興型インフルエンザ

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症(定点)

(85) RSウイルス感染症、(86) 咽頭結膜熱、(87) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(88) 感染性胃腸炎、(89) 水痘、(90) 手足口病、(91) 伝染性紅斑、(92) 突発性発しん、(93) 百日咳、(94) ヘルパンギーナ、(95) 流行性耳下腺炎、(96) インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)(97) 急性出血性結膜炎、(98) 流行性角結膜炎、(99) 性器クラミジア感染症、(100) 性器ヘルペスウイルス感染症、(101) 尖圭コンジローマ、(102) 淋菌感染症、(103) クラミジア肺炎(オウム病を除く。)(104) 細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)(105) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106) マイコプラズマ肺炎、(107) 無菌性髄膜炎、(108) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109) 薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(112) 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)(113) 発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13) 鳥インフルエンザ(H5N1)

第3 実施主体

実施主体は、国、都道府県及び保健所を設置する市(特別区を含む。)とする。

第4 実施体制の整備

1 中央感染症情報センター

中央感染症情報センターは、都道府県、保健所を設置する市及び特別区(以下「都道府県等」という。)の本庁から報告された患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、その結果を全国情報として速やかに都道府県等に提供・公開するための中心的役割を果たすものとして、国立感染症研究所感染症疫学センター内に設置する。

2 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは各都道府県等域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、都道府県等の本庁に報告する

とともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1カ所、地方衛生研究所等の中に設置する。また、都道府県、保健所を設置する市、特別区間等の協議の上、当該都道府県内の地方感染症情報センターの中で1カ所を基幹地方感染症情報センターとして、都道府県全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付するものとする。

なお、以下の実施方法において、地方感染症情報センターが都道府県等の本庁の役割を代替する機能を担うことができるものとする。

3 指定届出機関（定点）

都道府県は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

4 感染症発生動向調査企画委員会

（1）中央感染症発生動向調査企画委員会

本事業の適切な運用を図るために、厚生労働省に国立感染症研究所の代表、全国の保健所及び地方衛生研究所の代表、その他感染症対策に関する学識経験者からなる中央感染症発生動向調査企画委員会を置く。同委員会の事務局は中央感染症情報センターとする。

（2）地方感染症発生動向調査企画委員会

各都道府県域内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、都道府県に小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、微生物学、疫学、獣医学等の専門家、保健所及び地方衛生研究所の代表、地域の医師会の代表等（10名程度）からなる地方感染症発生動向調査企画委員会を置く。同委員会の事務局は地方感染症情報センターとする。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

（1）調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を届出基準等通知に基づき診断した場合は、別に定める基準に基づき直ちに最寄りの保健所に届出を行う。また保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式の検査票を添付して地方衛生研究所（地方衛生研究所を設置しない都道府県等にあっては、検査事務を適法に委託した他の都道府県等の設置する地方衛生研究所。以下同じ。）に送付する。

イ 保健所

当該届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。また、保健所は、当該患者（第2の(5)を除く。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の地方衛生研究所への提供について、別記様式の検査票を添付して依頼するものとする。

保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 地方衛生研究所

地方衛生研究所は、別記様式の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式により保健所、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターに送付する。

検査のうち、地方衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

地方衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、都道府県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、地方衛生研究所から検査依頼を受けた検体について検査を実施し、その結果を当該地方衛生研究所及び中央感染症情報センターへ通知する。

オ 都道府県等の本庁

都道府県等の本庁にあっては、それぞれの管内の患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

都道府県等の本庁にあっては、別記様式をもって地方衛生研究所から送付された検査情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

カ 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下カ及びキにおいても同じ。）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。

基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

キ 中央感染症情報センター

中央感染症情報センターは、都道府県等で確認された患者情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報を、全数把握の五類感染症、定点把握の五類感染症及び疑似症の収集、分析結果とともに、週報（月単位の場合は月報）等として作成して、都道府県等の本庁に提供する。

中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から報告された病原体情報及びエに基づいて国立感染症研究所が実施した検査の情報の分析評価を行い、その結果を速やかに都道府県等の本庁に送付するとともに、必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等に掲載する。

2 全数把握対象の五類感染症

（1）調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）の患者を診断した医師は、別に定める基準に基づき診断後7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。また保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式の検査票を添付して地方衛生研究所に送付する。

イ 保健所

当該届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。また、保健所は、第2の(63)、(65)、(66)、(68)から(70)まで、(73)、(76)又は(78)から(84)までの患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の地方衛生研究所への提供について、別記様式の検査票を添付して依頼するものとする。

保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 地方衛生研究所

地方衛生研究所は、別記様式の検査票と検体又は病原体情報等が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式により保健所、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターに送付する。

検査のうち、当該地方衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

地方衛生研究所は、都道府県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、地方衛生研究所から検査依頼を受けた検体について検査を実施し、その結果を当該地方衛生研究所及び中央感染症情報センターへ通知する。

オ 都道府県等の本庁

都道府県等の本庁にあっては、それぞれの管内の患者情報について、保健所が診断した医師から届出を受けてから7日以内に、登録情報の確認を行う。

都道府県等の本庁にあっては、別記様式をもって地方衛生研究所から送付された検査情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

カ 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての患者情報及び病原体情報(検査情報を含む。以下カ及びキにおいて同じ。)を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。

基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

キ 中央感染症情報センター

中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁で確認された患者情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報について、一類感染症から四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、定点把握の五類感染症及び疑似症の収集、分析結果とともに、週報(月単位の場合は月報)等として作成して、都道府県等の本庁に提供する。

中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から報告された病原体情報及びエに基づいて国立感染症研究所が実施した検査の情報の分析評価を行い、その結果を速やかに都道府県等の本庁に送付するとともに、必要に応じて週報(月単位の場合は月報)等として掲載す

る。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、別に定める報告基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、都道府県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ当該都道府県全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮すること。

対象感染症のうち、第2の(85)から(95)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関(主として小児科医療を提供しているもの)を小児科定点として指定すること。小児科定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

保健所管内人口	定点数
～3万人	1
3万人～7.5万人	2
7.5万人～	$3 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 5\text{万人}$

対象感染症のうち、第2の(96)に掲げるインフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。)については、前記で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関(主として内科医療を提供しているもの)を内科定点として指定し、両者を合わせたインフルエンザ定点及び別途後記に定める基幹定点とすること。内科定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	1
7.5万人～12.5万人	2
12.5万人～	$3 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

なお、基幹定点における届出基準は、インフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定されることに留意すること。

対象感染症のうち、第2の(97)及び(98)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関(主として眼科医療を提供しているもの)を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定点数
～12.5万人	0
12.5万人～	$1 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 15\text{万人}$

対象感染症のうち、第2の(99)から(102)に掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科(産婦人科系)医療法施行令(昭和23年政令第326号)第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関(主として各々の標榜科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定すること。性感染症定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定点数
～7.5万人	0
7.5万人～	$1 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 13\text{万人}$

対象感染症のうち、第2の(88)のうち病原体が口タウイルスであ

るもの及び(103)から(109)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を2次医療圏毎に1カ所以上、基幹定点として指定すること。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、都道府県は、病原体定点を選定する。この場合においては、次の点に留意する。

原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定すること。

アのにより選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点として、第2の(86)から(88)まで、(90)及び(93)から(95)までを対象感染症とすること。

アのにより選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点として、第2の(96)を対象感染症とすること。

アのにより選定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として、第2の(97)及び(98)を対象感染症とすること。

アのにより選定された患者定点は、全て基幹病原体定点として、第2の(88)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(104)及び(107)を対象感染症とすること。

(3) 調査単位等

ア 患者情報のうち、(2)のアの、及び(第2の(105)、(108)及び(109)に関する患者情報を除く。)により選定された患者定点に関するものについては、1週間(月曜日から日曜日)を調査単位として、(2)のアの及び(第2の(105)、(108)及び(109)に関する患者情報のみ)により選定された患者定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

イ 病原体情報については、原則として結果がまとまり次第、報告することとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における別に定める報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(2)のアのにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、別に定める基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

病原体定点で採取された検体は、別記様式の検査票を添えて、速やかに地方衛生研究所へ送付する。

ウ 保健所

保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへ報告する。

保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、

市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

エ 地方衛生研究所

地方衛生研究所は、別記様式の検査票及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として病原体定点に通知するとともに、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターに送付するものとする。

検査のうち、当該地方衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

地方衛生研究所は、都道府県域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

オ 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、地方衛生研究所から検査依頼を受けた検体について検査を実施し、その結果を当該地方衛生研究所及び中央感染症情報センターへ通知する。

カ 都道府県等の本庁

都道府県等の本庁にあつては、それぞれの管内の患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

都道府県等の本庁にあつては、別記様式をもって地方衛生研究所から送付された病原体情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

キ 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。

基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

ク 中央感染症情報センター

中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から伝送された患者情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報を、一類から四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、全数把握の五類感染症及び疑似症の収集、分析結果とともに、週報(月単位の場合は月報)等として作成し、都道府県等の本庁に送付する。

中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から報告された病原体情報及び前記オに基づいて国立感染症研究所が実施した検査の情報の分析評価を行い、その結果を速やかに都道府県等の本庁に送付するとともに、必要に応じて週報(月単位の場合は月報)等に掲載する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、別に定める報告基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症の発生状況を地域的に把握するため、都道府県は次の点に留

意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ当該都道府県全体の疑似症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

対象疑似症のうち、第2の(112)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）又は内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点として指定すること。

また、第2の(113)に掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）又は皮膚科を標榜する医療機関（主として皮膚科医療を提供しているもの）を第二号疑似症定点として指定すること。

なお、各疑似症定点の数は下記の計算式を参考として算定するとともに、内科を標榜する医療機関については、第5の3(2)アに掲げる基幹定点の要件を満たす病院を2次医療圏毎に1カ所以上含むよう考慮すること。

保健所管内人口	定点数
～3万人	3
3万人～7.5万人	4
7.5万人～12.5万人	7
12.5万人～	$7 + 6 \times (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における別に定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

(2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、別に定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。

の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 保健所

保健所は、疑似症定点における症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへ報告する。

保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 都道府県等の本庁

都道府県等の本庁にあっては、それぞれの管内の疑似症情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

エ 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。

基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表され

る全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

オ 中央感染症情報センター

中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から伝送された疑似症情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報を、一類から四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、全数把握の五類感染症及び定点把握の五類感染症の収集、分析結果とともに、週報等として作成し、都道府県等の本庁に送付する。

5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 保健所

鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査を実施した保健所は、別に定める基準に従い、直ちに疑似症例調査支援システムに調査内容を入力するものとする。

なお、医療機関より提出される検体には、疑似症例調査支援システムが発行する検査依頼票を添付すること。

(2) 地方衛生研究所

ア 地方衛生研究所は、検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その内容を直ちに疑似症例調査支援システムに入力する。
イ 鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。

(3) 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、地方衛生研究所から送付された検体について検査を実施し、その結果を直ちに疑似症例調査支援システムに入力する。

6 その他

(1) 感染症発生動向調査は、全国一律の基準で実施されるべきものであるが、上記の実施方法以外の部分について、必要に応じて、各都道府県等の実状に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくことが求められる。

(2) 政令市又は特別区において、当該検査事務を他の地方公共団体に委託する場合には、地方自治法(昭和22年法律第67号)第252条の14の規定の定めるところによること。

(3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康局長が定めることとする。

第6 費用

国は、本事業に要する費用のうち、都道府県が支弁する法第14条から第16条の規定に基づく本事業の事務に要する費用に対して、法第61条の規定に基づき負担する。

第7 実施時期

この実施要綱は、平成11年4月1日から施行する。ただし、病原体情報及び病原体定点に関する項目については、各都道府県等において実施可能となり次第、実施することとして差し支えない。

この実施要綱の改正は、平成14年11月1日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成18年4月1日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成18年6月12日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成18年11月22日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成19年4月1日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成20年1月1日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成20年4月1日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成20年5月12日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成23年2月1日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成23年9月5日から施行する。ただし、第5の3の(2)の指定については、平成23年7月29日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成25年5月6日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。
この実施要綱の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。

2) 医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準

平成27年1月21日

}¶:úrwoÁ °¨ò)±

1	エボラ出血熱
2	クリミア・コンゴ出血熱
3	痘そう
4	南米出血熱
5	ベスト
6	マールブルグ病
7	ラッサ熱

Ë¨ò)±

1	急性灰白髄炎
2	結核
3	ジフテリア
4	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）
5	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSCORONAウイルスであるものに限る）
6	鳥インフルエンザ（H5N1）
7	鳥インフルエンザ（H7N9）

~¨ò)±

1	コレラ
2	細菌性赤痢
3	腸管出血性大腸菌感染症
4	腸チフス
5	パラチフス

¨ò)±

1	E型肝炎
2	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）
3	A型肝炎
4	エキノコックス症
5	黄熱
6	オウム病
7	オムスク出血熱
8	回帰熱
9	キャサヌル森林病
10	Q熱
11	狂犬病
12	コクシジオイデス症
13	サル痘
14	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFITウイルスであるものに限る）
15	腎症候性出血熱
16	西部ウマ脳炎
17	ダニ媒介脳炎
18	炭疽
19	チクングニア熱
20	つつが虫病
21	デング熱
22	東部ウマ脳炎
23	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く）
24	ニバウイルス感染症
25	日本紅斑熱
26	日本脳炎
27	ハンタウイルス肺症候群
28	Bウイルス病
29	鼻疽
30	ブルセラ症
31	ベネズエラウマ脳炎
32	ヘンドラウイルス感染症
33	発しんチフス
34	ボツリヌス症
35	マラリア
36	野兎病
37	ライム病
38	リッサウイルス感染症
39	リフトバレー熱
40	類鼻疽
41	レジオネラ症
42	レプトスピラ症
43	ロッキー山紅斑熱

¨ò)±

1	アメーバ赤痢
2	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
4	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）
5	クリプトスポリジウム症
6	クロイツフェルト・ヤコブ病
7	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
8	後天性免疫不全症候群
9	ジアルジア症
10	侵襲性インフルエンザ菌感染症
11	侵襲性髄膜炎菌感染症
12	侵襲性肺炎球菌感染症
13	水痘（入院例に限る）
14	先天性風しん症候群
15	梅毒
16	播種性クリプトコックス症
17	破傷風
18	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
19	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
20	風しん
21	麻しん
22	薬剤耐性アシネトバクター感染症

ý iÑçπi²sò)±

1	新型インフルエンザ
2	再興型インフルエンザ

}:úrwoÁ

¨ò)±

23	RSウイルス感染症
24	咽頭結膜熱
25	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
26	感染性胃腸炎
27	水痘
28	手足口病
29	伝染性紅斑
30	突発性発しん
31	百日咳
32	ヘルパンギーナ
33	流行性耳下腺炎
34	インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）
35	急性出血性結膜炎
36	流行性角結膜炎
37	性器クラミジア感染症
38	性器ヘルペスウイルス感染症
39	尖圭コンジローマ
40	淋菌感染症
41	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）
42	クラミジア肺炎（オウム病を除く）
43	細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）
44	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
45	マイコプラズマ肺炎
46	無菌性髄膜炎
47	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
48	薬剤耐性緑膿菌感染症

OH ÚH òtF b"°\Ñ±p Š"YÁ±

1	摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く）
2	発熱及び発しん又は水疱（二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く）

}iã i³uÁÜt"uÃ\$ø¶Ð*ALwC w0Á

Ë¨ò)±

1	鳥インフルエンザ（H5N1）
---	----------------

第1 全般的事項

1 検査方法に関する留意事項

yüm~%o t' 'j.wUZw@%o -txz\=¶\$QÝzÁ
 BZz% 'Oç! "%Osw@ŽÿiO¶\`MO{Ž<%a£
 t' "%o srz 'w%o MO) %o{
 yÁ.U*t' "ò±w ...txz
 ç £xQ8qsî8wÖžBZt' "Á.wE8çÄQT'E.Q.
 8a" \q£
 ç £xQ8qsî8wÖžBZt' "Á.Aw TMÍç
 ç £xQ8w *H. Á.wUZ
 ç £o°BZpw *H(Á.wUZt' " ... <K"~"UfWÖùz
 Ýš±Ýsü\$Sg...UžApK"{
 ywMc•TU;M'•"{
 ysS@Á.Aw TMÍç-qxzBZw^Š1 >i^b"MO
 >-;`hÖùtSMow^b;DópK"z ŽÍwíç>Ö`
 hÖù)MO{hi`z! (Oz Oszu«Sç iÄ¿
 «µ£pQ b"U*OtSMoxz\w(ç £);M"\qx
 pVsM{

2 発熱と高熱

yŠ,jtSMo@Cä-qx.9U ÆŽÍ) `hÝ6)
 MM@öä-qx.9U ÆŽÍ) `hÝ6)MO{

3 留意点

ç £ŠèÇEt Š"piñwU*MotmMoxzqOæ~•" <
 w>Ö`oS"z TM%oC^•"%oswòSçx>ÝS) b"U*
 <OÄqs"~"hŠz@£UZŠèÇEt ŠwsMU*t' " ...
 >æSOqb"Öùxz•Mô\Z£tz qò)±Z£tsw•ó
 wU*; t~Ýb" \q{
 ç £@£UZ'j. ...çx'j.t0b"Á.wUZt' " ...
 >æOÖùtSMozY[UK"Öùxz•Mô\Z£tz qò)
 ±Z£tsw•ówU*; t~Ýb" \q{

第2 一類感染症

1 エボラ出血熱

ç £ [
 y#øâç çµçÑÝéç çµJ£t' "äQiñpK"{
 ç £Ýš\$)Á
 yæi8 x TM Öç Éý ? £pzC±x¥C\$PpK"{
 y±ÝxCäç...žCÆmçç„çzÖÑçz³çzðçsrÆÁ—
 ±U M{
 y TM Öpx tq= `z>b«pxý ? Sp@t,)\qU
 M{ZBxC t' "Uz ±ÝpxsM\q< Mç áç`
 i¼w«pxý ĒĒ
 y² "ç px•@pxý Ēzµ¼i px•@pxý Ēp
 K"{
 yĪÄT'ĪÄ•wò>xB÷z.÷z úsqwÚ€€it' "zi
 >ò>xq \$pK"{
 ç £\$Z,j
 žçñ ç~ «£
 y©£x# £wÝš\$)Á) b" > o`hALz±Ý•t_T
 ' #øâZBäUY~•zTmzÍw~w(jt ["U*M
 Ot' "z«æÜž~`i°ZBäYñ q ...`hÖùtxzOH Ú
 H òwF t' "§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o~wÈ)t Š"(wwMc•T);M"\q{
 ççYÁ±ñ
 y >žAqb"iñxz wç çµQZBäzĪ½ÑµzC`æ½
 ÑµzzizÚáæžzĪi~áz+äpK"{
 çÁ±Ý'j.-

y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Á) `oMsMUzÍw~w
 (jt ["U*MOT' "z#øâZBäwÁ±Ý'j.- q ...
 `hÖùtxzOH ÚH òwF t' "§Z>Újtæ~sZ•y
 s'sM{
 y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o~wÈ)t Š"(wwMc•T);M"\q{
 ççYÁ±ñ
 y©£x# £wÝš\$)Á) b" > o`hALz±Ý•t_T'z
 #øâZBäwYÁ±ñ q ...`hÖùtxzOH ÚH òwF
 t' "§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{
 #çò)±@b w@.
 y©£x# £wÝš\$)Á) b"@. >UŠ`hALz±Ý•t_T
 T'z#øâZBäUY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOT'
 "z#øâZBät' "@b`hqQ...`hÖùtxzOH ÚH ò
 wF t' "§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o~wÈ)t Š"(wwMc•T);M"\q{
 |çò)±@bYM w@.
 y©£x# £wÝš\$)Á) b"@. >UŠ`hALz±Ý•t_T
 T'z#øâZBät' "@b`hqY~•ÖùtxzOH ÚH
 òwF t' "§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%o
üm~%o t' 'j.wUZ	B÷Z, çM÷z
&-*4"Ot' "j.wÁjwUZ	ø
1\$3Ot' "j.w"; wUZ	
, «Á.Oçx&-*4"Ot' "H.Á. `X x"H(Á.wUZ	BZ

2 クリミア・コンゴ出血熱

ç £ [
 y«æÜž~`i°ç çµçÖÇaç çµJ£t' "äQiñpK"{
 ç £Ýš\$)Á
 yæi8 x TM Ö{s8±Ýx)Ý\$pxsM{it¥C\$Tc\B
 "Cäz„çzqäzÖÑçz ...çzðçzEAU`z Mo°
 „çzAš z+lz\$it| 'wÇ@ÝxUq•"{:ÝZBU`
 \$t`z æb"qµW(\c){t }—`hæ•T' |U}{
 O±=b"q^t¶ ZBzB •d)R`z@b«px«= ZBU
 ¶ĪpK"{ ~Æ¶(Zqb" \qUK){B÷q.÷xò)—UV
 ~Šo\$M{
 ç £\$Z,j
 žçñ ç~ «£
 y©£x# £wÝš\$)Á) b" > o`hALz±Ý•t_T
 ' «æÜž~`i°ZBäUY~•zTmzÍw~w(jt ["U*M
 Ot' "z«æÜž~`i°ZBäñ q ...`hÖùtxzOH Ú
 H òwF t' "§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o~wÈ)t Š"(wwMc•T);M"\q{
 ççYÁ±ñ
 y >žAqb"iñxz wç çµQZBäzĪ½ÑµzC`æ½
 ÑµzzizÚáæžzĪi~áz+äpK"{
 çÁ±Ý'j.-
 y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Á) `oMsMUzÍw~w
 (jt ["U*MOT' "z«æÜž~`i°ZBäwÁ±Ý'j.-
 q ...`hÖùtxzOH ÚH òwF t' "§Z>Újtæ
 ~sZ•ys'sM{
 y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o~wÈ)t Š"(wwMc•T);M"\q{
 ççYÁ±ñ
 y©£x# £wÝš\$)Á) b" > o`hALz±Ý•t_T'z
 «æÜž~`i°ZBäwYÁ±ñ q ...`hÖùtxzOH ÚH
 òwF t' "§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

ꞡçò›±@b w@.
 y©£xæ £wÿš\$›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'z«æÛž~ĩ°ZBäUY~•zTmzÍw~w(Jt [”U*MOt“z«æÛž~ĩ°ZBät“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{ içò›±@bYM w@.
 y©£xæ £wÿš\$›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'z«æÛž~ĩ°ZBät“@b`hqY~•”ÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t”’j.wUZ	B ÷ z, ç M ÷ z
&-*4”Ot”’j.wĀjwUZ	Ø
1\$3Ot”’j.w~; wUZ	
, «Ā.Ot”’*H.Ā. `Xx”H(Ā.w UZzçx4.AùS t”Ā.wUZ	BZ

3 痘そう

ç £ [yqfOç çµt”xQwC QiñpK”{qOz••Ípx ^ ^•hÝ6tK”{ ç £ÿš\$›Ā y q`oz^#ò›t“ĪĀT’ĪĀ•ò›b”{ñ • ›^•h ú¼qwÚ€€it“ò›b”\q‹K”{ꞡžé°çt”ò›wC ‹K”Uz†•pK”{œi8 xÿ Ôç™ ÔŁpzò}— x’s8ç\qt™ ‘ÔŁt7‹§XzC”²xò}—xsMqBQ ‘•oM”{b,owC Ug}qs“z\•Ui¶tdXb”†pxò ›wDóQUK”{ y s±Ýxz žç²æ8•x9sCäç Æ²™ Ě„çz›¶çz çsrp•†“z Cäx™ Ōp ÆŽítab”{H™ ‘Ô txz°ířā²qs“zC UZ”{ çC 8•C xzÚWàp à+nàõnàAgàXõqF Y`X æb”{fwì8t_”•C xb,o%°wµĀ”pK”\qU ›ĀpK”{H ‘Ô tõnqs”Uz\w tx6|õäqs“zA gb”†p X{mçz äòUŠM{ ççsî8•™ ? w&apzdí`h„ ›`ĭ b”{g}çT ^•h£wꞡtxzò›Qç çµUŌ8 Ob”wꞡzžçzÓŌ Ç Ÿrg›b”{ ç £§Z,j žçñ ç~ «£ y©£xæ £wÿš\$›Ā› b” › o`hALz±Ý•t_T ’qfOUY~•zTmzÍw~w(Jt [”U*MOt“zqfO ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{ y ›žAqb”iñxz+qç›tC Zq²t Æ²™ wõäU ÝŠ`•h £pK”{ çĀ±Ý’j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$›Ā› `oMsMUzÍw~w (Jt [”U*MOt“zqfOwĀ±Ý’j.- q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys's M{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{ ççYĀ±ñ y©£xæ £wÿš\$›Ā› b” › o`hALz±Ý•t_T'z qfOwYĀ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”

§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ ꞡçò›±@b w@.
 y©£xæ £wÿš\$›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'zqfOUY~•zTmzÍw~w(Jt [”U*MOt“zq fOt“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t” §Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{ içò›±@bYM w@.
 y©£xæ £wÿš\$›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'zqfOt“@b`hqY~•”ÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
? f•,t”’ç çµ{ wÚ€ oçx	+nzõnzg}z
üm~% t”’j.wUZ	°, ç M ÷ z B ÷
, «Ā.Ot”’j.wĀjwUZ	
1\$3Ot”’j.w~; wUZ	

4 南米出血熱

ç £ [yÆ GntSZ”žèÆç çµJžèÆç çµ wç çµt” ZBäwī¶pK”{Æ ZBäpK”žç, ĭĩZBäzŌá’çZ BäzŌÉ¶ꞡZBäzØæĭžZBäxz f•g•zžèÆç çµ JwŃÇiç çµz±ĭžç çµz”ÆæĀç çµzÚ½áUç çµt”ò›±pK”{ØæĭžtSZ”ZBäñ T’½Bíèç çµqMOý wç çµUüm^•z\wç çµt”ZBä‹Æ ZBät †•} ç £ÿš\$›Ā y sò>&ĭxzç çµ- É¶Ūw úz#÷zB÷sqw€i pK”{œi8 x™ Ōpzs8±Yq`o#µwCäzŌŃçz qäz æçz«=±ÝU^”{™ Ō™tx0 zEAzè† MsrUZq`zO±«pxõäzZB ²z³āž «UYŠ`•”{Ā Ń wZBU›Ā\$qa^”Užw™}<•êšT’wZBt 2b”{ &±Ý› b”\q‹K”z%• wü”T’zdcæÝz\æ-zrĀ t,”{•@px Ētí”qa^”{sî«pxC±™™ Ō T’ír ²U^”Uz74\$tx:òDTT”\qU M{ ç £§Z,j žçñ ç~ «£ y©£xæ £wÿš\$›Ā› b” › o`hALz±Ý•t_T ’Æ ZBäUY~•zTmzÍw~w(Jt [”U*MOt“zÆ ZBäñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{ yĀ±Ý’j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$›Ā› `oMsMUzÍw~w (Jt [”U*MOt“zÆ ZBäwĀ±Ý’j.- q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys 'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{ ççYĀ±w ... y©£xæ £wÿš\$›Ā› b” › o`hALz±Ý•t_T'z Æ ZBäwYĀ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t ”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ ꞡçò›±@b w@.
 y©£xæ £wÿš\$›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÆ ZBäUY~•zTmzÍw~w(Jt [”U*MOt“z Æ ZBät“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{
 !çò)±@bYM w@.
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b"®.UŠ`hALz±Y•t_
 T'zÆ ZBät"◀b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B ÷ z ô x 7 ÷ z
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	Ø
&-*4"Oçx, «Å.Ot'"*H.Å. `X x"H(Å.wUZ	BZ

5 ペスト

ç £ [yÍ°IÖJt b"-ãÜÄQHÖpK" Yersinia pestis wò)t'!
 oI\`¶ QiñpK"{ ç £ÿš\$>Ā
 yæíí... z B±s>I\`zO±«pxôäz™YË•sr>PO
 xQIÖQò)±pK"z@t,"\q< M{ÿš\$t_t'"Z<w
 tüz'•"{ žç¥ÖµÄçÍÄÖµÄw™ È)ŽŠ"£
 yæi8x™ Ö{ò)æwæíí...Uç^qq<t•"{ÖxBv
 >p`o¶ wæíí...z•np<_é`z Xx? X'Mp@b
 b"{ ç B±ÖµÄçÿ È)ŽŠ"£
 yítÁt±YUsM‡‡ B±±YUÇæ`z}ØwKj\jtZBW
 U\ao¶ U íqs"@bb"{ çy ÖµÄ
 yÖµÄÖt'"> §•>I\`z§½s„çzEAz™
 ÆwŽÁäzx9szu Éz±ÚíwPqIhBy>POOžs
 p>Ö`z™ Öp@bb"{ ç £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b" > o`hALz±Y•t_T
 'ÖµÄUY~•zTmzíw~w(jt ["U*MOt'"zÖµÄ
 ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ
 ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{
 y >žAqb"iñxz~"kçÿš±YU ÖµÄq~Ážú@
 'çÿš±YU¥ÖµÄt~Ä`zTmžèÁj> ,)Èm£pK"{
 çÁ±Y'j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$>Ā) `oMsMUzíw~
 (jt ["U*MOt'"zÖµÄwÁ±Y'j.- q ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys's
 M{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{ ççYÁ±ñ
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b" > o`hALz±Y•t_T'z
 ÖµÄwYÁ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z>Újtæ~sZ•ys'sM{ yYÁ±ñ w ...tphloxzÿšt_zÖµÄvæ••wIä`oz
)Ä~t/\`oM"ÈÛt'" ‡w Á)€Btb"{
 ççò)±@b w@.
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b"®.UŠ`hALz±Y•t_
 T'zÖµÄUY~•zTmzíw~w(jt ["U*MOt'"zÖ
 µÄt"◀b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z>Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz

f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{
 !çò)±@bYM w@.
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b"®.UŠ`hALz±Y•t_
 T'zÖµÄt"◀b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZçç£ÄŠw> í,U)€Bqs"£	B ÷ z æ íí... u%úz0yzÉ
, «Å.Ot'"πīŌé"ÓÁjç'SBDUJPO Áj£wUZ	ë
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
z B•½BS t'"πīŌé"ÓÁj 'SBDUJPO Áj t0b"Å.wUZç ŽÍ£	BZ

6 マールブルグ病

ç £ [yÚ"çÖç~ç çµçÑÿéç çµJ£t'"äQiñpK"{
 ç £ÿš\$>Ā
 yæi8x™ ÖpK"{C±xçC\$P"K"{Cäz„çzÖ
 Ñçz}ØèšC z°„Aš t VzO±=b"q<iz"±â~«
 = ZBU_`•"ççççZBät~Äb"ç
 yÚ"çÖç~ç çµwµ„T'íÄ•wò)&ixÆipK"{í
 ÄT'íÄ•xB÷z.÷z úqwn°€ít|Q\$€ít"ç
 çµU;ûb"{ yÁ ÄtSZ"B,C\ç á£tSMoxžÑæšÚÁæ²ç
 wB÷zÉèqW€ít'"çwpKIh{žÑæšç-çžs£pwC
 \«txççxÁ pKIh{í•OxsXz0±•Ow^pK"{
 ç £§Z,j žçñ ç- «£
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b" > o`hALz±Y•t_T
 'Ú"çÖç~çUY~•zTmzíw~w(jt ["U*MOt'"z
 Ú"çÖç~çñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z>Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{
 y >žAqb"iñxz wç çµQZBäzÍ½ÑµzC`æ½
 ÑµzzizÚáæžzÄi~áz+äpK"{
 çÁ±Y'j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$>Ā) `oMsMUzíw~
 (jt ["U*MOt'"zÚ"çÖç~çwÁ±Y'j.- q
 ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•
 ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{ ççYÁ±ñ
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b" > o`hALz±Y•t_T'z
 Ú"çÖç~çwYÁ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{ ççò)±@b w@.
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b"®.UŠ`hALz±Y•t_
 T'zÚ"çÖç~çUY~•zTmzíw~w(jt ["U*MOt'
 "zÚ"çÖç~çt"◀b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH
 òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"◀wwMc•T>;M"\q{ !çò)±@bYM w@.
 y©£xæ £wÿš\$>Ā) b"®.UŠ`hALz±Y•t_
 T'zÚ"çÖç~çt"◀b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH
 òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t' 'j.wUZ	B ÷ z, ç M ÷ z
&.*4"Ot' 'j.w.ÿÁjwUZ	Ø
1\$3Ot' 'j.w.; wUZ	
&.*4"Oçx, «Á.Ot' '*H.Á. `X x*H(Á.wUZ	BZ

7 ラッサ熱

ç £ [yâ¿±ç çµçžèÆç çµJ£t' "äQĩñpK" { ç £ÿš\$, Ā yC±xçC\$P æx •TpK" {ÚµĀŪµt †•h"Ø•B÷ tî•h"zK" Mxò) C± wB÷z.÷z ústŪ€€ib" sw™zæi8 ç™ Ō£)&ozôäç™ Æ£ŷŷ G 5òt Vz™ ŌètG ...çz°, çz•zŌÑçzÍMpú0æ çz™³æçzEAzqúz<izòæçsUÿŠ'•" { yO±=b"q%Ø1æwŌ z •AšZBz«= ZBzúwO z ³š z³ã¿ «{O±&apí™ z° K" Mx† w-OçÉì£ } Ōb\qU ĒŽÍK" {C±8w±Ÿx ĩÑçpĩ²7pK" { ç £\$Z, j žçñ ç- «£ y©£xç £wÿš\$, Ā) b" } o`hALz±Ÿ•t_T 'â¿±äUY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt' "z xQf(7 ñ q ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wŌùtSMozU*P%oxz%o}t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{ y } žAqb"iñxz wç çµQZBäz½ÑµzC`œ½ ÑµzzizÚâæžzĀĩ-ãz+äpK" { çĀ±Ÿ'j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$, Ā) `oMsmUZÍw~w (jt ["U*MOt' "zâ¿±äwĀ±Ÿ'j.- q ...`h ŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys' sM{ y\wŌùtSMozU*P%oxz%o}t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{ ççYĀ±ñ y©£xç £wÿš\$, Ā) b" } o`hALz±Ÿ•t_T 'zâ¿±äwYĀ±ñ q ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{ ççò±@b w@. y©£xç £wÿš\$, Ā) b"@.) UŠ`hALz±Ÿ•t_T 'zâ¿±äUY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt' "zâ¿ ±ät"@b`hqQ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wŌùtSMozU*P%oxz%o}t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{ ççò±@bYM w@. y©£xç £wÿš\$, Ā) b"@.) UŠ`hALz±Ÿ•t_T 'zâ¿±ät"@b`hqY~•ŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t' 'j.wUZ	B ÷ z, ç M ÷ z
&.*4"Ot' 'j.w.ÁjwUZ	Ø
1\$3Ot' 'j.w.; wUZ	
, «Á.Ot' '*H.Á. `Xx*H(Á.w UZ	BZ

第3 二類感染症

1 急性灰白髄炎

ç £ [yÜæ!ç çµ™ çè«½ĩŌ) %œwòt' "xQž Q 'z) ±ŸqB"xQá`x; &ò) ±pK" {†hzÜæ!ç ç µ™ txz•-B,tSMo' \$t;û'oM"úŌÜÜæ!ç çµzè«½ĩ RÜæ!ç çµç+ %+£ çP£ t|è«½ĩŌÜ æ!ç çµ çP£ UK" { ç £ÿš\$, Ā yœi8x™ ŌpzCäç Ō S£ŷŷ G5òz, çzAV>z òæ~ æxÚsrw7š-9±Ÿ) b"Uz0±«çÆŷŷ £px0 Mò07±Ÿçx£ì±Ÿp4~" \q<K" {7š ±ŸiZp'z) R^sM<wç†'z £<K"UzO±«ç'z £pxCät¼V VK" Mx°trä`6|Cä`h™tçµ;ŷw5™ Ōç Xx<ŷ£ wž Q'zUq•" {6ñæ•wrSùxn sM` «æ'zœ@ò@ Ÿx>P~sM{ ç £\$Z, j žçñ ç- «£ y©£xç £wÿš\$, Ā) b" } o`hALz±Ÿ•t_T 'xQf(7 UY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt' "z xQf(7 ñ q ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wŌùtSMozU*P%oxz%o}t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{ çĀ±Ÿ'j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$, Ā) `oMsmUZÍw~w (jt ["U*MOt' "zxQf(7 wĀ±Ÿ'j.- q ...`h ŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•y s'sM{hi'è«½ĩŌÜæ!ç çµ çP£ t' "Ā±Ÿ'j.- x\$Zw0ĀpxsM{ y\wŌùtSMozU*P%oxz%o}t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{ ççò±@b w@. y©£xç £wÿš\$, Ā) b"@.) UŠ`hALz±Ÿ•t_T 'zxQf(7 UY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt' "zxQf(7 t'"@b`hqQ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wŌùtSMozU*P%oxz%o}t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{ ççò±@bYM w@. y©£xç £wÿš\$, Ā) b"@.) UŠ`hALz±Ÿ•t_T 'zxQf(7 t'"@b`hqY~•ŌùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z) Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t' 'j.wUZ	(zŪÍuYM÷z°, uYM÷z7÷ fÜæ!ç çµ™ wUZx(U.U, Š pK"zC±™pV"iZ •Ttz ì Ž Íw ')KZoz—sXq< sŽÍ> `z Mc•T{qmw(U.T'Üæ!ç çµ™ UUZ^•hŌùxžj]t\$Z)æO\q{ „ŪÍuYM÷z°, uYM÷z7÷T'Üæ! ç çµ™ UUZ^•hŌùczU*EQ q'ozÚjt\$Z)æO\q{

çP£ %+xzŌpK"\$%+ŌT'w+%ŷ-~tSZ"!Ÿpt" [^•zt| xĒŽÍw!Ÿpç+%-~tSZ' ŌT' w!Ÿ:U ,ŽÍ£ b"Üæ!ç çµz tmMox+% -~tSZ"!Ÿ:U ,ŽÍwÜæ!ç çµ+ %+qb" { çP£ ĩ\ŌÜæ!ç çµ~+ %+žžwÜæ!ç çµ)è«½ĩ ŌÜæ!ç çµqb" {

2 結核

£ [y A © Õ Mycobacterium tuberculosis DPNQMFYZ Mycobacterium bovis # \$ () † X £ t " ò ± p K " { £ Ÿ \$ \$ Ā y ò x t > " p ` h ^ ¥ © ò t " { ò owGRx0yC£E Qw A©ñ pK" UzqVt Fw^EQwñ z † • t Õ Ā Qwñ • Ž A©ñ U ò ots " \ q < K " { ò : T M : ? T ' ° \ " t ~ h " Ÿ \$ \$ t C ' w D ó Q U K " U z C ' b " w x è x Ē S p K " { Mñ w Õ ù z C ' t Ē E q m : ò D T M : à Ž ° t A © ñ q € í ° > b " \ q U K " { y ò T M w C ' w æ µ « x ò T M « s M Ì 8 ç q X t á Ž ° £ t ô X z á , \$ t x Õ . Ç 8 z ¥ _ 8 t ô M { † h z } w i ñ ç v Ø ' z « Q Æ ¶ z ¢ ¶ z a æ s £ ù ` o M " z £ ~ † w 7 ° ò Ē m z Ô ø H M N ç í } i x ç p ĩ N z 5 / ' í • s £ í • ¢ w s t S M o < ô X s " { y X w Õ ù z 7 < ° \$ s ò Ö ó • p K " w ' ! q ' o C ± b " ç A © £ U z Ž + t < \ " O " { Ž 6 ñ + q ' o M w x ³ š z æ í ... z x ā ~ f w w ~ ... z ~ Ø ĩ \ é + z ¢ ; & % z ' , s p K " z ¶ t ū ` h Õ ù t x , „ A © q s " { y A © w ± Ÿ x • z 0 y z • ä U / \$ q ^ • o S " z ³ ç z z u Ē z B y z ¶ G 5 ò z ĩ l Æ ü s > P O \ q < K " U z s 8 t x Á ± Ÿ w \ q < M { £ \$ Z , j ž ç ñ ç - « £ y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " > o ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' A © U Y ~ z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z A © ñ q ... ` h Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { y h i ` z ' j . t | ' j . ; ; w U Z U * M O Ž Ž t ' " U * M O t m M o x z p ~ U * t _ t C Q z ò s t ' " £ U A © ñ p K " q ... b " t " Q ... U s ^ • " Õ ù t v " £ Z > æ O < w p K " { y \ w Õ ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % - w Ē } t Š " < w w M c • T ; M " \ q { y > ž A q b " i ñ x z w j ¼ t " z † A © Q Ā Ž Õ ± z z > \$! Ā ± z ' Q ~ s p K " { ç Ā ± Ÿ ' j . - y © £ x z o ` h U ç £ w Ÿ \$ \$ Ā > ` o M s M U z í w - w h p U * M O Ž Ž w (j t [" U * M O t ' " z A © w Á ± Ÿ ' j . - q ... ` z T m z A © • • ž A q b " q Ÿ Š ' • " Õ ù ç æ O Q A © ò > ± £ t v " z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Õ ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % - w Ē } t Š " < w w M c • T ; M " \ q { y @ ° - w t S M o x z l w U * M O p ' j . - w - Ÿ U p V s M Õ ù p K l o < z ñ w ^ ¥ w T T " c " p w S i z ' ` h € i s w ø ¶ \$ Ÿ - T ' ò > t ô S w - µ Q U Ÿ Š ' • " t v " £ Z > æ O \ q { ç ç Y Ā ± ñ y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " > o ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' z A © w Y Ā ± ñ q ... b " t " ô S w - µ Q U Ÿ Š ' • " Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { y Y Ā ± ñ w ... t p h l o x z B , C \ w Ÿ - z ø ¶ \$ Ē Q s r < ß € ` Q ... b " { ¢ ç ò > ± @ b w @ . y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " @ . > U Š ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' z A © U Y ~ z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z A © t ' " @ b ` h q Q ... ` h Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Õ ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % - w Ē } t Š " < w w M c • T ; M " \ q { i ç ò > ± @ b Y M w @ .

y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " @ . > U Š ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' z A © t ' " @ b ` h q Y ~ • " Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U * M O	U * P %
C £ U * t ' " ' j . w U Z	0 y z £ ÷ z ° „ ~ „ u Y M ÷ z > § T š Ū ÷ z ³ + z ò K - ū { ÷ z Ø z (z ò x 7 ÷ z Ē è P %
ü m ~ % t ' " ' j . w U Z	
© Ž Ÿ i O t ' " ' j . ; ; w U Z	
' g U * t S Z > Ÿ \$ t _ w - Ÿ ' g Ē è	
À Ö ç « æ i S U * ç C z x A z + n z u @ w Á £	} Ø t _
æ i í • w Õ > Ÿ • (- 9 t ' " L Z ĩ » " Ñ £ é ĩ ¼ g	B ÷
h p U * t S Z > t _ w - Ÿ	³ æ ¢ ç « µ ç h p z \$ 5 s U * h p

3 ジフテリア

£ [y ' Ñ Ā æ ž Ÿ Ē > ` \ b " ' Ñ Ā æ ž Õ ç Corynebacterium diphtheriae £ w ò > t " x Q ò ± p K " { £ Ÿ \$ \$ Ā y ' Ñ Ā æ ž Õ U ° „ s r w è š t ò > ` z ò > æ • w è š • % w Ē è Ē è w Ē • > ¼ V l ` z O g T ' ° „ è š - Ø w P š Q ± z < ° æ T ' ² 1 æ w ¶ ' M Õ q æ í ... í ç C V M M O F D L £ s r w ± Ÿ U Z q b " { O ± « p x ú Õ w Ē • s r t ' " @ b b " { £ \$ Z , j ž ç ñ ç - « £ y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " > o ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' ' Ñ Ā æ ž U Y ~ z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z ' Ñ Ā æ ž ñ q ... ` h Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { ç Ā ± Ÿ ' j . - y © £ x z o ` h U ç £ w Ÿ \$ \$ Ā > ` o M s M U z í w - w (j t [" U * M O t ' " z ' Ñ Ā æ ž w Á ± Ÿ ' j . - q ... ` h Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { ç ç ò > ± @ b w @ . y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " @ . > U Š ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' z ' Ñ Ā æ ž U Y ~ z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z ' Ñ Ā æ ž t " @ b ` h q Q ... ` h Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Õ ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % - w Ē } t Š " < w w M c • T ; M " \ q { ¢ ç ò > ± @ b Y M w @ . y © £ x ¢ £ w Ÿ \$ \$ Ā > b " @ . > U Š ` h A L z ± Ÿ • t _ T ' z ' Ñ Ā æ ž t " @ b ` h q Y ~ • " Õ ù t x z O H Ū H ò w F t " £ Z > Ū j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U * M O	U * P %
ü m ~ % t ' " ' j . w U Z z T m z ü m Õ Ò w ' Ñ Ā æ ž Ÿ Ē ^ \ Q w - Ÿ	' ! ç ò > £ æ • T ' w > P %

ç ç ß Ñ Ā æ ž Õ ç Corynebacterium diphtheriae ¶ K l o < z Ñ Ā æ ž Ÿ Ē ± ^ \ Q w Õ x \$ Z w 0 Ā p x s M { y y Corynebacterium ulcerans t | Corynebacterium pseudotuberculosis t m M o x z Ñ Ā æ ž Ÿ Ē ^ \ b " Õ U K " < w w ž • x \$ Z w 0 Ā p x s M {

4 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）

¢ £ [y´éÆ¢ çµJÖ"»´éÆ¢ çµ w('(¢4FWFSF "DVUF 3FTQJSBUPSZ 4ZOESPNF£´éÆ¢ çµwò't"xQzu+±© p K"{ ¢ £ÿš\$›Ä y Xx™ Ôz7G Ô wæi8 w™tzx9sCäz•z¶ G5òzÒÑçsrw iÑçpi²7w²æ±ÝUq•" {™:Ô pzu ÉzáQ•lzÿŽÉB±srw<>±ÝUq•z³æ)z -¢ø srp þUZqb" { tslh w™ ÈU ? Spsì²ts"Uz™ ÈU '(¢"DVUF 3FTQJSBUPSZ %JTUSFTT 4ZOESPNF£\l'z »zu+sr›žAqb"„rO±q s" {•@px È²™pzô, t|,ÄiñwK" pw•@px "ôM{ ¢ £\$Z,j žçñ ¢¬ «£ y©£xæ £wÿš\$›Ä› b" › o`hALz±Ý•t_T 'O±xQzu+±© UY~•zTmzíw~w(j)t ["U*MO t"zO±xQzu+±© wñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T›;M"lq{ çÁ±Ý'j.- y©£xæ o`h U¢ £wÿš\$›Ä› `oMsMUzíw~w (j)t ["U*MOt"zO±xQzu+±© wÁ±Ý'j.- q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z›Újtæ~ sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T›;M"lq{ ¢çYÁ±ñ y©£xæ £wÿš\$›Ä› b" › o`hALz±Ý•t_T'z O±xQzu+±© wYÁ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ ¢çò›±@b w@. y©£xæ £wÿš\$›Ä› b"®.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'zO±xQzu+±© UY~•zTmzíw~w(j)t ["U* MOt"zO±xQzu+±© t"®b`hqQ...`hÔùtxz OH ÚH òwF t"§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T›;M"lq{ !çò›±@bYM w@. y©£xæ £wÿš\$›Ä› b"®.›UŠ`hALz±Ý•t_ T'zO±xQzu+±© t"®b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t"j.wUZ	"o„çM÷z0yz
1\$3Ot"j.w"; wUZ	øz(
&-*4"O¢x, «Á.Ot" *H.Á. ` Xx*H(Á.wUZz¢xæè¼gt"Á .wUZ	BZ

¢ £YÁ±ñ wQ...tžAsÄò žç'j. ...¢xÁ.U*PÄQtshÔùp‹zñ qÿš\$›Ä Uù•b"Ôùxz('(›q pVsMhŠz©£wiüQ...t"z YÁ±ñ q`o "{O{ çÿšt_zlã°srt"zŽ‹w¢ž£¢x¢ £t~p`zT m¢¢£wÚE›-hbÔùxzYÁ±ñ q`o "{O{ ¢ž£ R á D ÔŽñtz ÆŽíwxscät|•zz u Ésrwzu+±Ý›Ô`o! `h wOjzíwMc•T mŽíwÚE›-hb

f yC±² ÔŽ°tz('(UY~•ñ › ¢ `Xxp ¢`oMh z%‰‰`oMh ¢x>"ü{ú `Xx.÷tÚ€ î•h „yC±² ÔŽ°tz('(wC\UC ^•oM"~¢, \$U~`h('(w;û~Ý•¬£••æ`h ...yC±² ÔŽ°tz('(wC\UC ^•oM"~¢, \$U~`h('(w;û~Ý•¬£t%E`oMh ty('(´éÆ¢ çµ¢x('(ñ wÿšU.) "{O Z€›æloM"Z€ zK"Mx('(´éÆ¢ çµz¢x ñ U.)- b"; wZ€ pz¢ çµ•w.ÐwDóQU K" †y ÔŽí' b"O±wzu+±Ýt| pđ•tS dcz t\•±Ý›†ipV" ...UmTsMÔù ¢ £ R á D ÔŽñt@b`z`grdUæ~•oMsM wOjzíwMc•T mŽíwÚE›-hb f yC±² ÔŽ°tz('(UY~•ñ › ¢ `Xxp ¢`oMh z%‰‰`oMh ¢x>"ü{ú `Xx.÷tÚ€ î•h „yC±² ÔŽ°tz('(wC\UC ^•oM"~¢, \$U~`h('(w;û~Ý•¬£••æ`h ...yC±² ÔŽ°tz('(wC\UC ^•oM"~¢, \$U~`h('(w;û~Ý•¬£t%E`oMh ty('(´éÆ¢ çµ¢x('(ñ wÿšU.) "{O Z€›æloMhZ€ zK"Mx('(´éÆ¢ çµz¢x ñ U.)- b"; wZ€ pz¢ çµ•w.ÐwDóQU Klh †y ÔŽí' b"O±wzu+±Ýt| pđ•tS dcz @b†ptz t\•±Ý›†ipV" ...UmMoMsTlh Ôù ¢ç£íwMc•TwÚE›-hb fy³æèiÄ@iø p z¢xxQzu~±© wt_›Ô b „y`grdt_U zu~±© w`gt_q`oÄldcz xlv"q`hj¼UsM «£ w ...t'lo±Ýw†iUpV"Ôùx†žb"lq{

5 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）

¢ £ [y´éÆ¢ çµJÖ"»´éÆ¢ çµ w" '(¢.JEEMF &BTU 3FTQJSBUPSZ 4ZOESPNF£´éÆ¢ çµt"xQzu+±© pK"{ ¢ £ÿš\$›Ä yíÄ`Òá«¼U" '(´éÆ¢ çµ)- `oS"zíÄ`Òá «¼qwn`€îUò›æµ«pK"qßQ'•oM" {°MzH z ò)OfUÆGüs©.; srtSZ"v \$sîÄµiÄò›C ^•oM" {pf~ ›µúq`oC\U`^•oM" { yæi8 x™ Ô¢ª (x Ô SgÁ±Ý¢T'xQzu~±© ¢ '(£›RbO±«†pK" {/ \$s'pxzCäz• lsT'•†"zx t ›C±`z`y`yzu gUžAqs" { <isrw«=±Ýw„Tz +Æ¶¢›t Æ¶£• BQ³ãž «›POÔù«K" {ð, t|vø`z Æ¶srw,Äiñ›Èm pwO±= ²U"ôM{ ¢ £\$Z,j žçñ ¢¬ «£ y©£xæ £wÿš\$›Ä› b" tmMoæ £t~pb"lq sT'pfzu+±© UY~•zTmzíw~w(j)t ["U*MO t"z'j.w—sXq‹ mw"; ¬U~Y^•h¼qT'z p ~›pfzu+±© q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z›Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%xxz%~wÈ]t Š"‹wwMc•T›; M"lq{

çÁ±Ý`j.-
y©£xz o`Ð p0

žçñ ç¬ «£
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b" wOjz ÆŽíwCät
xQzu+±ÝUK" > o`hALz±Ý•t_zlã°z€î°s
T'x iÑçpī²ç # £UY~•zTmzÍw~w(Jt [
"U*MOt'“zx iÑçpī²ç # £q ...`hÔùtxz
OH ÚH òwF t'“šZ>Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;
M"\"q{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wŸš\$>Ā> `oMsMUzÍw~t
["U*MOt'“zx iÑçpī²ç # £wÁ±Ý'j.-
q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>Újtæ
~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;
M"\"q{
ççYÁ±ñ
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b" wOjz ÆŽíwCät
xQzu+±ÝWK" > o`hALz±Ý•t_zlã°z€î°s
T'x iÑçpī²ç # £UY~•zTmzÍw~w(Jt [
"U*MOt'“z e UUZ^•hÔùtxzOH ÚH òw
F t'“šZ>Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;
M"\"q{
ççò)±@b w@.
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_z
lã°z€î°sT'zx iÑçpī²ç # £UY~•zTmz
Íw~w(Jt ["U*MOt'“zx iÑçpī²ç # £t
“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>
Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;
M"\"q{
!çò)±@bYM w@.
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_z
lã°z€î°sT'zx iÑçpī²ç # £t'“@b`h
qY~•ÔùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>Újtæ~s
Z•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'“'j.wUZ	“ãu%÷z“ãçM ÷z°„çM÷zOyz >“u%÷z TšÜ ÷zdUP%
U.T'Ú€w1\$3Ot'“'j.w~; wUZ	

第4 三類感染症

1 コレラ

ç £ [
y~èáÿÉç)£\Q~èáÕç Vibrio cholerae \$ £çx V.cholerae
\$ t'“xQò>QÍ pK”{
ç £Ÿš\$>Ā
yæi8 x:l T' Ôzèx Ô²™pK”{ÜâwççĀ”ç~
èâx0±w+7Q<i•È(p&ab”\qU MUz‡•t wq
WKřw(7wsM+7(Ô:æ¿ĀçT’:Gæ¿Āç< `z
9`MEA) “&b{
yfwALz¶`Md+q?ríwÔæz½žĒ”,z.Own—zĀ°z
Bywÿ<z}Øwáé.—Qw«æzÁØz•dsrw±Ýzt|j
šæçÜB±t'“oòÔçqVtxG<Ô£wrÁUS\{£~t+
!Zh•ô, pxO±ts”\qUK“z‡h@b«ç†•t`•
”{
ç £šZ,j
žçñ ç¬ «£

y©£xæ £wŸš\$>Ā> b" > o`hALz±Ý•t_T
'~èáUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'“z~èá
ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>Újtæ
~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"\"q{
y >žAqb”iñxzĩřŸzfw wò>QÍ pK”{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wŸš\$>Ā> `oMsMUzÍw~w
(Jt ["U*MOt'“z~èáwÁ±Ý'j.- q ...`hÔ
ùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>Újtæ~sZ•ys's
M{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"\"q{
ççò)±@b w@.
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z~èáUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'“z~
èá”@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“
šZ>Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"\"q{
ççò)±@bYM w@.
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z~èá”@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH òwF
t'“šZ>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'“'j.wUZzTmzümÖt SZ”fz„Mc•Tt'“~èáÿÉw~Y fŸÉ`~w~Y „1\$3Ot'“ÿÉ”; wUZ	(

2 細菌性赤痢

ç £ [
yziÔç Shigella dysenteriae zS.flexneri zS.boydii zS.sonnei £w & ± ò >
pI\`xQò>QGÍ pK”{
ç £Ÿš\$>Ā
yæi8x™ ÔçG :x Ôž°q A`!xGÍz>t(ÝA
ÍwêšwZBQ=ôQ ±zô~) Rb”\qçK”{
y\whšZCâz<izòç>POÁÉµÜµçUFOFTNVT€`•ò
µ(TMxšMUsTsT (pVsM\qçžô~êB(w srwz
i) w±Ý) b”{Üâz0±<iK”MxÁ±Ýt&ab”«U
M{±Ýx°`tR “ç~ÇwMUOM{
ç £šZ,j
žçñ ç¬ «£
y©£xæ £wŸš\$>Ā> b" > o`hALz±Ý•t_T
'İÖQziUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'“zI
ÖQziñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>
Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"\"q{
y >žAqb”iñxzšĩĐél«»”zzižŸ”lzi ZB
QGÍÖst'“ wò>QÍ pK”{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wŸš\$>Ā> `oMsMUzÍw~w
(Jt ["U*MOt'“zİÖQziwÁ±Ý'j.- q ...`
hÔùtxzOH ÚH òwF t'“šZ>Újtæ~sZ•ys
'sM{
y\wÔùtSMozU*P%ox%~wÈ)t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"\"q{
ççò)±@b w@.

y©£xæ £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zIÖQziUY~•zTmzíw~w(Jt ["U*MOt'z IÖQzit'@b`hQq...`hÖùtxzOH ÚH òwF t'§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÖùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ ꞡçò>±@bYM w®. y©£xæ £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zIÖQzit'@b`hQqY~•ÖùtxzOH ÚH òwF t'§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'j.wUZ	(

3 腸管出血性大腸菌感染症

ç £ [y Ö é Ÿ É ç 7 F S P U P Y J O 7 5 £ > ^ \ b " î t æ Z s Z y Q ' s M { î Ö ç F O U F S P I F N P E S I I , B N J D \$ z 4 I J H B U P Y J O Q S I P , E 4 / 5 D S O H y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z s r £ w ò t ' l o l \ " ¶ Q i ñ p K " { ç £ Ÿ š \$ > Ä y Ÿ š ± Ÿ x z ' \$ s > Ä x ò ç z + 7 Q < i t | B (p K " { E A • Æ F w ò ä > P O \ q < K " { y ^ t Ö é Ÿ É w ^ ; t ' " 9 B Q Á B z x Q Æ ¶ > R ` z 9 B Q Ö Ÿ ± ± ç ç) F N P M Z U J D 6 S F N J D 4 Z O E S P N F * (£ : % V I \ b \ ¶ q U " U * M O t ' " z í ½ Ñ µ w Á ± Ÿ ' j . - q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { ç £ § Z , j ž ç ñ ç - « £ y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' í Z B Q G í Ö ò > ± U Y ~ • z T m z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í Z B Q G í Ö ò > ± ñ q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È) t Š " « w w M c • T » ; M " l q { ç Ä ± Ÿ ' j . - y © £ x z o ` h U ç £ w Ÿ š \$ > Ä > ` o M s M U z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í Z B Q G í Ö ò > ± w Á ± Ÿ ' j . - q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È) t Š " « w w M c • T » ; M " l q { ç ç ò > ± @ b w ® . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z í ½ Ñ µ U Y ~ • z T m z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í ½ Ñ µ t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È) t Š " « w w M c • T » ; M " l q { ꞡ ç ò > ± @ b Y M w ® . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z í ½ Ñ µ t ' " @ b ` h q Y ~ • Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U*MO	U*P%
üm~% t'j.wUZ z Tmzü m Ö t SZ"íw f J „Mc•Tt"ÖéŸÉw~Ý fŸÉ^w~Ý „1\$3Ost"ŸÉ"; wUZ	(
ÖéŸÉwUZç)64C±«tv"£	
0Äj½BÄ.çxÄÖéŸÉÄ.wUZç)64 C±«tv"£	BZ

4 腸チフス

ç £ [y ½ Ñ µ Ö ç Salmonella T F S P W B S 5 Z Q I J £ w ò t ' ¶ Q i ñ p K " { ç £ Ÿ š \$ > Ä y œ i 8 x ™ Ô p C ä > P l o C ± b " { y ñ z - Ö w (q Ø U ò > o q s " { y Æ > Ö Q " ô ä U ? Ž í < V z z ± \$ f ° z í â z n z < i s r w ± Ÿ > ` z í Z B z í , > \ b \ q < K " { y O ± « p x ™ Ÿ Ě • • É Ì U I V " \ q < K " { Á ± Ÿ ' j . - x „ q œ r U ~ i ° - Ö p K " z - t - • « Q - i t ù b " \ q U X z i - Ö q s " \ q U M { ç £ § Z , j ž ç ñ ç - « £ y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' í ½ Ñ µ U Y ~ • z T m z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í ½ Ñ µ ñ q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { ç Ä ± Ÿ ' j . - y © £ x z o ` h U ç £ w Ÿ š \$ > Ä > ` o M s M U z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í ½ Ñ µ w Á ± Ÿ ' j . - q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È) t Š " « w w M c • T » ; M " l q { ç ç ò > ± @ b w ® . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z í ½ Ñ µ U Y ~ • z T m z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í ½ Ñ µ t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È) t Š " « w w M c • T » ; M " l q { ꞡ ç ò > ± @ b Y M w ® . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z í ½ Ñ µ t ' " @ b ` h q Y ~ • Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U*MO	U*P%
üm~% t'j.wUZ	B ÷ z 7 ÷ z (z Ø z ~ K

5 パラチフス

ç £ [y í ½ Ñ µ Ö ç (Salmonella T F S P W B S 1 B S B U Z Q I J " £ w ò t ' l o l \ " ¶ Q i ñ p K " ç Salmonella 1 B S B U Z Q I J " £ w ò t ' l o l \ " ç Salmonella 1 B S B U Z Q I J \$ t ' ò > ± x í ½ Ñ µ t ' † Ž ^ • z ± ç P É á ± q ' o " { ~ • " ç £ Ÿ š \$ > Ä y Ÿ š \$ ± Ÿ x z ½ Ñ µ t ~ Á b " { ™ Ô w œ i 8 w ™ t Æ Ž í w ò ä U X { z ± \$ f ° z n z (• z í t x < i s w ± Ÿ > b " { ± Ÿ x í ½ Ñ µ q z ± • o z 0 ± w Ö ù U M { ç £ § Z , j ž ç ñ ç - « £ y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ä > b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' í ½ Ñ µ U Y ~ • z T m z í w ~ w (J t [" U * M O t ' " z í ½ Ñ µ ñ q ... ` h Ö ù t x z O H Ú H ò w F t ' § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ö ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È) t Š " « w w M c • T » ; M " l q {

y > ž A q b " i ñ x z í ½ Ñ μ z Ú á æ ž z Ā ī - ä z z
mmU - ' z ½ « ī - Ç ž ä p K " {

ç Ā ± Ÿ ' j . -
y © £ x z o ' h U ç £ w Ÿ š \$) Ā) ` o M s M U z í w - w
(j t [" U * M O t ' " z í á ½ Ñ μ w Ā ± Ÿ ' j . - q ... ` h
Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç ç ò) ± @ b w @ .

y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " @ .) U Š ` h A L z ± Ÿ • t _
T ' z í á ½ Ñ μ U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z
í á ½ Ñ μ t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F
t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç ç ò) ± @ b Y M w @ .

y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " @ .) U Š ` h A L z ± Ÿ • t _
T ' z í á ½ Ñ μ t ' " @ b ` h q Y ~ • " Ô ù t x z O H Ú H ò
w F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U * M O	U * P % o
ü m ~ % o t ' " ' j . w U Z	B ÷ z 7 ÷ z (z Ø z ~ K

第5 四類感染症

1 E型肝炎

ç £ [
y ç ç μ t ' " x Q ç ç μ Q p K " {

ç £ Ÿ š \$) Ā
y M í p x t + % ò) p K " U z f U p x > ^ • h í ¼ • ^ ú w
+ • Ñ w \ i t ' " & ± ò) U ! ^ • o M " { æ i 8 x
" Ô X z É ? q M ~ • o M " { Ÿ š ± Ÿ x q ~ Ā ` o S " z
' T M (è x x q % o S p z « Q = b " \ q x s M { ` T ` z Ú Ē
ç H ~ R 8 £ t ò) b " q 6 ± = ` • b X z • @ p (ò X Ē t a b
" \ q < K " { } Ÿ š s ĩ • O x s X z 0 ± • O U μ ú q s " {

ç £ § Z , j
ž ç ñ ç - « £
y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " > o ' h A L z ± Ÿ • t _ T
' U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z
ñ q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z) Ú j
t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç Ā ± Ÿ ' j . -

y © £ x z o ' h U ç £ w Ÿ š \$) Ā) ` o M s M U z í w - w
(j t [" U * M O t ' " z w Ā ± Ÿ ' j . - q ... ` h
Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç ç ò) ± @ b w @ .

y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " @ .) U Š ` h A L z ± Ÿ • t _
T ' z U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z
t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t
' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç ç ò) ± @ b Y M w @ .

y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " @ .) U Š ` h A L z ± Ÿ • t _

T ' z t ' " @ b ` h q Y ~ • " Ô ù t x z O H Ú H ò w
F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U * M O	U * P % o
1 \$ 3 O t ' " ' j . w - ; w U Z	B ÷ ~ (
* H . Ā . ` X x * H " Ā . w U Z	B Z

2 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎含む)

ç £ [
y Ñ Ā ĩ ç ç μ j t b " ç μ Ā Ā ç ç ç μ t ' " ò) ± p z c
t ' l o p ^ • " {

ç £ Ÿ š \$) Ā
y T M Ô w æ i 8 w T M t ô ä p C ± b " { C ä x è x T M Ô Ē
b " { % o ĩ t , ç z æ w ç ^ z Ô Ñ ç z ĩ l Æ ü s r w ± Ÿ) b " {
C U ³ æ z z í ¶ t Ÿ Š ' • " Ô ù < K " { è x æ ĩ ĩ ... Í U Ÿ Š
' • " { ± Ÿ x è x ? Ž ° p s ĩ b " U z f w T M ¶ G 5 ò U " \
q < M { } t ô , t S M o x z í G ± Ÿ q q < t z ^ ' t O ž s ± Ÿ
q ' o z 9 ` M , ç z q ú z E A z M ² ò @ w = x z ' z z T M Ÿ Ē • z r
Ā s w ± Ÿ U Z q ' 7 š ò z ò > C ± b " \ q U K " { O ž s « p Ò
— Ÿ < U Ÿ R : t Ÿ Š ' • o M " {

ç £ § Z , j
ž ç ñ ç - « £
y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " > o ' h A L z ± Ÿ • t _ T
' ç μ Ā Ā ç ä U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t '
" z ç μ Ā Ā ç ä ñ q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F
t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç Ā ± Ÿ ' j . -

y © £ x z o ' h U ç £ w Ÿ š \$) Ā) ` o M s M U z í w - w
(j t [" U * M O t ' " z ç μ Ā Ā ç ä w Ā ± Ÿ ' j . - q
... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z
• y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç ç ò) ± @ b w @ .

y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " @ .) U Š ` h A L z ± Ÿ • t _
T ' z ç μ Ā Ā ç ä U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O
t ' " z ç μ Ā Ā ç ä t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H
Ú H ò w F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % o x z % o] t [" U * M O w à ü] q t z
f • g • % o - w È] t Š " < w w M c • T > ; M " \ q {
ç ç ò) ± @ b Y M w @ .

y © £ x z £ w Ÿ š \$) Ā) b " @ .) U Š ` h A L z ± Ÿ • t _
T ' z ç μ Ā Ā ç ä t ' " @ b ` h q Y ~ • " Ô ù t x z O H Ú
H ò w F t ' " § Z) Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U * M O	U * P % o
ü m ~ % o t ' " ' j . w U Z	B ÷ z 7 ÷
1 \$ 3 O t ' " ' j . w - ; w U Z	
* H . Ā . w U Z	B Z z 7 ÷
Ö ž B Z t ' " m è Ā . E 8 ç x m è Ā . A w T M w í ç	B Z

3 A型肝炎

ç £ [
y ç ç μ t ' " x Q ç ç μ Q p K " {
ç £ Ÿ š \$) Ā
y h " ò) & ĩ x z > ^ • h í ¼ • + s r > p ` h & ± \$ s ò > p K
" { æ i 8 x É ? p K " { ò) 8 x z ç ç μ U (t ^ •
" C ' w T M ? ² T ' C ± T M : T D t ' h " { s Ÿ š ± Ÿ x C ä z

¶ G5òzìlÆüpz+lz Gsrw ±YUÝŠ'·" { °
 t'™x'Xz «Q=b" \qxsMUz‡·t6±=b" \qUK" {
 -ÇpxÆfQò)·0±w\qU M { } ÝŠsĪ·OxsXz0±·
 OUáúqs" {

£ £\$Z, j

žçñ ç- «£

y©£xz £wÝš\$)Ä) b") o`hALz±Ý·t_ T
 ' z UY~·zTmzÍw~w () t [" U * M O t ' " z
 ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új
 tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 çÁ±Ý'j.-

y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 () t [" U * M O t ' " z wÁ±Ý'j.- q ...`h
 ÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új tæ~sZ·ys'
 sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@b w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z UY~·zTmzÍw~w () t [" U * M O t ' " z
 t' " @b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'
 " §Z) Új tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@bYM w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z t' " @b`hqY~·" ÔùtxzOH ÚH òw
 F t' " §Z) Új tæ~sZ·ys'sM {

U*MO	U*P%
1\$30t' 'j.w; wUZ	B÷z(
*H.Á.wUZ	BZ

4 エキノコックス症

£ [

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z +äUY~·zTmzÍw~w () t [" U * M O t ' " z + ä ñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új tæ~s
 Z·ys'sM {

ççò) ±@b w@.

y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 () t [" U * M O t ' " z + ä wÁ±Ý'j.- q ...`hÔù
 txzOH ÚH òwF t' " §Z) Új tæ~sZ·ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@b w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z + ä UY~·zTmzÍw~w () t [" U * M O t ' " z + ä
 t' " @b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z
) Új tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@bYM w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z + ä t' " @b`hqY~·" ÔùtxzOH ÚH òwF
 t' " §Z) Új tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@bYM w@.

y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 () t [" U * M O t ' " z çÁ±Ý'j.- q
 ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új tæ~sZ
 ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@b w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z çÁ±Ý'j.- q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új
 tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@bYM w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z çÁ±Ý'j.- q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új
 tæ~sZ·ys'sM {

U*MO	U*P%
A~K" MxA~w°æwUZ	w Z È è z \UÈè
&~*4" Oçx8FTUFSO #MPUOt' "Á.wUZ	BZ

5 黄熱

£ [

yÑáĪç çµJt b" +äç çµwò)t' " ç çµQZBä
 pK" {Éž} ³Úšsrt' " p^·" {

ç £Ýš\$)Ä

yæi8 x ™ Ô pzC±xµµpK" {qäçxqä" qq
 tðä) z`zEAzÔÑçzZBç" ZBzÄ (ZBz íEAz<Bz
 vZBç· (Øzz±\$°z+ls) Rb {Öèx ™ 'ÔT'
 ĩ t²TOUzO±wÔùtxaØzúÆ¶z Q -srpz ™
 'Ôtÿ ÈU@bb" {

ç £\$Z, j

žçñ ç- «£

y©£xz £wÝš\$)Ä) b") o`hALz±Ý·t_ T'
 z +äUY~·zTmzÍw~w () t [" U * M O t ' " z + ä ñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z) Új tæ~s
 Z·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@b w@.

y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 () t [" U * M O t ' " z + ä wÁ±Ý'j.- q ...`hÔù
 txzOH ÚH òwF t' " §Z) Új tæ~sZ·ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@b w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z + ä UY~·zTmzÍw~w () t [" U * M O t ' " z + ä
 t' " @b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t' " §Z
) Új tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@bYM w@.

y©£xz £wÝš\$)Ä) b" @.) UŠ`hALz±Ý·t_ T'
 z + ä t' " @b`hqY~·" ÔùtxzOH ÚH òwF
 t' " §Z) Új tæ~sZ·ys'sM {

y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t [" U * M O w à ü] q t z
 f·g·%o~wÈ]t Š" «wwMc·T»;M" \q {
 ççò) ±@bYM w@.

U*MO	U*P%
üm~%o t' 'j.wUZ	B÷
1\$30t' 'j.w; wUZ	BZ
*H.Á.wUZ	
ÖžBZt' " èÀ.E8çx èÀ.Aw ™wíç	

f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 çÁ±Ý'j.-
 y@£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'z<äwÁ±Ý'j.- q ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys's
 M{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 ççò)±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z<äUY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'z<
 <ät'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 ççò)±@bYM w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z<ät'"@b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷çCä8£
%o'úf•,<.,Ut'"'j.wUZ	
,«Ä.Ot'"'§BµÝžw ot'"' j.wÄjwUZ	
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	

9 キャサヌル森林病

ç £ [
 yÑãĭç çµJÑãĭç çµ t b"®B±Èçÿ)'ç çµ
 t'"ò)±pK"{
 ç £ÿš\$)Ä
 yxµ„pxzÚ¼Çq[ĪÄ) qb"xãúwKMipò) U
 ĭĒ^•oM"{ĪÄ•wò) <Ú¼Çw— t'lo\o" {œi8
 x™ ÔpK"zµµwCäz„çzŌŃçz•lzf°zdzzy
 Byz«=+±ÝzZBsr)Rhb{ÿ tZBQ + U'•z
 qVt Æŋ\a"ŋ w™ px™ ? îrU Mh™z
 6SCäU^•z7š •ò)\aòðæxÚz^ Ē•züzš
 ‡Msr)Rhb{•®px™ ĒpK"z™±)'b\qxsM{
 ç £§Z,j
 žçñ ç~ «£
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)o`hALz±Ý•t_T
 '®B±Èçÿ)'UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'
 "z®B±Èçÿ)'ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 çÁ±Ý'j.-
 y@£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'z®B±Èçÿ)'wÁ±Ý'j.- q
 ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ
 •ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 ççò)±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z®B±Èçÿ)'UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MO
 t'z®B±Èçÿ)'t'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{

ççò)±@bYM w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z®B±Èçÿ)'t'"@b`hqY~•"ÔùtxzOH Ú
 H òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z7÷
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
*H.Ä.wUZ	
æè¼gt'"Ä.wUZçÖžBZt'"Ä .E8çxÄ.Aw™wíç£	BZ

10 Q熱

ç £ [
 y~«³æĀJ~«³æĀ w Coxiella burnetii wò)t'lo\l"ò
)±pK"{
 ç £ÿš\$)Ä
 yèxxHš•É~srwÖ;Äwv^•Z^t È`oz;ktò) `oM"
 C.burnetii)uÖb"sr't'loz™ ? wœi8)&oC
 ±b){xQ&äpx ĭŃçµĭ²7pµµwòäz„çzŌŃçzŋ
 G5òz•™æçw±Ýp•‡}{xµĭ ²U§Xz Xx
 ŌŽ°träb" { íQ U .w •;óÿxU .w
 UK"{'™x°'t'M{ Ä SU«Q&ät æb"q^•z+
 š±srw,Äiñ)Ēm«pú°š)\bqĒĪQqs"z•@p
 UòXs" {
 ç £§Z,j
 žçñ ç~ «£
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)o`hALz±Ý•t_T
 '®B±Èçÿ)'UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'z&äñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~s
 Z•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 çÁ±Ý'j.-
 y@£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'z&äwÁ±Ý'j.- q ...`hÔù
 txzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 ççò)±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z&äUY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'z&ä
 t'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z
)Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š'wwMc•T;M"lq{
 ççò)±@bYM w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z&ät'"@b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
€,«Ä.Ot'"Ä.wUZç°°BZp *H.Ä. Ží`Xx*H(Ä. Žíz çxÖžBZt'"Ä.E8`XxÄ.Aw ™wíç£	BZ

11 狂犬病

£ [yâÔÀ¢ çµJt b°X'¢ çµwò't" &iñpK" {
 £Ÿš\$,Ā
 y°X'x°X'¢ çµ)- b" ÈzÉ-z-¢Pæz@ÀÉzµ
 §i«z-ä"Āsrwú\`út ‡•h"z%láT•h" `oò`
 `zC±b" {
 yæi8x™ §Dpz†•t âŽítt•Ÿš\$tx ‡*%w
 Œ®ŸxzmcçzÆ†òzÆ:z,,çzCäzª+C^z'zq %o {C
 ±b"q•Ē\$qs" {
 £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y©£xž £wŸš\$Ā) b" › o`hALz±Ÿ•t_T
 '°X'UY~•zTmzÍw-w (|t ["U*MOT' "z°X'
 ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 çÁ±Ÿ'j.-
 y©£xž o`h U¢ £wŸš\$Ā) `oMsMUzÍw-w
 (|t ["U*MOT' "z°X'wÁ±Ÿ'j.- q ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys's
 M {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 ççò)±@b w@.
 y©£xž £wŸš\$Ā) b"®.)UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z°X'UY~•zTmzÍw-w (|t ["U*MOT' "z°
 X't' "®b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z)Újtæ~sZ•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 ççò)±@bYM w@.
 y©£xž £wŸš\$Ā) b"®.)UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z°X't' "®b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM {

U*MO	U*P%o
üm~%o t'"'j.wUZ #÷	
, «Ā.Ot'"'j.wĀjw UZ	~šC£ªŠz1æw}Øz> u%P%o#÷¥w\UP%oz ôĒët ôŌN
1\$3Ot'"'j.w; wUZ	#÷z7÷zôĒët ôŌN
'MVPSFDFOU 'PDVT *O JTC;JUJPO 5FTU¢ x&-*4"Ot'"Ā.wUZ	

12 コクシジオイデス症

£ [y Ōw Coccidioides immitis wò)±pK" {
 £Ÿš\$,Ā
 y§é•Tæ»Āsrt' "TŌæw C.immitis wü... ü\ UT•q
 žtíπtāMíU"z\•uŌb" \qt' " ò)UI\ "zfw
 Ojÿ Ēwñ U¶ ò)•q %o {w'j.) " {Oíŋ z
 U*HĀ srw íò)w)eQUôM {Š\pxz«Q ~«³'!
 Āµ±U'~•" \qU Xz)srwhp ...tSMozA...•í
 Ž'!U-Ÿ^•" {
 £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y©£xž £wŸš\$Ā) b" › o`hALz±Ÿ•t_T
 '°«³'! Āµ±UY~•zTmzÍw-w (|t ["U*MOT'
 "z~«³'! Āµ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òw

F t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 çÁ±Ÿ'j.-
 y©£xž o`h U¢ £wŸš\$Ā) `oMsMUzÍw-w
 (|t ["U*MOT' "z~«³'! Āµ±wÁ±Ÿ'j.-
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~s
 Z•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 ççò)±@b w@.
 y©£xž £wŸš\$Ā) b"®.)UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z~«³'! Āµ±UY~•zTmzÍw-w (|t ["U*M
 OT' "z~«³'! Āµ±t' "®b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 ççò)±@bYM w@.
 y©£xž £wŸš\$Ā) b"®.)UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z~«³'! Āµ±t' "®b`hqY~•ÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM {

U*MO	U*P%o
üm~%o t'"'j.wUZ	0yz> ššÜ÷z çx}
, Ut'"'j.wUZ	Øw'gĒë
Ôø!„Ot'"Ā.wUZ	BZz7÷

13 サル痘

£ [y±çq¢ çµ¢.POLFZQPY WJSVTŁt' "xQC QiñpK" {
 £Ÿš\$,Ā
 y[ĪĀ~±çsrwú\`úzK" Mxf•T'ò) `hŌĵĀt
 ‡•"zK" MxB÷z.÷zC srti•" \qpò)b" {ĪĀ
 T'ĪĀ•wò)x‡•pxK" Uz~¥t' "ò)zK" Mx.÷zñ
 w.÷•^¥p ›^•h¥~•øésrqw€it' "ò)UK" O
 "{æi8 x™ Ō¢Gæüx™ Ō£pK" {CäzÆw
 òz,,çz æçzC srzqfOq'XĀh±ŸU'•" UzĀt
 æĪí...w ĪUK" {•@pxÿM {
 £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y©£xž £wŸš\$Ā) b" › o`hALz±Ÿ•t_T
 '±çqUY~•zTmzÍw-w (|t ["U*MOT' "z±çq
 ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ
 ~sZ•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 çÁ±Ÿ'j.-
 y©£xž o`h U¢ £wŸš\$Ā) `oMsMUzÍw-w
 (|t ["U*MOT' "z±çqWÁ±Ÿ'j.- q ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys's
 M {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 ççò)±@b w@.
 y©£xž £wŸš\$Ā) b"®.)UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z±çqUY~•zTmzÍw-w (|t ["U*MOT' "z±
 çqt' "®b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z)Újtæ~sZ•ys'sM {
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz
 f•g•%o-wĒ)t Š"‹wwMc•T);M" \q {
 ççò)±@bYM w@.

y@£xæ £wÿš\$>Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'z±çqt'@"@b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	+nzõnzB÷z æíí...
ç çµ{ wÚ€ oç? f•, £t'" j.wUZç~ «T'wËíò>ìçxò >^úT'wò>U\$XY~•"Ôù£	
, «Á.Ot'"j.wÁjwUZ	
1\$30t'"j.w"; wUZ	

1 4 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)

ç £ [y ÒÇàç çµJÑèØ ç µ w O ± ä Q B - X n - ± © ç 4 F W F S F ' F W F S X J U I 5 I S P N C P D Z U P Q F O J B 4 Z O E S R Ñ 6 † 4 0 5 4 2 0 " ç µ t ' " ò > ± p K " {

ç £ ÿš\$>Ä y t 4 ' 5 4 ç ç µ > - b " Ú ¼ Ç t - ^ • " \ q p ò > b " { y æ i 8 x ™ Ô { C ä z « = + ± Ý ç E > z E A z ò ç z < i z < B £ > Á q ` z ì t z , ç z Ò Ñ ç z & ± Ý z æ í í ... í z Z B ± Ý s r } P O { B ÷ t _ p x z B - X n - ç a N N ° ñ £ (B • n - ç N N ° ñ £ B z i É ç " 4 5 z " - 5 z - %) £ w í ç U Ý Š ' • " { • @ p x ™ S p K " {

ç £ § Z , j ž ç ñ ç - « £ y @ £ x æ £ w ÿ š \$ > Ä) b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' O ± ä Q B - X n - ± © U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z O ± ä Q B - X n - ± © ñ q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È } t Š " < w w M c • T > ; M " \ q { ç Á ± Ý ' j . -

y @ £ x z o ` h U ç £ w ÿ š \$ > Ä) ` o M s M U z í w - w (j t [" U * M O t ' " z O ± ä Q B - X n - ± © w Á ± Ý ' j . - q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È } t Š " < w w M c • T > ; M " \ q { ç ç ò > ± @ b w @ .

y @ £ x æ £ w ÿ š \$ > Ä) b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z O ± ä Q B - X n - ± © U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z O ± ä Q B - X n - ± © t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È } t Š " < w w M c • T > ; M " \ q { ç ç ò > ± @ b Y M w @ .

y @ £ x æ £ w ÿ š \$ > Ä) b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z O ± ä Q B - X n - ± © t ' " @ b ` h q Y ~ • " Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	B ÷ z B Z z ° „ ç M ÷ z Ø
1\$30t'"j.w"; wUZ	
& - * 4 " O ç x € , « Á . O t ' " Á . w U Z ç * H . Á . w U Z ç x Ö ž B Z t ' " Á . E 8 ` X x Á . A w ™ w í ç £	BZ
ç è ¼ g t ' " Á . w U Z ç Ö ž B Z t ' " Á . E 8 ç x Á . A w ™ w í ç £	

1 5 腎症候性出血熱

ç £ [y È i ` ç ç µ ç Ò Ç à ç ç µ J È i ` ç ç µ £ t ' " ä Q ~ Q i ñ p K " {

ç £ ÿš\$>Ä y t É ¶ Ú w ú t € i ç ç z é ° ç w u Ö) % £ b ` \ q t ' " z Í Ä t ç ç µ U ; ù b " { \ w ç ç µ x Í Ä t ò > b " q Y ~ t ' " O ž s ¶ ò > z K " M x i ñ ` \ a z Ž < w U E ' • o M " { ž ç O ± ž ' ž y Á Ô É ¶ Ú w . . µ ' É ¶ Ú U p b " { æ i 8 x ™ Ô p z C ä p • † " ä 8 z ý B y 8 ç ³ ä ç & æ ™ Ô £ a Ø 8 ç ™ Ô £ b Ø 8 ç ™ Ô £ s i 8 t ü Z ' • " { ¶ } Ø t : Ý Z B U Z ` \ q U K " { C ± T ' @ b † p w i x ™ Ô p z Ø É É x ™ N H E M t a b " { x i ò S w • (Ø z B Ø) P O { ç O ± µ § i ' A i ž

y à ½ É ¶ Ú t ' " } X O S w C ä z • (Ø z B Ø U ^ ' • " w ^ p z R Ñ 6 † 4 0 5 4 2 0 " ç µ t ' ç £ § Z , j

ž ç ñ ç - « £ y @ £ x æ £ w ÿ š \$ > Ä) b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' ± © Q Z B ä U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z ± © Q Z B ä ñ q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È } t Š " < w w M c • T > ; M " \ q { ç Á ± Ý ' j . -

y @ £ x z o ` h U ç £ w ÿ š \$ > Ä) ` o M s M U z í w - w (j t [" U * M O t ' " z ± © Q Z B ä w Á ± Ý ' j . - q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È } t Š " < w w M c • T > ; M " \ q { ç ç ò > ± @ b w @ .

y @ £ x æ £ w ÿ š \$ > Ä) b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z ± © Q Z B ä U Y ~ • z T m z í w - w (j t [" U * M O t ' " z ± © Q Z B ä t ' " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È } t Š " < w w M c • T > ; M " \ q { ç ç ò > ± @ b Y M w @ .

y @ £ x æ £ w ÿ š \$ > Ä) b " ® . U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z ± © Q Z B ä t ' " @ b ` h q Y ~ • " Ô ù t x z O H Ú H ò w F t ' " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	B ÷ z Ø ç x Q 8 £
1\$30t'"j.w"; wUZ ç (B •) ; M " £	
& - * 4 " O ç x € , « Á . O t ' " * H . Á . ` X x * H (Á . w U Z	BZ

1 6 西部ウマ脳炎

ç £ [y Ä ~ ç ç µ J ž ç Ñ • ç ç µ t b " b æ ç Ú ò ç ç µ t ' " ò > ± p K " {

ç £ ÿš\$>Ä y x µ , p x z ç § q x w p ò > U j È ^ • o M " { Í Ä • w ò > < ç § w - t ' " { æ i 8 x ™ Ô p K " z , ç z C ä z Ø y Æ † z ü " z > µ Q z ò æ x Ú z \$ i z q v t Ý x s ^ Ý 6 s r U ^ ' • " { ò \ a " q ™ Ý È • z ž Q r Q ' z U ^ ' • " { t Ø Ç p x x s & a > " z { V z r Ä z ~ ó r } s r U ^ ' • z \ ' w

ĒŽípôtĒ·›`z æQwÆóC-Æ¶›Vhb{áÔts
 „rsixāXzèxx ™ Ôpsib”{
 € £\$Z,j
 žçñ €- «£
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”› o`hALz±Ÿ•t_T
 'bæçÚô UY~•zTmzÍw~w{]t [“U*MOt'“z
 bæçÚô ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y
 s'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{
 çÁ±Ÿ'j.-
 y©£xæ o`h Uç £wŸš\$›Ā› `oMsMUzÍw~w
 (]t [“U*MOt'“zbæçÚô wÁ±Ÿ'j.- q ...
 `hÔùtxzOH ÚH òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y
 s'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{
 ççò)±@b w@.
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”@.› UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z¼ç pô UY~•zTmzÍw~w{]t [“U*MOt'
 “z¼ç pô t'“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH ò
 wF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{
 ççò)±@bYM w@.
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”@.› UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z¼ç pô t'“@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
 òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'”'j.wUZ	B÷z7÷
1\$30t'”'j.w~; wUZ	
*H.Ā.wUZ	
æè¼gt'”Ā.wUZçÖžBZt'”Ā .E8çxĀ.Aw ™wíç£	BZ

17 ダニ媒介脳炎

€ £ [
 yÑāīç çµJÑāīç çµ t b”¼ç pô ç çµt'
 ”ò)±pK”zæ ä”éçí¼ç pô qé³ž_Fô w
 tūZ'•”{
 € £Ÿš\$›Ā
 yxµ„pxÚ¼çq[IĀ~qw tò› UjĒ^•oM”UzÚ¼
 Çpx&[;ú<K”O”{ĪĀ•wò>x tÚ¼çw— t'”Uz
 àªwŌwç;t'”\q<K”{œi8 xèx ™ ÔpK”{æ
 ä”éçí pxzCäzÒÑçsrw iÑçpī²7±ŸUZq`z
 ™ Ô X{±«w~ūw°pxzfw ™:Ô&loH**8tÖ”z
 7šò ›\aorĀzç¶úçœ@Ÿxsr› b”{•@px ™
 pK”Uz&¶\$ ™±U ™ t'”•”{é³ž_Fô pxz
 çµtôSw„çzCäzqúç\$}srpC±`zfw ™qĐtsib
 ”«<K”Uz px7šò t 2`zòæxÚzrĀz^ ±Ÿz1
 æ•í¶wž Q'zsrU'”•”{•@px tí“z\` w
 ™ px &¶\$ ™±)Rhb{
 € £\$Z,j
 žçñ €- «£
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”› o`hALz±Ÿ•t_T
 '¼ç pô UY~•zTmzÍw~w{]t [“U*MOt'“z
 ¼ç pô ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y
 s'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{

çÁ±Ÿ'j.-
 y©£xæ o`h Uç £wŸš\$›Ā› `oMsMUzÍw~w
 (]t [“U*MOt'“z¼ç pô wÁ±Ÿ'j.- q ...
 `hÔùtxzOH ÚH òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y
 s'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{
 ççò)±@b w@.
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”@.› UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z¼ç pô UY~•zTmzÍw~w{]t [“U*MOt'
 “z¼ç pô t'“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH ò
 wF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{
 ççò)±@bYM w@.
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”@.› UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z¼ç pô t'“@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
 òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'”'j.wUZ	B÷z7÷
1\$30t'”'j.w~; wUZ	
*H.Ā.wUZ	
æè¼gt'”Ā.wUZçÖžBZt'”Ā .E8çxĀ.Aw ™wíç£	BZ

18 炭疽

€ £ [
 yŠ±xxxkŌç Bacillus anthracis £t'”Īq^úwò)±pK”{
 € £Ÿš\$›Ā
 yĪĀxktx mw As' UK”{
 žç}Øxk
 y¶.w ™ ĒžŠ”{œi8x ™ ÔpK”{s8'!xç
 @Ī~^•7pzT^•PO\qUK”{s8'!“tx+nU
 R^•zĪHt/ \$s íwg}qs”{S'f Ēwñ pxg
 }w R ™ ™ ÔpĪ b”Uz Ēpxò>xæī...t|B÷
 •q 2`z B±)C±•o•\$pK”{
 ç xk
 yĪæ>“wò)p•±”s8^šx iÑçpī²swç çµQzu
 +ò)•0Sw> § t Ā`oS”z0SwCäz¶ G5òzŌ
 Ñçs}ìQ”{:Ô`oH w`š• æb”qµpzu ÉzCüt
 |½žĒ”› b”{\w`štab”qèxz ì Žòt@bb
 ”{
 ççĪxk
 yŠ±p@b`h`úwÑ›•i`h ™ ™ ÔpC±b”{Ī!æx
 sĪ<æt|áĪt M{s8±Ÿq`oqúçEAzĪĪÆüzCäU
 K”zĪMpòçzAB› `zB÷Qw<i> b”Ôù<K”{ŸB
 ±•q æb”qz³āç «z¼žĒ”› `@bb”{Īxkw•@
 px ™ ĒqĀ•”{
 ç7šxk
 y}Øxkwÿ Ēz xkw — t¼V Mol\”Uz±•tsò
 ›w7šxk<K”{7šxkxĪ•> ælo<zC± ™ ™ Ôp
 ĒU@bb”{

€ £\$Z,j
 žçñ €- «£
 y©£xæ £wŸš\$›Ā› b”› o`hALz±Ÿ•t_T
 'xkUY~•zTmzÍw~w{]t [“U*MOt'“zxxkñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'”\$Z›Újtæ~sZ•y
 s'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%]t [“U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”‹wwMc•T›;M”\q{

çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~
(]t ["U*MOt'z xkwÁ±Ý'j.- q ...`hÔù
txzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@b w@.
y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'z xkUY~•zTmzÍw~(]t ["U*MOt'z xk
t'@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z
)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@bYM w@.

U*MO	U*P%
üm~% t'"'j.wUZ	áÄËëzB÷z7÷z³+z
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	}Ø'!æ

19 チクングニア熱

ç £ [
yÄ`ç çµJžçÑ•ç çµ t b"½«i-Çžç çµt'
"ò)±pK"{
ç £ÿš\$)Ä
y½«i-Çžç çµ)- b"àÒŠ wÉ¿» ³ÚšzÍÄµ'
³Úšsrt—^•"lqpò)b"{œi8 x™ Ôçèx™
Ô£pzñ wG :xxQäQiñw±Ý) b"{Cäq ...çx
žCpK"zC x Ä StÝŠ'•"{ ...çx)¶ç •£t\$X
0¶QpzfwÄSx z z ižžšzœz^wqpK"z ...w
±• í)POÖù«K"{ ...çxxQ±ÝU0w`h™<z:?
T':òDt`hlo XÖùUK"{fw w±Ýq`oxz¶ G5
ò~„ç~ÖÑç~æí... ípK"{B÷t_pxzæíí•n—z
B—Xn—UÝŠ'•"{O±«px &±Ýçò±£•6± UC
^•oM"{žÑæšz iÄ8af z iÄzfÆž`žwä3-e
ä3→)µúq`ovæU^•oM"{
ç £\$Z,j
žçñ ç- «£
y©£xz £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T
'½«i-ÇžäUY~•zTmzµwít ["~w(]t ["U*
MOt'z½«i-Çžäñ q ...`hÔùtxzOH ÚH ò
wF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~
(]t ["U*MOt'z½«i-ÇžäwÁ±Ý'j.- q ...`
...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•
ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@b w@.
y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'z½«i-ÇžäUY~•zTmzÍw~(]t ["U*MOt'
"z½«i-Çžät'@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH
òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@b w@.
y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'zmmU~'UY~•zTmzÍw~(]t ["U*MOt'z
mmU~'t'@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@bYM w@.
y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'zmmU~'t'@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH ò
wF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'z½«i-Çžät'@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"'j.wUZ	B÷
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
*H.Ä.wUZ	BZ
&-*4"Oç*H(Ä.£æè¼gçxzB•½Bí-Ot 'Ä.wUZçÖžBZt'Ä.E8çxÄ.Aw ™wíç£	

20 つつが虫病

ç £ [
ymmU~'æ-¿½žç Orientia tsutsugamushi £t'"ò)±pK"{
ç £ÿš\$)Ä
ymmU~'æ-¿½žç)- b"ÄÄ`Ü³t—^•o™ Ôwœ
i8w™tz¶ G5òzīlÆüqq<t„çzqäzCäs)rPl
oC±b"{.9x`Š\$tiç`˙:Öp Æt<ab"{—±x}
ØwJ'TMÄ•hæüt M{—±wt æíí...xCäb"² T
'ÍHt íb"{H™ 'Ö'Æ wC UZqb"UzC x
%Øz.ðt X)¶tx—sM{ÄÄ± «æí%w @sÄÖ t
'"Í•U&~tæ~•"q6\$±Ýw~³U^•"O±ts"q
•ò ±Ý)Rb{z,"z-Äsr°æw•→)†Mo¶ pC\
U^•" {
yC\i8x_™sFt|i3T'YpK"Uz pÄÄ`Ü³w\ •
~t'loÝs"{
ç £\$Z,j
žçñ ç- «£
y©£xz £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T
'ymmU~'UY~•zTmzÍw~(]t ["U*MOt'zmm
mU~'ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)
Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@b w@.
y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'zmmU~'UY~•zTmzÍw~(]t ["U*MOt'z
mmU~'t'@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P% xz%]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%~wÈ]t Š"‹wwMc•T);M"\"q{
ççò)±@bYM w@.
y©£xz £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_`
T'zmmU~'t'@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH ò
wF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"'j.wUZ	B÷z'gÉë
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
€, «Ä.Oçx €ÖøÖç ©³¼", Ot'Ä.wUZç*H.Ä.wUZçxÖžB Zt'Ä.E8`XxÄ.Aw™wíç£	BZ

21 デング熱

£ [yÑãĩç çµJt b"Äĩ-ç çµð)±pK" { ç £ÿš\$)Ä y™ Ôç Xx™ Ô£wæi8w™t¥µwδäpC±b" { „çz0çz%ØÛÉzAšFB)PO{Cäx™ Ô È b"çÈ FQPk"lqU Mqš8±Ýt Mo¶ wÖÑçz ... çz¶ G5ò) b" {C±™™ Ô™³æz.ðT'xa±"C UZq `z)¶z%Ø•çU" {±Ýx ? Spsîb" {B÷t_pxô Sw(B•n-zB-Xn-U'•" {ZB•³ãç«±Ý)POO± q`oÄĩ-ZBä^{εβ£} UK"z¶ gUžAqs"lq<K" {Ī ÄT'ĪÄ•wÚ€ò)xsMUzä3~eä3ç)tz'žz!·žÇ žzæ£ £tçXüíb" {ÖŠ °pwò)xsMUz,žpò) h U °pC±b"lqUK" { yçp£Äĩ-ZBä• Äĩ-äq„...%7tC±&ab"Uzräwì 8tBvÛZ•B-Xn-t'"ZB²t,n X±ÝUZq`z@t,"lq<K" { ç £šZ,j žçñ ç- «£ y©£xç £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T 'Äĩ-äUY~•zTmzpwít ["~w(jt ["U*MOt "zÄĩ-äñ q ...`hÖùtxzOH ÚH òwF t'" §Z)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T;M"lq{ y<Gw mw,j)¶o-h`hÖùtxÄĩ-ZBäq`ošZZ" lq{

òçè	°ç0
ÿš±Ý	™ Ô È b" Cäçl tÈFQwí»" ĩ)q"£
B•aQw	ž<wBvÛZ±ÝwOj mžĪ ~ÔÚÄ «æç Äwíçç4÷s`p%Qz%o äEw tz, Èžíwíç£ ~³ãç«±Ýw O ~BZ•(wÿ<K" Mxz³+çxò+w O
B-Xwn-	- NN ž<
ZB²	ž<wZB²wOj mžĪ ~5PVSQJRvFUÄµÄEQ ~:ÝZBzWÝZBK" MxµW ~êšK" Mx«= ZBzK" Mx«üæ• •wæ•T'wZB ~B(

çÄ±Ý'j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w (jt ["U*MOt"zÄĩ-äwÄ±Ý'j.- q ...`h ÖùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys' sM{ y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T;M"lq{ ççò)±@b w@. y©£xç £wÿš\$)Ä) b"@.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÄĩ-äUY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt"z Äĩ-ät'"@b`hqQ...`hÖùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T;M"lq{ ççò)±@bYM w@. y©£xç £wÿš\$)Ä) b"@.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÄĩ-ät'"@b`hqY~•ÖùtxzOH ÚH òw F t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷
1\$3Ot'"'j.w~; wUZ	
‡ı•(Äjç/4 £wUZ	BZ
*H.Ä.wUZçÖžBZt'"Ä.E8çx Ä.Aw™wíç£	
æè¼gçxzB•½BÍ-Ot'"Ä.wU ZçÖžBZt'"Ä.E8çxÄ.Aw™ wíç£	

22 東部ウマ脳炎

£ [yÄ"ç çµJžçÑ•ç çµ t b"façÚô ç çµt' "ò)±pK" { ç £ÿš\$)Ä yxµ„pçcqxw pò) UjÈ^•oS"zx•w pçx t ÈØ³š wcpK"Uz@ĩ éàÖšsr< b" {ĪÄ•wò) x tàÖšw- t'" {æi8 x™ ÖpK"zòäzqäz G5òzÖÑçsr)\a"Uz™ ? psîb"lqU M{`T `zqVtxô)C±`oz -z@bt,"lqUK" {ô x @žĪ• @ž<pI\•bXz•@px t(Í"z' w R:x0S™òSwì \$s &¶\$™±)'b{ ç £šZ,j žçñ ç- «£ y©£xç £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T 'façÚô UY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt"z façÚô ñ q ...`hÖùtxzOH ÚH òwF t'"§ Z)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T;M"lq{ çÄ±Ý'j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w (jt ["U*MOt"zfaçÚô wÄ±Ý'j.- q ... `hÖùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•y s'sM{ y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T;M"lq{ ççò)±@b w@. y©£xç £wÿš\$)Ä) b"@.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zfaçÚô UY~•zTmzÍw~w(jt ["U*MOt' "zfaçÚô t'"@b`hqQ...`hÖùtxzOH ÚH ò wF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÖùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOWàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T;M"lq{ ççò)±@bYM w@. y©£xç £wÿš\$)Ä) b"@.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zfaçÚô t'"@b`hqY~•ÖùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z7÷
1\$3Ot'"'j.w~; wUZ	
*H.Ä.wUZ	
æè¼gt'"Ä.wUZçÖžBZt'"Ä .E8çxÄ.Aw™wíç£	BZ

23 鳥インフルエンザ (鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9)を除く。)

£ [yÄæt0`oò)Q)Öb ĩÑçæí²ç çµç # t|

e ›†XƒwíÄ•wò›±pK”{
 € £Ÿš\$›Ä
 yx iŃçpi²ç çµtò›hHŃsrT’íÄ•ç çµUò
 ›b”\qU]X‡•t\”{ z z e ç çµwíÄ•
 wò›UC ^•oS“z áwóÓpw — # z
 â!âi¼pw — # t”Ä«pxzÍÄT’íÄ•wò›;û
 ‹l\lhqC ^•oM”{
 yx iŃçpi²ç çµw z e wò›«pxzæi8 x
 èxw iŃçpi²çq%aX™ ÔqBQ’•oS“z±Ýx≠µw
 ôäz•srwzu±Ýw zczOžs z +Æ¶srw¶
 ±Ý›¾Vl\bO±«K”{
 y — # e ç çµwò›pxAš ›l\h«U M{óÓ
 srp:«C ^•oM” — # e ç çµt”ò›pxzC
 äz•swèxw iŃçpi²ç±Ý›`hqc ^•oM”{
 € £\$Z,j
 žçñ ç¬ «£
 y©£xž £wŸš\$›Ä› b”› o`hALz±Ý•t_ T
 ’x iŃçpi²çx iŃçpi²ç # t| # £†Xƒ
 UY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt“z x iŃçpi
 ²çx iŃçpi²ç # t| # £›†Xƒñ q ...`
 hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z›Újtæ~sZ•ys
 ’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 çÁ±Ý’j.-
 y©£xž o`h Uç £wŸš\$›Ä› `oMsMUzÍw~w
 (jt [”U*MOt“z x iŃçpi²çx iŃçpi²ç
 # t| # £†XƒwÁ±Ý’j.- q ...`hÔùtxz
 OH ÚH òwF t”\$Z›Újtæ~sZ•ys’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 ççò›±@b w@.
 y©£xž £wŸš\$›Ä› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T
 ’zx iŃçpi²çx iŃçpi²ç # t| # £›
 †XƒUY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt“z x i
 Ńçpi²çx iŃçpi²ç # t| # £›†Xƒt’
 “@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z›Ú
 jtæ~sZ•ys’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 ççò›±@bYM w@.
 y©£xž £wŸš\$›Ä› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T
 ’zx iŃçpi²çt“çx iŃçpi²ç # t| #
 £›†Xƒ@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH òwF t
 “\$Z›Újtæ~sZ•ys’sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t”’j.wUZ	“âu¾÷z”âçM÷z°
U.T’Ú€w1\$3Ot”’j. w”; wUZ	„çM÷z TšÛ÷zdU P%
æè¼gt”Ä.wUZ	BZ

2.4 ニパウイルス感染症

€ £ [
 yÇíç çµt”ò›±pK”{
 € £Ÿš\$›Ä
 yò›&ixò›^úç tÒ»£w.÷•Êëqw€it”qBQ’
 •oM”{èxzCäqÔŃçsrw iŃçpi²ç±Ý›`zfw
 °æU™ÝË•zrÄsr›PMzò›C±b”{
 € £\$Z,j
 žçñ ç¬ «£

y©£xž £wŸš\$›Ä› b”› o`hALz±Ý•t_ T
 ’Çíç çµò›±UY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt
 “zÇíç çµò›±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òw
 F t”\$Z›Újtæ~sZ•ys’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 çÁ±Ý’j.-
 y©£xž o`h Uç £wŸš\$›Ä› `oMsMUzÍw~w
 (jt [”U*MOt“zÇíç çµò›±wÁ±Ý’j.-
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z›Újtæ~s
 Z•ys’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 ççò›±@b w@.
 y©£xž £wŸš\$›Ä› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T
 ’zÇíç çµò›±t”@b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t”\$Z›Újtæ~sZ•ys’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 ççò›±@bYM w@.
 y©£xž £wŸš\$›Ä› b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_ T
 ’zÇíç çµò›±t”@b`hqY~•ÔùtxzOH
 ÚH òwF t”\$Z›Újtæ~sZ•ys’sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t”’j.wUZ	7ç
Ôø›ít”’j.wÁjwUZ	„çM÷z”âç M÷zøz’gÈ ë
1\$3Ot”’j.w”; wUZçdU«x æ; &%ËËT’UZ^•”£	
&-*4”Oçxæè¼gt”Ä.wUZç*H.Ä .wUZç&-*4”Ow^£çxÖžBz t” Ä.E8`XxÄ.Aw™wíç£	BZ

2.5 日本紅斑熱

€ £ [
 yÔŠÚWäæ-¿½žç Rickettsia japonica £t”ò›±pK”{
 € £Ÿš\$›Ä
 yÔŠÚWäæ-¿½žç - b”Ú¼Çç©½Ú¼ÇzŃ»Ä@½Ú¼
 Çsr£t—^”\qpò›b”{—^•oT’™ Ô T”„çz
 ¶ G5òzôäsrrPlOc±b”{—±›_mZ”\qx ...w
 •Zqs”{ðäq„...%òtÚíwWp U sræšæT’úQ
 tCb”{æíí... ÍxK‡”^”sM{’%EQzB•n—z
 B—Xn—z ;óŸxsrxmmU—’q%7pK”UzmmU—’t
 z, srO±±=’•bM{
 € £\$Z,j
 žçñ ç¬ «£
 y©£xž £wŸš\$›Ä› b”› o`hALz±Ý•t_ T
 ’ÔŠÚWäUY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt“zÔ
 ŠÚWäñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z›
 Újtæ~sZ•ys’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 çÁ±Ý’j.-
 y©£xž o`h Uç £wŸš\$›Ä› `oMsMUzÍw~w
 (jt [”U*MOt“zÔŠÚWäwÁ±Ý’j.- q ...`
 hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z›Újtæ~sZ•ys
 ’sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T;M”\q{
 ççò›±@b w@.

y@£xæ £wÿš\$;Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÔŠÚWäUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'"z ÔŠÚWät'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ ꞡçò)±@bYM w®. y@£xæ £wÿš\$;Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÔŠÚWät'"@b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z'gÈë
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
€,«Ä.Oçx €ÔøÖç!@³¼",_O t'"Ä.wUZç*H.Ä.wUZçxÖžBZ t'"Ä.E8`XxÄ.Aw™wíç£	BZ

26 日本脳炎

ç £ [yÑãĩç çµJt b"ÔŠô ç çµwò)t'"xQô pK "{Ô»Uÿĩ^úqs"z~"žš ꞡšsrwçU pb"{ ç £ÿš\$)Ä yò)™™ ? wæi8)&ozx9sCäq,,ç) ìq`oC± b"{fw zsc±Ýq`o¶ G5òzīlÆüzAV>zEAzò ç< Ob"{fw™z±Ýxq=`zòæxÚz\$iz™ÝÈ•zµ z >Ø7%tzÔxÚz,,æ &'zz üz)¶ü"zÆ5™á^zá^ æĐz`\$SùUZqb"{Ç@È•x±•pK"{CäxC±™ Ô t7<òXs"zäxfw™ÍHtÿ<b"{•@pxÿ Èzñ w Èx™~±)`zfw xsîb"{@bb"ÔùxC±™ ? Sp@bb"{ ç £šZ,j žçñ ç~ «£ y@£xæ £wÿš\$;Ä) b" ®.o`hALz±Ý•t_T 'ÔŠô UY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'"zÔŠ ô ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ çÄ±Ý'j.- y@£xz o`h Uç £wÿš\$;Ä) `oMsmUZíw~w (Jt ["U*MOt'"zÔŠô wÄ±Ý'j.- q ...`h ÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys' sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ ççò)±@b w®. y@£xæ £wÿš\$;Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÔŠô UY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'"z ÔŠô t'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ ꞡçò)±@bYM w®. y@£xæ £wÿš\$;Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÔŠô t'"@b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z7÷
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	
*H.Ä.wUZ	BZz7÷
æè¼gçxzB•½BÍ-Oçx4.AùS t'"Ä.wUZçÖžBZt'"Ä.E8 çxÄ.Aw™wíç£	BZ

27 ハンタウイルス肺症候群

ç £ [yÔÇàç çµJzÈĩ»ç çµ wýH,,Èĩ»ç çµç³ĩÈ ïÔèç çµs£t'"xQzu+ò)±pK"{ ç £ÿš\$)Ä y²æ±Ýq`oCäqÔÑçU^•"{ÍMp•zxQt æb"z u ÉU>Ä\$pz`y`y«=±Ýt|,,ç)PO{ÄzuzÄ%w ZqÄSUôM{R:tÿBys)PO{Cä~qäx™ Ô VzÍ Mp æQzu ÉzŽÉÆ^èÝ6t "ç + z Ô t'"£ āMÔùxC±™ ì Ž°w@b`Ä_t^•"{ + sw;, xúJQpxsM{-çp ꞡtçcsWZ÷w.y`h`ÄpUZ"{ •@px™ ÈpK"{ yò)&ĩq`oxzfç çµ) %o úçØz(Æ#÷t" ^•h,,\`uM %oç\•U7< MÆ,, w±±T`ç ç µt ^•hÉ¶Úw úz#÷U€ĩ`oÖ"z...É¶Út ±• "spK"{ y p^úxz px³š³éž³É¶ÚUzÆ px~çÄĩäçÄ Uç çµ- ^úq`o7<°`\$pK"{ç çµ) pb"\w wÉ¶Úx zšÆ¼zÆ ç½æzçç,ĩ½is£t< Ob"{ \wÉ¶Úqç çµxÔšpx_mTloMsM{ ç £šZ,j žçñ ç~ «£ y@£xæ £wÿš\$;Ä) b" ®.o`hALz±Ý•t_T 'Èĩ»ç çµ ±@ UY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*M Ot'"zÈĩ»ç çµ ±@ ñ q ...`hÔùtxzOH Ú H òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ çÄ±Ý'j.- y@£xz o`h Uç £wÿš\$;Ä) `oMsmUZíw~w (Jt ["U*MOt'"zÈĩ»ç çµ ±@ wÄ±Ý'j.- q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ ççò)±@b w®. y@£xæ £wÿš\$;Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÈĩ»ç çµ ±@ UY~•zTmzÍw~w(Jt ["U *MOt'"zÈĩ»ç çµ ±@ t'"@b`hqQ...`hÔùt xzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{ ꞡçò)±@bYM w®. y@£xæ £wÿš\$;Ä) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_ T'zÈĩ»ç çµ ±@ t'"@b`hqY~•"ÔùtxzOH ÚH òwF t'"šZ)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z ÈëP%oç\Uz
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	dUt'"ý±~ZAÈë£
€,«Ä.Oçx&-*4"Ot'"*H. Ä. `Xx*H(Ä.wUZ	BZ

28 Bウイルス病

£ [yÚ\$« w±çt×Ob” £ çµçÔçÖµç çµJ~žçÑ• ÔçÖµç çµçJ£t’“ãQ~ &QiñpK”{ ç £ÿš\$;Ä y±çt’” †™z±ÝCqçpwpæi8 xāMÔù Ôzèx™ ? pK”{ã8±Ýq`oxz±çqw€íæ•çŽ†æ£*“w+nQK”Mxõ~Q}Øèš’!z€íæ•wmçzáqòzt æíí ... Í›R`z±8±Ýq`oxCáz€íæ•wò@ÿxz€íæ•wÔ—ÿ<K”Mx’z’z t±çwü{úsUxvqœiMtxAš ›Rb{í8txí“ã zòæšÚzË b”„çzqú~EAzô ðæ±Ýq`oó’z’í Ë•zè†Mzæ ±z!)Q’zt|œ@Ë •z™ÿË•zô ±Ý›R`zÁí•pw•@px™ Ë{ \ «p•Ožs &Ë•U™“±q`o’•”{ yò>ãixigèz^ú K”MxÖ¿ÄwÚ\$« ±çqw€íç †zra†£t|f•’w±çw#÷zê÷qíÄèšqw€íçq|x v£t’”{†higèp±çt-;`h«ù w —`z F`âµ +ét’”Ž†t’lo`ò>b”{ ç £\$Z,j žçñ ç- «£ y©£xž £wÿš\$;Ä> b” › o`hALz±Ý•t_T ’ ç çµ’UY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt’“z ç çµ’ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ çÁ±Ý’j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$;Ä> `oMsMUzÍw~w (jt [”U*MOt’“z ç çµ’wÁ±Ý’j.- q ... `hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ çÁ±Ý’j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$;Ä> `oMsMUzÍw~w (jt [”U*MOt’“z ç çµ’wÁ±Ý’j.- q ... `hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ ççò>±@b w@. y©£xž £wÿš\$;Ä> b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_T ’z“kUY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt’“z“k t’“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ ççò>±@bYM w@. y©£xž £wÿš\$;Ä> b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_T ’z“kt’“@b`hqY~•”ÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t’”’j.wUZ	°„çM÷zôx 7÷z †æ~raæ•w\UËë
1\$3Ot’”’j.w~; wUZ	
&-*4”OçÁ¿ÄÖé¿ÄO> %o£t’”Ä .wUZ ç«£ÍÄpx)47 q#ç çµwÁjQx!)b”wpzHRwÁjÄ.S %ç,«Ä. Os£x-;pVsM{	BZ

29 鼻疽

£ [y“kÔç Burkholderia mallei £t’”ò>±pK”{ ç £ÿš\$;Ä y sò>ãixzçÚwü{úwuÖK”Mxf•’qw€íð>pK ”{œi8 xèx™ ÔpK”Uç•tâ(t`h”\q<K”{

sC±ÝxCäz„çsrpK”UzOžs B±Q³ã¿«\a•b M{›Ä\$šÁt±Ýx„qœrsMUz}Øtõ~› Rb”\q<K ”{†hz çxQu@Q £• õ~›C±b”«<K”{«Qò ›wÔùxz}<zÖÑzòæ +srtõ~› Rb”{ ç £\$Z,j žçñ ç- «£ y©£xž £wÿš\$;Ä> b” › o`hALz±Ý•t_T ’“kUY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt’“z“kñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~s Z•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ çÁ±Ý’ j.- y©£xz o`h Uç £wÿš\$;Ä> `oMsMUzÍw~w (jt [”U*MOt’“z“kwÁ±Ý’j.- q ...`hÔù txzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ ççò>±@b w@. y©£xž £wÿš\$;Ä> b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_T ’z“kUY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt’“z“k t’“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ ççò>±@bYM w@. y©£xž £wÿš\$;Ä> b”@.›UŠ`hALz±Ý•t_T ’z“kt’“@b`hqY~•”ÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t’”’j.wUZ	}Ø’!Ëè~ð~ 0y~°„çM÷~ B÷
1\$3Ot’”’j.w~; wUZ	

30 ブルセラ症

£ [yŠ±xç³zÒ»zà²z Èt|ÍÄ’wò>±pK”Uzj¼Ö çBrucella abortus zB.suis zB.melitensis zt| B.canis £UÍÄtò>`oC ±b”{pÝãzÚç»ãz•²,ãsrwÈ²pçy•”{ ç £ÿš\$;Ä yò>oxò>`úwÈèzÖKzB÷zØz;kz• úzv^;ç srpK”{ B.canis tò>`h ÈwØ`ò>ots”q^•”{œi 8 x™ ?zèx™ ?qwC UK”{ÿšt`q`oz±\$ žèw<wxn zæíí...ç>t1æzī ææíí...£w íz ... w íqç^UK”zfw t™ Èwñ tz æwí8t’l o{Ø+lé+±ÝUK’~•”{ yB.melitensis wò>pzzÿ Èwñ t GUÝŠ’•”{Šò ›t’”•@px°`StxÿMUzú°š ›C`oM”Ôùtx• @pxíç`zÍÄwÔç•â±t’”@bw Xx\•Uj¼pK”{ ÍÄÔç•â±w™ Èt &±Ý•^ &\$s±ÝUZqb”q^ •”{ ç £\$Z,j žçñ ç- «£ y©£xž £wÿš\$;Ä> b” › o`hALz±Ý•t_T ’Ôç•â±UY~•zTmzÍw~w(jt [”U*MOt’“zÖ ç•âñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t’”šZ›Újtæ~sZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t [”U*MOwàü]qtz f•g•%~wÈ]t Š”‹wwMc•T>;M”\q{ çÁ±Ý’j.-

y@Exz o`h Uç £wÿš\$>Ä> `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'zÔç·â±wÁ±Ý'j.- q ...`
 hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys
 'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@b w@.
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_`
 T'zÔç·â±UY~·zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'z
 Ôç·â±t'@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@bYM w@.
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_`
 T'zÔç·â±t'@b`hqY~·"ÔùtxzOH ÚH ò
 wF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z 7zô~
¼g ½BS t'"Á.wUZçÁjUžÚ ç»µwÔùx ŽízšçµwÔùx ŽíwÁ.A£	BZ

3 1 ヘネズエラウマ脳炎

ç £ [
 yÄ`ç çµJžçÑ·ç çµ t b"ÖÉ¶çâçÚô ç ç
 µt'"ò>±pK"{
 ç £ÿš\$>Ä
 y×µ„px ççq[Ä~w pò> U;Ë^·oM{"Ä·w
 ò> ççw— t'lo\à"œi8 x™ ÖpK"zCäz
 „çzÖÑçz×Úsr\à"ç; &'!\"à"qòæxÚzr
 Äz -z'zsrU^'·"Uz\·x @~w-çñ w
 t^'·"ç@px™ q^·oM"{
 ç £§Z,j
 žçñ ç~ «£
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_T
 'ÖÉ¶çâçÚô UY~·zTmzÍw~w(]t ["U*MOt
 "zÖÉ¶çâçÚô ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òw
 F t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@b w@.
 y@Exz o`h Uç £wÿš\$>Ä> `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'zÖÉ¶çâçÚô wÁ±Ý'j.-
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~s
 Z·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@b w@.
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_`
 T'zÖÉ¶çâçÚô UY~·zTmzÍw~w(]t ["U*M
 Ot'zÖÉ¶çâçÚô t'@b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@bYM w@.
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_`
 T'zÖÉ¶çâçÚô t'@b`hqY~·"ÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	B÷z7÷
1\$3Ot'"'j.w~; wUZ	
*H.Ä.wUZ	
¼g t'"Á.wUZçÖžBZt'"Á .E8çxÁ.Aw™wíç£	BZ

3 2 ヘンドラウイルス感染症

ç £ [
 yÍáÜ«¹ç çµJçÍç çµ t b"ÖíÁâç çµt'"
 ò>±pK"{
 ç £ÿš\$>Ä
 y×µS xli~çPæpK"{'Ä·wò>xz^úç tçÚ£w
 .÷·ÉëqW€íò>t'"qBQ'·oM"{'Ä±«x±x—:
 pK"zÿšpwÄlxì'TpsMUzCä·ÖÑçsrw iÑçµ
 i²7±ÝT'zOžs z^'txô t'"™YË·zrÄsrU
 K"O"{
 ç £§Z,j
 žçñ ç~ «£
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_T
 'ÖíÁâç çµò>±UY~·zTmzÍw~w(]t ["U*M
 Ot'zÖíÁâç çµò>±ñ q ...`hÔùtxzOH Ú
 H òwF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@b w@.
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_`
 T'zÖíÁâç çµò>±UY~·zTmzÍw~w(]t ["U
 *MOt'zÖíÁâç çµò>±t'@b`hqQ...`hÔù
 txzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@b w@.
 y@Exz o`h Uç £wÿš\$>Ä> `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'zÖíÁâç çµò>±wÁ±Ý'j.-
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ
 ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š"‹wwMc·T>;M"\"q{
 ççò>±@b w@.
 y@Exz £wÿš\$>Ä> b"®.UŠ`hALz±Ý·t_`
 T'zÖíÁâç çµò>±t'@b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ·ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	7zô~
Ôø>ít'"'j.wÄjwUZ	„çM÷z"âç
1\$3Ot'"'j.w~; wUZçdU«x ç; &%ËëT'UZ^·"£	M÷zøz'gË ë
&-*4"Oçxç¼g t'"Á.wUZç*H.Ä .wUZç&-*4"Ow^ççxÖžBZt'" Á.E8`XxÁ.Aw™wíç£	BZ

3 3 発しんチフス

ç £ [
 yRickettsia prowazekii t'"xQò>±pz~é b'áÜt'lo p^
 ·"ç
 ç £ÿš\$>Ä
 yCäz„çzqäzd—òz wµç>PloµµC±b"çäx
 ™Ætxíçb"çxCÄH™'Ötz.ðT¶t

!U"Uz%Øz z tZqb"\qx—sM{C xx t:Ý
 ZBWqs"{ñ xì'TsxQ±Ý) b"UzCäT'S'f ?
 ™tx träb"{O±«wR:t^ &±ÝUZqb"{
 ysò)™æìò):â™t6Cb"\qUK"ç#SJMM ;JOTTFs´£Uz
 ±Ýx0SpK"{

ç £§Z,j

žçñ ç¬ «£

y©£xž £wÝš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T
 'C`æ½ÑµUY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'“z
 C`æ½Ñµñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§
 Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xxz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T);M"\q{
 çÁ±Ý'j.-

y©£xz o`h Uç £wÝš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
 (]t ["U*MOt'“zC`æ½ÑµwÁ±Ý'j.- q ...
 `hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z)Újtæ~sZ•y
 s'sM{

y\wÔùtSMozU*P%xxz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T);M"\q{

ççò)±@b w@.

y©£xž £wÝš\$)Ä) b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zC`æ½ÑµUY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOt'
 “zC`æ½Ñµt'“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH ò
 wF t'“§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%xxz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ]t Š"«wwMc•T);M"\q{

ççò)±@bYM w@.

y©£xž £wÝš\$)Ä) b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zC`æ½Ñµt'“@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
 òwF t'“§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

y°ī·wä3äÜáæžxxQw&a>Ô`zhZsr±; &±ŸcÚ
 áæžð±£xQ Æ¶zOSwÁBzÿBvz · + > C
 `oC':ÔŽ°tO±= `z·@ \$qs">{

ø £§Z,j

žçñ ç¬ «£

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" > o`hALz±Ÿ·t_ T
 'ÚáæžUY~·zTmzÍw~w(Jt ["U*MOT' "zÚá
 æžñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Új
 tæ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

çÁ±Ÿ'j.-

y©£xz o`h Uç £wŸš\$>Ä> `oMsMUzÍw~w
 (Jt ["U*MOT' "zÚáæžwÁ±Ÿ'j.- q ...`h
 ÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Új tæ~sZ·ys'
 sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

øçò>±@b w@.

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ·t_ T
 'zÚáæžUY~·zTmzÍw~w(Jt ["U*MOT' "z
 Úáæžt' " @b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'
 "'§Z>Új tæ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

±çò>±@bYM w@.

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ·t_ T
 'zÚáæžt' " @b`hqY~·ÔùtxzOH ÚH òw
 F t'"§Z>Új tæ~sZ·ys'sM{

U*MO	U*P%
f·, <pwÚáæžj~wÁìzTmzj~ w~Ÿt'"'j.wUZ	B÷
1\$3Ot'"'j.w~; wUZ	

36 野兔病

ø £ [

yú@`Ôç Francisella tularensis £t' "CäQìñpK">{

ø £Ÿš\$>Ä

y-Ô`úwr·ðgwìwÈèçxB÷qw€î·zÚ¼ÇzžÒs
 r...`úw— t' "ò>b">{fhz > `h\+T' <ò>b">{

ÍÄxò!QUôXzHÁs}ØT' <ò>b">{ÍÄT'ÍÄ·wò>
 wC xsM{æi8 x Ô>ð" «qb"™ ÔpK"{s8±Ÿ
 xÔwôÖæ·t'loŸs"zò~æíí... zæíí... zæíí
 ... z srUK"{`\$txqäzþÝäz„çzÔÑçzt
 æíí...w íqmçsrw±ŸU`·"}{

ø £§Z,j

žçñ ç¬ «£

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" > o`hALz±Ÿ·t_ T
 'ú@`UY~·zTmzÍw~w(Jt ["U*MOT' "zú@`
 ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Új tæ
 ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

çÁ±Ÿ'j.-

y©£xz o`h Uç £wŸš\$>Ä> `oMsMUzÍw~w
 (Jt ["U*MOT' "zú@`wÁ±Ÿ'j.- q ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Új tæ~sZ·ys's
 M{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

øçò>±@b w@.

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ·t_ T
 'zú@`UY~·zTmzÍw~w(Jt ["U*MOT' "zú
 @`t' " @b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z>Új tæ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

±çò>±@bYM w@.

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ·t_ T
 'zú@`t' " @b`hqY~·ÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z>Új tæ~sZ·ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"'j.wUZ	'áæçM÷z Zæíí...zæíí
1\$3Ot'"'j.w~; wUZ	í... —÷z°„ çM÷
Ô½BS Ot'"Á.wUZç°°BZp ŽízçxÖžBZt'"Á.E8 `Xx Á.Aw™wíç£	BZ

37 ライム病

ø £ [

yÚ¼Çç*YPEFT £— t' " p^·"µðéÔ"»çá Ü'ð
 èæž€Borrelia burgdorferi TFOTV MBUP£ò>±pK">{

ø £Ÿš\$>Ä

yò>s8çTUBHF —£txzÚ¼Ç— æ>µúq`ovÁQt>Ä\$
 s!ðQÚW> b" \qU M{5P±Ÿq`ozÔÑçz ...çz„
 çzCäzqäz¶ G5òsrw ïÑçµ²7±Ÿ>PO\q<K
 "{ÚWwzq8 x:ÔT':? qM~·z Ÿx ŸÚWçxÉ°
 QÚWU„qærpK">{

yú 8çTUBHF ~£txz.°e > p`o'j.U¶ Qt!„b" {
 \tPMz}Ø±Ÿz &±Ÿzúíñz ±Ÿz ... zÔÑ sr
 <s±ŸU_`·"}{

yò>T':TDsM` :á> &oz«Q8çTUBHF™£tæb" {ñ
 xú 8w±ŸtCQozOSw}Ø±Ÿz ... sr>ÔbqM~·
 "{Š\pxz«Q8tæ`hq^`·"±«xqOwq\—C ^·
 oMsM{±Ÿq`oxz«Q±VQ¶z}Ø z«Q ... z«Qòx
 7 srUK['·"}{

ø £§Z,j

žçñ ç¬ «£

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" > o`hALz±Ÿ·t_ T
 'á Ü'UY~·zTmzÍw~w(Jt ["U*MOT' "zâ
 Ü`ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Új
 tæ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

çÁ±Ÿ'j.-

y©£xz o`h Uç £wŸš\$>Ä> `oMsMUzÍw~w
 (Jt ["U*MOT' "zâ Ü'wÁ±Ÿ'j.- q ...`h
 ÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Új tæ~sZ·ys'
 sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

øçò>±@b w@.

y©£x± £wŸš\$>Ä> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ·t_ T
 'zâ Ü'UY~·zTmzÍw~w(Jt ["U*MOT' "z
 â Ü't' " @b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'
 "'§Z>Új tæ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%t ["U*MOWàü]qtz
 f·g·%~wÈ]t Š" <wwMc·T>;M"\q{

ꞡçò>±@bYM w@.
 y@£xæ £wÿš\$>Ā> b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zâ Ü't"@"b`hqY~"ÔùtxzOH ÚH òw
 F t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	ÚWæw}Øz7
1\$3Ot'"j.w~; wUZ	÷ç7š zô wÔù£
8FTUFSO #MPUOt'"Ā.wUZ	BZ

38 リッサウイルス感染症

ç £ [

y°X'ç çµ)†Xæ¿±ç çµ wç çµt'"ò>±pK

" {

ç £ÿš\$>Ā

yŠç çµ)- b"ú\w~çPæqw€ît'"ò>b"qBQ'

•oM"{œi8 x°X'ç çµtjah8 qBQ'•"ç™

ÔU,Š\$šœi8 { †æ•:t'loœi8 <ÿsloX

"q¥~"ç

yÿš±Ýq`oxz,,çzCäz¶ G5òzÑ†æ•wÆ@aĀ•m

ç>POÔùUK"zµ zâ±±Ýz^ hZsrwæ; &±Ý>P

OÔù<K"{°`\$tzC±™ ? Ž°t@bb" {

ç £§Z,j

žçñ ç- «£

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b" ®.) o`hALz±Ý•t_T

'æ¿±ç çµò>±UY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MO

t'"zæ¿±ç çµò>±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH

òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{

çĀ±Ý'j.-

y@£xz o`h Uç £wÿš\$>Ā> `oMsMUzÍw~w

(Jt ["U*MOt'"zæ¿±ç çµò>±wĀ±Ý'j.-

q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~

sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{

ççò>±@b w@.

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zæ¿±ç çµò>±UY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*

MOt'"zæ¿±ç çµò>±t'"@"b`hqQ...`hÔùtxz

OH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{

ꞡçò>±@bYM w@.

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zæ¿±ç çµò>±t'"@"b`hqY~"ÔùtxzOH ÚH

òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	#÷
, «Ā.Ot'"j.wĀjwUZ	-šç£ªŠz1æw}Øz > u¾P%ot #÷¥w\ UP%ozôÈët ôÖN
1\$3Ot'"j.w~; wUZ	#÷z7÷zôÈë

39 リフトバレー熱

ç £ [

yÔçàç çµJÑèØç çµ t b"æÑĀìè"äç çµt

"ò>±pK" {

ç £ÿš\$>Ā

yxµ,,pxztaò\$ wcq†=w pò> UjĒ^•oM" {

Ā•wò>xz tcK"Mx wuBQ ~w— t'"Uz^úw

B÷• w.÷t'"€iò><K"O" {œi8 x™ ÔpçÄz

„çzÔÑçz æçsw ĩÑçπi27±Ý> `zòæxÚz ;

óĒ•z\$ĪzEA> b"lq<K"Uzèxx™ Ôpsĭb" {

O±«pxâš ç™ ĒzZBäç» Ēzô ç» Ē£>C

±b"lqUK" {•@px¶.q`ox SpK"UzZBä>

`hÔùtx t<ab" {™±q`oxzâš™ wæiUOA

pK" {

ç £§Z,j

žçñ ç- «£

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b" ®.) o`hALz±Ý•t_T

'æÑĀìè"äUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'"z

æÑĀìè"äñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"

§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{

çĀ±Ý'j.-

y@£xz o`h Uç £wÿš\$>Ā> `oMsMUzÍw~w

(Jt ["U*MOt'"zæÑĀìè"äwĀ±Ý'j.- q

...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•

ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{

ççò>±@b w@.

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zæÑĀìè"äUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt

"zæÑĀìè"ät'"@"b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH

òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wÈ]t Š" <wwMc•T>;M"\q{

ꞡçò>±@bYM w@.

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zæÑĀìè"ät'"@"b`hqY~"ÔùtxzOH ÚH

òwF t'"§Z>Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	B÷
1\$3Ot'"j.w~; wUZ	
ꞡè¼gt'"Ā.wUZ	BZ
&-*4"Oçx, «Ā.Ot'"*H.Ā. `Xx *H(Ā.wUZ	

40 類鼻疽

ç £ [

y"~"kÔç Burkholderia pseudomallei £t'"ò>±pK" {

ç £ÿš\$>Ā

y sò>ĭxTÔ•Ā+qw€iò>pK"Uz wuÖ•¿+

srt'"lq<K" {œi8 xèx™ ÔpK"Uzâ(t`h

"lq<K" { }Ø'!q`oxæiĭ... >q<sO-A...> R`z

Cä>PO\q<K" {zu+%'lq`ox> § z >C±b"

Uzèxxôä>PMz³ç>azáQ•IzK"MxYx0ywêQ

•IU'~" { }*7ò>±z Æ¶zvØ'srw,Āñ> b"Ô

ùtxz B±Q³ã¿«>la"lqUK" { «Qò>px ...z z

òæ +zæiĭ...z srtô~> Rb" {

ç £§Z,j

žçñ ç- «£

y@£xæ £wÿš\$>Ā> b" ®.) o`hALz±Ý•t_T

'"~"kUY~•zTmzÍw~w(Jt ["U*MOt'"z"~"k

ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z>Újtæ

~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wŸš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
(]t ["U*MOT'z`kwÁ±Ý'j.- q ...`hÔ
ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys's
M{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
ççò)±@b w@.
y©£xç £wŸš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z`kUY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOT'z`
"kt'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
ççò)±@bYM w@.
y©£xç £wŸš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z`kt'"@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH òwF
t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	0y~°„çM÷~δ~}Ø
1\$3Ot'"j.w~; wUZ	!Éë~B÷

4 1 レジオネラ症

ç £ [
y Legionella Ôç Legionella pneumophila s r £ U j ¼ p l \ ` ò ÷ ± p
K" {
ç £ Ÿš\$)Ä
yO. `çè'!Éâ £qÛîÄŸžž`äU As' pK" {
òçz<iz™ŸÈ•z2æÈ•sr)PO\qUK" {Ÿš±Ÿp w
lÔQ qà b"lqx ÉpK" {
yÔðÆ¶ wÔùtxz w6±=q +Æ¶U\l"qUK" {
ysSz\$ZÍw' tmMoxz `Xx +Æ¶wŸŠ•"
«w» q`zf•ŽŽ)ÛîÄŸžž`ä qb" {
ç £ §Z, j
žçñ ç~ «£
y©£xç £wŸš\$)Ä) b" » o`hALz±Ý•t_T
'è'!Éâ±UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOT'z`
è'!Éâ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§
Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wŸš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
(]t ["U*MOT'z`è'!Éâ±wÁ±Ý'j.- q ...
`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•y
s'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
ççò)±@b w@.
y©£xç £wŸš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z`è'!Éâ±UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOT'
"zè'!Éâ±t'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH ò
wF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
ççò)±@bYM w@.
y©£xç £wŸš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z`è'!Éâ±t'"@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

T'z`è'!Éâ±t'"@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'"j.wUZ	Èëz0yz³+zB÷z
, «Á.Ot'"j.wÁjwU Z	f w wÁÔ\$æ•z>"ú {ú
iÉÁ.Oçx ÜÈ«éÚÄOt 'j.wÁjwUZ	Ø
1\$3Ot'"j.w~; wUZ	Èëz0yz³+zB÷z f w wÁÔ\$æ•z>"ú {úçØ
€, «Á.OçxÚ «éÓè" Ä½BS t'Á.wUZçÖž BZ t'Á.E8çxÁ.Aw ™wíçpz—sXq< sx Žízçxo°BZp Ží£	BZ

4 2 レプトスピラ症

ç £ [
y'jQèÓÄµÐâç Leptospira interrogans s r £ t'z 7s±Ÿ
)ÖbxQwäQiñpK" {
ç £ Ÿš\$)Ä
y'jQèÓÄµÐâç)- `oM"É¶Úz Èzç³zçÚzÒ»s
rwØp »^•h<+•O'z srt'«&)\$tzltx »^•
hžíúw• t'"&±\$tíÄtò)b" {
y+lzZBz È•srw±ŸU_'}{O± w+lzBQèÓÄ
µÐâ'çè ç'£qz0± w3BèÓÄµÐâ'• È èÓÄµ
Ðâ'srUK" {
yè ç'x+lzZBz•(Ø) Äq`z7•OžpK" {
yæi8 x™ Öpzµµwqäz" zðäzÖÑçz •Aš
wFBU\az™ 'Ö™z+l•ZB²Uÿ\$B"Öù«K" {
ç £ §Z, j
žçñ ç~ «£
y©£xç £wŸš\$)Ä) b" » o`hALz±Ý•t_T
'èÓÄµÐâ±UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOT'z`
èÓÄµÐâ±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
çÁ±Ý'j.-
y©£xz o`h Uç £wŸš\$)Ä) `oMsMUzÍw~w
(]t ["U*MOT'z`zèÓÄµÐâ±wÁ±Ý'j.- q
...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•
ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
ççò)±@b w@.
y©£xç £wŸš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z`èÓÄµÐâ±UY~•zTmzÍw~w(]t ["U*MOT'
"zèÓÄµÐâ±t'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH
òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOWàü]qtz
f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
ççò)±@bYM w@.
y©£xç £wŸš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
T'z`èÓÄµÐâ±t'"@b`hqY~•ÔùtxzOH ÚH
òwF t'"§Z)Újtæ~sZ•ys'sM{

U*MO	U*P%
üm~% t'j.wUZ	B ÷ z 7 ÷ z Ø
1\$30t'j.w; wUZ	
f., < ½ B ¼ g Q. "5 𐀀" Å. wUZ Ø	BZ
žBZt'Å.E8øxÅ.Aw™wíø£	

4.3 ロッキーマウンテン熱

ø £ [y Ú W ä æ - ÷ ½ ž t b " é ÷ © " • Ú W ä æ - ÷ ½ ž ø Rickettsia rickettsii £ t " ò ÷ ± p K " {

ø £ Ÿ š \$ > Ā y x μ „ p x ¼ Ç z [I Ā " z G ^ ú ø È s r £ w p ò > U j Ē ^ • o M " { I Ā • w ò > x ¼ Ç w — t " { œ i 8 x ™ Ô p K " z „ ç z ¶ G 5 ò z ò ä s r p C ± b " { è x z m m U ~ ' s r p ^ ' • " O s — ' ± x \ a s M { ò ä q „ ... % ò t z Ú í w W p U s r w ¶ § æ T ' { ú Q t C ' z æ • t ' l o x : Ý Z B > P O { q V t æ í ... Í U ^ ' • " { f w ™ æ ; & % ± Ý z E T ° æ Ø æ ã ÷ « s r w ù ± > b " { ... ~ Ī • w — z ò „ z C U ^ ' • s M z ¼ Ç w — ° U K " z Y B w C ± s r p x z • @ p U ò M {

ø £ § Z , j ž ç ñ ø ¬ « £ y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ā > b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' é ÷ © " • Ú W ä U Y ~ • z T m z í w ~ w (j t [" U * M O t ' " z é ÷ © " • Ú W ä ñ q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È j t Š " < w w M c • T ; M " \ q { ç Å ± Ý ' j . - y © £ x æ o ` h U ø £ w Ÿ š \$ > Ā > ` o M s M U z í w ~ w (j t [" U * M O t ' " z é ÷ © " • Ú W ä w Å ± Ý ' j . - q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È j t Š " < w w M c • T ; M " \ q { ø ç ò > ± @ b w @ . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ā > b " @ .) U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z ž Ý " i z i U Y ~ • z T m z í w ~ w (j t [" U * M O t ' " z ž Ý " i z i t " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t " § Z > Ô Ž ° t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È j t Š " < w w M c • T ; M " \ q {

ø ç ò > ± @ b Y M w @ . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ā > b " @ .) U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z é ÷ © " • Ú W ä t " @ b ` h q Y ~ • " Ô ù t x z O H Ú H ò w F t " § Z > Ú j t æ ~ s Z • y s ' s M {

U*MO	U*P%
üm~% t'j.wUZ	B ÷ z 'g È ë
1\$30t'j.w; wUZ	
€, « Å . O ø x & - * 4 " O t ' " Å . wUZ ø * H . Å . wUZ ø x Ö ž B Z t ' " Å . E 8 ` X x Å . A w ™ w í ø £	BZ

第6 五類感染症

1 アメーバ赤痢

ø £ [y z i ž Ý " i ø Entamoeba histolytica £ w ò > t l ¼ b " i ñ p z « = + ± Ý > ± Ý q b " U z f • Ž Ž w + t (' !) R b " {

ø £ Ÿ š \$ > Ā y ' x í ž Ý " i ± q í Ž ž Ý " i ± t G ^ • " { ž ç í ž Ý " i ± y < i z è B (z ` • " ò z ' í z (ì w < ò æ ç z Æ w ò s r w ± Ý > P O « Q í ò > ± p K " z / \$ t x ½ ° „ æ " Ý w è B (> b " U z : Ô T ' : ? w ' p ý q q í r > " & b \ q U M { ò ~ w • C æ • x á I T ' í æ A í T Z o q z (È A í T ' Ú í t T Z o w G í p K " { † • t Ñ j Q ' ! U R ^ • h " z ò ~ æ U u @ Q t , ` h " b " \ q < K " { ç í Ž ž Ý " i ± y X x í æ " " ž Ý " i U B æ Q t 8 b " \ q t " U z ò ~ U 7 < ò Ā S t ' • " { R % Q t M { ò æ ™ Æ B ä æ ç z A V > z E A z . O n — z ø ü z ¶ G 5 ò s r > P O { ò ~ U ¾ b " q ò š z ³ š • ú Ž š t (' ! U R ^ • " { f w z } Ø z ò • t ò ~ U R ^ • " \ q U K " {

ø £ § Z , j ž ç ñ ø ¬ « £ y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ā > b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T ' ž Ý " i z i U Y ~ • z T m z í w ~ w (j t [" U * M O t ' " z ž Ý " i z i ñ q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t " § Z > Ô Ž ° t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È j t Š " < w w M c • T ; M " \ q { ç ò > ± @ b w @ . y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ā > b " @ .) U Š ` h A L z ± Ý • t _ T ' z ž Ý " i z i U Y ~ • z T m z í w ~ w (j t [" U * M O t ' " z ž Ý " i z i t " @ b ` h q Q ... ` h Ô ù t x z O H Ú H ò w F t " § Z > Ô Ž ° t æ ~ s Z • y s ' s M { y \ w Ô ù t S M o z U * P % x z % } t [" U * M O w à ü] q t z f • g • % ~ w È j t Š " < w w M c • T ; M " \ q {

U*MO	U*P%
f., < p w ' j . wUZ	(z ' ! æ ø G í è š È ë z ò ~ ÷ £
& - * 4 " O t ' " j . w Å j wUZ	
1\$30t'j.w; wUZ	BZ
Å . wUZ	

2 ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)

ø £ [y ø ç μ ò > j ¼ q b " x Q ø z z f w w ø ç μ Q £ p K " { « Q i ñ z Á ± © Q @ ß æ ž t | \ • ' w x Q ý q « x † s M { ø £ Ÿ š \$ > Ā y ° ` t ¶ G 5 ò z ò o 7 ± Ý z í l Æ ü z q ò z E A s r w ± Ý p x Q t C ± ` o z : Ô ™ t È í Ø • + l > P O \ q U M { C ä z ; ó Ý x z f w w ¶ ± Ý > b " C ' ™ < s M í 8 t x z T e K " M x x Q È í s r q " Å ` h ± Ý > Ô b { y œ i 8 x z p x ý T D z p x ? T ' T D p K " { y Ÿ š ' x z + l > P O \$ x Q w „ T t z f Q + l > Ô ^ s M Á + l Q z ò S w + l > b " ~ K O I : Q z x Q Æ ¶ ± Ý > b " 6 ± s r t ü " ^ • " {

ø £ § Z , j ž ç ñ ø ¬ « £ y © £ x æ £ w Ÿ š \$ > Ā > b " > o ` h A L z ± Ý • t _ T

'ϕ ϕμQ UY~·zTmzÍw~w(jt ["U*MOT"z
 ϕ ϕμQ ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"
 §Z) ÔŽ°tæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 ϕò)±®b w®.
 y©£xϕ £wÿš\$;Ā) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zϕ ϕμQ UY~·zTmzÍw~w(jt ["U*MOT
 "zϕ ϕμQ t'"®b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH
 òwF t'"§Z) ÔŽ°tæ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 ϕž£

U*MO	U*P%
*H.)#DÁ.wUZϕì'Ts©βæžT'w xQýq«x ‡sM£	BZ

ϕ £

U*MO	U*P%
Á.ĀQpz)\$7 3/"ϕx)\$7-žÁjwUZ ÔžBZt"Á.E8ϕxÁ.Aw™wíϕ	BZ

ϕ£fw wϕ ϕμQ
 yfw wϕ ϕμQ w§Z)æOMtxz'j.wÈ¶qzU*M
 OzU*P%tmMo«§ZZ"{
 ϕϕfw
 yϕ ϕμQ w§Z,j)~hb«wpzTmz6± qslh«
 wtmMoxz§Z@w@±Ý~]tfw«GLb"{
 y6± tmMoxzŽ<w,j);M"{

žϕ wOjz±ÝCq™ ?Ž°tôSw ;óĒ•t,nMo Q -~SŽÍwô±)Vh`zÓéĀéīīī ĒŽ<)Ôb«w{ ϕC`™ ÔŽ°wô±wCqxxQ zf•ŽñwCqxex Q qb"{

3 カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症

ϕ £ [
 yÝéŎÉÛsrw§çìŎÉÛ% Nt|ç- má«»ÜNt0`o
 1Q)Ôbî°iŎJiŎt"ò)±pK"{
 ϕ £ÿš\$;Ā
 y tò)wš;ówÿ<`hñ •ŽJ [™wñ zĀŎ)Ŏ8t
 ~hlo-;`oM"ñ srtò)±)l\b(Hx tò)±)l\
 b\q«K"{ srwzu+ò)±zŎiò)±z [æ••Ž±æ
 •wò)±z§Ā"Āç ÈBvò)±z B±z7š fw 7sò
)±)l\b{hi`zĀ±ÝPí st-Ŏ^•"lq« M{
 ϕ £§Z,j
 žçñ ϕ- «£
 y©£xϕ £wÿš\$;Ā) b") o`hALz±Ý•t_
 '§çìŎÉÛ1Qí°iŎJiŎò)±UY~·zTmϕ £w~
 (jt ["U*MOT"z§çìŎÉÛ1Qí°iŎJiŎò)±ñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z) ÔŽ°t
 æ~sZ·ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 ϕò)±®b w®.
 y©£xϕ £wÿš\$;Ā) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z§çìŎÉÛ1Qí°iŎJiŎò)±UY~·zTmϕ £w~
 ~w(jt ["U*MOT"z§çìŎÉÛ1Qí°iŎJiŎò)
 ±t"®b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§
 Z) ÔŽ°tæ~sZ·ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 ϕ £§ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t'"î°iŎJiŎwUZzTmz ÍwMc•T'"§çìŎÉÛ% Nt ç- má«»ÜNt0b"1Qw~Ý žçÝéŎÉÛw.*\$«U H NMŽípK" qzϕxÝéŎÉÛwò!QĀÿμ«ϕ,#£ wí- wÚ U ±Ž<pK"lq çÍwMc•t`~pb"lqw~Ý ϕž£ ŎŎÉÛw.*\$«U H NMŽípK" lqϕx ŎŎÉÛwò!QĀÿμ«ϕ,#£ wí- wÚ U ±Ž<pK"lq ϕ £.ÑÝ»°"çw.*\$«U H NMŽí pK"lqzϕx.ÑÝ»°"çwò!Q Āÿμ«ϕ,#£wí- wÚ U ±Ž< pK"lq	B÷zò+z³+z 7÷fw wèx ĀŎ\$pk",V U.
ÍwMc•t`~pb"lqw~Ý žçüm~%o t'"î°iŎJiŎwUZ çÍwMc•T'"§çìŎÉÛ% Nt ç- má«»ÜNt0b"1Qw~Ý ϕž£ÝéŎÉÛw.*\$«U H NMŽípK" lqϕxÝéŎÉÛwò!QĀÿμ«ϕ,#£ wí- wÚ U ±Ž<pK"lq ϕ ÍwMc•t`~pb"lqw~Ý Bç ŎŎÉÛw.*\$«U H NMŽípK" lqzϕx ŎŎÉÛwò!QĀÿμ« ϕ,#£wí- wÚ U ±Ž<pK" lq Cç.ÑÝ»°"çw.*\$«U H NMŽí pK"lqzϕx.ÑÝ»°"çwò!Q Āÿμ«ϕ,#£wí- wÚ U ±Ž <pK"lq ϕçümŎUò)±wl¼ŎqQ ^•"lq	0yzòzøfw wèxĀŎ\$pk xSMU.

4 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

ϕ £ [
 yϕ çμsr 'w'j.wò)t'"ôíwò)±pK"{
 y ±t_Uì'TpxSMUZ%7w±Ý) b"ô±«l\tx ±
 •"{
 ϕ £ÿš\$;Ā
 y Xx?'Twœæò)PMzôät Vz™ÝĒ••RÀUμZ
 q`zĒ b"{7÷IT:UÿC`oM"«w»xQô zYxpK"
 «w»xQô±q ...b"lqU MUzfwÿš±Ýt)xsM{
 ϕ £§Z,j
 žçñ ϕ- «£
 y©£xϕ £wÿš\$;Ā) b") o`hALz±Ý•t_
 'xQô UY~·zTmϕ £w§ZwhŠtžAsÿš±Ý) `oM"
 hšzxQô ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z) ÔŽ°tæ~sZ·ys'sM{
 ϕò)±®b w®.
 y©£xϕ £wÿš\$;Ā) b"®.UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zXQô UY~·zTmϕ £w§ZwhŠtžAsÿš±Ý)
 `oM"hšzxQô t'"®b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z) ÔŽ°tæ~sZ·ys'sM{
 ϕ £§ZwhŠtžAsÿš±Ý
 y™ÝĒ••Plo®b`h zϕx™ÝĒ••Plo i ŽíŎĀ

- }CQÓæ!i'q >Ab"iñ
 ~žçÀĚ Ú"
 ~‡ žçÀĚ Ú"
 ~²„?~ „? ÝĈ±
 ~ôB Ě•
 ~í"©i'i'B±©
 ~x7-ô!Q±
 ~ÝĈ±>POá^Çá"éiñ
 ~qQæíí
 ~ & Ÿ
 ~oæTæ
 ~ô z7š
 ~x ~Ÿô±
 ~x~ÔøQô±
 ~c ~Q±©
 ~E Qô±ççŁçÇç-ô±zÔÝ¥iñtPOô±z ÆŸz
 ÆŸz úπŸsŁ
 ~yŽĚô±
 ~ÚĀ-iĀæžôÔ±
 ~fw wj¼t'Yâ8ÝĈ±QiñçGô}í, ©!Q±z
 æQ©íQ'zzèĪ"-.'sŁ
 ~º¼Q^'
 ~}CQÓæ!i'ŽŽwÓæ!i'

- }@çμĀŪi~μĀé á"~³β ĩš"φ(44Łq
 >Ab"iñ
 ~H QrQ0'z
 ~x7-ô!Q±
 ~žçÀĚ Ú"
 ~ôB Ě•
 ~ô z7š
 ~x~ÔøQô±
 ~c ~Q±©
 ~í"©i'i'B±©
 ~ÝĈ±>POá^Çá"éiñ
 ~E Qô±çæĐĀ"³μz úπŸsŁ
 ~ÚĀ-iĀæžôÔ±
 ~fw w'¼t'Yâ8ÝĈ±Qiñç æQ©íQ'zsŁ
 ~(44ŽŽwÓæ!i'

- }H Q•@QÆ¼±ç''*Łq >Ab"iñ
 ~¹š!Q±
 ~‡ žçÀĚ Ú"
 ~x7-ô!Q±
 ~m.xo &ÆŸ±çQVSF BVUPOPND GBJMVSFL
 ~³β ~Āè""±©
 ~ôB Ě•
 ~x~ÔøQô±
 ~E Qô±ççŁçÇç-ô±sŁ
 ~qQæíí
 ~ÚĀ-iĀæžôÔ±
 ~ô z7š
 ~fw w'¼t'¹š±©
 ~fw w'¼t'Yâ8ÝĈ±Qiñç æQ©íQ'zzè
 Ī"-.'sŁ
 ~''*ŽŽwÓæ!i'

- }!Ÿ «é ĀÑŁçĀ~à-Ò'çW\$+%Łq >Ab"
 iñiñ
 ~º¼Q^'
 ~¹š!Q±
 ~žçÀĚ Ú"
 ~‡ žçÀĚ Ú"
 ~ôB Ě•
 ~x~ÔøQô±
 ~E Qô±ç8JMTPO 'zçŁçÇç-ô±zÔÝ¥iñtPOô
 ±z úπŸzæĐĀ"³μsŁ
 ~ô z7š
 ~qQæíí
 ~ & Ÿ
 ~fw w'¼t'¹š±©
 ~!Ÿ \$+%ŽŽwÓæ!i'

7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

ç Ł [y 9B>Ôbèi±•Ô>j¼q`zçC\$tC±`ox9t æb"
 B±Q³āç«'6pK"{ ç ŁŸš\$)Ā
 ysC±Ÿxº„çzCäz«= ±ŸçilÆüzAV>zEAz<iç
 Ÿ G5òzÿBysrw B±±ŸzÔçsrpK"Uzì'Ts²æ
 ±ŸUsMÔù<K"{™C±Ÿq`oxĚæĚè'!ze ÆŸzzu
 ÆŸzB÷½{Ÿxç ç ±Ÿsr +ÆŸR`zÔx\
 Æ>æ%Ÿ6T' ì Ž`ot +ÆŸUiAb" Sw æ>Ô
 b{ èi±•Ôst'ĚæĚè zu@QÔš zÍ>" ~ z
 `ØäxqOp<Ě\$qs"O"iñpK"{ ç Ł\$Z,j
 žçñ ç- «Ł y©Łxç ŁwŸš\$)Ā> b" > o`hALz±Ÿ•t_T
 '6± 9BQèi±•Ôò>±UY~•zTmç Łw\$ZtžAs
 AE>-hbq ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z>
 ÔŽ`otæ~sZ•ys'sM{ çò>±@b w@.
 y©Łxç ŁwŸš\$)Ā> b"@.UŠ`hALz±Ÿ•t_
 T'z6± 9BQèi±•Ôò>±UY~•zTmç Łw\$Ztž
 AsAE>-h`z6± 9BQèi±•Ôò>±t'"@b`hqQ...
 `hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z> ÔŽ`otæ~sZ
 •ys'sM{ ç Ł\$ZtžAsAEçŽ<wžwçžŁt|ç ŁTm >-hb<wŁ
 žç\$ZwhŠtžAsŸš±Ÿ

çžŁ³āç«±Ÿ
 ç æž<w±Ÿwoj mžíŁ
 ÆŸz ÆŸzxQzu•-±© z%*\$zĚæĚè çu@
 QÔš > %çŸ QÚWQC zrĀ~™Ÿ«æsrwç
 ; &±Ÿ

ç'j. ...wMO

U*MO	U*P%
üm~% t'"'j.wUZ	èxĀÔ\$æ•çB÷z7 ÷z³+zò+ç\UĚèz [Ÿzu@ĚæĚè

8 後天性免疫不全症候群

ç Ł [y è Ā é ç ç μ w ° p K " Ī Ā Ô ø Æ Ÿ ç ç μ ç l V N B O
 J N N V O P E F p D J F O D Z W J S V T + Ł w ò > t ' l o Ô ø Æ Ÿ U \ a z Ô è
 _ ò > ± • q Q ~ U ù ` h Ÿ 6 {

U*MO	U*P%
f•, <pw'žč'žj-wĀî	(z G Ě Ī ÷ z
îĒĀ.Oϕx ŪĒ «éúĀOt'''j.	~K
ĀjwUZ	
1\$3Ot'''j.w~; wUZ	

10 侵襲性インフルエンザ菌感染症

ϕ £ [

y Haemophilus influenzae t''ō; Qò ÷ wOjz ŠÖU7 ÷ ϕxB ÷ T'UZ^•hò ÷ qb" {

ϕ £ Ÿš\$; Ā

yæi8 xÆl̄pK" {C±x°`t¥C\$P K"zÍ>" •πÖ
 > PloC±b" \qUK" {7š «pxz„çzCäz7š—9±Ÿ
 w zrĀz™ŸĒ•zÖÇpxG~ó r|sw±Ÿ> Ōb { B±«p
 xCäzqäz•d•C > bUzŸš±ŸU> Ÿ\$pxsM\q<
 Xzx tO±= `o •'„- |t³āz <> Rb\qUK" {

ϕ £ \$Z, j

žçñ ϕ- «£

y©£xϕ £wŸš\$; Ā> b" > o`hALz±Ÿ•t_T
 'ō; Q iŃçπīzÖò ÷ UY~•zTmzÍw~w (|t ["U*MOt''zō; Q iŃçπīzÖò ÷ ñ q ...`hŌùtxz
 OH ÚH òwF t''šZ> ŌŽ°tæ~sZ•ys'sM {
 y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š" <wwMc•T>; M" \q {

çò ÷ ±@b w@.

y©£xϕ £wŸš\$; Ā> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ•t_T
 T'zō; Q iŃçπīzÖò ÷ UY~•zTmzÍw~w (|t ["U*MOt''zō; Q iŃçπīzÖò ÷ t''@b`hqQ
 ...`hŌùtxz OH ÚH òwF t''šZ> ŌŽ°tæ~s
 Z•ys'sM {

y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š" <wwMc•T>; M" \q {

U*MO	U*P%
üm~%o t''j.wUZ	7 ÷ zB ÷
1\$3Ot'''j.w~; wUZ	7 ÷ zB ÷
āĀz «μOt'''j.ĀjwUZ	7 ÷

11 侵襲性髄膜炎菌感染症

ϕ £ [

y Neisseria meningitidis t''ō; Qò ÷ wOjz ŠÖU7 ÷ ϕxB ÷ T'UZ^•hò ÷ qb" {

ϕ £ Ÿš\$; Ā

yæi8 x™ Ōϕ É Ō£pzC±x¥C\$P K" {7š «
 pxz„çzCäz7š—9±Ÿw zrĀz™ŸĒ•zÖÇpxG~ó
 r|s> Ōb { B±«pxCäzqäz•d> `zO±= > Rbqm
 WwZqz³āz < |t%*\$ϕ8BUFSIPVTF 'SJFESJDITFO ±@
 2b" \qUK" { Šiñw> Āq`ozŸZBU •Aš•±âêšz
 } ØtŸŠ'•z±hZBWU.ð•<¶tŸŠ'•" {

ϕ £ \$Z, j

yH„π•t„CQϕxvæQtC±`z93pxäMB...tzä3px
 á8t Cb" {¶\`srpž%ŌÆ> æO EU7 <æμ<UôM
 q^•oM`hŠz> tž%ŌÆ> `oM" «pxžϕĀÖè «t«™
 UžApK" {

ϕ £ \$Z, j

žçñ ϕ- «£

y©£xϕ £wŸš\$; Ā> b" > o`hALz±Ÿ•t_T
 'ō; Q7š Öò ÷ UY~•zTmzÍw~w (|t ["U*MO
 t''zō; Q7š Öò ÷ q ...`hŌùtxz OH ÚH òw
 F t''šZ> ŌŽ°tæ~sZ•ys'sM {> tzñ U¶\`
 srpž%ŌÆ> æloM`Ōùtxzā8w0 UI±" {

y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š" <wwMc•T>; M" \q {
 çò ÷ ±@b w@.

y©£xϕ £wŸš\$; Ā> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ•t_T
 T'zō; Q7š Öò ÷ UY~•zTmzÍw~w (|t ["U*
 MOt''zō; Q7š Öò ÷ t''@b`hqQ...`hŌùtxz
 OH ÚH òwF t''šZ> ŌŽ°tæ~sZ•ys'sM {
 y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š" <wwMc•T>; M" \q {

U*MO	U*P%
üm~%o t''j.wUZ	7 ÷ zB ÷
1\$3Ot'''j.w~; wUZ	7 ÷ zB ÷

12 侵襲性肺炎球菌感染症

ϕ £ [

y Streptococcus pneumoniae t''ō; Qò ÷ wOjz ŠÖU7 ÷ ϕxB ÷ T'UZ^•hò ÷ qb" {

ϕ £ Ÿš\$; Ā

yæi8 xÆl̄pK" {-Çt|ô, > úq`hC±U Xz-Ç
 qR pfwŸš\$; ĀUŸs" {

žçç-Ç

yR qŸs"z > P~czCäw^`s8±Ÿq`hò`áwxl
 V" `sMÖB±«U M {±hz7š xzÚ€C±b" <ww z
 •ÖQwπÖ t MoC±b" \qUK" {

çR

yCäz•lz0yz ~•> s8±Ÿq`hÖB±> PO U M {
 7š «pxz„çzCäzrĀz™ŸĒ•z7š—9±Ÿsw±Ÿ> Ō
 b {

ϕ £ \$Z, j

žçñ ϕ- «£

y©£xϕ £wŸš\$; Ā> b" > o`hALz±Ÿ•t_T
 'ō; Q •Öò ÷ UY~•zTmzÍw~w (|t ["U*MO
 t''zō; Q •Öò ÷ ñ q ...`hŌùtxz OH ÚH
 òwF t''šZ> ŌŽ°tæ~sZ•ys'sM {
 y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š" <wwMc•T>; M" \q {

çò ÷ ±@b w@.

y©£xϕ £wŸš\$; Ā> b" @. > UŠ`hALz±Ÿ•t_T
 T'zō; Q •Öò ÷ UY~•zTmzÍw~w (|t ["U*
 MOt''zō; Q •Öò ÷ t''@b`hqQ...`hŌùtxz
 OH ÚH òwF t''šZ> ŌŽ°tæ~sZ•ys'sM {
 y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š" <wwMc•T>; M" \q {

U*MO	U*P%
üm~%o t''j.wUZ	7 ÷ zB ÷
1\$3Ot'''j.w~; wUZ	7 ÷ zB ÷
āĀz «μOϕx ŪĒ «éúĀOt'''j.ĀjwUZ	7 ÷

13 水痘 (入院例に限る。)

ϕ £ [

y+q~3Ÿn ϕ çμwsò>t''ò ÷ wOj i ŽíŌĀ
 > žAqb" <wpK" ϕ iñpŌĀπt+q,C±zTmz+qC
 ±™ i Ží&a`h <> %ϕ

ϕ £ Ÿš\$; Ā

yYT'_t.Cb"ò ÷ pK" Uzā > èaon wC\U^'•
 " {`¥z^¥@z€îò>srpò>b" {æi8x™ ? pK" {
 ŌøUsZ•yMc•wâ,p`6ñb" {< Ōøx'`æ„rš—p
 xsXzý\Ç<6ñb" \qUK" {±ŸxCäqC pK" {f•g
 •wC xÚWzÚíp z+n Rzg} =•qÿ Ōw&ap! =`

oMXUz%°`Šw} U%°ìt¶ tZqb"wpxsXzýt ' w`ŠwC U%°ìt Ob"{
yC x.đt C`z>¶t—sM{C x,,}z±âsrwēšt<
Zqb"}{HÁÇw6ñx0±p'™x'.pK"}{hi`zÔøÆ¶Y
6w U6ñ`hÔùxO±=·bXz·@Š&a>q"lq<K"}
R pw6ñx—Çpw6ñ"O±pK"{
yù ±q`oxz zô z-ô z-ôæÐz zúš zIÔ
wĚíò>t"ôg zX0ë z B±sUC ^•oM"{
yÔøÆ¶Y6tK" U+qK3Ýn ç çµtsò>`z+q>C
±`hÔùtxzû QB °½{±© ç Ě +Æ¶z°
û Q+qs>ù `zĂŠoOžs&a>q"ÔùUK"}{+nZq²
t9`Mòç• æç>PO\qUK"}
yZ^ Ô²T'Z^ Ô™t<.U+q>C±b"qzÛĚx UO±
=b"DóQtCQozÇUO±wý\Ç+q>C±b"DóQUK"}
y‡hz iñpÖĂwñ U+qK3Ýn ç çµtsò>`z+
q>C±`hÔùzÖĂ8 w Ô•z,Ăiñtè¹>t...b\qUK
"}{

ç £\$Z,j
žçñ ç- «£
y©£x± £wŸš\$>Ă> b" } o`hALz±Ÿ•t_T
'+qUY~•zTm± £w\$ZwhŠtžAsAE>-hbq ...
`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z> ÔŽ°tæ~sZ
•ys'sM{
çò>±@b w@.
y©£x± £wŸš\$>Ă> b"@.UŠ`hALz±Ÿ•t_
T'+qUY~•zTm± £w\$ZtžAs'j. ...t"z+q
t"@"b'hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z
> ÔŽ°tæ~sZ•ys'sM{
ç £\$ZwhŠtžAsAE
žçU* ... «
y\$ZtžAsŸš±Ÿw mŽí>-h`zTmz\$ZtžAs'j.
...wMc•T>-h`zTmz ì ŽíÖĂ`h<wç iñpÖ
Ă±t+q>C±`zTmz+qC±™ ì Ží&a`h«> %ø
çŸš ... «
y\$ZtžAsŸš±Ÿw Mc•>-h`zTmz ì ŽíÖĂ`h
<wç iñpÖĂ±t+q>C±`zTmz+qC±™ ì Ží&
a`h«> %ø
\$ZtžAsŸš±Ÿ

žç¶ QwÚWQp •+nw≠µwZq
çýt 'w`ŠwC çp z+nzg}£U%°ìt Ob"lq

\$ZtžAs'j. ...

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ +n°	0÷z°„çM÷z±\$B æíí•zB÷z7÷
, «Ă. Ot'"'j.wĂj wUZ	+n°0÷z+n, æçM÷ ç+n°#mò>IT£
U.T'Ú€w1\$3Ot'"' j.w"; wUZ	+n°0÷z°„çM÷z±\$B æíí•zB÷z7÷zgz}
Ă.wUZç*H.Ă.wUZzÖ žBZpwĂ.E8çxĂ.A w™wíç£	BZ

14 先天性風しん症候群

ç £ [
yé`æç çµw;°ò>t'loœ1Ÿx>|l|bò>±pK"}
ç £Ÿš\$>Ă
yœ1ŸxwC\XÛ÷?,qì'Tti `zÛ÷ ?‡pwÛ÷s
8wsò>t7< X^•z ?>aW"q„qœrsXs"}
y~ĂxZ(°Ězœ1QúíñzÉìpK"Uzfw œ1Q°Ěz

íEQáš±zµWzn z-„±z^ Ca—:z7šò z w-ç
•aQt_z\™ ì Ž°tZqb"+lSr>R`O"}
ç £\$Z,j
žçñ ç- «£
y©£x± £wŸš\$>Ă> b" } o`hALz±Ÿ•t_T
'œ1Qé`æ±© UY~•zTm± £w\$ZtžAsAE>-h
bq ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z> ÔŽ°t
æ~sZ•ys'sM{
çò>±@b w@.
y©£x± £wŸš\$>Ă> b"@.UŠ`hALz±Ÿ•t_
T'zœ1Qé`æ±© UY~•zTm± £w\$ZtžAsAE>
-hbq ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z> ÔŽ
°tæ~sZ•ys'sM{
ç £\$ZtžAsAEçŽ<wžt| w†M>-hb<w£
žç\$ZwhŠtžAsŸš±Ÿ
çž£ '(/ «fT'`òèŽí`çx>fT'`òèq„T'
òèŽí`
ç £fw f`Xx„T'`òèŽí`

fç(°Ěçxœ1Q°Ězœ1QúíñzÉìzíEQáš± „çµWzn z-„±z^ Ca—:z7šò z-ç•aQw '!z\™ ì Ž°tZq`h+l

ç'j. ...çxĂ.U*wMO
çž£Ž<wMc•T m>-h`zZ\™wé`æò>>‡ŽpV"
çw

U*MO	U*P%
üm~%o t'"'j.wUZ	°„çM÷z±÷z
1\$3Ot'"'j.w"; wUZ	Ø
*H.Ă.wUZ	BZ
zB•½Bí-Ă.AU æĂ.w* T' 'Ÿ^•" (>ôXýQoĚ çZ\Çwz B•½Bí-Ă.AUzDKh" — wý <ppÿ<`oMsM£	

15 梅毒

ç £ [
yµĐéÔ"»w° pK" ŸĂèÛÉ"Úç Treponema pallidum £w
ò>t'loa"Qò>±pK"}
ç £Ÿš\$>Ă
y—8 Ÿq`oò>™™ ? wœi8w™tzò>Átts8xA
•xQ<hzÁçQwí ææíí... íU'•"}
y~8 Ÿpxzò>™TD>&ab"q}Ø•ēšt ŸQlā •
p Q Ÿ zO `i'é"Úsrw> sC U_•"}
yò>™ áŽí>&ab"qzi8f± Ÿq`oÛ z Ÿt"
qßQ'•"úB ±Ÿz &±Ÿz ±ŸsrUŸš'•"lqUK"}
sSzò>`oMo<Ÿš±ŸUŸš'•sM<w<K"}
yœ1 Ÿxz Ÿt6ñ`oM"<.T'Z`hçpzf;°ò>>
ÔbU*t_wK"±«z„8 Ÿ z Ě srā8œ1 Ÿw±
Ÿ> b"±«z... Ö.Ç8x±Ÿ>Ô^ct&a`z¶•8Ž™t
)VUDIJOTPO Ă©çíQ-š z°ÖQÉìz)VUDIJOTPO Ă£srw
i8œ1 Ÿw±Ÿ> b"±«UK"}
ç £\$Z,j
žçñ ç- «£
y©£x± £wŸš\$>Ă> b" } o`hALz±Ÿ•t_T
'ŸUY~•zTmzÍw`j)t ["U*MoT'"z Ÿñ
q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z> ÔŽ°tæ~
sZ•ys'sM{
y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz
f•g•%wĚ]t Š"çwwMc•T;M"lqç
çĂ±Ÿ'j.-

y@£xz o`h Uç £wÿš\$)Ä) `oMsMUzíw-w
 (<)t ["U*MOt"zÄ.çšç'!æðī)Äjqb"%'%
 'š"ÄÄµÄz½BO `Xx`âµXOpwU*p Žíçxx
 ^=OpwU*p"v } ')*] } * `Xx } (
 *—<;Žíw<w)MO£)- b" pÄ±Ý'j.- q`s
 ^."<wçà†Q Ÿq^s^." >†X£) ...`hÔùtxz
 OH ÚH òwF t"šZ) ÔŽ`tæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 çò±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z ŸUY~•zTmzíw-w(]t ["U*MOt"z Ÿ
 t"«b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"šZ
 > ÔŽ`tæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{

U*MO	U*P%
}KOzªÜz)ísrw)íOt"'" j.wUZ	C çs8xAzxQ <hzO `ī'é" Úzêš £
~Ž<wfq„w†Mt~pb"Ôù fšç'!æðī)Äjqb"Ž<wMc •TwU*pEQ ~313š"ÄÄµÄz½BOz`âµXOz x^=O „T.pallidum)Äjqb"Ž<wMc•T wU*pEQ ~51)"Oz'5"µ"#4O	BZ

œ1 Ÿxz<Gw mwOjzMc•TWAÉ) ^hb<wpK"{'

žç<.wBZÄ.Atz`ozçwBZÄ.AU¶`XôMÔù ççwBZÄ.AU æÄ.w* T'Ý^." (>ôXÒQo È b"Ôù çççwT.pallidum)Äjqb"•H.Ä.EQ ççã8œ1 Ÿw±Ý) b"Ôù !çi8œ1 Ÿw±Ý) b"Ôù

16 播種性クリプトコックス症

ç £ [
 y\$SZQUPDPDDVT Ôt'"ò±wOjzŠÕU7÷zB÷srwÁ
 ÔšŸšU.T'UZ^hò±çxòx7÷w«æÓÄ`ç«µÛš
 ÄjUEQqslhò±pK"{'
 ç £Ÿš\$)Ä
 yæi8 xÆìpK"{'ÔøÆ¶w pK"ÔùqÔøÆ¶psM p
 K"ÔùqpfwŸš\$)ÄUŸs"{'
 žçÔøÆ¶w pK"Ôù
 yô7š q`oC±b"lqu XzCäz„çsrw±Ý) b"{'
 æí... G•ù Q'!q'o} z z ...srw'!çŸš"{'
 yÔøÆ¶psM pK"Ôù
 y; &%w'!pxzrÄz™ŸË•srwOžs±ÝU'•"±
 «T'zCäz„çsw/ \$sô7š ±Ý)=X±«†p7'pK"{'
 ; &%w ...Q'!q'o'•"Ôùxz ~qw UžAqs
 "{'«Qwôy t"Q"!=srw±Ýw^} b"Ôù«K"{'
 y; &%žžw z}øz ç 7£s•wû pxÁtt ah±
 Ý) b"{'
 ç £šZ,j
 žçñ ç- «£
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b" > o`hALz±Ý•t_T
 'û Q«æÓÄ`ç«µ±UY~•zTmzíw-w(]t ["U*
 MOt"zû Q«æÓÄ`ç«µ±ñ q ...`hÔùtxzOH

ÚH òwF t"šZ) ÔŽ`tæ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 çò±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zû Q«æÓÄ`ç«µ±UY~•zTmzíw-w(]t ["
 U*MOt"zû Q«æÓÄ`ç«µ±t"«b`hqQ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t"šZ) ÔŽ`tæ~sZ•ys
 'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{

U*MO	U*P%
üm~%o t'"j.wUZ	B÷zò+z³+z7÷ fw wèxÁÔšpK ",VU.
'gÉë¶\$...çÉë ...çxIT ...pÛš) b"i<ITwÄì£	7÷zÉë
âÄç «µ½BOt'" «æÓÄ`ç« µÛšÄjwUZ	7÷zB÷

17 破傷風

ç £ [
 y †éŸÉ) ^\b" †éÕç Clostridium tetani £UzŽ†æ•sr
 T'Éëòtô`zO>\$s ¥<pÿé`hALz`^`^" †é
 ŸÉt"z &—9;aË•)l\b{
 ç £Ÿš\$)Ä
 yŽ†æ•srpÿé`h †éÕU^`b"ŸÉt"z^ &4Xz
 x7²`ITzôðwHMqw &síU ...^•zò)âÜcwÖÑw
 \y"z°T'1æw\y"z%±È•z)¶wšÚQrÄzzu
 ÉçrÄQç—9t0b"µ Qw zSwÓÄçPQJTUIPUPOVT£s
 rw±ÝUZqb"{'
 ç £šZ,j
 žçñ ç- «£
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b" > o`hALz±Ý•t_T
 'z †ét"«b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"šZ)
 ÔŽ`tæ~sZ•ys'sM{
 çò±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'z †ét"«b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t"šZ) ÔŽ`tæ~sZ•ys'sM{

18 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

ç £ [
 y«~ ìî-Ú ³î1Q"; >- `zìî-Ú ³î1Q)Ôb
 +íÔÄç•Õt'"ò±pK"{'
 ç £Ÿš\$)Ä
 yìî-Ú ³îwÔ8 d)!Zhñ wU.srT'UZ^•D
 óQUK"{'
 ç £šZ,j
 žçñ ç- «£
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b" > o`hALz±Ý•t_T
 'ìî-Ú ³î1Q+íÔÄç•Õò±UY~•zTmzíw-w(
]t ["U*MOt"zìî-Ú ³î1Q+íÔÄç•Õò±ñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"šZ) ÔŽ`t
 æ~sZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%xz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%wÈ]t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 çò±@b w@.
 y@£xç £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zìî-Ú ³î1Q+íÔÄç•Õò±UY~•zTmzíw-

w(j)t ["U*MOt"zli-ú 3i1Q+i0Á¢•õð)
 ±t"®b`hQ...`hõùtxzOH ÚH òwF t"§
 Z) ÔŽ°tæ~sZ•ys'sM{
 y\wõùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{

U*MO	U*P%
üm~% t"i•õwUZTmü mÕt0b"li-ú 3iw.*\$«U H NMŽí	B÷zð+z³+z 7÷zfw wè xÁÕ\$pk", VU.
üm~% t"i•õwUZzTm ümÕt0b"li-ú 3iw.*\$«U H NMŽízTmümÕUð)±w1¼Õpk" qwQ {	0yzðzðzf w wèxÁÕ\$ pxsMU.

19 バンコマイシン耐性腸球菌感染症

¢ £ [yli-ú 3it0`o1Q)õb1•õ¢+` ɸ"ð)±pk"{
 ¢ £ÿš\$)Ä y tqQiñsrw,Äiñ) b"ð)Ý6wñ tSMozÕè
 _ð)±[™ð)±z\$Ä"Á¢Q B±¢MJOF TFQTJT£sr)¼VI
 \b{Cä•³ä¿ «srw±Ý) `z@bb"lq«K"{
 ¢ £§Z,j žçñ ¢~ «£
 y©£x¢ £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T
 'li-ú 3i1Q1•õð)±UY~•zTmz1w~w(jt [
 "U*MOt"zli-ú 3i1Q1•õð)±ñ q ...`hõù
 txzOH ÚH òwF t"§Z) ÔŽ°tæ~sZ•ys'
 sM{
 y\wõùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{
 çò)±@b w@.
 y©£x¢ £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'zli-ú 3i1Q1•õð)±UY~•zTmz1w~w(jt
 ["U*MOt"zli-ú 3i1Q1•õð)±t"®b`h
 qQ...`hõùtxzOH ÚH òwF t"§Z) ÔŽ°tæ
 ~sZ•ys'sM{
 y\wõùtSMozU*P%xxz%}t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wÈ)t Š"«wwMc•T»;M"lq{

U*MO	U*P%
üm~% t"i•õwUZTmümÕt0 b"li-ú 3iw.*\$«U H NMŽí	B÷zð+z³+z 7÷zfw wè xÁÕ\$pk", VU.
üm~% t"i•õwUZTmzümÕt 0b"li-ú 3iw.*\$«U H NMŽ ízTmümÕUð)±w1¼ÕqQ ^•h Õù	0yzðzðzf w wèxÁÕ\$ pxsMU.

20 風しん

¢ £ [yé`æ¢ çµt"xQäQC QiñpK"{
 ¢ £ÿš\$)Ä y`æð)t"®)zæi8xèx ™ ? pK"{YT'_tv
 æb"±Ýxz-ÚW•Úíp zæíí... íçl z)t1æz™
 „æzÕp™ æ£Cä)~ Äqb"±æíí... íxC Zq:Ô²
 tZq`z ™ ? p«@b"±{Cäx ™ æpz Ô S Vz
 } « Ô Sp«@b"±{ð zB-Xn-QµW`ù b"lqU
 K"±

yÛÊwé`æ¢ çµð)UzÆ1Qé`æ±© wj¼qs"lqU
 K"±

¢ £§Z,j žçñ ¢~ «£
 y©£x¢ £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T
 'é`æUY~•zTm¢ £w§ZtžAsAE)~hbq ...`h
 õùtxzOH ÚH òwF t"§Z) ÔŽ°tæ~sZ•y
 s'sM{
 çò)±@b w@.
 y©£x¢ £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'è`æUY~•zTm¢ £w§ZtžAsAE)~hbq ...`
 hõùtxzOH ÚH òwF t"§Z) ÔŽ°tæ~sZ•
 ys'sM{
 ¢ £§ZwhŠtžAsAE
 žçU* ... «
 y§ZtžAsÿš±Ýw mŽí)~h`zTmz§ZtžAs'j.
 ...wMc•T)~hb«w{
 çÿš ... «
 y§ZtžAsÿš±Ýw mb,o)~hb«w{
 §ZtžAsÿš±Ý

žç¶ Qw-ÚW•Úíp
çCä
¢çæíí... í

§ZtžAs'j. ...

U*MO	U*P%
üm~% t"j.wUZ	°„çM÷zB÷z
U.T'Ú€w1\$3Ot"j.w"; w UZ	7÷zð
Ä.wUZ¢*H.Ä.wUZzÕžBZpwÄ .E8çxÄ.Aw ™wí¢£	BZ

21 麻しん

¢ £ [y`æ¢ çµt"xQäQC QiñpK"{
 ¢ £ÿš\$)Ä yæi8xèx ™ Ô pK"z±Ýx§»ç8¢ ™ Ô£tx
 Æ²™wCäz•z«KzX`Æ^zAšFBz .zšisrpK
 "zäU<ñ`h tyêšt-Óæ¿ «WUZqb"±{C 8¢ ™
 Ô£tx`S<ñ`hCäU6|ðäqs)¢ ™ Æ£)wC
 ¢-±ÚiWU%Úíp ¤•U%ù`æèÝts"£UZqb"±
 C xÖ™æz1æz%z.ðz1qz<¶wqt¿U"±si8¢ ™
 Ô£txrä`zC x«@`zíÉÜ£)b{ zPð z«ç"
 Ózð)ù b"ÕùUK"±{`æ¢ çµt)™z:âT'G:
 âŽí&a`o((% çexQx=Q¶ð £)C±b"ÕùUK"±
 ysSziG±Ý)Gü~h^cz`æ±Ýw`w`æ¢.æ`æ£
 <`•"lqUK"±{xè«½it"±ÕøUý<`ovh t_
 '•"lqU M{
 ¢ £§Z,j žçñ ¢~ «£
 y©£x¢ £wÿš\$)Ä) b") o`hALz±Ý•t_T
 'è`æUY~•zTm¢ £w§ZtžAsAE)~hbq ...`h
 õùtxzOH ÚH òwF t"§Z) ÔŽ°tæ~sZ•y
 s'sM{
 çò)±@b w@.
 y©£x¢ £wÿš\$)Ä) b"®.)UŠ`hALz±Ý•t_
 T'è`æUY~•zTm¢ £w§ZtžAsAE)~hbq ...`
 hõùtxzOH ÚH òwF t"§Z) ÔŽ°tæ~sZ•
 ys'sM{

€ £\$ZwhŠtžAsAE
 žč'`œøU* ... «£
 y§ZtžAsŸš±Ýw mb,o)~h`zTmz§ZtžAs'j
wMc•T)~hb<w{
 ç'`œøŸš ... «£
 y§ZtžAsŸš±Ýw mb,o)~hb<w{
 €ç.æ'`œøU* ... «£
 y§ZtžAsŸš±Ýw mŽÍ)~h`zTmz§ZtžAs'j.
 ...wMc•T)~hb<w{
 §ZtžAsŸš±Ý

žč'`œt)ĂšsC
çCă
€ç•Iz"KzAšFBsrw§»ç±Ý

§ZtžAs'j. ...

U*MO	U*P%
üm~%o t'"žÉĂi«»" ŌwUZz	°„çM÷zB÷z
U.T'Ú€w1\$3Ōt'"'j.w"; w UZ	7÷zØ
Ă.wUZç*H.Ă.wUZzŌžBZpwĂ .E8çxĂ.Aw™wíç£	BZ

2.2 薬剤耐性アシネトバクター感染症

€ £ [

yž~ má«»ŪNzžŪĚ v.zŇç!é©Ěéíw %ww N

t0`o1Q)ŌbžžÉĂi«»" Ōt'"ò)±pK"{

€ £Ÿš\$)Ă

yò)wš;ówÿ<`hñ •ĂŌ Ō8-;mwñ tŌĚ_ò)

`z srwzu+ò)±zŌĪò)±z {æ••Žŧæ•wò)±z

§Ă"Ăç ĚBvò)±z B±z7š z}ØzēšØzĚæĚēz

srt <sò)±)l\b{

€ £\$Z,j

žčñ ç~ «£

y©£xž £wŸš\$)Ă) b") o`hALz±Ý•t_T

' N1QžžÉĂi«»"ò)±UY~•zTmž £w~w(]t

["U*MOt'"z N1QžžÉĂi«»"ò)±ñ q ...`h

ŌùtxzOH ÚH òwF t'"§Z) ŌŽ`tæ~sZ•y

s'sM{

y\wŌùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wĚ]t Š"«wwMc•T);M"\q{

çò)±@b w@.

y©£xž £wŸš\$)Ă) b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_T

' z N1QžžÉĂi«»"ò)±UY~•zTmž £w~w(

]t ["U*MOt'"z N1QžžÉĂi«»"ò)±t'"@b

`hqQ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"§Z) ŌŽ`

tæ~sZ•ys'sM{

y\wŌùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wĚ]t Š"«wwMc•T);M"\q{

€ £\$ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t'"žÉĂi«»" ŌwUZz	B÷zò+z³+z
TmzŽ<w mwÚE)ŧo~h`hŌù	7÷zfw wè
žč ŪŌĚŪw.*\$<U H NMŽÍçxz	xĂŌ\$pk",
ŪŌĚŪwò!QĂŸµ«ç,#£wí-	VU.
wÚ U ±Ž<	
çžŪ§³íw.*\$<U H NMŽÍçxz	
žŪ§³íwò!QĂŸµ«ç,#£wí-	
wÚ U ±Ž<	

€ç³ŌéŇé©±³íw.*\$<U H NMŽÍ €xz³ŌéŇé©±³íwò!QĂŸµ« ç,#£wí- wÚ U ±Ž<	
üm~%o t'"žÉĂi«»" ŌwUZz TmzŽ<w mwÚE)ŧo~h`zTmz ümŌUò)±w1¼ŌqQ ^•hŌù žč ŪŌĚŪw.*\$<U H NMŽÍçxz ŪŌĚŪwò!QĂŸµ«ç,#£wí- wÚ U ±Ž<	0yzōzØz f w wèxĂŌ\$ pxsMU.
çžŪ§³íw.*\$<U H NMŽÍçxz žŪ§³íwò!QĂŸµ«ç,#£wí- wÚ U ±Ž<	
€ç³ŌéŇé©±³íw.*\$<U H NMŽÍ €xz³ŌéŇé©±³íwò!QĂŸµ« ç,#£wí- wÚ U ±Ž<	

€p£ŪŌĚŪžžw§ç!ŌĚŪ% Nt'"U*`iã`hŌùxz
 fwU*t'"1QwALU~'•hŌù<Q... ,jwž)~hb<
 wqb"{ŪŌĚŪt'"U*qžw w§ç!ŌĚŪ% Nt'
 "U*`iã`hŌùtxžMc•Tw NwU*t'"1QwAL
 U~'•hŌù<Q... ,jwž)~hb<wq`žwU*MO)§
 ZwhŠtžAsU*MOqb"{
 yyyŧhžŌéŇé©±³ížžwŇç!é©Ěéí% Nt'"U
 *)`iã`hŌùxžwU*t'"1QU~'•hŌù<Q... ,j
 wç)~hb<wqb"žŌéŇé©±³í't'"U*qžw w
 Ňç!é©Ěéí% Nt'"¼g)ã`hŌùtxžMc•Tw
 NwU*t'"1QwALU~'•hŌù<Q... ,jwç)~hb
 <wq`žwU*MO)§ZwhŠtžAsU*MOqb"{

2.3 RSウイルス感染症

€ £ [

y'(ç çµçSFTQJSBUPSZ TZODZUJBM WJSVTĚt'"xQzu+ò

K"{ŌÇ8wC±U Xz)Ăšs'pXl> § z pK"{

€ £Ÿš\$)Ă

y Ō™ ? çèx™ Ō£wæi8 w™tztzò)wŌ.Çpx

í>±Ýç"Kz•sr£T'•ž"zfw™<>±ÝUZqb"{

™ ÆwCăUZqb"\qUK"{™ ĚwŌ.Çt>

§ • w'©U~'•}{

y @~z>t TD°~wŌÇzú t,Ăiñ) b"-Çzã^

ÇUò)b"qzzu ĚsrwŌžszu+iñ)¼VI\`zŌĂz

zu gUžAqs"{ŌÇpxz|> § t'"6Đçz>Q6Đ£

U)ĂšpK"{

yfw™z zuz ...zusrw±ÝK"Mx)Ýš"{ý\Ç8

K"Mx\™™™ TD°~wŌÇpxzÁzuC^w±Ý) b"\q

UK"{6ò)w.ÇwŌùtxz|> § • srxn"zÍ>"

UÿQ"{#Ō`ù b"\q<K"{

€ £\$Z,j

žčñ ç~ «£

y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Už £wŸš\$

)Ă) b") o`hALz±Ý•t_T'(ç çµò)±UY

~•zTmž £w~w(]t ["U*MOt'"z'(ç çµò

)±ñ q ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)?o

•pzL?wD5Ōt§ZZsZ•ys'sM{

y\wŌùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz

f•g•%~wĚ]t Š"«wwMc•T);M"\q{

çò)±@b w@.

y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Už £wŸš\$

)Ă) b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_T'z'(ç çµò)±

UY~•zTmž £w~w(]t ["U*MOt'"z'(ç ç

µò)±t'"@b`hqQ...`hŌùtxzOH ÚH òwF t

'§Z)?o•pzL?wD5Ōt§ZZsZ•ys'sM{

y\wÔùtSMozU*P%oxz%]t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wË]t Š"‹wwMc•T;M"\"q{
 € £§ZtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~% t' 'j.wUZ	"â u ¾ ÷ z " â
...@žÄt' 'j.wÄjwUZ	ç M ÷ z ° „ ç M ÷
πèS çx4.AùS t' "Á.wUZç4 .AùS tozxQ8q™ ? Ž™ws î8tÁ.E8çxÁ.Aw™wíç)ÝŠ •y- £	BZ

2 4 咽頭結膜熱

€ £ [
 yCã~°, t|Aš › ±Ýqb"xQwç çmò›±pK"{
 € £Ýš\$)Ä
 yæi8x™ Ôz±ÝxÇz°, ç°, Cz z°, ç£Aš
 U~ ±ÝpK"{žÄËç çµ U pK"Uz t z z
 sr(Š±)l\b{C\Xâ ›èao^"Uz^†_†sFÛ
 wvæ\$C\^"›tFBtvæ)^\qUK}{
 € £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$
 ›Ä› b"› o`hALz±Ý•t_T'°, AšäUY~•zT
 mæ £t'"z°, Ašäñ q ...`hÔùtxzOH ÚH
 òwF t'"§Z)?o•pzL?wD5Ôt§ZsZ•ys'sM{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$
 ›Ä› b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_T'z°, AšäUY~•z
 Tmæ £t'"z°, Ašät'"@b`hqQ...`hÔùtxzO
 H ÚH òwF t'"§Z)?o•pzL?wD5Ôt§ZsZ
 •ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsÝš±Ýç mb,o)~hb‹w£

žçCã
ç°„Cz
ççAšFB

2 5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

€ £ [
 y èi±•Ôt'"í>"ò›±pK"{
 € £Ýš\$)Ä
 yÔ.Çpx°, zãÔÇ•R pxOg Uq•zCzÝÉtÔøw
 sM x ÚäqM~•"¶ ±Ý) b"›> § ›l\b\q‹
 M{C ›PO\q‹K"zæçÚ½ä•xQ³•. srwÉíñ
 ›l\b\q‹K"{
 € £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$
 ›Ä› b"› o`hALz±Ý•t_T' 9BQèi±•Ô°
 „ UY~•zTmæ £)~hbTz £w mb,o)~h^sX
 o(ç £)~h`z 9BQèi±•Ô°, ñ q ...`hÔùt
 xzOH ÚH òwF t'"§Z)?o•pzL?wD5Ôt§Z
 sZ•ys'sM{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$
 ›Ä› b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_T'z 9BQèi±•
 Ô°, UY~•zTmæ £)~hbTz £w mb,o)~h^
 sXo(ç £)~h`z 9BQèi±•Ô°, t'"@b`hq
 Q...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"§Z)?o•pzL?

wD5Ôt§ZsZ•ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsÝš±Ýç mb,o)~hb‹w£

žçCã
ç°„Cz
ççAš%

€ £§ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
Öw F~% t' 'j.wUZ	°, ç M ÷
...@žÄt' 'j.wÄjwUZ	
"40Oçx"4,Ot' "Á.wUZçÖžBZ pwÁ.E8çxÁ.Aw™wíç£	BZ

2 6 感染性胃腸炎

€ £ [
 yIÖçxç çµsrwò)Q'j.t'"EAz<i) ±Ýqb"
 ò›±pK"{j¼xç çmò)çé}ç çµzÉéç çµsr£
 U Xz-á3T'YtTZovæb"{†hzπiÁéç çµzžÄ
 Èç çµt'"‹w•IÖQw‹w^'•"
 € £Ýš\$)Ä
 yÔ.Çt•C`z @Ž<wÔÇx±Ýw æUāM{
 y ±ÝxEAq<ipK"z 'w Swd+z?ríÖæ±Ýz¶
 ±ÝUC~"EAçx<iw^wÔù•zEAW™t<iU^'•"
 ùq7'pz±Ýw St(x)UK"{™ÆwCäU^'•
 "lq‹K"{ãÔÇpxAV>•òçU`y`y^'•"
 € £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$
 ›Ä› b"› o`hALz±Ý•t_T'ò)QÉÍ UY~•z
 Tmæ £t'"zò)QÉÍ ñ q ...`hÔùtxzOH Ú
 H òwF t'"§Z)?o•pzL?wD5Ôt§ZsZ•ys'
 sM{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$
 ›Ä› b"@.)UŠ`hALz±Ý•t_T'zò)QÉÍ UY~
 •zTmæ £t'"zò)QÉÍ t'"@b`hqQ...`hÔùtxz
 OH ÚH òwF t'"§Z)?o•pzL?wD5Ôt§ZsZ
 •ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsÝš±Ýt|AEç mb,o)~hb‹w£

žçxtC±b"òççý\Ç•ÔÇpxÆi£EAz<i
ç w§Ziñt'"‹w†X

2 7 水痘

€ £ [
 y+q~3Ýn ç çµwsò)t'"ò›±pK"{
 € £Ýš\$)Ä
 yYT'_t.Cb"ò›±pK"Uzã ›èaoñ wC\U^'•
 "{'¥z'¥©z€iò)srpò)b"{æi8x™ ? pK"{
 Ô.Ç•¶•Mc•wá,p<6ñb"‹< Ôøx'æ„r§-px
 sXzý\Ç<6ñb"lqUK"{±ÝxÇäç pK"†f•g•
 wC xÚWzÚíp z+n Rzg)=•qÿ Ôw&ap!:=`o
 MXUz%°^Šw} U%òt¶ tZqb"wpxsXzý† w
 ^ŠwC U%òt Ob" {
 yC x.ðt C`z)¶t—sM{C x„}z±âsrwêšt‹
 Zqb"†HÁÇw6ñx0±p'™x'•pK"†hi`zÔøÆ¶Ý
 6w-ÇU6ñ`hÔùxO±=•bXz@§&a)q"lq‹K" {
 € £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Uz £wÝš\$

›Ā› b”› o`hALz±Y•t_T'+qUY~•zTmø £
 t“z+qñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”§
 Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Y•t_T'z+qUY~•zTmz
 ç £t“z+qt“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH
 òwF t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 ç £§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç¶ Qwv÷Pp •+nw¥µwZq
çýť 'w^ŠwC çp z+nzg}£U%òt Ob"lq

28 手足口病

ç £ [
 y q`oÖ.Çt`•” z z<¶z±â°z±öt-+nUlc
 ”;›Qwç çµQò›±pK”{“±ž©” zπĀÉç
 çµ w„Tz“±ž©” fw t'lo\l"lq
 Uœ'•oM”{
 ç £ÿš\$›Ā
 y/ \$s‹wpxz0MCäzīl/Æüzwrwç`sp•‡“zCä
 T' ÖY'MaWh T'z z t•Üù›PO-+nU C
 `ž•±âêšt™M|'œžŃ»›\a”{+nx••* ›`z
 ^æzšæsrtÚiw-p U„Ob”lq‹K”{ } x ? T'
 Öpxµ«@b”{X‡•t7š •ô srUla”lqUK”
 wpzCä•EAz„çsrUK”Öùx«™›Ab”{πĀÉç ç
 µ t” ±'wÖùtfwĀSUôM{
 ç £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”› o`hALz±Y•t_T' ±'UY~•zTmz
 ç £t“z ±'ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Y•t_T'z ±'UY~•z
 Tmz £t“z ±'t“@b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•
 ys'sM{
 ç £§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç w{z çx z±âêštZqb”™ ± Sw+n
ç+nxcg}› RdctĪ

29 伝染性紅斑

ç £ [
 y ç çµwò't"ÚW› ±Yqb”C QiñpK”{
 ç £ÿš\$›Ā
 y.—Çç™ @£t MUzÖÇzR U6ñb”lq‹K”{œ
 i8x™ Ö{%Øz›tyæt¥„Īžs py'lh'Os
 ÚWU¥µZqb”fñMo›¶t0 Qtè”µ7wÚWUZqb”{
 «@™^tÔ«`ùzž†srt'lo6SZqb”lqUK”{C
 w tCäz ...çz°„çz±Yz£Ī±Yzēš zæĪĪ... Īz
 ... ›ù b”lqUK”{™xèxz'•pK”{`z9BQĀ
 Bwñ pxzZB•n—›l\b\qUK”{ŪÉwÖùtxz;Ç+
 çxv^›l\b\qUK”{
 ç £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”› o`hALz±Y•t_T'›QÚWUY~•zT
 mz £t“z;›QÚWñ q ...`hÔùtxzOH ÚH

òwF t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Y•t_T'z;›QÚWUY~•z
 Tmz £t“z;›QÚWt“@b`hqQ...`hÔùtxzO
 H ÚH òwF t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ
 •ys'sM{
 ç £§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç(ÈwyæwÚWwZq
ç›¶wè”µ7wÚWwZq

30 突発性発しん

ç £ [
 yÖ.ÇUĪĀÖçÖµç çµ z wò't”¥µwôäqrä
 z™wC›RbiñpK”{
 ç £ÿš\$›Ā
 yÖ.Ç8z›t™ TDw t6ñb”lqU M{ @ŽĪx‡
 •pK”{
 y¥µzôäpC±zÆ;OpG~ówr|›^”lqUK”{°„æw
 Cz›t±-(w† t§MWÝCz›YŠ”lqUK”{É(`X
 x<i›PO‹wU XzCäx™ ÖĒ`h™trāb”{
 yrät²™`o-AsÚW•Úíp UZq`z„OQzĪtWÝ%ù
 QtüĪb”{C x.đT'•‡“Ī¶z1æwqtžU”Uz%Øz
 <¶tx—sM{C x™ Öp«æb”{ô›ù b”lqUK”{
 ç £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”› o`hALz±Y•t_T'¥CQC`œUY~•z
 Tmz £t“z¥CQC`œñ q ...`hÔùtxzOH Ú
 H òwF t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'
 sM{
 y§Zw0ÄxzĪGwÿš\$›Ātù•b”‹wpK”hŠz§Zw0
 Äx @°-w`qb”{
 çò›±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ā› b”@.›UŠ`hALz±Y•t_T'z¥CQC`œUY~
 •zTmz £t“z¥CQC`œt“@b`hqQ...`hÔùtxz
 OH ÚH òwF t”§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZs
 Z•ys'sM{
 ç £§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç¥µtCä`z™ ÖĒ
çrät²™`o.đæz›¶z%ØwC UZq

31 百日咳

ç £ [
 y Bordetella pertussis t'lo\l"lxQw>“ò›±pK”{
 ç £ÿš\$›Ā
 yœi8xèx™ Öç7G ? S£pK“zTe7±Yp•‡
 ”UzĪHt•U¶`Xs“zĪÖ› w•UZ•Š”{/ \$sÿš
 pxz%› lz't`o`i`iq9`X• ^çµ”žš”Āz7™
 tĪá”žq;›qooGVX›uOC^çç`Ó£qs”{EA‹P
 Mz ĐwÖ •%Øw:ÝZBU`”lqUK”{. ÖÇ•zâ
 ÖÇz†hR px/ \$s±YU`”cz ...UÉ`Mlq‹—sX
 sM{
 yÖÇpxO±ts“z›tý\ÇUTT”qÁzuqs“z•@šqs
 ”lqUK”{ zô±›ù b”lqUK”{
 ç £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$

›Ä› b" › o`hALz±Y•t_T'!Ô•UY~•zTmz
 € £t"z!Ô•ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 çò±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ä› b"›UŠ`hALz±Y•t_T'z!Ô•UY~•zT
 mz £t"z!Ô•t"@"b`hqQ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys
 'sM{
 € £§ZwhŠtžAsÿš±Yçžt| ›-hb‹w£

žç ? ŽíĚ b"•I
çŽ<wMc•TWAewOj—sXq< m›-hb‹w
çž£µ»žš"Ät ç"Ô"PO•IC^
ç £ý\Ç•ÔÇpz tì'Tsj¼UsM•I™wEAçxÁ
zUC^

3 2 ヘルパンギーナ

€ £ [
 y t~«±ž@”ç çµ t"±!æ†) w-+nqCä›
 ±Yqb"FTew° pK" { Xxz~«±ž@”ç çµ ™
 z z z†•tfw waiÄéç çµ'jq`oüm^
 •"lqUK" {
 € £ÿš\$›Ä
 yæi8x ™ ÔzsFT'3tTZozÖ.Çt M{¥µw ™
 ÆwCäU ™ Ô Vz¶ G5òzīlÆüz°,çzEAz
 ›¶çsrUK"Ôù‹K" {°,t_xz0StCz`z±-T'±-
 UtTzo ™ ±w-+nz\•T'\ah-ō~zfw%*tCz›
 Plh‹wU:xÿš"•" {
 € £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ä› b" › o`hALz±Y•t_T'Ôçíi^a"ÆUY~•z
 Tmz £t"zÔçíi^a"Æñ q ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys
 'sM{
 çò±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ä› b"›UŠ`hALz±Y•t_T'zÔçíi^a"ÆUY
 ~•zTmz £t"zÔçíi^a"Æt"@"b`hqQ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt
 §ZZsZ•ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç¥µwôäpWC±
çôä
ççí>" ±Y
çç¶ G5òsw¶ ±Y

3 3 流行性耳下腺炎

€ £ [
 yÜiÓµç çµò,t"Ö<¥U íb"ò±pK" {
 € £ÿš\$›Ä
 yí>"›p`o`¥ò›`æi8x ™ ? pzt çx" wÖ<
 ¥U íz‹w>Ø%qVt^ç^`ìQ"lqU M{lwqV:
 ÔwCä›PO‹wU M{Ö<¥ íx çQpz¥„Æ±ìsJ'T
 M íUÖ ›µúq`oi\` { w#÷¥w í`~"lq‹K" {
 Ö<¥%±æwCzUÿš"•"UžKw xsM{ù±q`oxz
 7š zô z„ zÉìsrUK"zfw R %QtxÁ zR
 • tx[â U^'•"lqUK" {
 € £§Z,j
 žçñ ç- «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$

›Ä› b" › o`hALz±Y•t_T'væQÖ<¥ UY~•z
 Tmz £t"zvæQÖ<¥ ñ q ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys
 'sM{
 çò±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ä› b"›UŠ`hALz±Y•t_T'zvæQÖ<¥ UY
 ~•zTmz £t"zvæQÖ<¥ t"@"b`hqQ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt
 §ZZsZ•ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç" sM`† wÖ<¥w¥µw íqz ÔŽíwĚ
ç tÖ<¥ íwj¼UsM\q

3 4 インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)

€ £ [
 y iÑçpi²ç çµçx iÑçpi²wj¼qs" iÑç
 pi²ç çµt|ý iÑçpi²sò±wj¼qs" iÑçp
 i²ç çµ†X£wò,t"XQ>"ò±pK" {
 € £ÿš\$›Ä
 yí>" ±YtCQoz¥µwôäz¶ G5òz„çzÔÑç)PO
 \q›Äqb" {væ8çfU pxz«â D™ D£t\•w
 ±YwKlh‹wx iÑçpi²qßQ'•"Uz†væ8pwÿš
 ...x ÉpK" {ù±q`ozô±z ›l\lqUK" {
 € £§Z,jç iÑçpi² :tSZ"Ôù£
 žçñ ç- «£
 y! §Z; ç iÑçpi² :£w g xzp~! §Z; w
 @£Uz £wÿš\$›Ä› b" › o`hALz±Y•t_T'
 iÑçpi²UY~•zTmzfwb,o›-hbTzfwb,o›-
 h^sXo<„›-hb\qt"z iÑçpi²ñ q ...`hÔù
 txzOH ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt§
 ZZsZ•ys'sM{
 çò±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uz £wÿš\$
 ›Ä› b"›UŠ`hALz±Y•t_T'z iÑçpi²UY
 ~•zTmzfwb,o›-hbTzfwb,o›-h^sXo<„›-
 hb\qt"z iÑçpi²t"@"b`hqQ...`hÔùtxzO
 H ÚH òwF t'"§Z›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ
 •ys'sM{
 f§ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o›-hb‹w£

žç¥µwC±
çôä
ççí>" ±Y
çç¶ G5òsw¶ ±Y

„§ZwhŠtžAsU*t_	
U*MO	U*P%
...@žÄt'`j.wÄjwUZ	"â u¾ ÷ z " â ç M ÷ z ° „ ç M ÷

€ £§Z,jç,ð :tSZ"Ôù£
 žçÖÄñ
 y! §Z; ç,ð :£w g xzp~! §Z; w@£Uz £
 wÿš\$›Ä› b" › o`hALz±Y•t_T' iÑçpi²
 UY~•zTmz £fwb,o›-hbTz £fwb,o›-h^
 sXo<ç £„›-hb\qt"z iÑçpi²ñ q ...`hñ
 wOjzÖÄ›`h‹wtmMozOH ÚH òwF t'"§Z
 ›?o•pzL?wD5Ôt§ZZsZ•ys'sM{

3 5 急性出血性結膜炎

ϕ £ [ymīĀéϕ çμ t|~«±ι⊙”ϕ çμ !ÿ wò> t’loI\”xQAš pK”{ ϕ £ÿš\$>Ā yœi8x Ôp\$M wç^zÿúòp•‡“zAšwFBz>tAš <ZB>PO\qU M{ Đw Íz .zAšÔ z~š~Úw|« Q YsrU”• çzÿúòUK”{ÿ ? MoĪ b”\qU MUz\wiñt6ñ`hwj™ TD™t>¶wá^`z>Rb \qUK”{ ϕ £\$Z,j žçñ ϕ~ «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$ >Ā> b”> o`hALz±Ÿ•t_T’xQZBQAš UY~ •zTmz £t“zxQZBQAš ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z>?o•pzL?wD5Ôt\$ZZsZ •ys’sM{ çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$ >Ā> b”@.UŠ`hALz±Ÿ•t_T’zxQZBQAš U Y~•zTmz £t“zxQZBQAš t“@b`hqQ...` hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z>?o•pzL?wD5 Ôt\$ZZsZ•ys’sM{ ϕ £\$ZwhŠtžAsÿš±Ÿϕ<GwOj mŽÍ£

žçxQzTQAš
ç .z çzÿúòsr>PO Đ Í
ϕçAš<ZB

3 6 流行性角結膜炎

ϕ £ [yžĀĒϕ çμ z z z srt’” ò>±pK”{ ϕ £ÿš\$>Ā yÿ™ ? wœi8w™zxQzTQAš wÿš±Ÿ•Ô`oC` b”{AšwÔ •FBz ĐÔ U\$Xzv;• .>PO{Ô²æī Í...w íqyç>Rb{~štx|«Q~Ú~š±U^•zÿúòz ç>ÍQ”\qUK”{Pš>PO\q< M{C`™™ ? pī b”\qU M{ ϕ £\$Z,j žçñ ϕ~ «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$ >Ā> b”> o`hALz±Ÿ•t_T’væQ~Aš UY~•z Tmz £t“zvæQ~Aš ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z>?o•pzL?wD5Ôt\$ZZsZ•ys’sM{ çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$ >Ā> b”@.UŠ`hALz±Ÿ•t_T’zvæQ~Aš UY~•zTmz £t“zvæQ~Aš t“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z>?o•pzL?wD5Ôt \$ZZsZ•ys’sM{ ϕ £\$ZwhŠtžAsÿš±Ÿϕ<GwOj mŽÍ£

žçO±sxQzTQAš
ç~š:ŸÍ}< Y
ϕçÔ²æī... í~yç

3 7 性器クラミジア感染症

ϕ £ [yChlamydia trachomatis t’”Qò>±pK”{ ϕ £ÿš\$>Ā y%QpxzØ“T’ò>`oxQØ“>I\Buz±ŸxœÔò>± ‘“<OM{^’tz²q¥ z^âÍ. >I\B\q<K”{•Qp xz‡c v1 >I\`zfw™zò>U v°šz[•qpt`z v°š z[z k° ±Qiñz *”>I\Bϕ`T`%• q<z±ŸUOXx@wsM\q< M£ y‡hz vŽÛ÷zÆÛzvā`w ¼q<s”{ÛÊUò>`oM” Ôùtxz q`o`“ò>t“zý\ÇtçÖ.Aš >I\B`d” \qUK”{‡hz™ TDwœi8>&ozý\ÇzÔÇw >¼ V\I\B\qUK”{œÔqw ùò>< XzœÔò>±wĪ™<Ø “ U XÔùtxz«âÛ’žò>±UY~•”{ ϕ £\$Z,j žçñ ϕ~ «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$ >Ā> b”> o`hALz±Ÿ•t_T’Q+«âÛ’žò>±U Y~•zTmz £w~w(|t [”U*MOt“zQ+«âÛ’ žò>±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z> Do•pzLDwsÔt\$ZZsZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwâü]qtz f•g•%~wĒ]t Š”<wwMc•T;M”\q{ yμ«æ”Çī~t’”j.~Āj~”; t b”U*EQ«xc 0Āt ‡•”UzĀ.EQw`wÔùx†žb”{ çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$ >Ā> b”@.UŠ`hALz±Ÿ•t_T’zQ+«âÛ’žò> ±UY~•zTmz £w~w(|t [”U*MOt“zQ+«â Û’žò>±t“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t”\$Z>Do•pzLDwsÔt\$ZZsZ•ys’sM{ y\wÔùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwâü]qtz f•g•%~wĒ]t Š”<wwMc•T;M”\q{ ϕ £\$ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t’”’j.wUZ	Ø“zQ+T’>`hP%
, «Ā.OçxiÉĀ.Ot’”’j.wĀj wUZ	
1\$3Ot’”’j.w~; wUZ	
Ā.wUZçÖžBZt’”Ā.E8çxĀ. Aw™wíççxo°BZpĀ.Awô<£	BZ

3 8 性器ヘルペスウイルス感染症

ϕ £ [yomÔçÖmç çμçIFSQFT TJNQMFY WJSVT (+) (+ çx £Uò>`z+çxfwçÛtC±`h<w>Q+ÔçÖmqMO{ ϕ £ÿš\$>Ā yQ+ÔçÖmçzžæT’ŌIhç çμt’”sò>wÔùqç<7 &...tœi`oM”ç çμw6ÆQ=t’”Ôùw mUK”{ ysò>pxzò>™™ Ôwœi8w™tžĀæt~+nçx™Mô ~Q’!U:xsM`By\$Tzqb”{Cäsrw¶ ±Ÿ>PO\q U M{™ ? pxμtī b”UzĪ™<D&zQ|fw w— 9U ¼qsloz6C> “&b{C xžĀæw~Tz^æzG<t <Ia”\qUK”{ y’!æ•x%QpxA)zāŸÔzO„z•QpxžĀæ• v1æp K”{±>pb”Q\$€it’lo±ö*“t<ò>b”{ (+ t ‘”Ôùxz’“6C`•bM{ ϕ £\$Z,j žçñ ϕ~ «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£Uz £wÿš\$

> Ā> b" > o`hALZ±Y•t_T'Q+ÔçÖµç çµò
 > ±UY~•zTmæ £t'“zQ+ÔçÖµç çµò>±ñ q
 ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z>Do•pzLD
 wsÔt§ZZsZ•ys'sM{
 yì'Tt6CpK'<wt|BZĀ.w^EQw<wx†žb”{
 çò>±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" @. > UŠ`hALZ±Y•t_T'zQ+ÔçÖµç ç
 µò>±UY~•zTmæ £t'“zQ+ÔçÖµç çµò>±t
 “@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z>
 Do•pzLDwsÔt§ZZsZ•ys'sM{
 ç £§ZwhŠtžAsÿš±Y

%•q<tzQ+•^æTÔçÖµ s çQw T' :w-^
 M+nQçx™Mō~Q'!>YŠ”<w

3 9 尖圭コンジロ-マ

ç £ [
 y' `i' é"ÚxzîĀíĎé"Úç çµçíĀŌ„ ç çµz
 %+£wò>t'“zQ+*%t\ a" ~pK" {ĀíĎé"Úç
 çµx `žíUçE'•oM"Uz' `i' é"Úwj¼qs"
 wx t % + q % + pK"zìt % + wò>p\ \
 a" {
 ç £ÿšš> Ā
 yò™z: ? T'™ TD>&ozĀ*O„zāYŌzA}zG-
 ĀözWó*“swQ+*%ætz ØYw- ~U Cb" { ~xz
 Çew`lhŌ„Yw ...UBY`h > w > oS“zŌ„Yz2āYz
 V©ßŌĀYsq 0^•" { `i' é"Úx.xz'Qw ~pK
 “zxµtī b”\qç MUzìt t æb”\qUçE'•oM" {
 >tz % + | | | srtò>`h•QwŌùz v
 1æto>`z v1 wC A¼ts”\qçK”qßQ'•oM" {
 ç £§Z,j
 žçñ ç- « £
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" > o`hALZ±Y•t_T'`i' é"ÚUY~
 •zTmæ £t'“z' `i' é"Úñ q ...`hÔùtxzO
 H ÚH òwF t'“§Z>Do•pzLDwsÔt§ZZsZ•
 ys'sM{
 çò>±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" @. > UŠ`hALZ±Y•t_T'z' `i' é"ÚU
 Y~•zTmæ £t'“z' `i' é"Út'“@b`hqQ...`
 hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z>Do•pzLDwsÔ
 t§ZZsZ•ys'sM{
 ç £§ZwhŠtžAsÿš±Y

%•q<tzQ+t|fw*%tvÚíçxĒíĎwŌ„Yzçx2
 āYw>Ā\$'!>YŠ”<w

4 0 淋菌感染症

ç £ [
 yæŌçNeisseria gonorrhoea £t'“Qò>±pK" {
 ç £ÿšš> Ā
 y%QxxQØ“ q`oC±b”wU`\$pK”UzL”b”q²ç
 ¥ z^âí. qs”{™~±q`oØ“±eUI\” {
 y• x v1 •Ø“ \l\bUzx@±YwsMŌùU M{ò
 >Uíæb”q v`š z[sw k`o ±Qìñ>l\`zCāz
 <òç>Rb{™~±q`oÆŪ±UIV” {
 yfw z`o„Ūísr•wò>•^`ò>t'“ý\çAš srç
 K” {
 ç £§Z,j

žçñ ç- « £
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" > o`hALZ±Y•t_T'æŌò>±UY~•zT
 mæ £w~w(jt [”U*MOt'“zæŌò>±ñ q ...`
 hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z>Do•pzLDwsÔ
 t§ZZsZ•ys'sM{
 y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”<wwMc•T>;M”\q{
 çò>±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" @. > UŠ`hALZ±Y•t_T'zæŌò>±UY~•z
 Tmæ £w~w(jt [”U*MOt'“zæŌò>±t'“@b
 `hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z>Do•pz
 LDwsÔt§ZZsZ•ys'sM{
 y\wŌùtSMozU*P%oxz%ot [”U*MOwàü]qtz
 f•g•%~wĒ]t Š”<wwMc•T>;M”\q{
 ç £§ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t'“'j.wUZ	Ø“t Q+T'> `h P%oz ü{ú z`o„çM ÷
„Ut'“'j.wUZ	
, «Ā.Ot'“'j.wĀjwUZ	
iĒĀ.Ot'“'j.wĀjwUZ	
1\$3Ot'“'j.w~; wUZ	

4 1 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

ç £ [
 yéç çµwò>t'“<izEAzCā> ±Yqb”ò>±pK
 ” {
 ç £ÿšš> Ā
 y t™ @ç>µút.C`z-â“v DT' DtTZovæ
 U`•” { ±YxCāzEAz(iw+7)>Āqb”<ipK”z
 èxz µ Ōp±YwsîU`•” { wç çµQĒí qz,”
 qOSwd+±Y> `zŌĀĪ>žAqb”\qU M{Ct@bt
 „«K” {ìtzù ±q`orĀzò ~ò±zĪOuz z
 srUYŠ'•zúŌ srw•@šò>±wC <„^•” {
 ç £§Z,j
 žçñ ç- « £
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" > o`hALZ±Y•t_T' éç çµĒí UY
 ~•zTmæ £w§ZtžAsAE>~h`z éç çµĒí ñ
 q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§Z>?o•pz
 L?wD5Ōt§ZZsZ•ys'sM{
 çò>±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Uæ £wÿšš
 > Ā> b" @. > UŠ`hALZ±Y•t_T'z éç çµĒí
 UY~•zTmæ £w§ZtžAsAE>~h`z éç çµĒí
 t'“@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'“§
 Z>?o•pzL?wD5Ōt§ZZsZ•ys'sM{
 ç £§ZtžAsAEçž<wžwçž£t|ç £Tm >~hb<w£
 žç§ZwhŠtžAsÿš±Y

çžŷ ĩ ž`otz sžÍw<içx sžÍwEA
 ç ŷ w§Ziñt'“<w>†X

ç'j. ...wMO

U*MO	U*P%
üm~%o t'“'j.wUZ	(U.
ĀjwUZç ŪĒ«éUĀŌt'“'j.Ā jwUZ£	
1\$3Ot'“'j.w~; wUZ	

4 2 クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

£ [yChlamydia (Chlamydia) pneumoniae, Chlamydia trachomatis wò't' pK" { £ÿš\$>Ä yC.trachomatis x v1 C±`oM" <.T'w^`ò>py\ ÇzÖÇt íQ C±`ÁäQpK" { C.pneumoniae xz`¥ò >t'™ ? wœi8>&o0±wÿ C±b" {-Çt| ô, p X_`" { £\$Z,j žçñ ç- «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" > o`hALz±Y•t_T'«âÛ'ž UY~•z Tm£ £t'«z«âÛ'ž ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z>?o•pzL?wD5Ôt\$ZsZ•ys 'sM { çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" @.UŠ`hALz±Y•t_T'z«âÛ'ž UY ~•zTm£ £t'«z«âÛ'ž t'«@b`hqQ...`hÔ ùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z>?o•pzL?wD5Ôt \$ZsZ•ys'sM { £\$ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t'"`j.wUZ	>"T"> `h U.
,«Á.OçxiÉÁ.Ot'"`j.wÁj wUZ	
1\$3Ot'"`j.w"; wUZ	
Á.wUZçÖžBZt'"Á.E8çxÁ. Aw™síçzçxo`BZpÁ.Awôç£	BZ

4 3 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)

£ [y7š Öz •Öz iÑçpi²ÖUj¼q`o%o ^•hÔù) †X `wIÖò)t'"7šwò>±pK" { £ÿš\$>Ä y C ä z „ ç z E A > s > Ä q b " { ò æ x Ú z , F S O J H A #SVE[JOTLJÄ@srw7š—9±YU_`"lqUK"Uzý\Ç•Ö Çsrpx\`wÿš±YUì'TpxsM\qU M { £\$Z,j žçñ ç- «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" > o`hALz±Y•t_T'ÍÖQ7š UY~•z Tm£ £t|ç £t'«zÍÖQ7š ñ q ...`hÔùtxz OH ÚH òwF t'"\$Z>?o•pzL?wD5Ôt\$ZsZ •ys'sM { çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" @.UŠ`hALz±Y•t_T'zÍÖQ7š UY~ •zTm£ £t'«zÍÖQ7š t'«@b`hqQ...`hÔùtxz OH ÚH òwF t'"\$Z>?o•pzL?wD5Ôt\$ZsZ •ys'sM { £\$ZwhŠtžAsÿš±Yç mb,o>-hbçw£

žçCäz„çzEA> s>Äqb"
çòæxÚz,FsOJHÄ@z#SVE[JOTLJÄ@srw7š—9±Y

£ P M c •ý\Ç•ÖÇsrpxÿš±YUì'TpxsM\qU M { £\$ZwhŠtžAsU*t_ç mb,o>-hbçw£

žç7÷IT:wÿCç ©••pK"lqU M£
ç7÷•("wÿCqvwn—

4 4 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

£ [yÖÇ³æi t0`o1Q>Ôb •Öt'"ò>±pK" { £ÿš\$>Ä y-Çt|R w=öQ7š •pÖ pUZ^•"Uzfw zí"â zú°š zúī zòš z ... zž•txØÍ\é+ò>T'Ö B±>¼Vl\b\qK" { £\$Z,j žçñ ç- «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" > o`hALz±Y•t_T'ÖÇ³æi1Q •Ö ò>±UY~•zTm£ £w~w(jt ["U*MOt'"zÖÇ ³æi1Q •Öò>±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òw F t'"\$Z>Do•pzLDwsÔt\$ZsZ•ys'sM { y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz f•g•%o~wÉ]t Š"çwwMc•T;M"lq { çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" @.UŠ`hALz±Y•t_T'zÖÇ³æi1Q •Öò>±UY~•zTm£ £w~w(jt ["U*MOt'"z ÖÇ³æi1Q •Öò>±t'"@b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t'"\$Z>Do•pzLDwsÔt\$ZsZ•y s'sM { y\wÔùtSMozU*P%oxz%o]t ["U*MOwàü]qtz f•g•%o~wÉ]t Š"çwwMc•T;M"lq { £\$ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t'" •ÖwUZzTmÖÇ³ æi w.*\$çU H NMŽÍçxz ©± ³æi wò!QÄÿµ«ç,#£wí- wÚ U ±Ž<	B÷zò+z³+z 7÷zfw wè xÁÖ\$ pK", VU.
üm~%o t'" •ÖwUZzTmÖÇ³ æi w.*\$çU H NMŽÍçxz ©± ³æi wò!QÄÿµ«ç,#£wí- wÚ U ±Ž<zTmümÖUò>±w¼Öçq ^•hÔù	0yzòzØzf w wèxÁÖ\$ pxsMU.

4 5 マイコプラズマ肺炎

£ [yMycoplasma pneumoniae wò't'loC±b" pK" { £ÿš\$>Ä y.Câ,xz™ @w-ÇpK"z-ÇpxC\ÄSwôMò>± w°mpK" {œi8x™ ? q^•z`¥pò>b" {ÿ p > b"lqU M {\$s•lqCä} ±YtC`z pÖ z³š zúÒ z7š srwù ±) Cb"±«ç ^•oM" { £\$Z,j žçñ ç- «£ y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" > o`hALz±Y•t_T'Ú -Óâ¶Ú UY ~•zTm£ £t'«zÚ -Óâ¶Ú ñ q ...`hÔùtxz OH ÚH òwF t'"\$Z>?o•pzL?wD5Ôt\$ZsZ •ys'sM { çò>±@b w@. y! \$Z; w g xzp~! \$Z; w©£U£ £wÿš\$ >Ä> b" @.UŠ`hALz±Y•t_T'zÚ -Óâ¶Ú UY~•zTm£ £t'«zÚ -Óâ¶Ú t'«@b`hqQ

...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z>?o•pzL?w
 D5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t"j.wUZ	>"T"> ^• hU.
ÁjwUZ€ ÜÊ«éÚÄOt"j.w ÁjwUZ€	
1\$3Ot"j.w"; wUZ	
Á.wUZ €ÖžBZt"Á.E8€xÁ.Aw™wí €z€x o°BZp €B•½BÁ.A Žíz4.AùÁ.A Žíz,á½i{ ½BÁ.A Žíz`Xx*H.Á.wUZ € ...©¿ÄÆ	BZ

4 6 無菌性髄膜炎

€ £ [
 y 'w€ çµ»µúq`h`j.wò)t"7šwò)±pK"{
 € £Ÿš\$)Á
 yCáz„çzEA) s)Áqb"Uzý\Ç•ÖÇsrpxŸš±Y
 Uì'TpxsM\qU M{òæxÚz,FSOJH Ā@z#SVE[JOTLJ Ā@
 srw7š—9±YU_'"U%oaxY\Ç•ÖÇsrpx\•'Uì
 'TpxsM\q M{
 € £§Z,j
 žçñ €¬ «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Už £wŸš\$
 ›Ā› b"› o`hALz±Y•t_T'ÁÖQ7š UY~•z
 Tmž £t|€ £t"zÁÖQ7š ñ q ...`hÔùtxz
 OH ÚH òwF t"§Z>?o•pzL?wD5Ôt§ZZs
 Z•ys'sM{
 çò)±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Už £wŸš\$
 ›Ā› b"®.›UŠ`hALz±Y•t_T'zÁÖQ7š UY~
 •zTmž £t|€ £t"zÁÖQ7š t"®b`hqQ...
 `hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z>?o•pzL?wD
 5Ôt§ZZsZ•ys'sM{
 € £§ZwhŠtžAsŸš±Y€ mb,o)¬hb(w£

žçCáz„çzEA) s)Áqb"
çòæxÚz,FSOJHĀ@z#SVE[JOTLJĀ@srw7š—9±Y

€ £§ZwhŠtžAsU*t_€ mb,o)¬hb(w£

žç7÷IT:wŸC€o@• •pK"\qU M£
ç7÷•("zv"UYx

4 7 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

€ £ [
 yŸ½³æīrwÖÇ³æīN›xašq`oz má«»ÜNzžÚ
 Ê v.NzÚ«éá ĀNsrw Xw Nt0` N1Q)Öb+í
 ÖĀ€•Öt"ò)±pK"{
 € £Ÿš\$)Á
 yŽJ [™wñ •ÖøÆ¶ zÖ8ĀÖ d)ñ srtÔè_ò)
 `zÍ z B±z sr)R`zµµwôäzByÿ<zòæ r¬z
 <iz™ŸË•z(B•n—zB—Xn— ;óË•z ;óË•sr
 w±Y)Öb{
 € £§Z,j
 žçñ €¬ «£

y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Už £wŸš\$
 ›Ā› b"› o`hALz±Y•t_T'Ÿ½³æī1Q+íÖĀ
 €•Öò)±UY~•zTmž £w~w(|t ["U*MOt"z
 Ÿ½³æī1Q+íÖĀ€•Öò)±ñ q ...`hÔùtxzOH
 ÚH òwF t"§Z>Do•pzLDwsÔt§ZZsZ•ys'
 sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%o~wË)t Š"‹wwMc•T);M"\q{
 çò)±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Už £wŸš\$
 ›Ā› b"®.›UŠ`hALz±Y•t_T'zŸ½³æī1Q+í
 ÖĀ€•Öò)±UY~•zTmž £w~w(|t ["U*MOt
 "zŸ½³æī1Q+íÖĀ€•Öò)±t"®b`hqQ...`hÔ
 ùtxzOH ÚH òwF t"§Z>Do•pzLDwsÔt§
 ZZsZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%o~wË)t Š"‹wwMc•T);M"\q{
 € £§ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~%o t"iÖĀ€•ÖwUZzTm !@±³æīw.*\$‹U H NMŽízçx!@ ±³æīwò!QĀŸµ«€,#£wí- wU U ±Ž<	B÷zò+z³+z 7÷zfw wè xÁÖšpK", VU.
üm~%o t"iÖĀ€•ÖwUZzTm !@±³æīw.*\$‹U H NMŽízçx!@ ±³æīwò!QĀŸµ«€,#£wí- wU U ±Ž<zTmümÖUò)±w!¼Öq Q ^•hÔù	0yzòzøzf w wèxÁÖš pxsMU.

4 8 薬剤耐性緑膿菌感染症

€ £ [
 y¿¬ má«»ÜNzžÚÊ v.zNç|é@Êéiw %ww
 Nt0`o1Q)Öb~öÖt"ò)±pK"{
 € £Ÿš\$)Á
 yò)wš;ówŸ<`hñ •ĀÖ Ö8—;µwñ tÔè_ò)
 `z B±•7z>"zØÍz}ØzÈæËëzÖz srt <sò
 ›±)\b{
 € £§Z,j
 žçñ €¬ «£
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Už £wŸš\$
 ›Ā› b"› o`hALz±Y•t_T' N1Q~öÖò)±U
 Y~•zTmž £w~w(|t ["U*MOt"z N1Q~ö
 Öò)±ñ q ...`hÔùtxzOH ÚH òwF t"§Z>
 Do•pzLDwsÔt§ZZsZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%o~wË)t Š"‹wwMc•T);M"\q{
 çò)±@b w@.
 y! §Z; w g xzp~! §Z; w@£Už £wŸš\$
 ›Ā› b"®.›UŠ`hALz±Y•t_T'z N1Q~öÖò)
 ±UY~•zTmž £w~w(|t ["U*MOt"z N1Q
 ~öÖò)±t"®b`hqQ...`hÔùtxzOH ÚH òwF
 t"§Z>Do•pzLDwsÔt§ZZsZ•ys'sM{
 y\wÔùtSMozU*P%oxz%o)t ["U*MOwàü]qtz
 f•g•%o~wË)t Š"‹wwMc•T);M"\q{

¢ £§ZwhŠtžAsU*t_

U*MO	U*P%
üm~% t"~õÖwUZzTmzŽ<w mwÚE>¶o~h'hÖù žç ÚÖÉÜw.*\$<U H NMŽí¢xz ÚÖÉÜwò!QĂŸµ«¢,#£wí- wÚ U ±Ž< çžÚ§³iw.*\$<U H NMŽí¢xz žÚ§³iwò!QĂŸµ«¢,#£wí- wÚ U ±Ž< ¢ç³ÓéÑé©±³iw.*\$<U H NMŽí ¢xz³ÓéÑé©±³iwò!QĂŸµ« ¢,#£wí- wÚ U ±Ž<	B÷zò+z³+z 7÷zfw wè xÁŌ\$pk", VU.
üm~% t"~õÖwUZzTmzŽ<w mwÚE>¶o~h'zTmzümÖUò> ±w¼ŌqQ ^•hÖù žç ÚÖÉÜw.*\$<U H NMŽí¢xz ÚÖÉÜwò!QĂŸµ«¢,#£wí- wÚ U ±Ž< çžÚ§³iw.*\$<U H NMŽí¢xz žÚ§³iwò!QĂŸµ«¢,#£wí- wÚ U ±Ž< ¢ç³ÓéÑé©±³iw.*\$<U H NMŽ í¢xz³ÓéÑé©±³iwò!QĂŸ µ«¢,#£wí- wÚ U ±Ž<	0yzõzØzf w wèxÁŌ\$ pxsMU.

¢ £ ÜÖÉÜŽžw§çìÖÉÜ% Nt"U*îa`hÖùxz
 fwU*t"1QwALU~'•hÖù<Q... ,jwž>~hb<w
 qb" {ÜÖÉÜt"U*qđw w§çìÖÉÜ% Nt"U
 *îa`hÖùtxđMc•Tw NwU*t"1QwALU~
 •hÖù<Q... ,jwž>~hb<wq`đwU*MO>§ZwhŠ
 tžAsU*MOqb" {
 yyfzhžÓéÑé©±³ižžwŃç!é©Ééi% Nt"U*
 îa`hÖùxđwU*t"1QU~'•hÖù<Q... ,jwç
 >~hb<wqb"žÓéÑé©±³it"U*qđw wŃç!
 é©Ééi% Nt"¼gîa`hÖùtxđMc•Tw NwU
 *t"1QwALU~'•hÖù<Q... ,jwç>~hb<wq`z
 fwU*MO>§ZwhŠtžAsU*MOqb" {

第7 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

1 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）

¢ £ [yf~ sŽíwCät|„zu±Ýw† > `zTmzf•
 w±ÝUì'TsŽž±¢x+í\$ĩñt!¼b<wpxsMÝ6> ;
 b {
 ¢ £§Z,j y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Už £w [>
 ~hb > o`hqVxzp~±ÝUE~ò>±z~`ò>±z>`ò
 >±¢x'~ò>±wñ w±ÝpK"\"qUì'TsŌùt|M~•"
 Óèòosrò>±Ow0ĂŽwò>QiñpK"\"qUì'TsŌù>
 †VzOH ÚH òwF t"§Z>Újt`sZ•ys'sM {
 ¢ £«™Ăò yŠ§Zxz«Qyý ĩŃçπĩ²swò>±wC\`Ý `ozj
 ¼ÆìwO±wò>Qzu+ĩñwC\^²>úrb"\"qè\$ç`o
 S"zp~ñ ws8±Ýz ±Ýfw wÝ6>ĩù\$taš`oz§
 Z>æO<wpK" {
 y\whŠž £w„w@zu±Ý~qxzŌĂ>Ab" StO±
 pK"zzu ÉwÝ6s>|b<wqb" {

2 発熱及び発しん又は水疱

¢ £ [yfCät|„C`æ¢x+nw† > b"Ý6>|b {
 ¢ £§Z,j y! §Z; w g xzp~! §Z; w©£Už £w [>
 ~hb > o`hqVxzp~±ÝUE~ò>±z~`ò>±z>`ò
 >±¢x'~ò>±wñ w±ÝpK"\"qUì'TsŌùt|Cät|
 C`æ> b"Uò>±Ow0ĂŽwò>QiñpK"\"qUì'TsŌ
 ù>†VzOH ÚH òwF t"§Z>Újt`sZ•ys's
 M {
 ¢ £«™Ăò yŠ§Zxz¼Æìwò>Q>ØĩñswC\^²>úrb"hŠtæ
 O<wpK"\"qT'zp~ñ ws8±Ýz ±Ýfw wÝ6>ĩù
 \$taš`oz§Z>æO<wpK" {

3 全般的注意事項

t| tSMozp~±ÝU
 žçò>±OtF b"ò>±t'"<wpsM\"qUì'TpK"Ō
 ùtxzŠ§Zw0Ăqxs'sM {
 çò>±OtF b"ò>±t'"<wpK"\"qUì'TpK"z
 TmzMc•wò>±pK"TU> DósŌùtxzp~ò>±w§
 Z,jt,nV§Z>æO\"qqs" hŠž§Zw0Ăqxs'sM {

&DIP) * 7	&OUFSPC BDUF S TQ
1BSFDIP /5	1BSWP	4FSSBUJB TQ
1BSFDIP	#	1SPUFVT TQ
1PMJP /5	*OG ")	: FOUFSPDPMJUJDB
1PMJP	*OG " /5	: QTFVEPUVCFSDVM
1PMJP	*OG ") /)BFNPQIJMVT TQ
1PMJP	*OG ")) JOGMVFO[BF
&OUFSP	*OG ") /	'VTPC BDUF SJV N TQ
&OUFSP	*OG ")	4UBQIZMPDPDDVT T
&OUFSP	*OG ") /	4 BVSFVT
&OUFSP	*OG ")	4 FQJEFSNJEJT
1JDPSOB /5	*OG ") /	1FQUPDPDDVT
&OUFSP /5	*OG #	/FJTTF SJB TQ
.VNQT	*OG \$	/ NFOJOHJUJEJT
)7 HSPVQ /5	4"34 DP SPOB	/ HPOPSSIPFBF
)47 /5	-FHJPOFMMB TQ	"DJOFUPC BDUF S TQ
)47	- QOFVNPQIJMB	1FQUPTUSFQUPDPDD
)47	.ZDP QOFVNPOJBF	4USF QZPHFOFT
7;7	\$IMBNZEJB TQ}	4USF BHBMBDUJBF
	\$IMBN USBDIPNBU	4USF \$
\$.7	\$IMBN QTJUUBDJ	4USF (
)7	\$IMBN QOFVNPOJBF	4USFQUPDPDDVT
)7	\$PY CVSOFUJ	4USF QOFVNPOJBF
)7	0UIFS 3JD	& GBFDBMJT
)FSQFT #	3 QSPXB[FLJ	& GBFDJVN
.FBTMFT	3 UTVUTVHBNVTIJ	-JTUF SJB TQ
3VCFMMB	3 KBQPOJDB	- NPOPDZUPHFOFT
3BCJFT	1TFVEPNPOBT TQ	1SPQJPOJCB DUF S
-\$.	1 BFSVHJOPTB	.ZDPCBDUF SJV N TQ
1BQPWB	\$BNQZMPCBDUF S TQ.	UVCFS DVMPTJT
3FP /5	\$ KFKVOJ	. CPWJT
3PUB	\$ DPMJ	. BWJVN
/PSP	\$ KFKVOJ& DPMJ	/PDBSEJB TQ
/PSP (—	4BMNPOFMMB 5ZQIJ5	QBMMJEVN
/PSP (~	4BMNPOFMMB 1BSB	\$ZQJUPDPDDVT
4BQP	4BMNPO群MMB	\$ OFPGPSNBODF
"TUSP /5	4BMNPO群MMB	\$BOEJEB
4347	4BMNPO群MMB	\$BOEJEB BMCJDBOT
+&	4BMNPO群MMB	1OFVNP DZTUJT TQ
0UIFS "SCP	4BMNPO群MMB	1 DBSJOJJ
%FOHVF /5	4BMNP群不明MB	その他の原虫・寄生虫
8FTU /JMF	\$JUSPCBDUF S TQ	その他の細菌
)BOUBBO	, MFCTJFM MB TQ	陰性 /FHBUJWF
)5-7	, QOFVNPOJBF	検出せず

★ ; NTは not typed で未同定の意味

4) 平成26年通知文書一覧 (詳細は福岡県医師会ホームページを参照して下さい。)

- 2014年 1月18日 デング熱の国内感染疑いの症例について
- 2014年 1月23日 子宮頸がん予防ワクチンの取り扱いについて
- 2014年 1月30日 新型インフルエンザ等特別措置法に基づく特定接種の登録について(依頼)
- 2014年 2月 1日 抗インフルエンザウイルス薬およびタミフルカプセル75の有効期間の延長等について
- 2014年 2月 5日 「特定接種(医療分野)の登録 追加Q&A」について
- 2014年 2月10日 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における結核患者の入退院及び就業制限の取扱いについて」の一部改正について
- 2014年 2月12日 デング熱の国内感染疑いの症例について(追加情報提供)
- 2014年 2月17日 麻しん風しんの第2期の予防接種における未接種者に対する積極的な勧奨について
- 2014年 2月24日 麻しん患者の増加について
- 2014年 3月 5日 インフルエンザ予防接種(任意)料金の設定に係る公正取引委員会の措置について
- 2014年 3月 5日 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの国内分布調査結果(第二報)について
- 2014年 3月 5日 特定感染症検査等事業等について
- 2014年 3月19日 「市町村のための新型インフルエンザ等住民接種に関する集団的予防接種のための手引き(暫定版)」公表について
- 2014年 3月29日 A型肝炎の発生動向及び注意喚起について
- 2014年 4月 1日 予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行等について
- 2014年 4月 5日 予防接種後副反応報告書(EXCEL版)の厚生労働省ホームページ掲載について
- 2014年 4月11日 予防接種法施行規則の一部を改正する省令等の施行等について
- 2014年 4月11日 予防接種法施行令及び新型インフルエンザ予防接種による健康被害の救済に関する特別措置法施行令の一部を改正する政令の施行について
- 2014年 4月11日 予防接種に関する基本的な計画の施行について
- 2014年 5月 1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律12条第1項及び同法第53条の11第1項に基づく届出について
- 2014年 5月 1日 麻しん患者の増加について
- 2014年 5月 7日 ポリオ生ワクチン2次感染対策事業実施細則の一部改正について
- 2014年 5月 7日 ポリオワクチンに関するQ&Aの改正について
- 2014年 5月14日 麻しんの疫学情報の報告等について
- 2014年 5月14日 熊本における高病原性鳥インフルエンザウイルスのN亜型確定について(情報提供)
- 2014年 5月14日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律12条第1項及び同法第14条第2項に基づく届出の基準等の一部改正について
- 2014年 5月15日 梅毒の発生動向について
- 2014年 5月15日 鳥インフルエンザ(H7N9)を指定感染症として定める等の政令の一部を改正する政令及び鳥インフルエンザ(H7N9)を指定感染症として定める等の政令の施行に伴う感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の準用に関する省令の一部を改正する省令の施行について
- 2014年 5月15日 結核院内(施設内)感染対策の手引きについて
- 2014年 5月23日 福岡県感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について
- 2014年 5月27日 中東呼吸器症候群(MERS)に関する対応について
- 2014年 6月 4日 平成26年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について
- 2014年 6月 9日 感染症法における中東呼吸器症候群(MERS)の取扱いについて
- 2014年 6月20日 中東呼吸器症候群(MERS)に関する検疫所の対応について
- 2014年 7月 1日 厚生科学審議会感染症部会「感染症対策の見直しについて」の取りまとめについて
- 2014年 7月11日 季節性インフルエンザワクチンの供給について
- 2014年 7月11日 予防接種法に基づく肺炎球菌感染症(高齢者がかかるものに限る)に係る定期の予防接種に使用するワクチンについて
- 2014年 7月15日 人を発病させるおそれがほとんどないものとして厚生労働大臣が指定する病原体等の一部を改正する件の公布について
- 2014年 7月15日 子宮頸がんワクチンの取り扱いについて
- 2014年 7月18日 成人の侵襲性細菌感染症サーベイランス構築に関する研究について(協力依頼)
- 2014年 7月24日 中東呼吸器症候群を指定感染症として定める等の政令の施行等について
- 2014年 7月24日 予防接種法施行令の一部を改正する政令並びに予防接種法施行規則及び予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行について

2014年7月28日 「定期の予防接種等による副反応の報告等の取扱いについて」の一部改正について
 2014年7月28日 子宮頸がん予防ワクチン接種後の痛みの診療について
 2014年7月28日 「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正等について
 2014年8月1日 福岡県感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正について
 2014年8月2日 平成25年度予防接種事故報告等について
 2014年8月4日 中東呼吸器症候群（MERS）の指定感染症への指定後の対応について
 2014年8月12日 水痘及び高齢者の肺炎球菌に関するQ&A等について
 2014年8月18日 国内動物を対象とした狂犬病検査に係る情報提供について
 2014年8月18日 「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正等について
 2014年8月22日 西アフリカにおけるエボラ出血熱発生への対応について
 2014年8月29日 デング熱の国内感染症例について（第一報・第二報）
 2014年9月1日 平成25年度定期予防接種等に係る事故報告について
 2014年9月5日 デング熱の国内感染症例について（第三報・第四報・第五報）
 2014年9月11日 デング熱の国内感染症例について（第六報・第七報・第八報・第九報）及び代々木公園周辺以外の場所におけるデング熱の国内感染症例について
 2014年9月16日 デング熱に関する緊急対策会議の概要について
 2014年9月16日 蚊のデングウイルス保有調査の結果について（第一報・第二報）
 2014年9月16日 平成26年度結核予防週間
 2014年9月16日 デング熱の国内感染症例について（第十報・第十一報・第十二報）及び蚊のデングウイルス保有調査の結果について（第三報）
 2014年9月18日 デング熱の国内感染症例について（第十三報）及びデング熱診療ガイドライン（第1版）について
 2014年9月18日 デング熱国内感染症例発生時の対応・対策の手引きについて
 2014年9月18日 セアカゴケグモ抗毒素について
 2014年9月22日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について
 2014年9月30日 デング熱の国内感染症例について（第一四報～第十九報）及び代々木公園周辺以外の場所におけるデング熱の国内感染症例について
 2014年9月30日 「結核医療の基準」の一部改正について
 2014年10月6日 デング熱の国内感染症例について（第二十報～第二十三報）
 2014年10月6日 「定期の予防接種等による副反応の報告等の取扱いについて」の一部改正について
 2014年10月7日 野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルス保有状況調査の実施及び監視体制の強化について
 2014年10月8日 デング熱の国内感染症例について（第二十四報～第二十六報）
 2014年10月14日 平成26年度福岡県共通感染症対策シンポジウムの開催について
 2014年10月14日 エボラ出血熱に関する対応について
 2014年10月14日 「予防接種後健康状況調査実施要領」の一部改正について
 2014年10月16日 デング熱の国内感染症例について（第二十七報～第三十報）
 2014年10月27日 エボラ出血熱の国内発生を想定した医療機関における基本的な対応について
 2014年10月29日 デング熱の国内感染症例について（第三十一報～第三十七報）
 2014年10月30日 医療機関におけるPPEの備蓄状況について
 2014年11月11日 中国及び韓国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況等について
 2014年11月11日 デング熱の国内感染症例について（第三十八報）
 2014年11月11日 エボラ出血熱への対応について
 2014年11月13日 ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状に係る追跡調査の実施等について
 2014年11月14日 廃棄物処理におけるエボラ出血熱対策について
 2014年11月14日 エボラ出血熱疑い症例の発生及び啓発ツールについて
 2014年11月27日 今冬のインフルエンザ総合対策の推進について
 2014年11月27日 野鳥の糞便における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N8亜型）の検出について
 2014年11月27日 ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状に係る追跡調査の実施について
 2014年12月1日 インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に関する研究に対する協力について
 2014年12月1日 野鳥の糞便における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N8亜型）の検出について
 2014年12月3日 エボラ出血熱の国内発生を想定した行政機関における基本的な対応について

2014年12月4日 ノロウイルスによる食中毒の予防について
2014年12月4日 抗インフルエンザウイルス薬の安定供給等について
2014年12月4日 「定期の予防接種等による副反応の報告等の取扱いについて」の一部改正について
2014年12月12日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律等について
2014年12月12日 3種混合ワクチン（DPT）の販売中止について
2014年12月15日 抗インフルエンザウイルス薬の使用上の注意に関する注意喚起の徹底について
2014年12月15日 野鳥の糞便における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N8亜型）の検出について
2014年12月15日 エボラ出血熱患者等の移送に係る消防機関の協力について
2014年12月22日 インフルエンザ疾患関連死亡者数迅速把握事業について
2014年12月24日 高病原性鳥インフルエンザ（H5亜型）が疑われる事例の発生について
2014年12月25日 医療機関におけるノロウイルスに関する院内感染対策及び事案報告の徹底について
2014年12月25日 旅館業の宿泊施設におけるエボラ出血熱への対応について

平成26年福岡県結核・感染症発生動向調査事業資料集編集委員

青 木 知 信 (総括)
岡 田 賢 司 (内科・小児科・眼科疾患)
池 松 秀 之 (内科・小児科・眼科疾患)
中牟田 誠 一 (性感染症)
松 崎 義 和 (結核)
千々和 勝 己 (統計・検査の総括)
岩 本 治 也 (全数把握対象感染症)
稲 光 毅 (担当理事)
香月 きょう子 (担当理事)

福岡県結核・感染症発生動向調査事業資料集
平成26年(2014年)

平成27年3月発行

非売品

発 行 **福岡県結核・感染症発生動向調査委員会**

事務局 福岡県医師会

〒812-8551 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号
福岡県医師会館4階

T E L 092 - 431 - 4564

F A X 092 - 481 - 1837

e-mail fpma-chiiki@fukuoka.med.or.jp

<https://www.fukuoka.med.or.jp>

印 刷 瞬報社写真印刷株式会社
